

令和4年度

ジェネリック医薬品に関する
アンケート調査結果

目次

はじめに	2
県民アンケート結果	3
病院アンケート結果	31
診療所アンケート結果	56
歯科診療所アンケート結果	80
薬局アンケート結果	104
二次医療圏比較	130
アンケート結果まとめ	138

はじめに

日本の医療保険制度は、昭和36年に「国民皆保険」を達成して以来、一定の自己負担で必要な医療サービスが受けられる体制を整備することにより、世界最長の平均寿命や高い保険医療水準を達成しました。しかし、半世紀が経過し、国民の社会生活や医療を取り巻く環境は大きく変化し、医療技術の進歩とともに急速な少子高齢化は、医療費を年々増加させ、団塊の世代が75歳以上となる2025年には約70兆円とも予測されています。現役世代の急減という新たな局面に、国民皆保険を堅持しつつ、必要な医療の確保するための課題の抽出と解決のための総合的な改革を推進する必要があります。その1つとして、効率化を図ることができる部分の整理や課題抽出等が極めて重要となります。

このような中、国は、患者負担の軽減や医療保険財政の改善の観点から後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進の取組みを進めており、平成19年からは「後発医薬品の安全使用促進アクションプログラム」による取組みを進め、現在は令和3年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2021」に基づき、「後発医薬品の品質及び安定供給の信頼性確保を図りつつ、2023年度末までに全ての都道府県で80%以上」とする目標を掲げています。そのため、国が示すロードマップに基づき、安定供給、品質に対する信頼性の確保、情報提供の方策等の使用促進に係る取組みについて、国、都道府県、メーカーが一体となって、さらに取組みを進めていく必要があります。

本県においても、平成20年度から「長崎県ジェネリック医薬品使用促進協議会」を設置し、本協議会を中心にジェネリック医薬品の使用促進に係る方策を検討するとともに、各種イベントを活用した普及啓発活動、県民・医療従事者を対象とした研修会やシンポジウムの開催等を実施しています。また、平成20年度から2年毎に県民や医療機関等を対象としたアンケート調査を実施しており、県民のジェネリック医薬品に関する認知度や使用実態及び医療機関等におけるジェネリック医薬品の取扱い状況等を把握しています。この度、令和4年度の調査結果を取りまとめましたので、ここに報告します。

県民

ジェネリック医薬品に関する県民アンケート調査結果

○調査方法

・「ながさきWEB県政アンケート」による調査

○調査時期

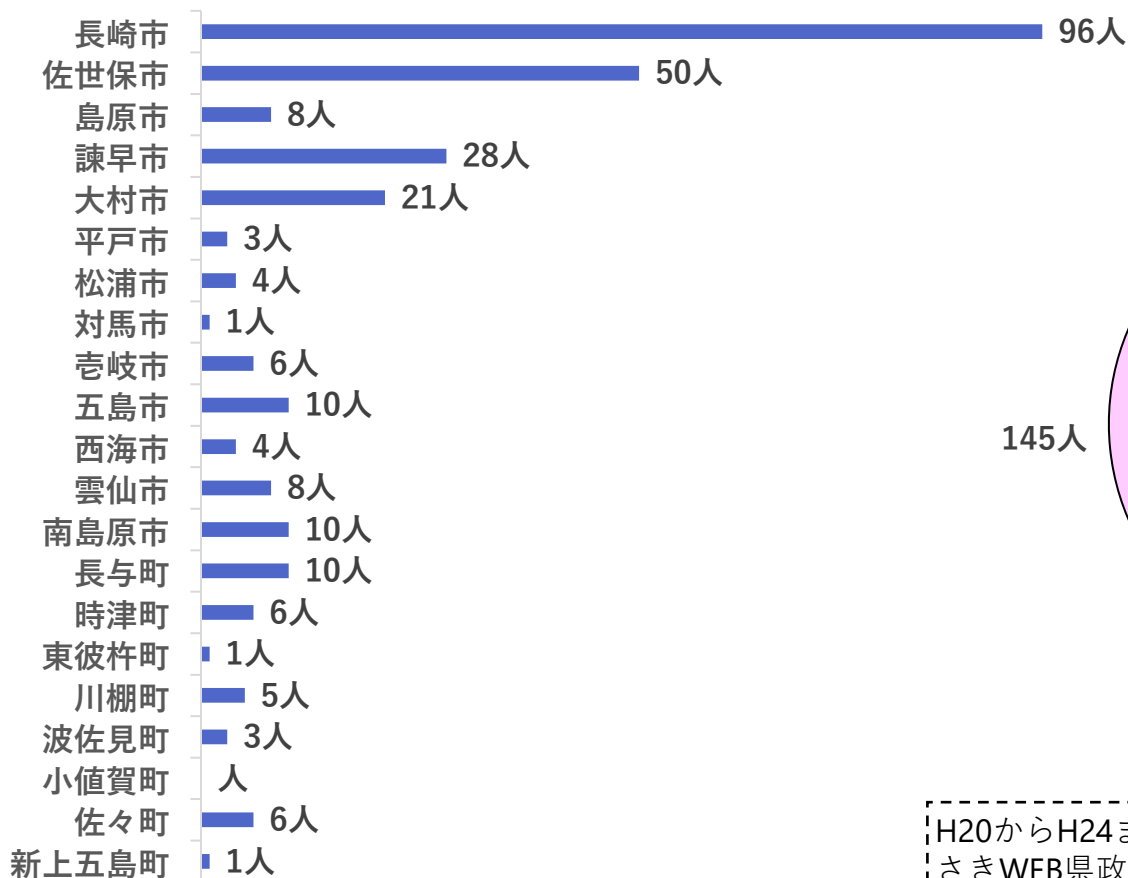
・令和5年2月14日から令和5年2月28日まで

○調査対象

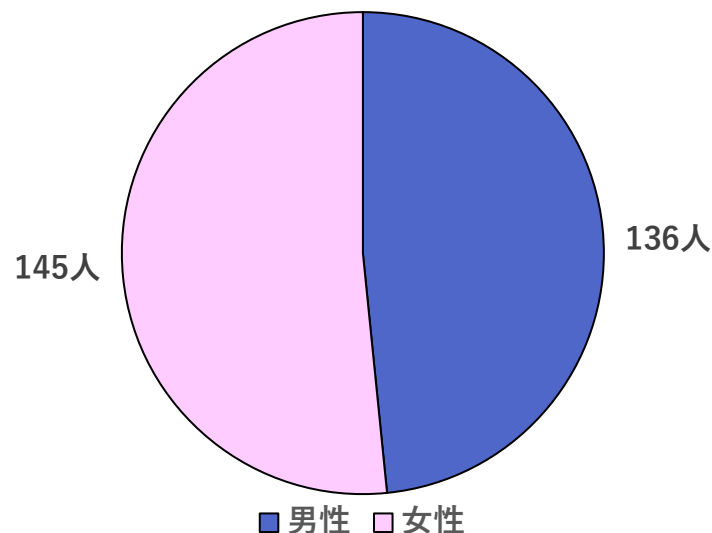
・「ながさきWEB県政アンケート」全モニター

○対象者数、回答者数及び回収率

・対象者数：338人、回答者数：281人、回答率：83.1%



回答者の性別

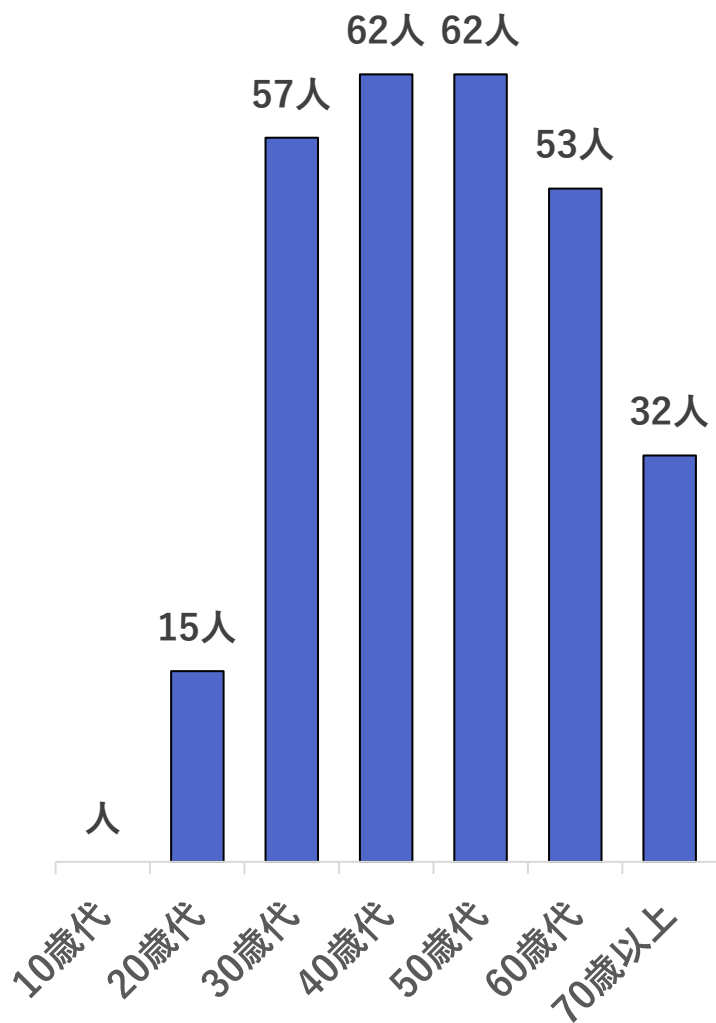


H20からH24までは、郵送による調査。H26からは「ながさきWEB県政アンケート」によるウェブ調査を実施。

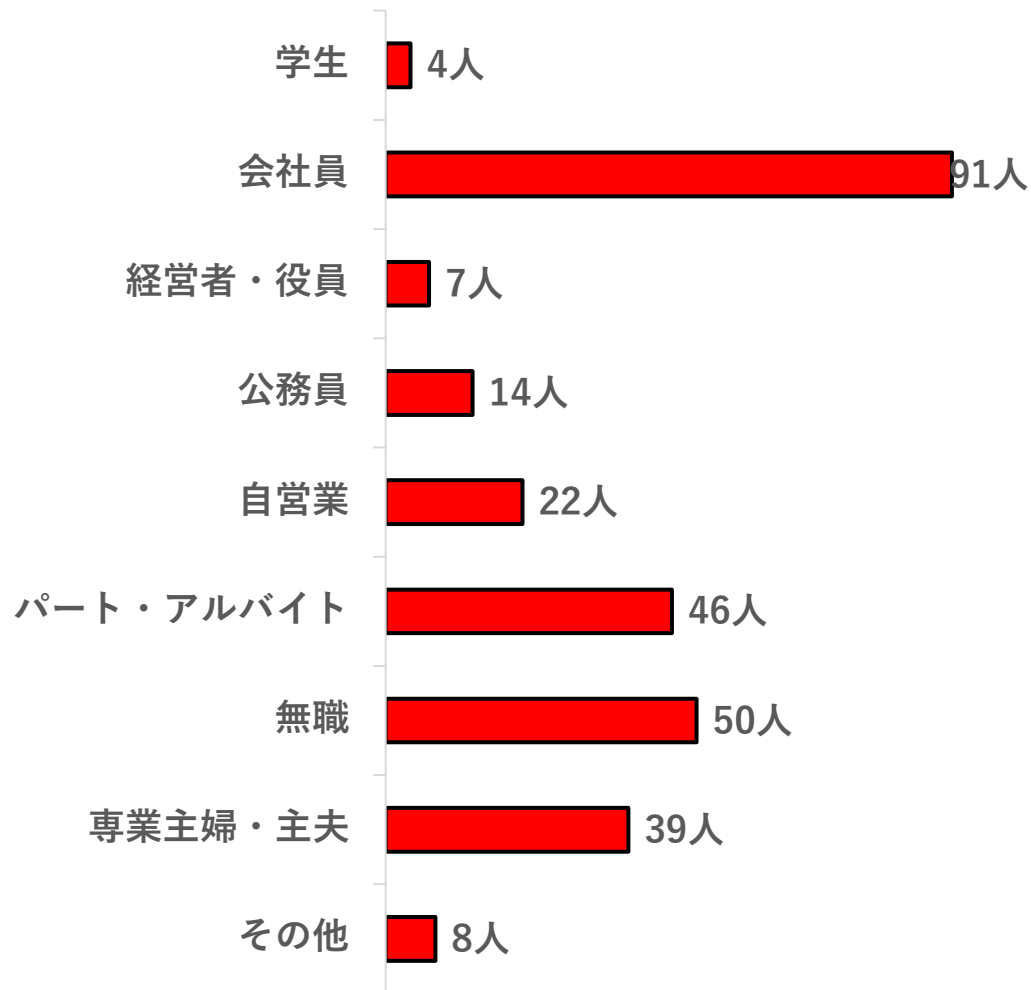
ジェネリック医薬品に関する県民アンケート調査結果

県民

回答者の年齢層



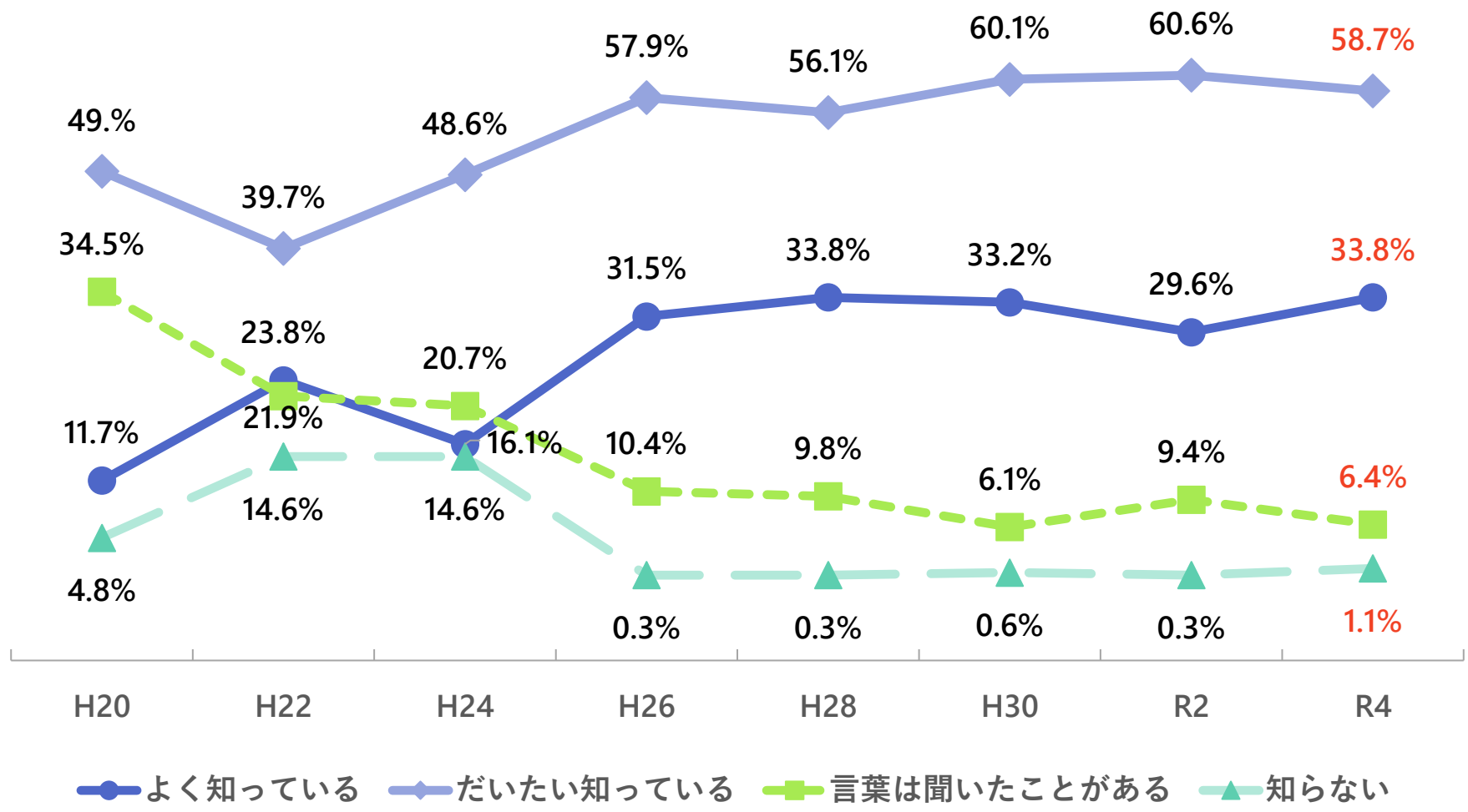
回答者の職業



問1.「ジェネリック医薬品」（後発医薬品）のことについてご存知ですか。（単一選択式）

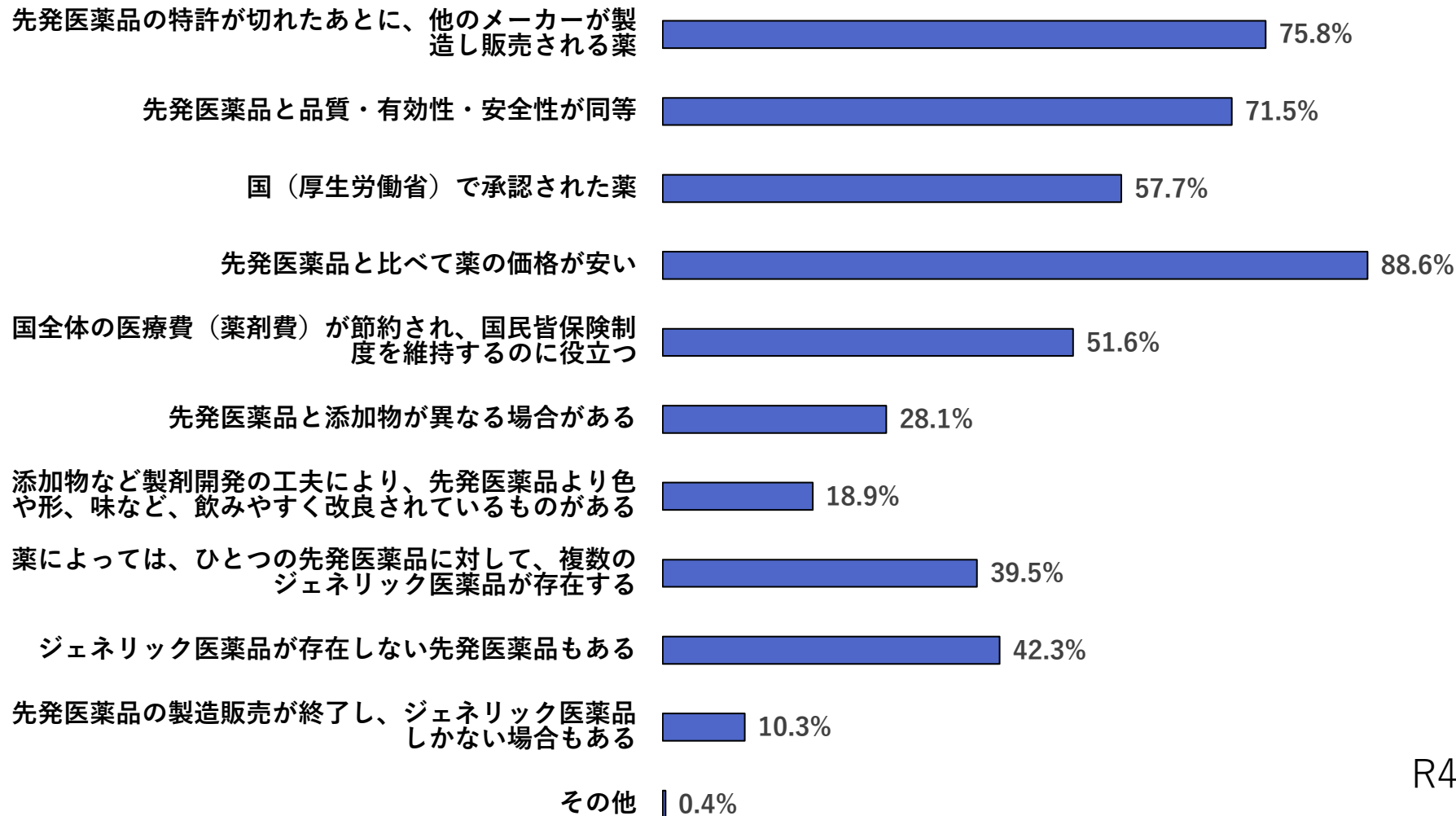
県民

- R4年度は「よく知っている」が33.8%でR2年度の29.6%より増加した。「だいたい知っている」と合わせると、今回の調査でも90%を超えている。
- H20年度と比較すると、「よく知っている」と「だいたい知っている」の合計が31.8ポイント増加した。



問2.「ジェネリック医薬品」について知っている内容は何ですか。（複数選択式）

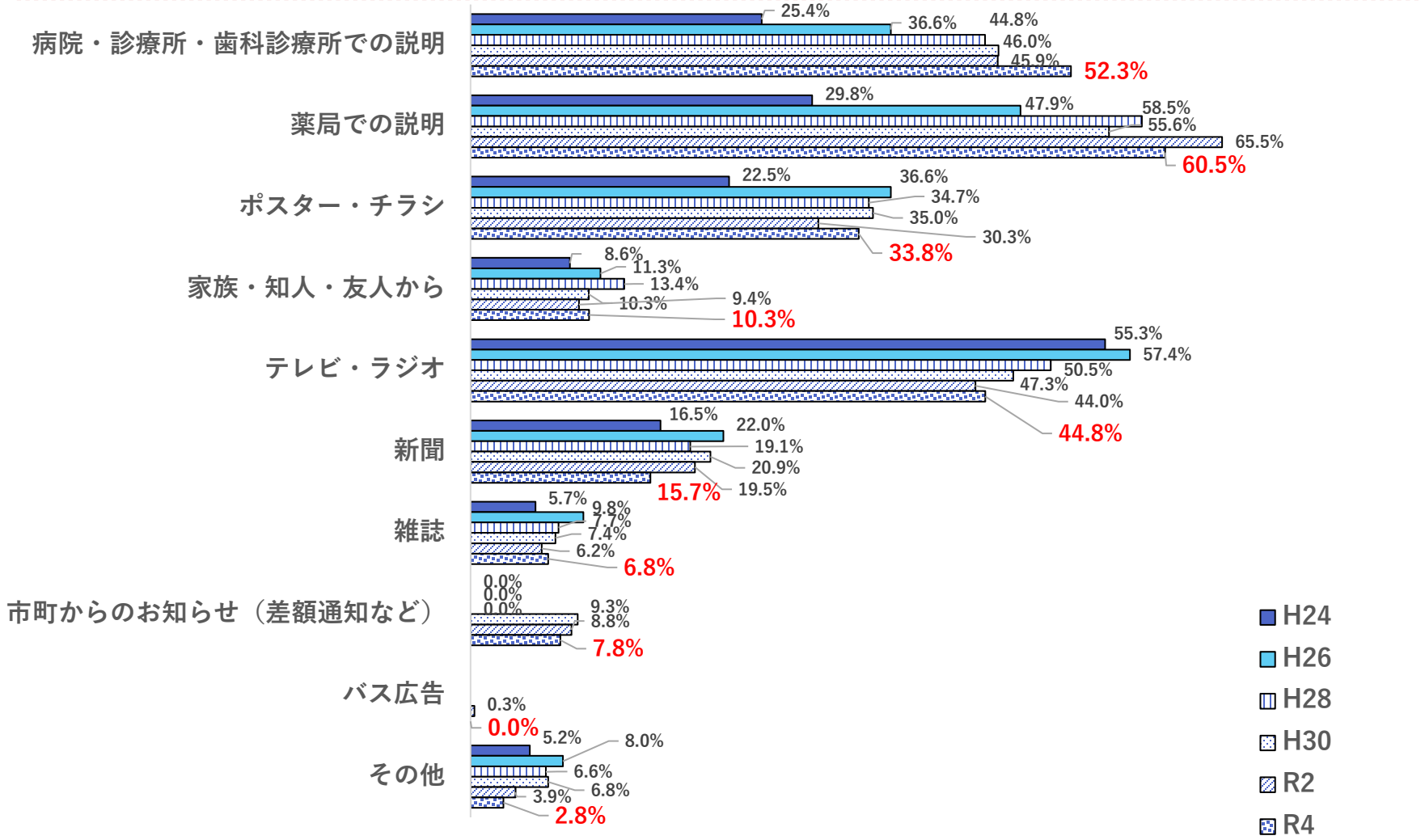
- 「先発医薬品と比べて薬の価格が安い」が88.6%と最も高かった。一方、「先発医薬品の製造販売が終了し、ジェネリック医薬品しかない場合もある」が10.3%と最も低かった。



問3. 「ジェネリック医薬品」の ことについて、どのようにしてお知りになりましたか。（複数選択式）

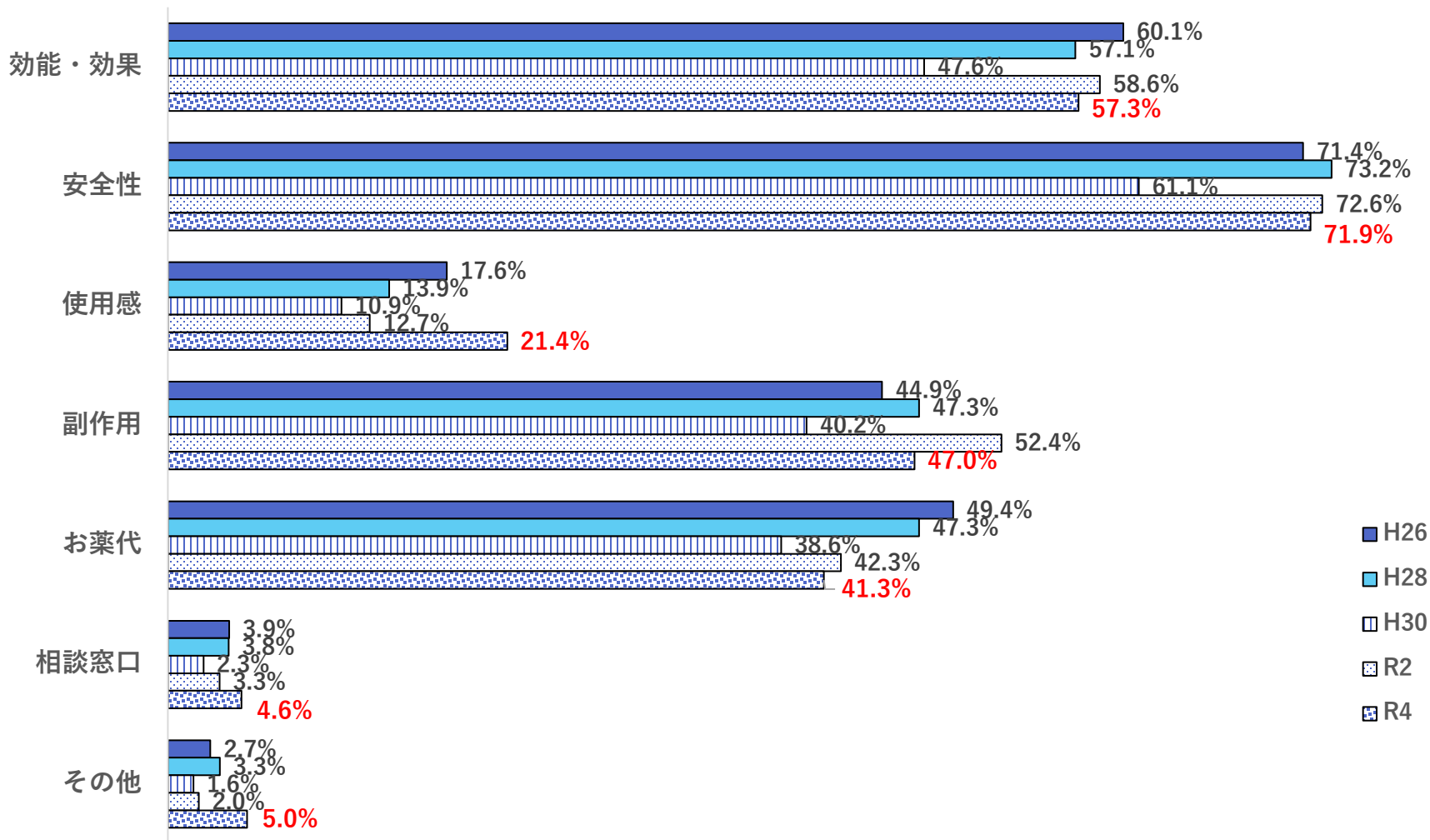
県民

- R4年度は「薬局での説明」が60.5%と最も高く、続いて「病院・診療所・歯科診療所での説明」が52.3%、「テレビ・ラジオ」が44.8%であった。
- H24年度から「薬局での説明」が30.7%、「病院・診療所・歯科診療所での説明」が26.9ポイント増加した。



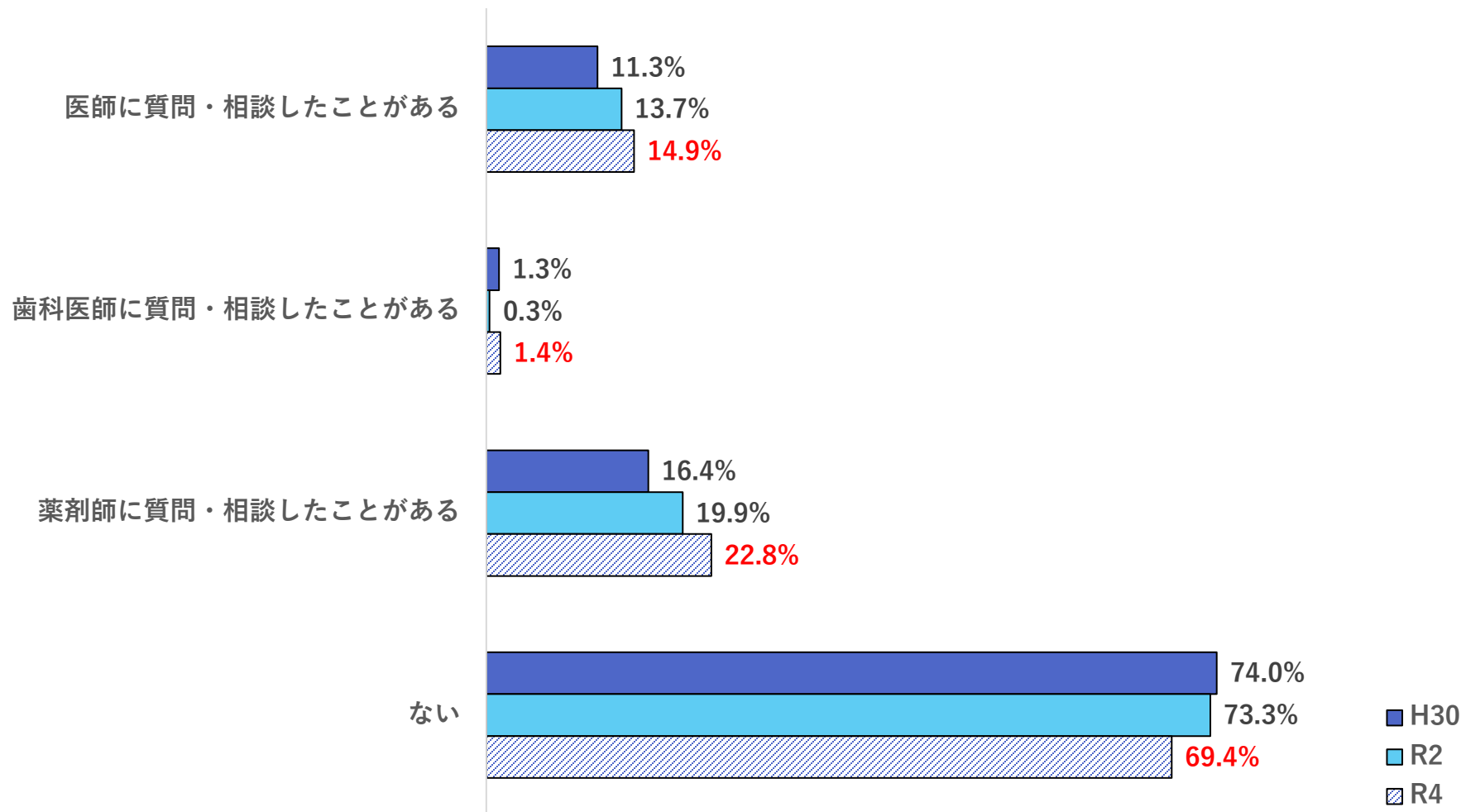
問4.「ジェネリック医薬品」について、知りたいことは何ですか？（複数選択式）

- R4年度は「安全性」が71.9%と最も高く、続いて「効能・効果」が57.3%、「副作用」が47.0%であった。
- H26年度から大きな変化はなかった。



問5.「ジェネリック医薬品」について、医療機関（病院・診療所・歯科診療所）や薬局で質問や相談をした経験はありますか。（複数選択・入力式）

- R4年度は約70%の方が医療機関や薬局で質問や相談をした経験がないと回答した。
- H30年度から医療機関や薬局で質問・相談した方が増加傾向にある。

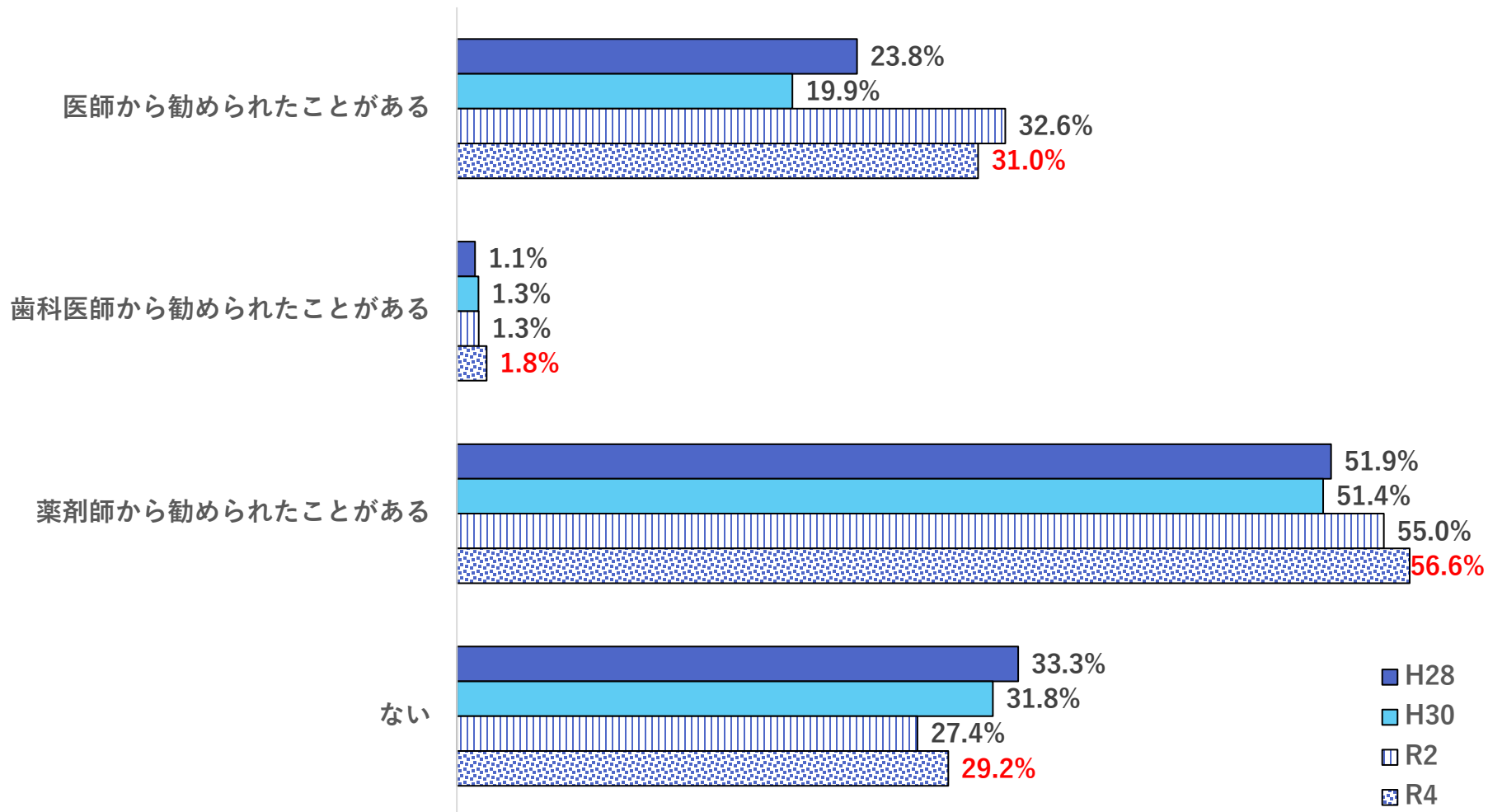


- 質問・相談内容として、「効能・効果に関する質問・相談をした」が36件で最も多く、続いて「支払額に関する質問・相談をした」が17件、「安全性に関する質問・相談をした」が10件となった。
- 効能・効果に関する質問・相談をした 36件
(先発医薬品と効能・効果の差はないか、劣っていないか 等)
- 支払額に関する質問・相談をした 17件
(お薬代の差額はどのくらいか、安くなるか 等)
- 安全性に関する質問・相談をした 10件
(安全性に問題がないか 等)
- 副作用に関する質問・相談をした 8件
(副作用のリスクは高くないか 等)
- ジェネリック医薬品を希望した 7件
(医師・薬剤師にジェネリック医薬品を希望した 当)
- 添加物に関する質問・相談をした 3件
(取りたくない添加物が入っている 等)
- その他 15件
(先発医薬品を希望した、品質は問題ないか 等)

問7.「ジェネリック医薬品」について、医療機関（病院・診療所・歯科診療所）や薬局で勧められた経験はありますか。（複数選択式）

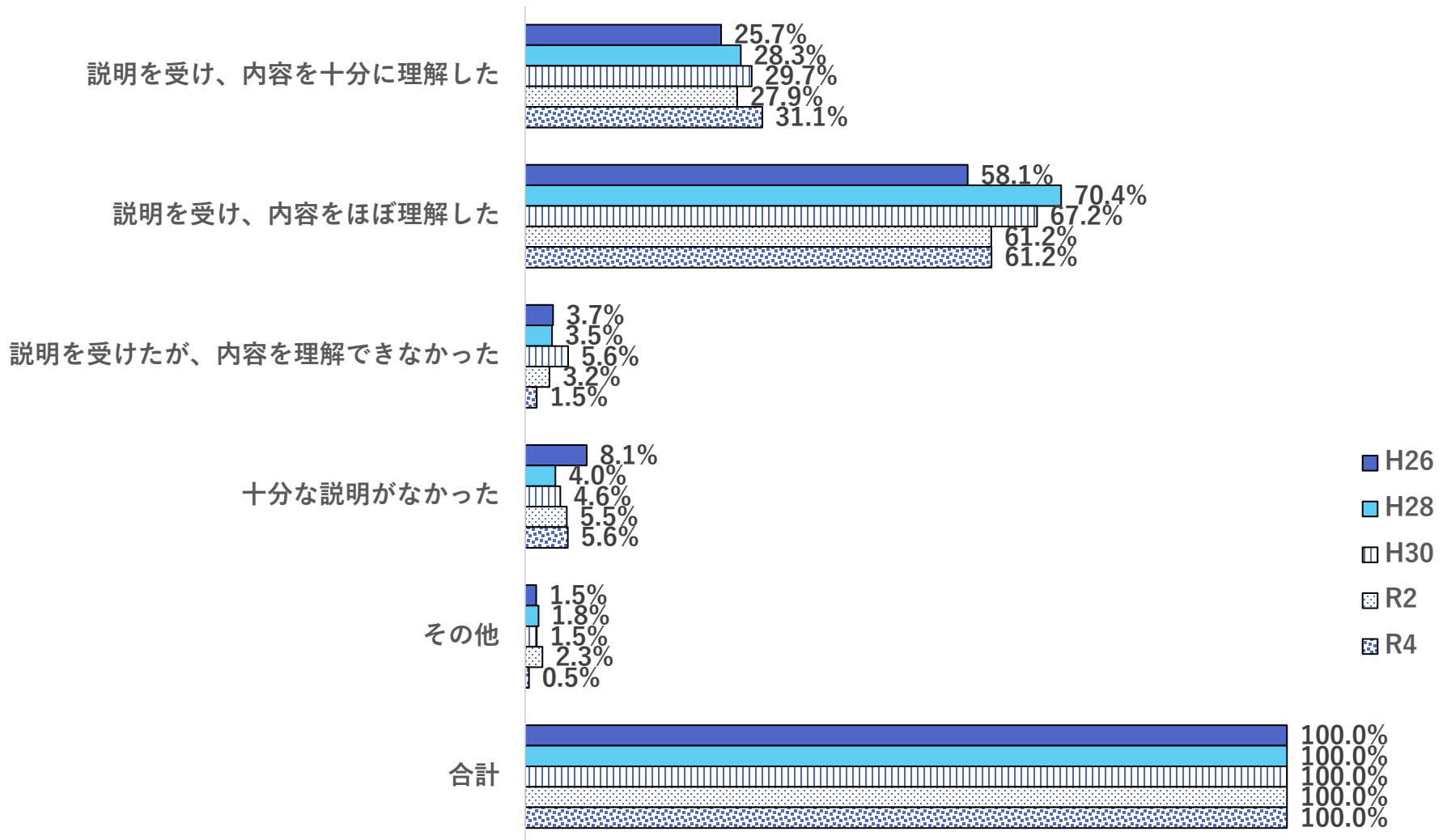
県民

- R4年度は「薬剤師から勧められたことがある」が56.6%と最も高かった。
- 「ない」が依然として29.2%ある。
- 「医師から勧められたことがある」がR2年度から減少したが、H28年度からは7.2ポイント増加した。



問8. 《問7で「勧められた経験がある」と回答した方》医療機関や薬局で勧められた際、「ジェネリック医薬品」についての十分理解できましたか。（単一選択式）

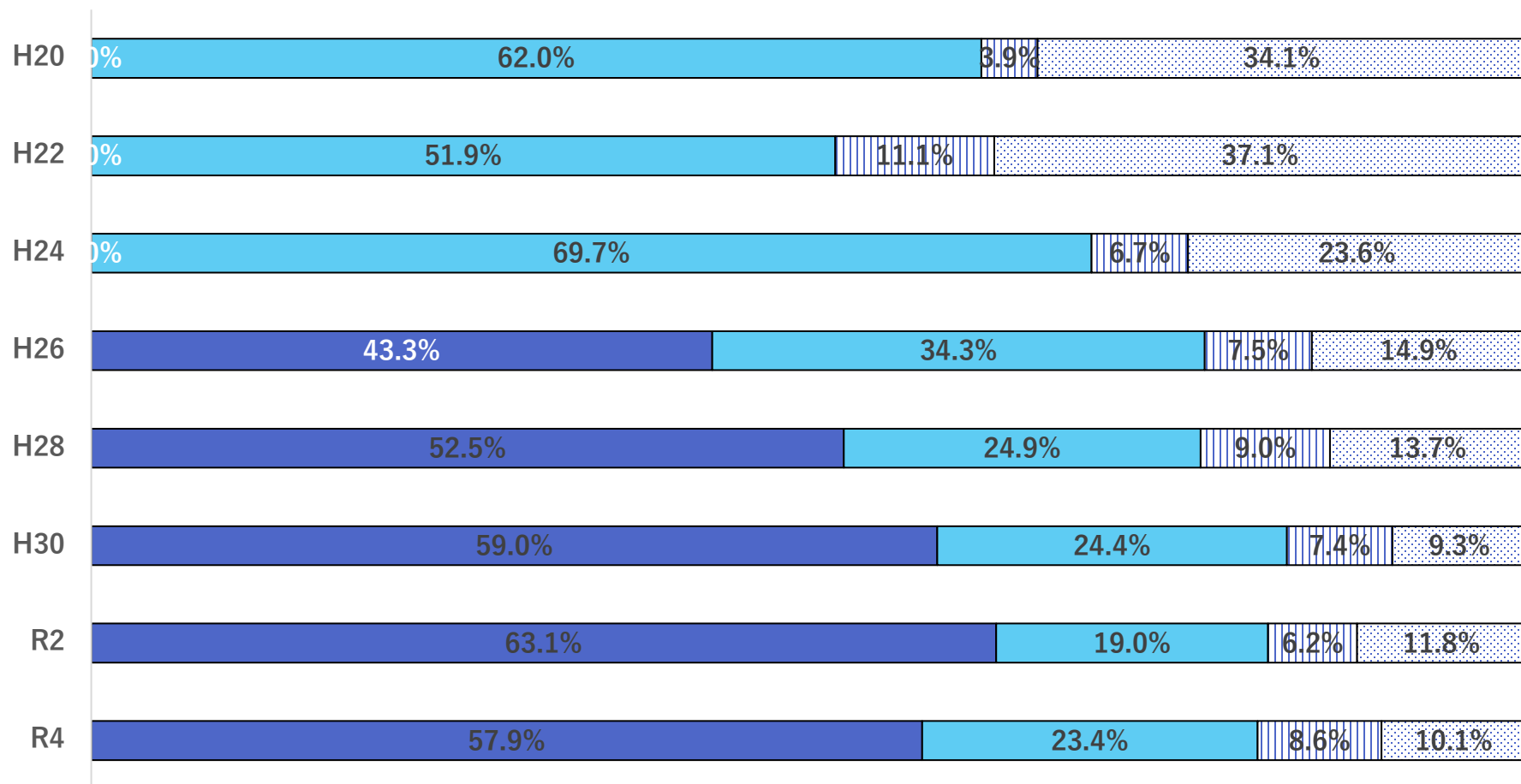
- R4年度は「説明を受け、内容を十分に理解した」と「説明を受け、内容をほぼ理解した」の合計92.3%であった。
- H26年度から大きな変化は見られなかった。



問9.医療機関や薬局で、「ジェネリック医薬品」の交付を受けたいと思われませんか。（単一選択式）

県民

- R4年度は「すでに受けている」が57.9%であった。
- 「すでに受けている」と「受けたい」の合計及び「受けたくない」は大きな変化はなかった。

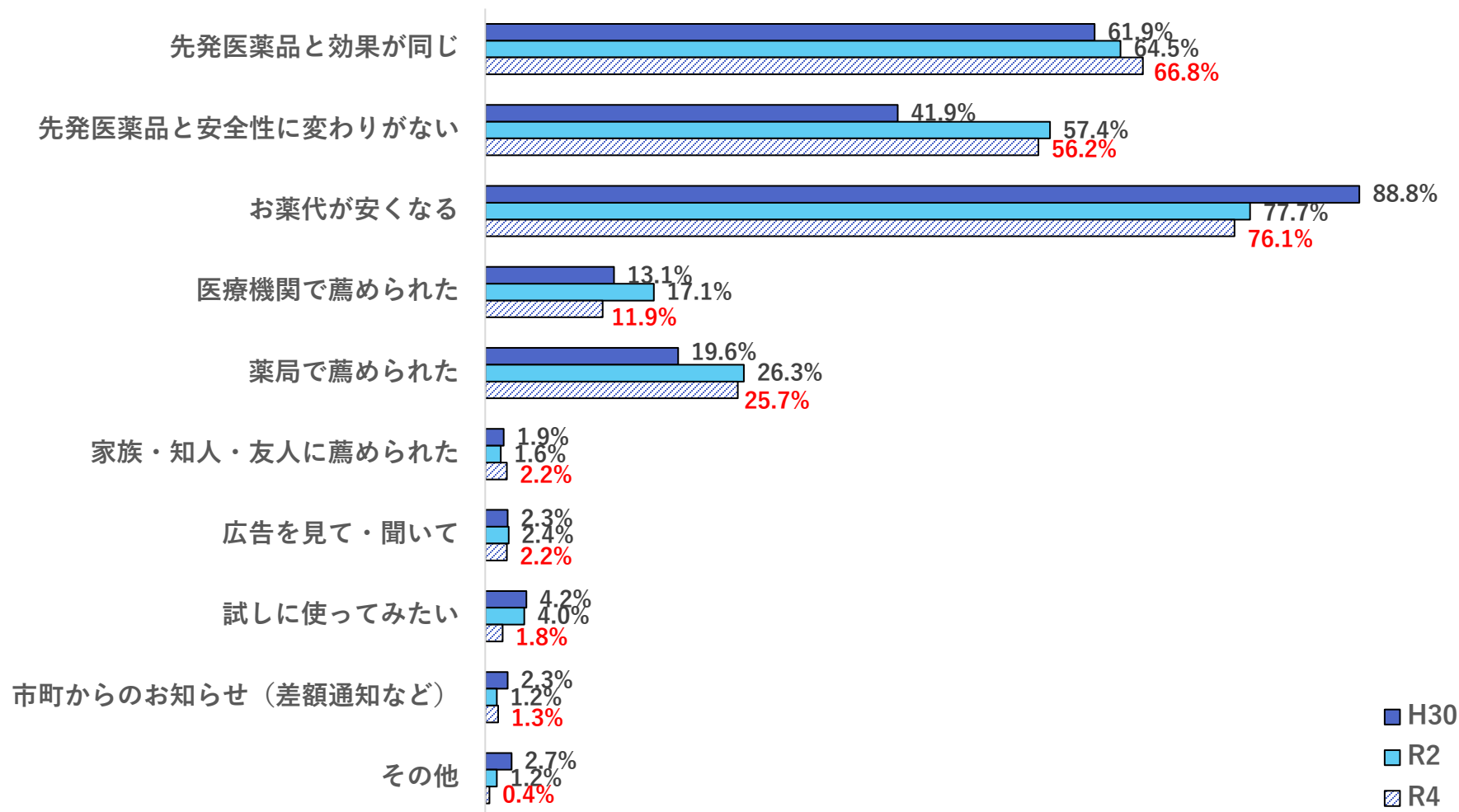


■すでに受けている ■受けたい ■受けたくない ■わからない

問10. 《問9で「1. すでに受けている」「2. 受けたい」と回答した方》「ジェネリック医薬品」の交付を受けた又は受けたい理由は何ですか。（複数選択式）

県民

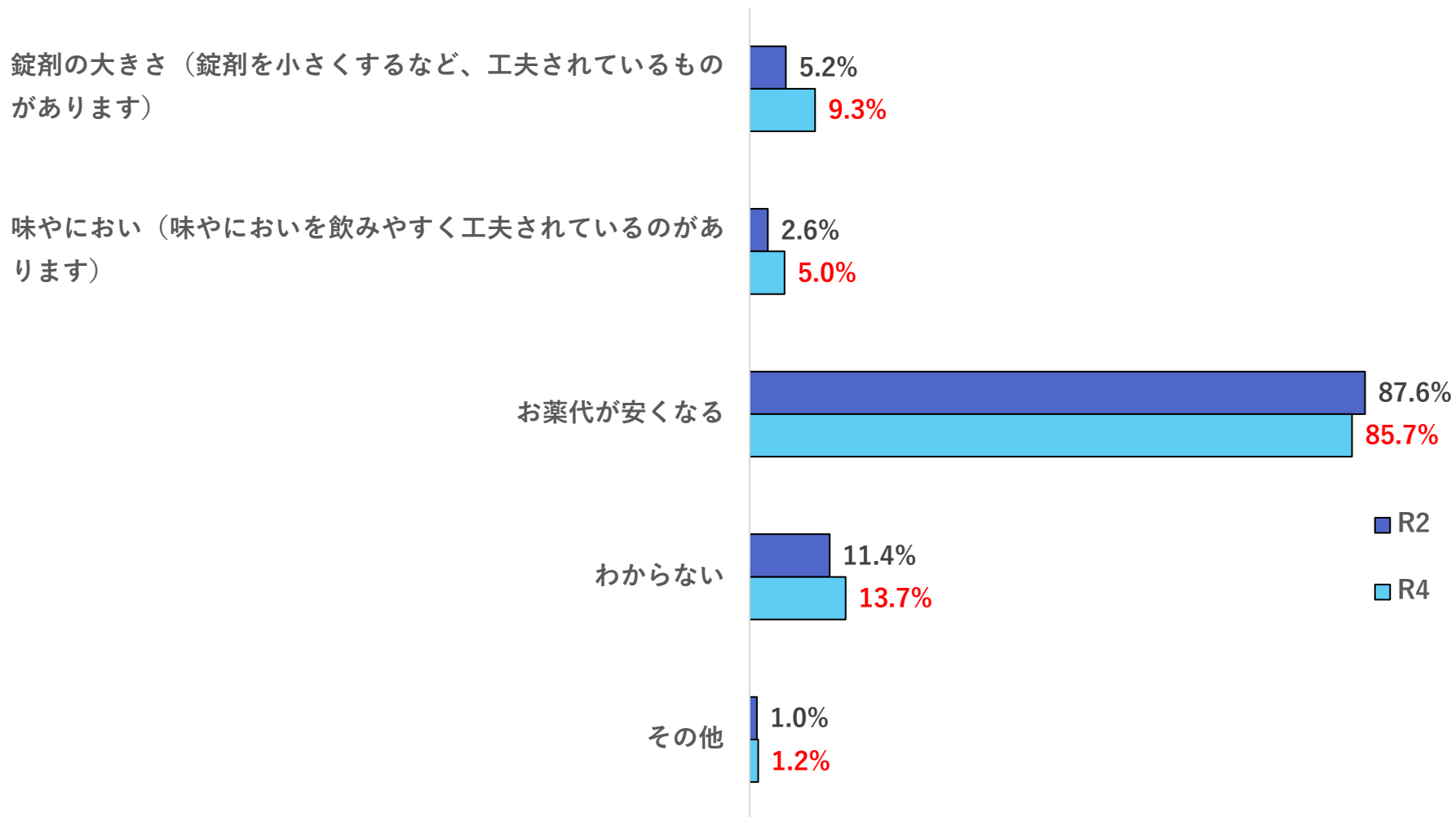
- R4年度は「お薬代が安くなる」が76.1%と最も高く、続いて「先発医薬品と効果が同じ」が66.8%、「先発医薬品と安全性に変わりがない」が56.2%であった。
- H30年度から「先発医薬品と安全性に変わりがない」が14.3ポイント増加した。



問11. 《問9で「1. すでに受けている」と回答した方》「ジェネリック医薬品」を使って
みて良いと感じたことはありますか。（複数選択式）

県民

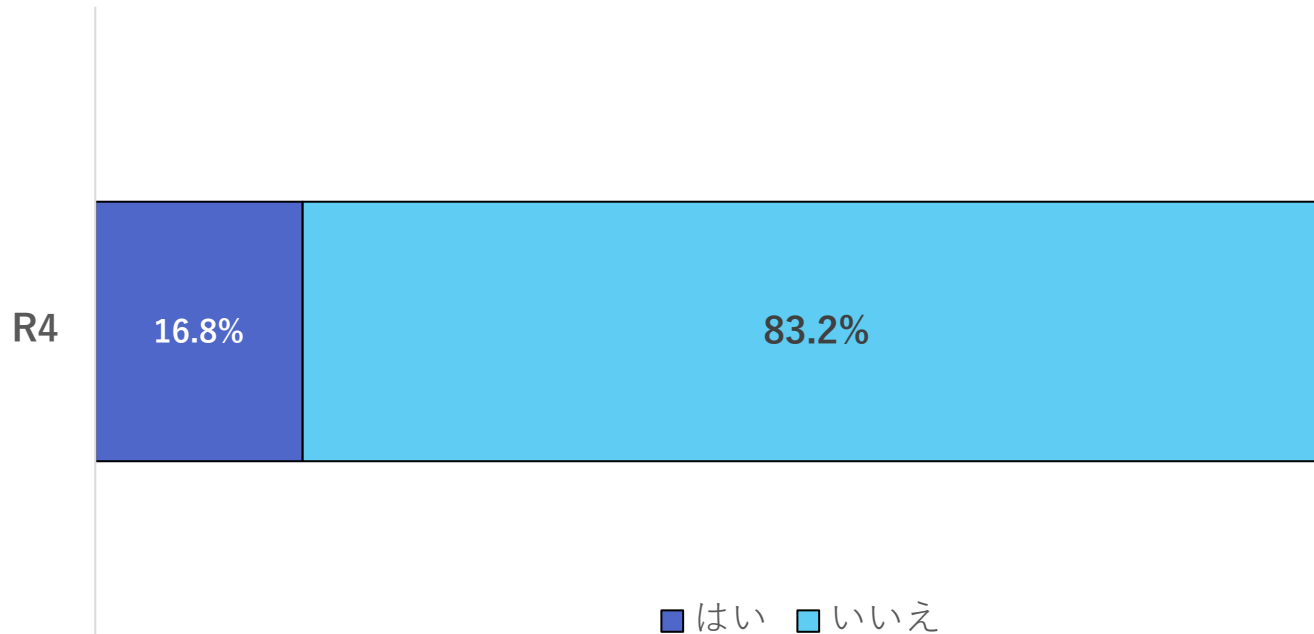
- 「お薬代が安くなる」が85.7%と最も高かった。
- R2年度と比較して「錠剤の大きさ」、「味やにおい」は増加した。



問12. 《問9で「1. すでに受けている」と回答した方》— 昨年の複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたが交付を受けている「ジェネリック医薬品」で医薬品が変更されるなどの影響がありましたか。

県民

- 「はい」と回答した方（影響があった方）が16.8%であった。

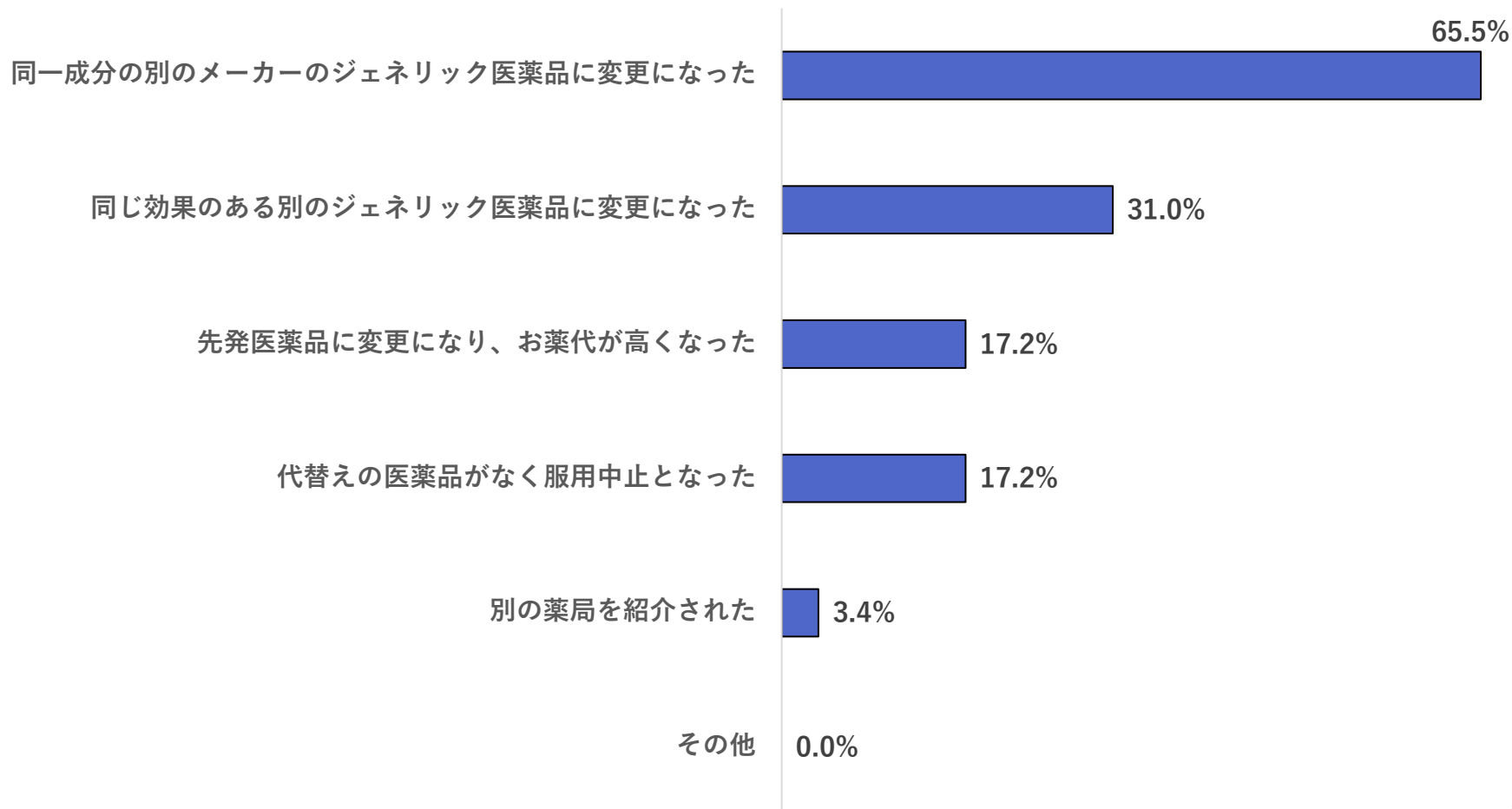


R4

問13. 《問12で「1. はい」と回答した方》どのような影響がありましたか。（複数選択式）

県民

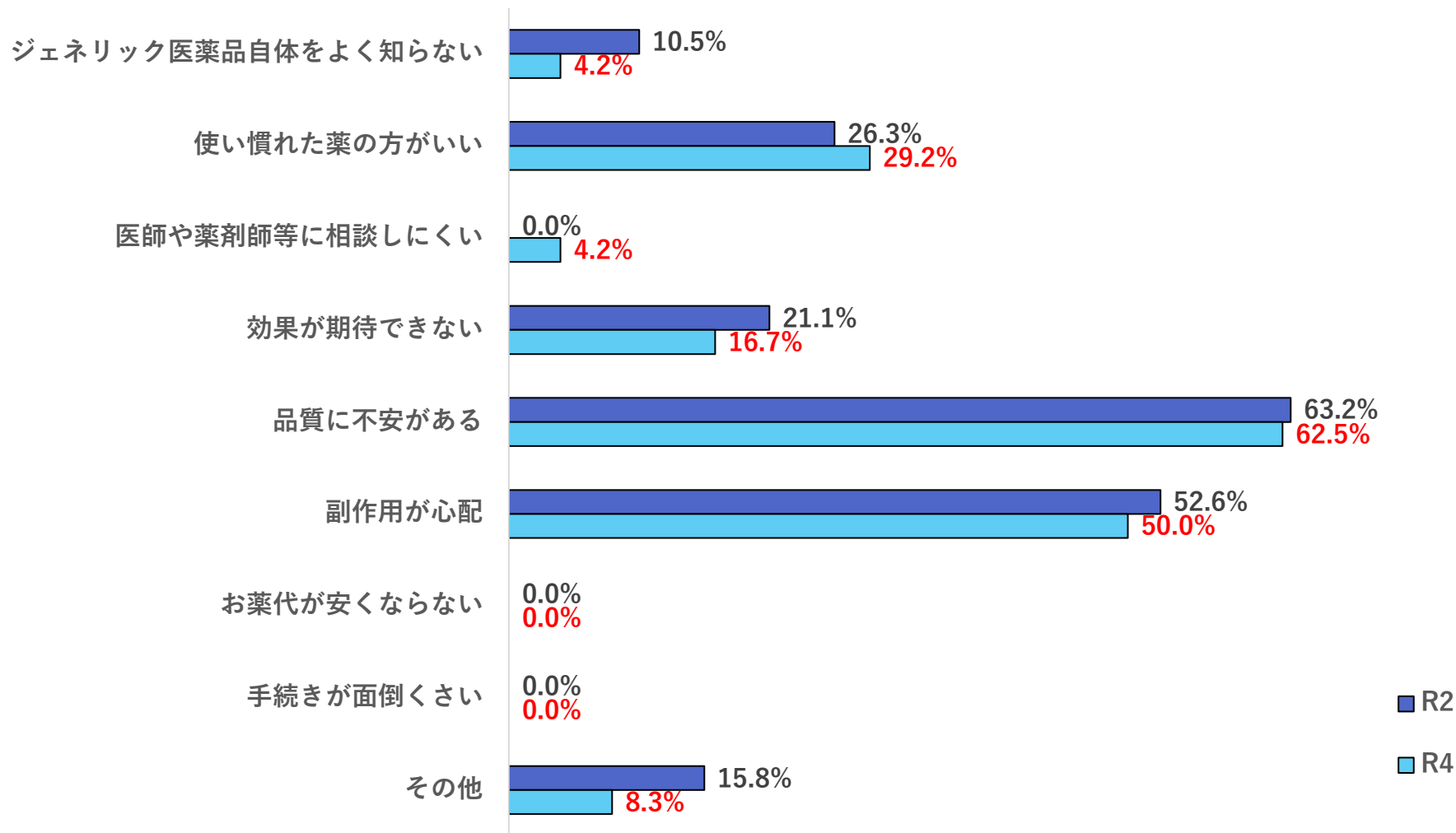
- 「同一成分の別のメーカーのジェネリック医薬品に変更になった」が65.5%と最も高く、続いて「同じ効果のある別のジェネリック医薬品に変更になった」が31.0%であった。



問14. 《問9で「3. 受けたくない」と回答した方》「ジェネリック医薬品」の交付を受けたくない理由は何ですか。（複数選択式）

県民

- 「品質に不安がある」が62.5%と最も高く、続いて「副作用が心配」が50.0%であった。
- R2と比較して「使い慣れた薬の方がいい」、「医師や薬剤師等に相談しにくい」が増加した。

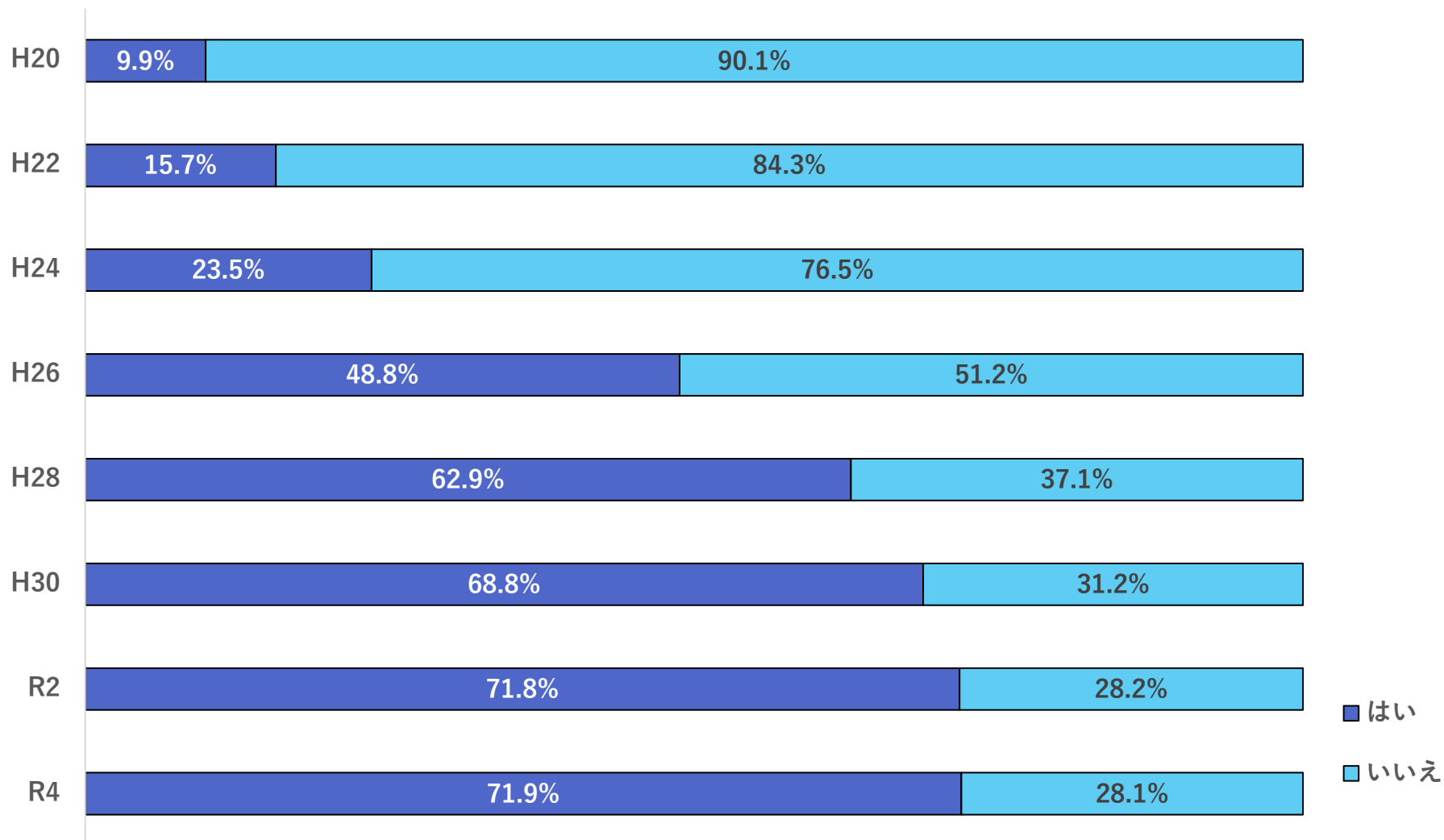


- 大手後発薬品メーカーの製造に絡む不正などの存在で不安がある。
- もともと飲んでいた薬が効いていて体調が良い場合、ジェネリック薬品に変えて効かなくなると聞いたことがあるため。
- なるべくジェネリックにしているが、物によっては先発と明らかに効能の差があるものがあると実感している。
- 以前処方されたジェネリックの薬が合わず、とても具合が悪くなったので、できるだけ使いたくないです。
- 同様の薬という事でジェネリックを勧められますが、全てが同じではないので。

問16.医療機関や薬局で、実際に「ジェネリック医薬品」へ変更したことはありますか。（単一選択式）

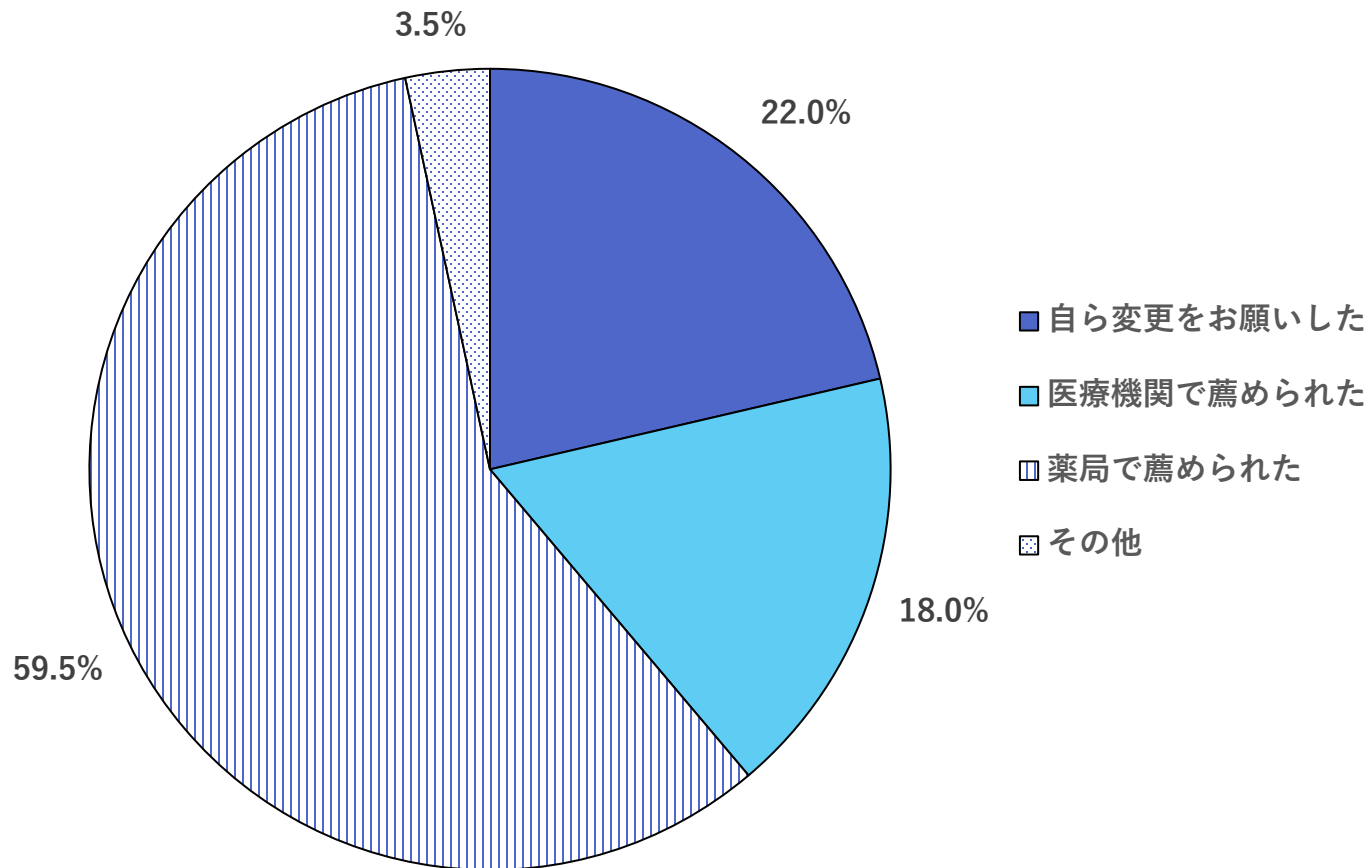
県民

● R4年度は「はい」が71.9%であり、H20年度から「はい」が62.0ポイント増加した。



問17. 《問16で「1. はい」と回答した方》どのようにして「ジェネリック医薬品」へ変更されましたか。主なものを一つ選んでください。（単一選択式）

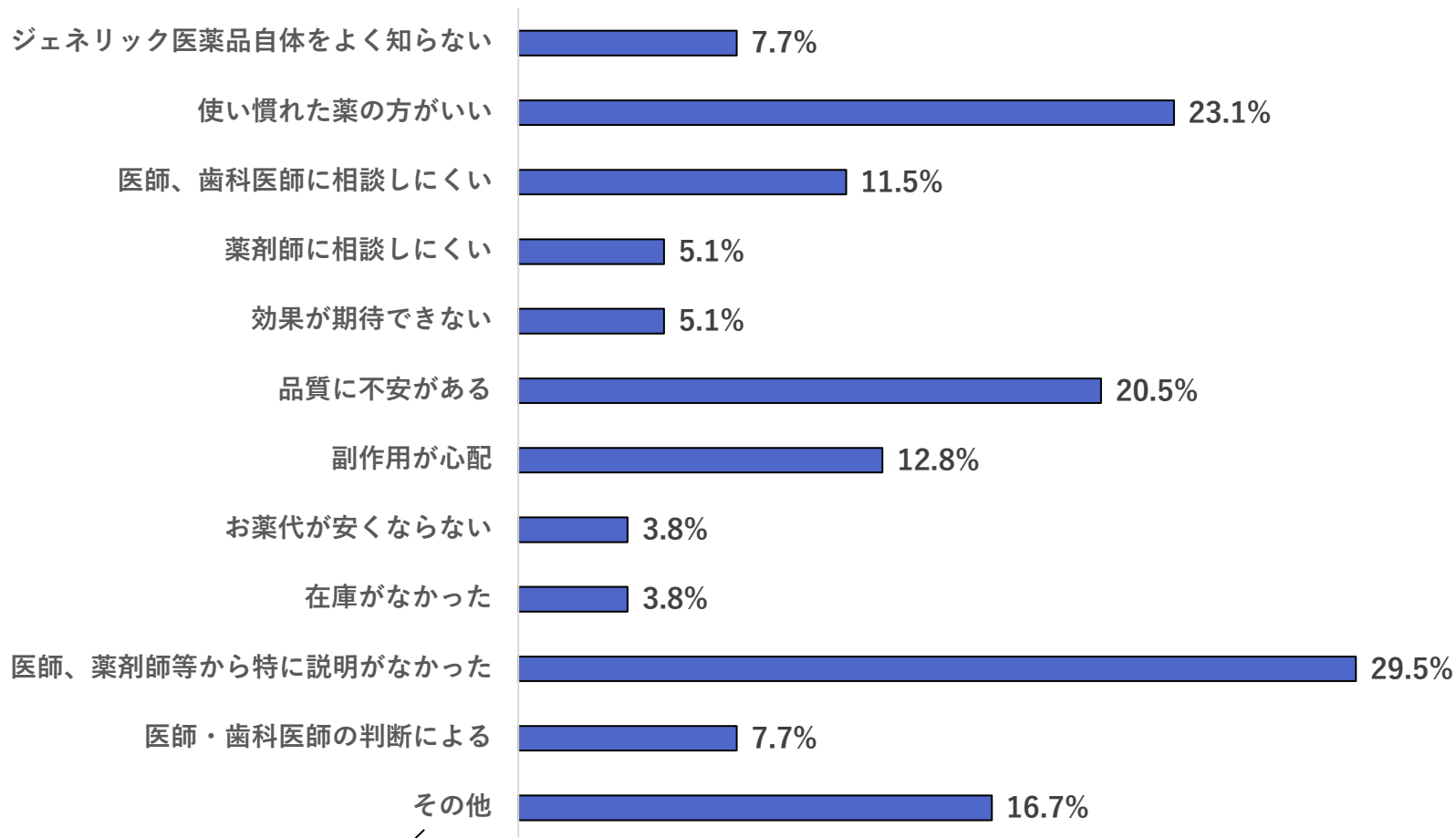
●「薬局で薦められた」が59.5%で最も高く、続いて「自ら変更をお願いした」が22.0%であった。



問18. 《問16で「2. いいえ」と回答した方》「ジェネリック医薬品」へ変更しなかった理由は何ですか。（複数選択式）

県民

- 「医師、薬剤師等から特に説明がなかった」が29.5%で最も高く、続いて「使い慣れた薬の方がいい」が23.1%、「品質に不安がある」が20.5%であった。



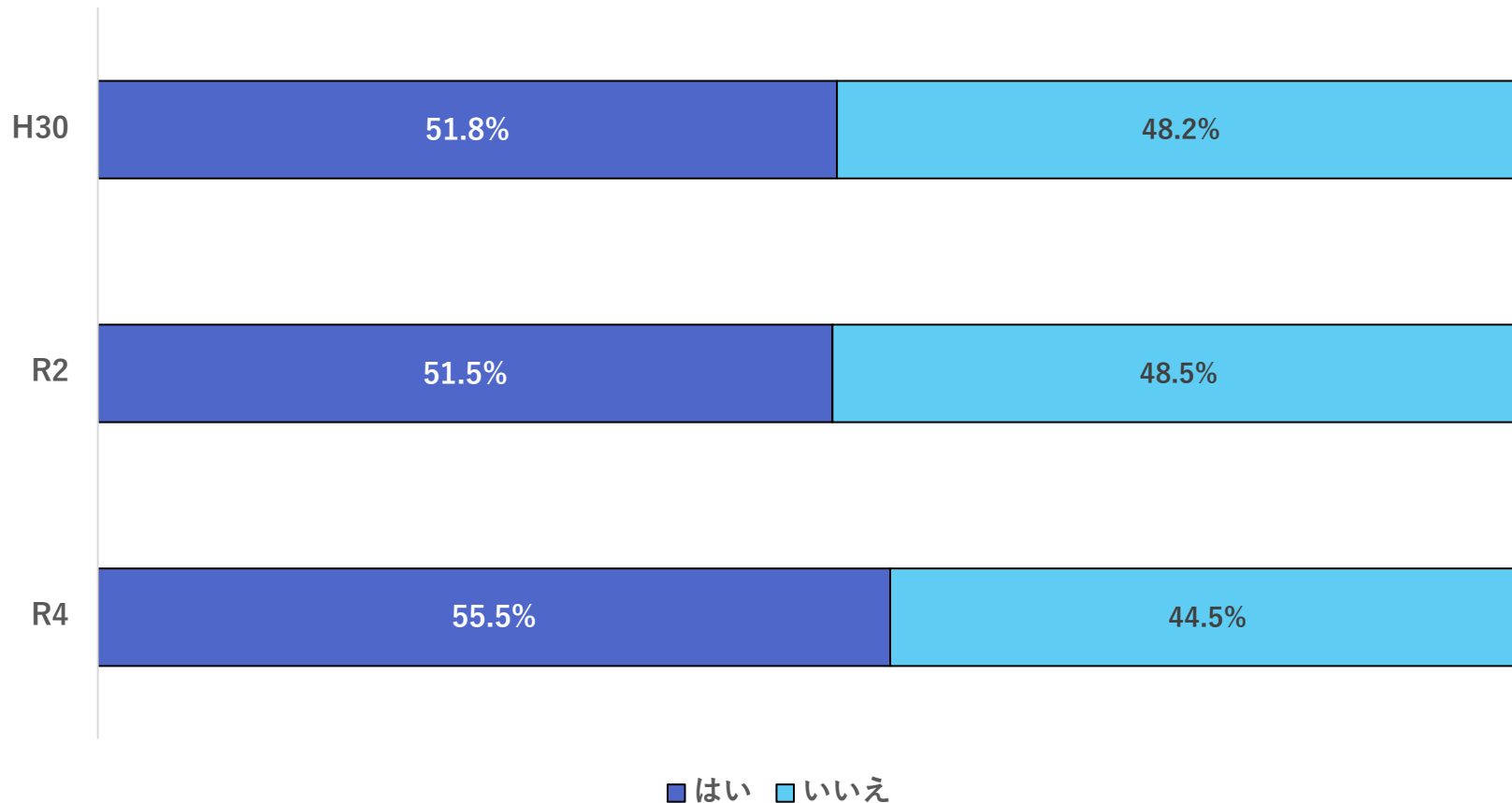
薬を飲んでいない（1件）、始めからジェネリック医薬品を服用している（3件）、ジェネリック医薬品がない（3件）、その他（6件）

R4

問19.医療機関や薬局の窓口で提示することができる「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」のことをご存知ですか。（単一選択式）

県民

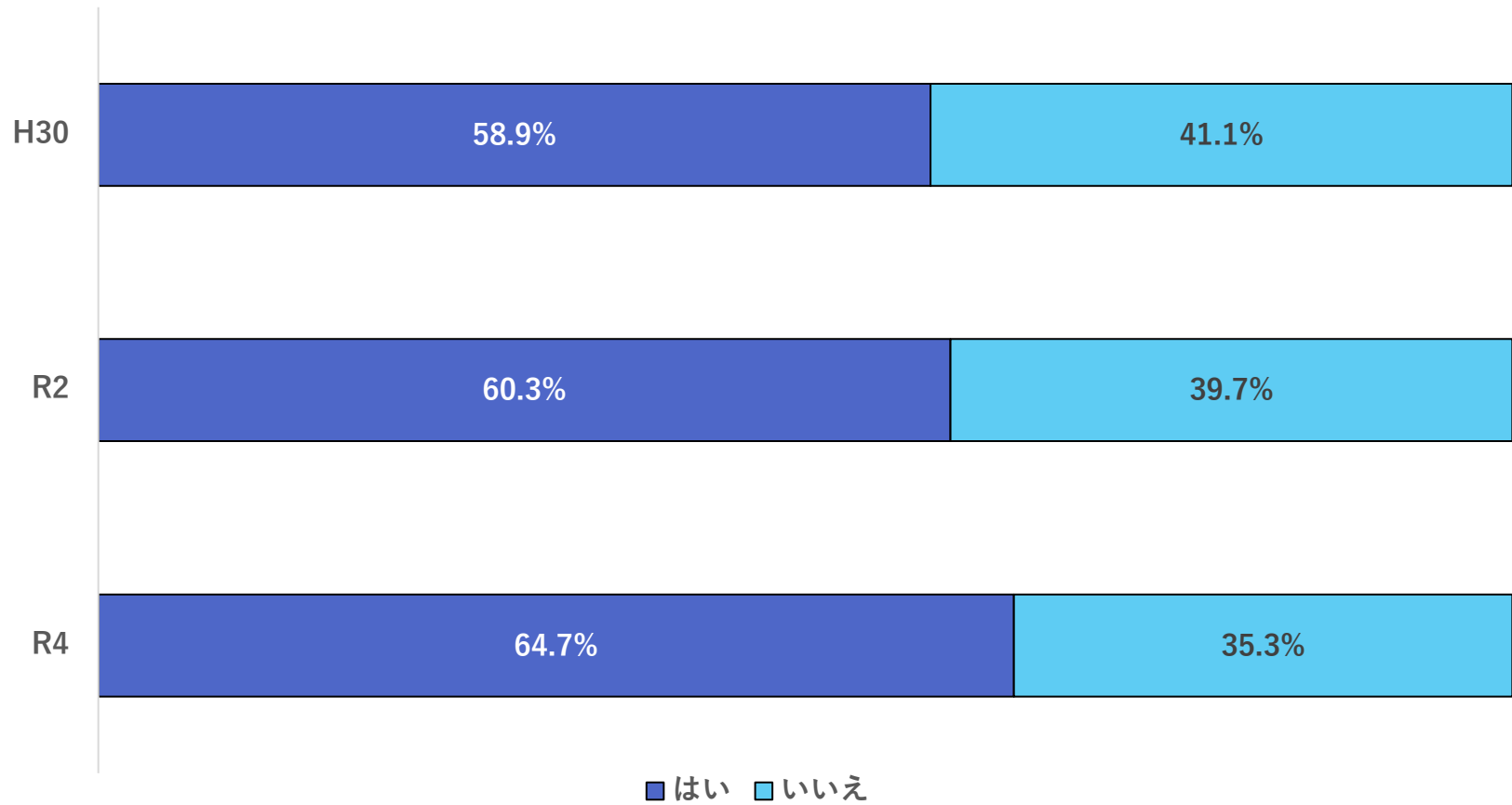
- R4年度は「はい」が55.5%であった。
- H30年度と比較して大きな変化は見られなかった。



問20. 《問19で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」をお持ちですか。（単一選択式）

県民

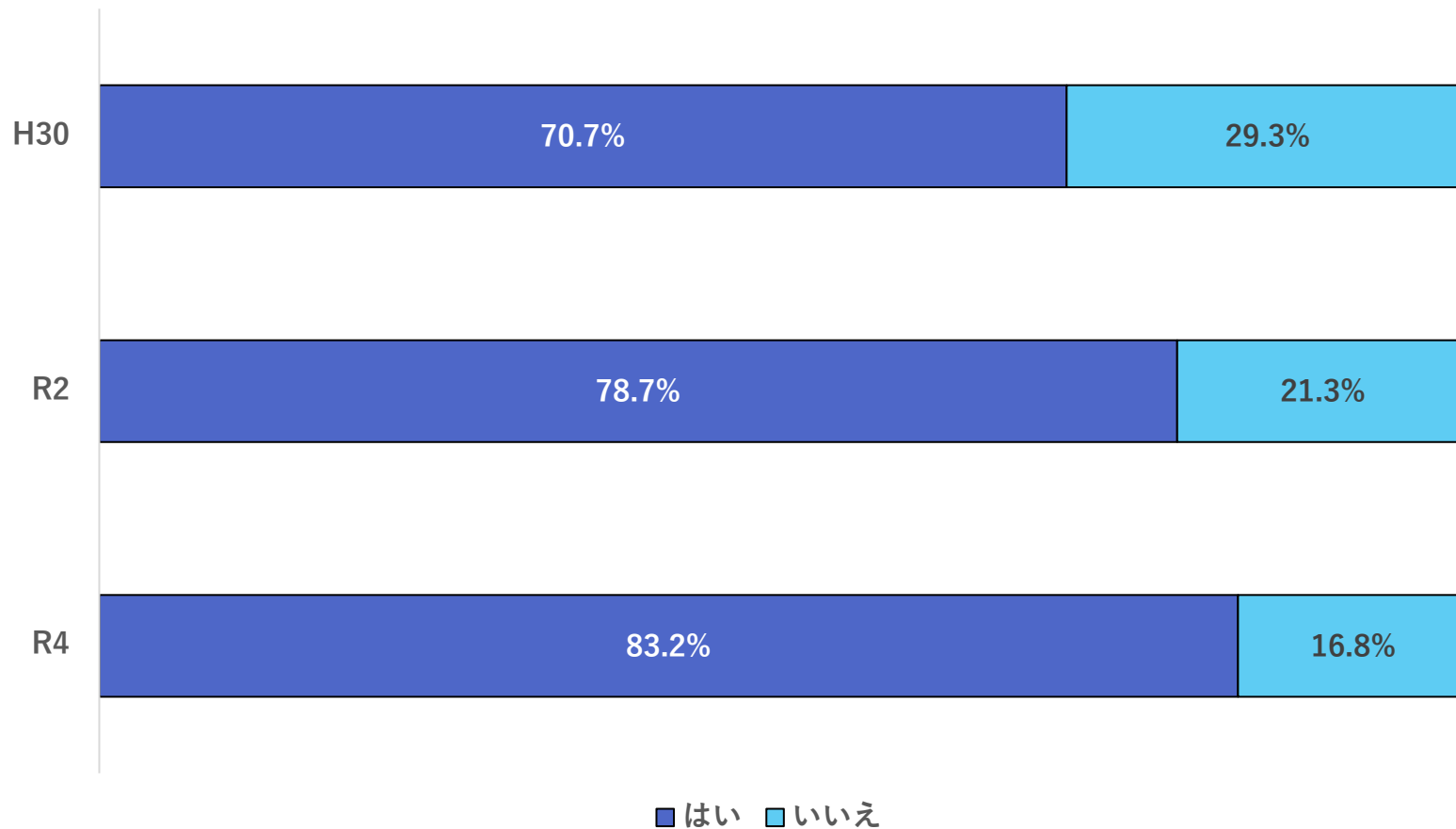
- R4年度は「はい」が64.7%であった。
- H30年度から「はい」と回答した方が増加傾向にある。



問21. 《問20で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」を使用した経験はありますか。（単一選択式）

県民

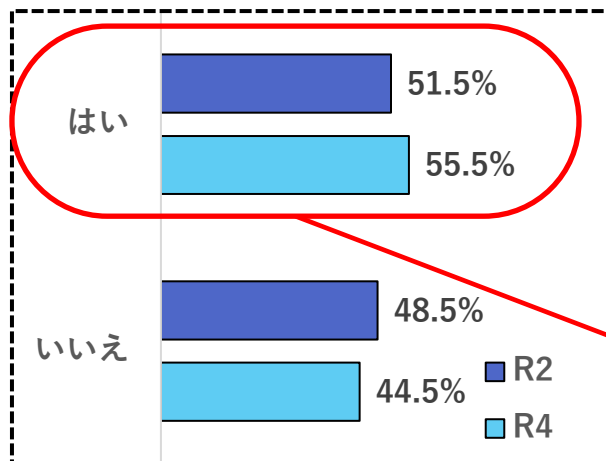
- R4年度は「はい」が83.2%であった。
- H30年度と比較すると「はい」と回答した方が12.5ポイント増加した。



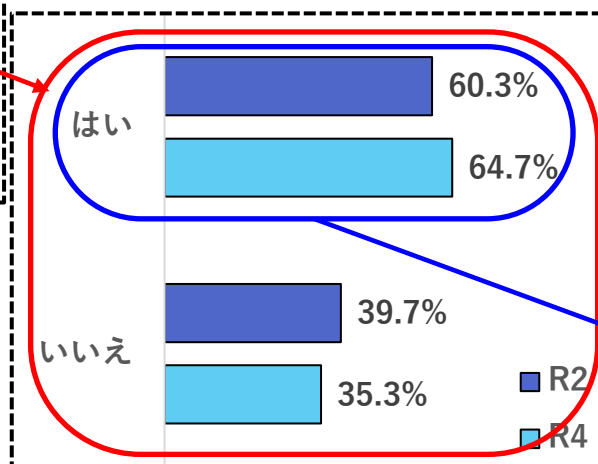
問19.医療機関や薬局の窓口で提示することができる「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」のことをご存知ですか。（単一選択式）

県民

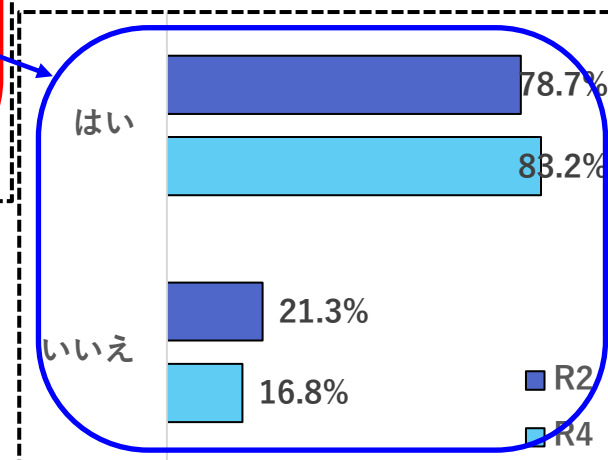
- R4年度は「ジェネリック医薬品希望カード・シール」を知っている人は55.5%、そのうち64.7%がカード・シールを所持しており、うち83.2%が使用経験があった。
- R2年度と比較して大きな変化は見られなかった。



問20.《問19で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」をお持ちですか。（単一選択式）



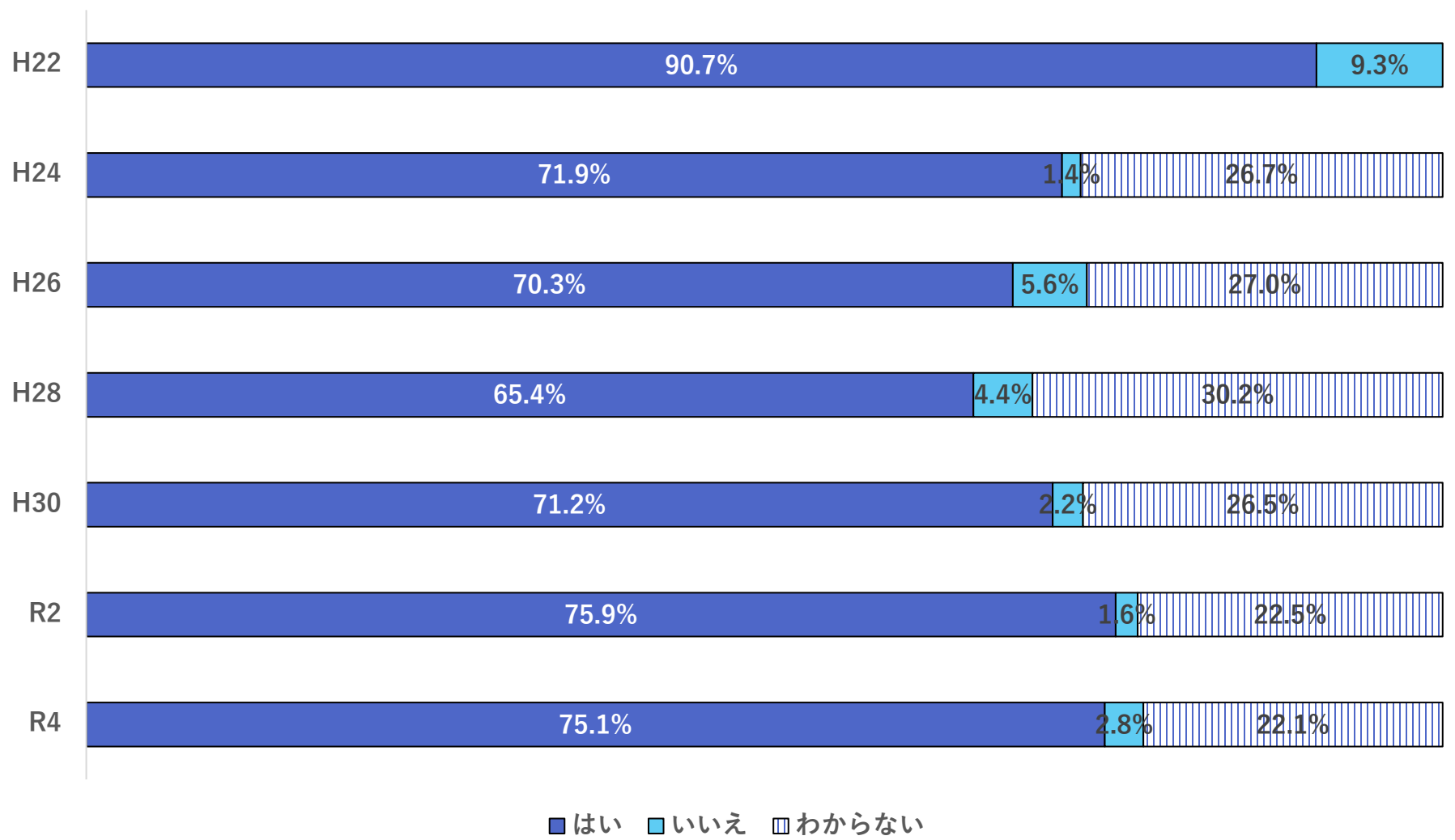
問21.《問19で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」を使用した経験はありますか。（単一選択式）



問22.将来にわたって安心して医療を受けられることが出来るように（医療保険財政の改善）、
「ジェネリック医薬品」を使用促進することは必要だと思いますか。（単一選択式）

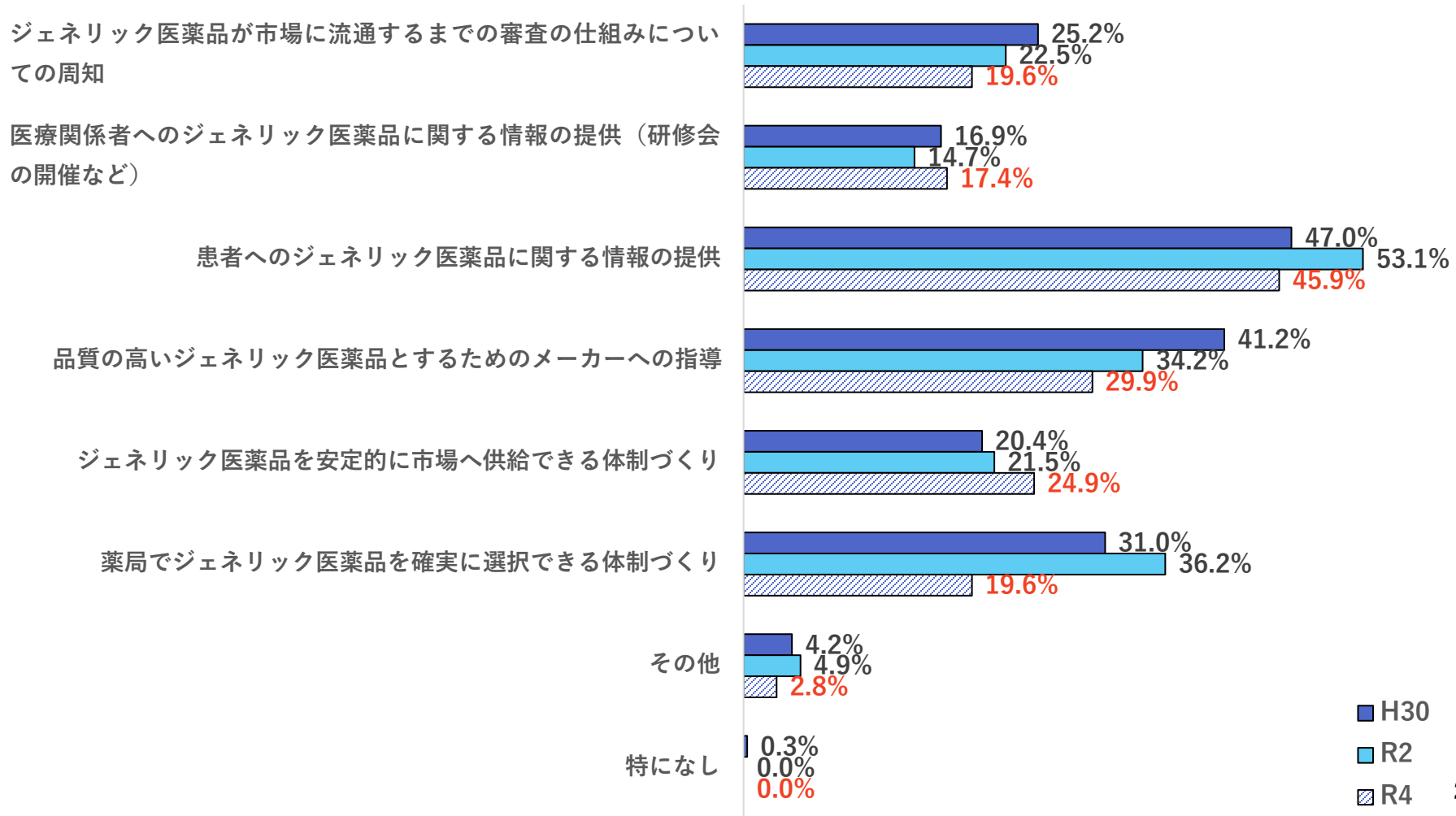
県民

- R4年度は「はい」が75.1%であった。
- H24年度から大きな変化は見られなかった。



問23. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

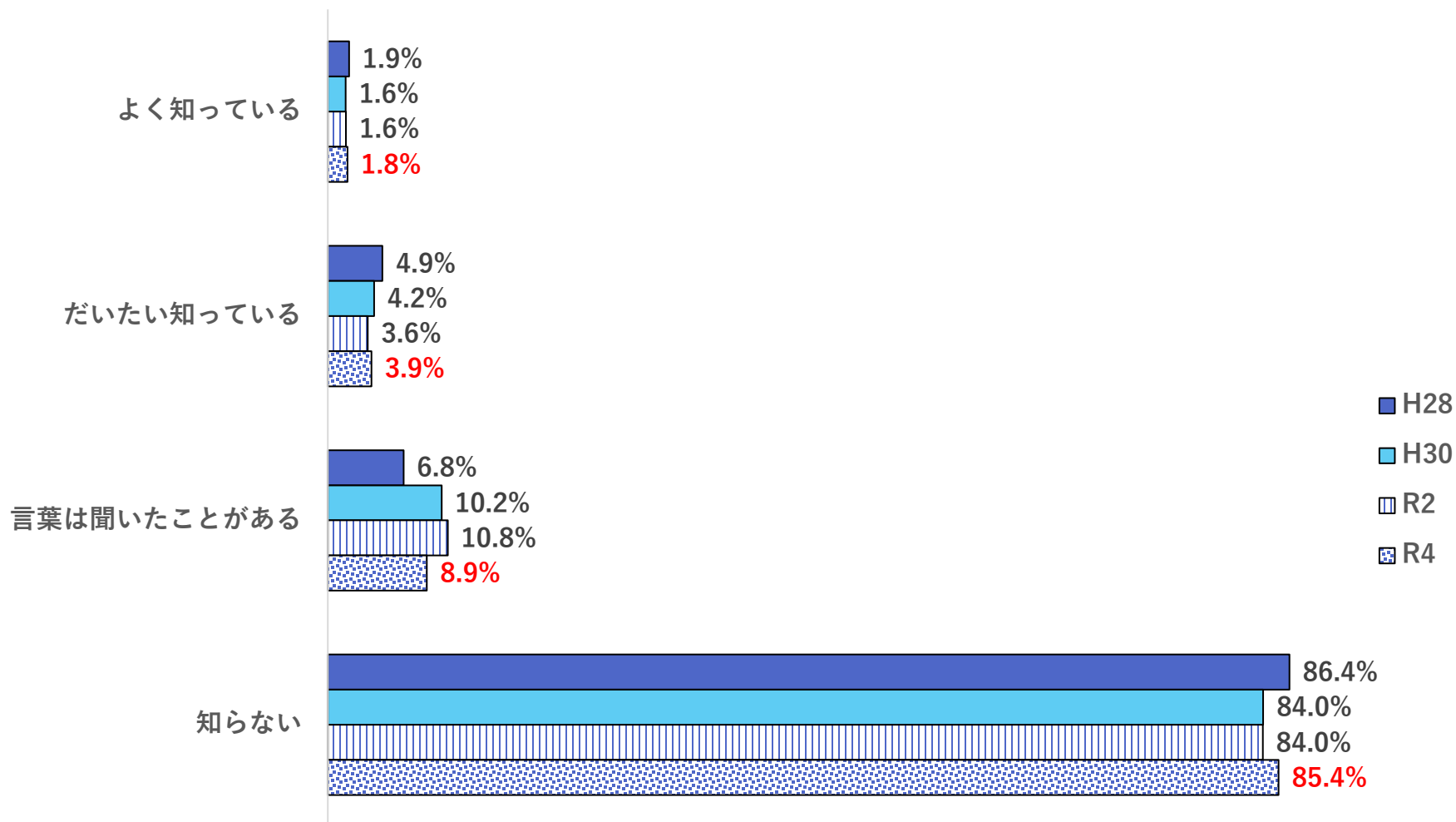
● R4年度は「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」が45.9%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が29.9%、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が24.9%であった。



問24. 「バイオシミラー」（バイオ後続品）のことについてご存知ですか。（単一選択式）

県民

- R4年度は「知らない」が85.4%で最も高く、「よく知っている」が1.8%、「だいたい知っている」は3.9%にとどまった。
- H28年度から大きな変化は見られなかった。



病 院

ジェネリック医薬品に関する病院アンケート調査結果

○調査方法

・調査票の直接送付による郵送調査

○調査時期

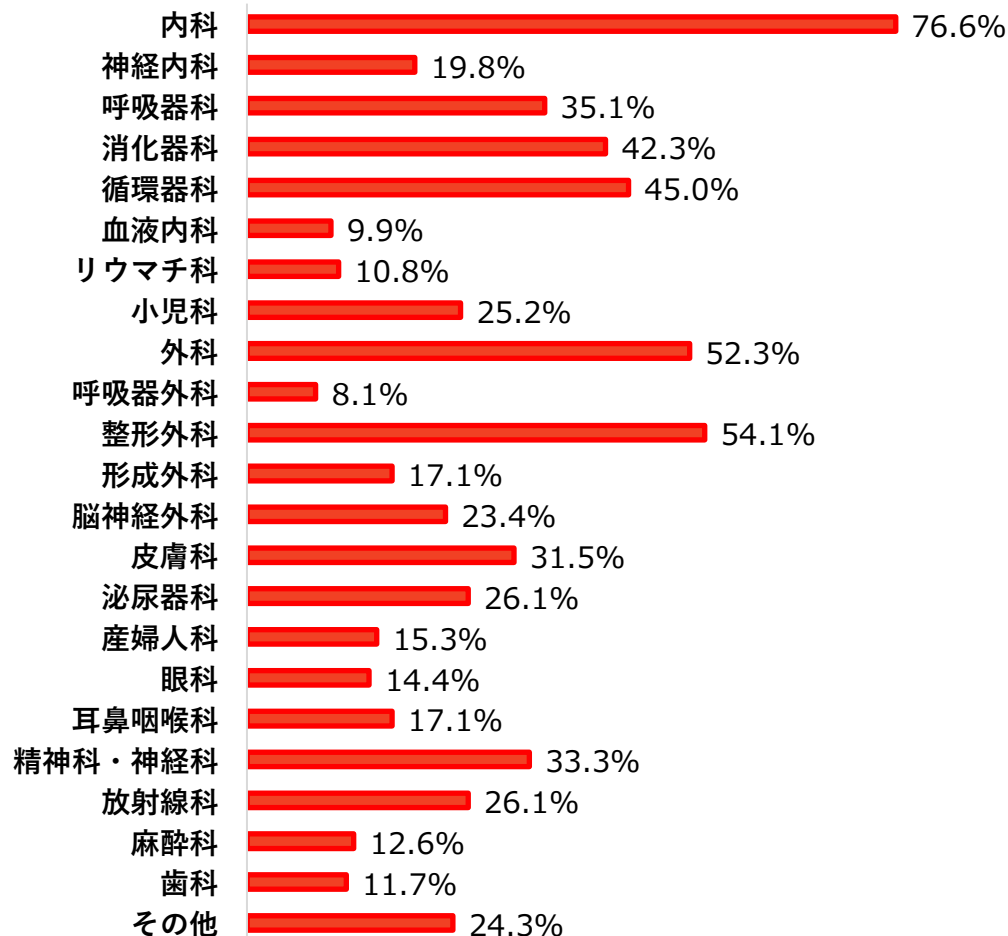
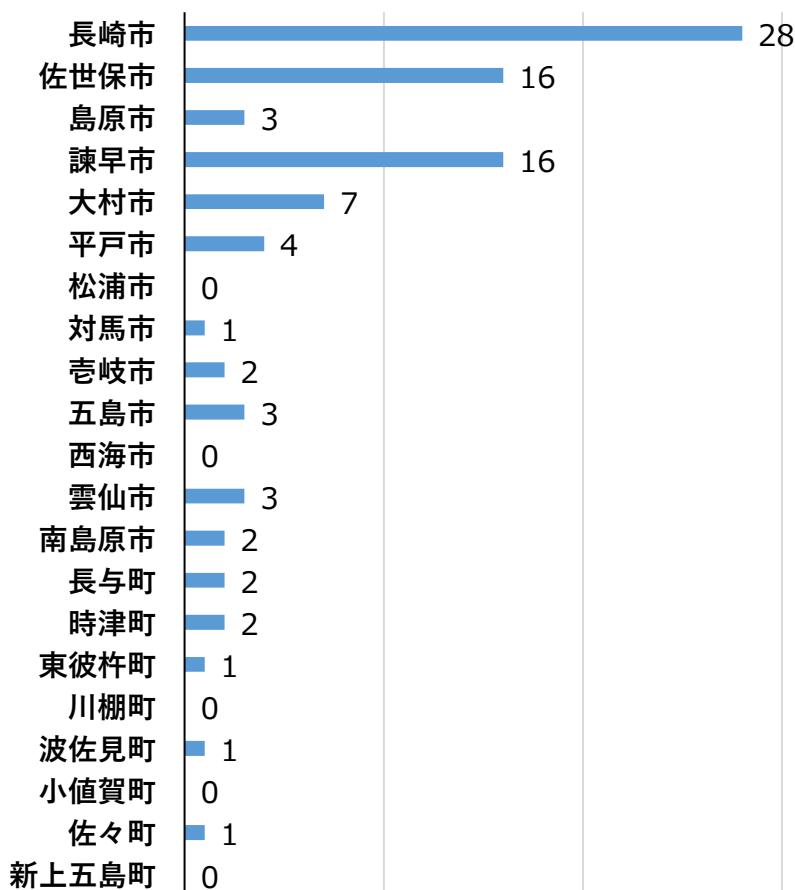
・令和5年2月22日から令和5年3月15日まで

○調査対象

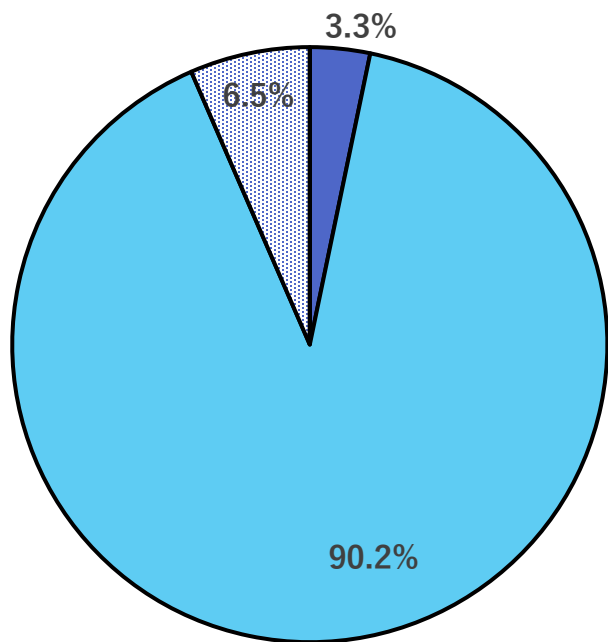
・県内すべての病院

○対象者数、回答者数及び回収率

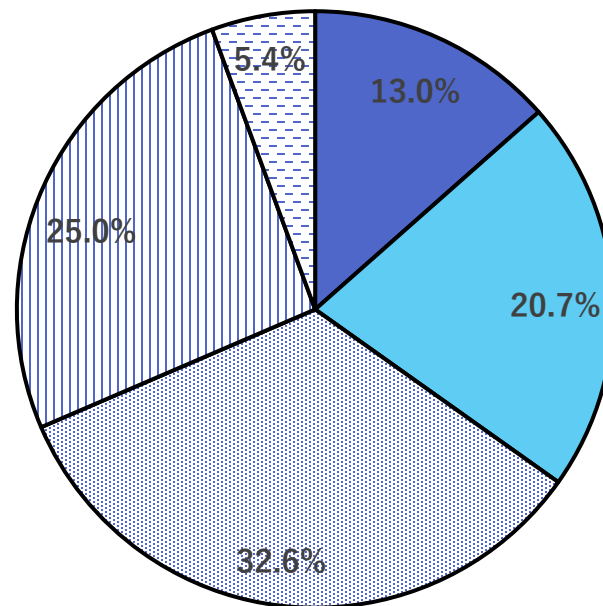
・対象施設数：147施設、回答施設数：92施設、回答率：62.6%



問3.ご回答者の職種及び年齢をお答えください。(単一選択式)



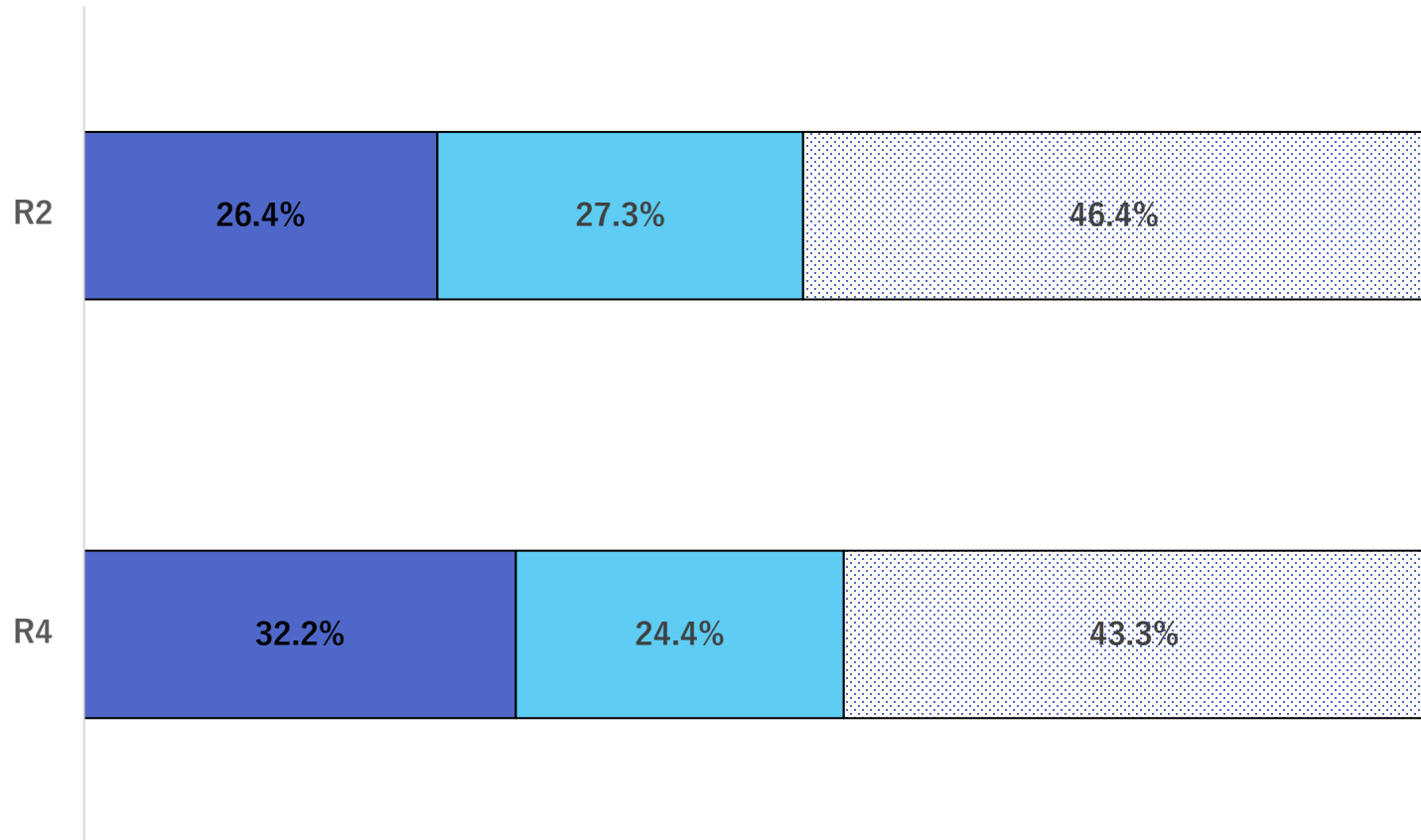
■ 医師 (歯科医師) ■ 薬剤師 ■ 事務職員 ■ その他



■ 30歳未満 ■ 30歳以上40歳以上 ■ 40歳以上50歳未満
■ 50歳以上60歳未満 ■ 60歳以上70歳未満 ■ 70歳以上

問4. 《病院のみ回答》あなたの病院では、DPCに基づく医療費の包括支払制度等を導入していますか。（単一選択式）

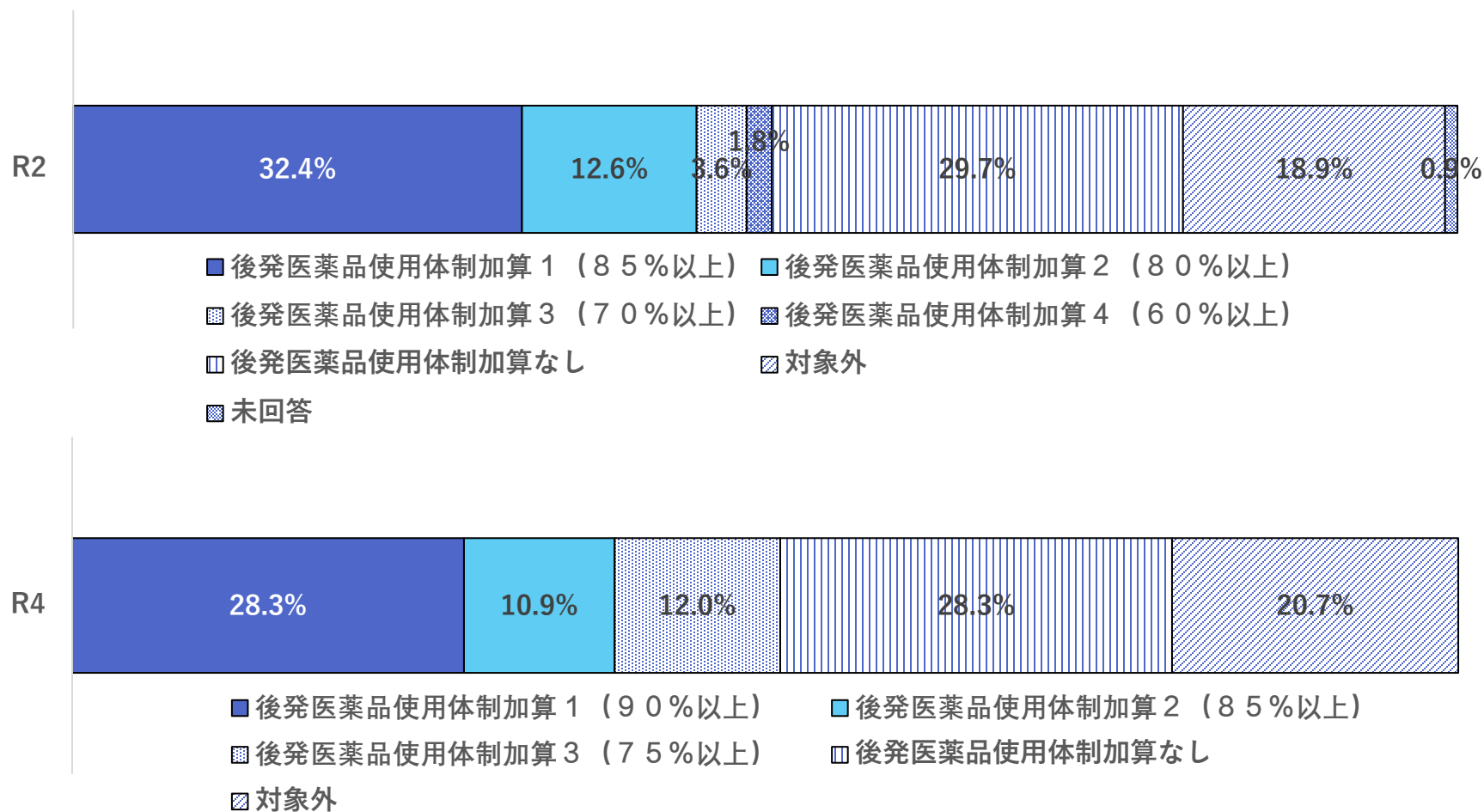
- R4年度は「DPCを導入している」が32.2%、「DPC以外の包括支払制度を導入している」が24.4%であった。
- R2年度と比較して「DPCを導入している」と「DPC以外の包括支払制度を導入している」の合計が2.9ポイント増加した。



■ DPCを導入している ■ DPC以外の包括支払制度を導入している※ □ 包括支払制度は導入していない

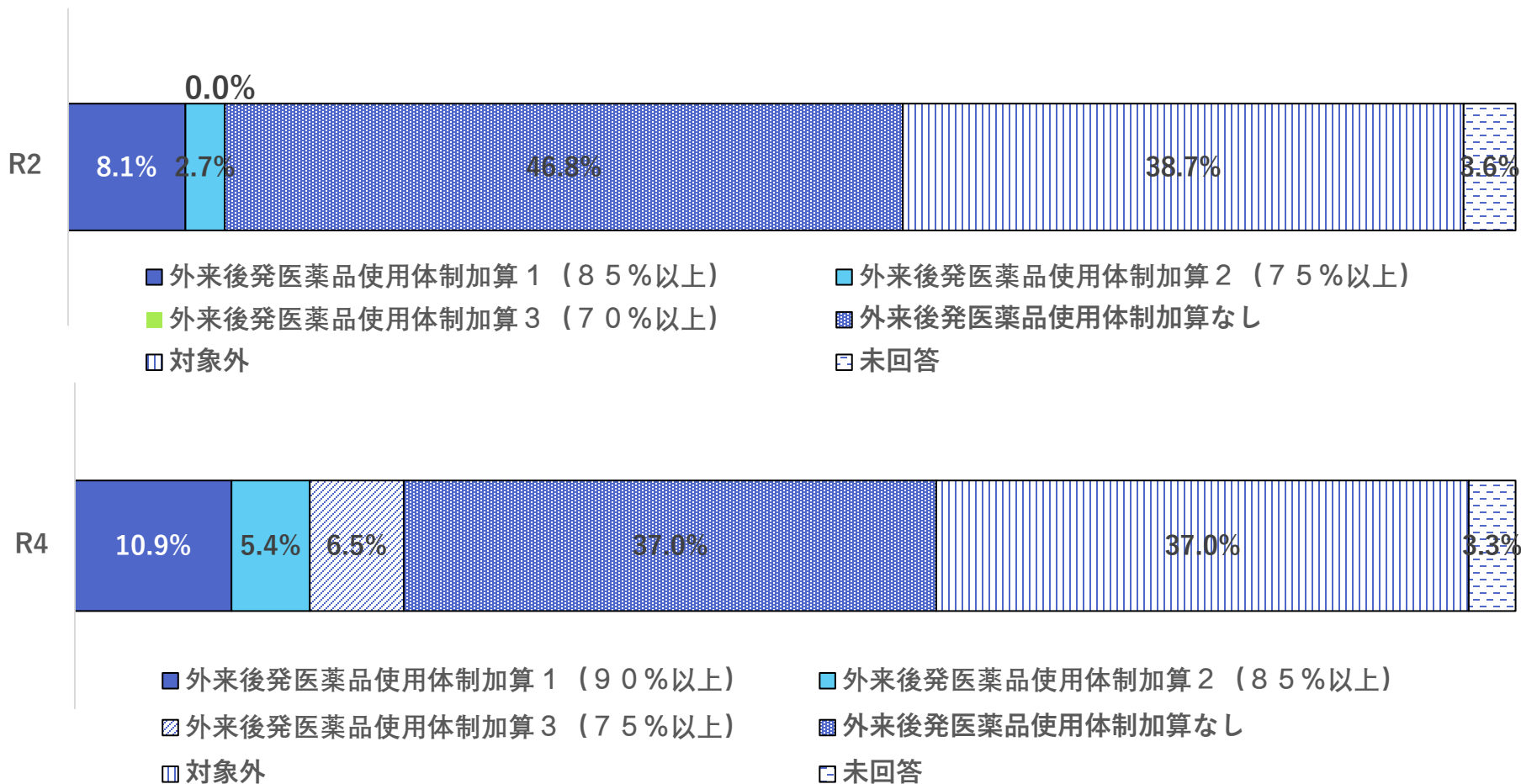
問5.あなたの医療機関の後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

- R4年度は「加算1」が28.3%、「加算2」が10.9%、「加算3」が12.0%、後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の51.2%であった。
- R2年度と比較すると、「加算1」が4.1ポイント、「加算2」が1.7ポイント減少し、「加算3」が、8.4ポイント増加した。



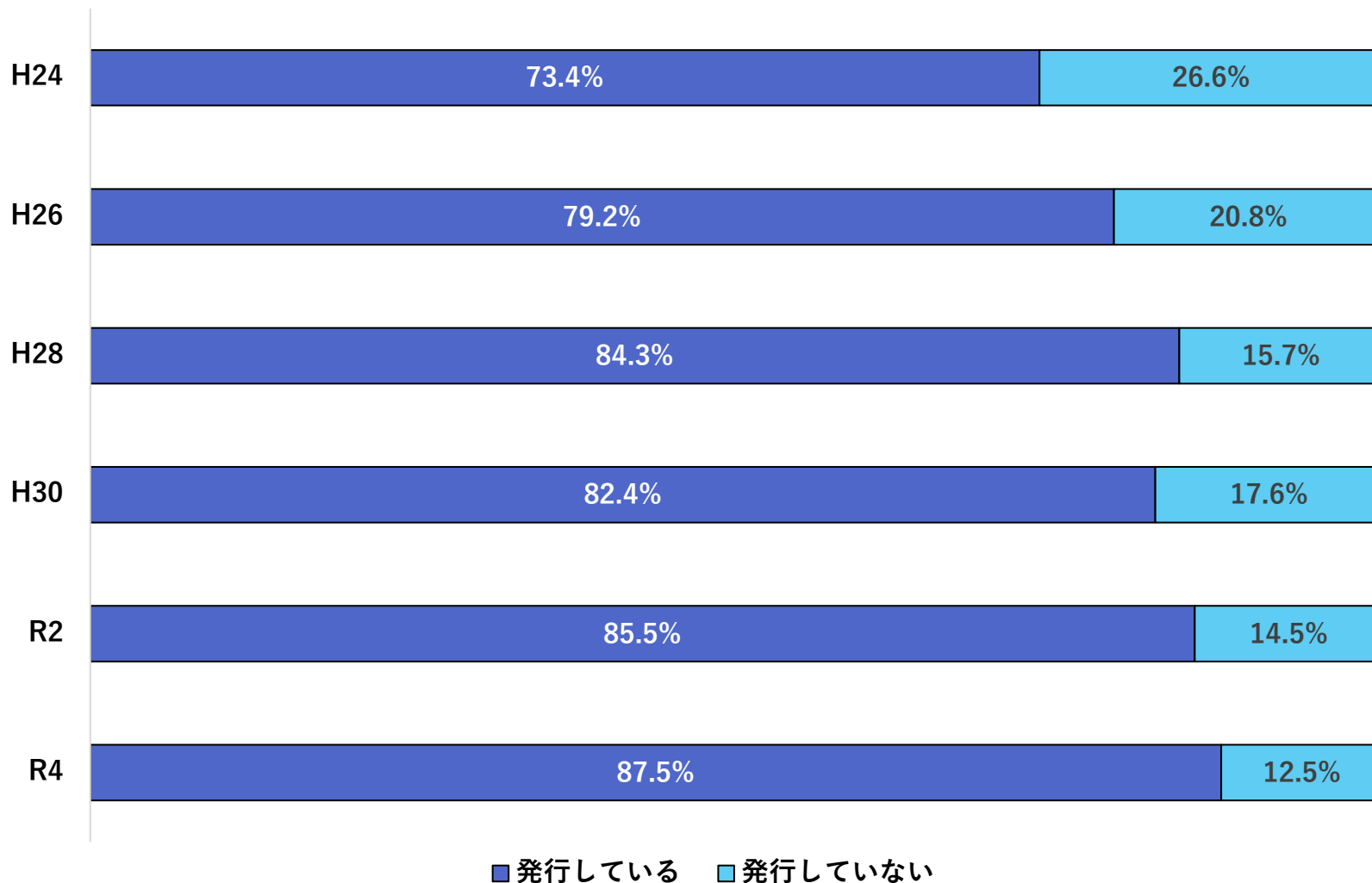
問6.あなたの医療機関の外来後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。(単一選択式)

- R4年度は「加算1」が10.9%、「加算2」が5.4%、「加算3」が6.5%であった。
- R2年度と比較すると、「加算1」が2.8ポイント、「加算2」が2.7ポイント、「加算3」が6.5ポイント増加した。



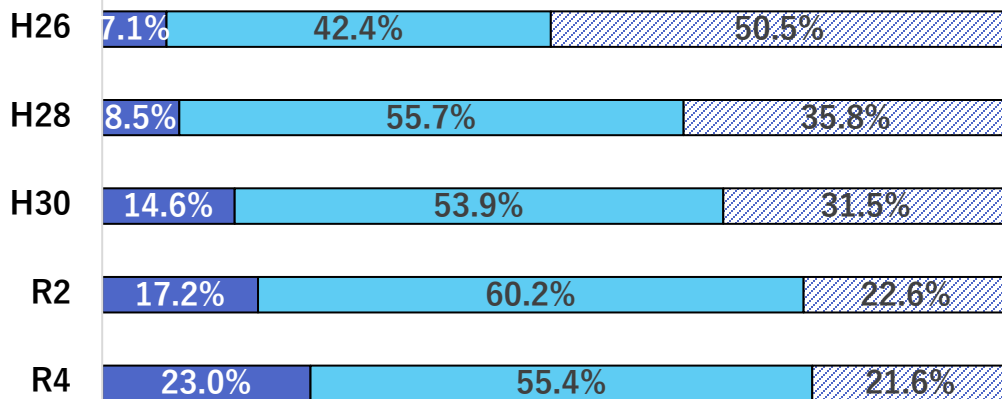
問7. あなたの医療機関では、院外処方せんを発行していますか。（単一選択式）

- R4年度は「発行している」が87.5%であった。
- H24年度から「発行している」が14.1ポイント増加した。



問8. 《問7で「1.発行している」と回答した医療機関》あなたの医療機関では、院外処方せん発行において一般名処方を導入していますか。（単一選択式）

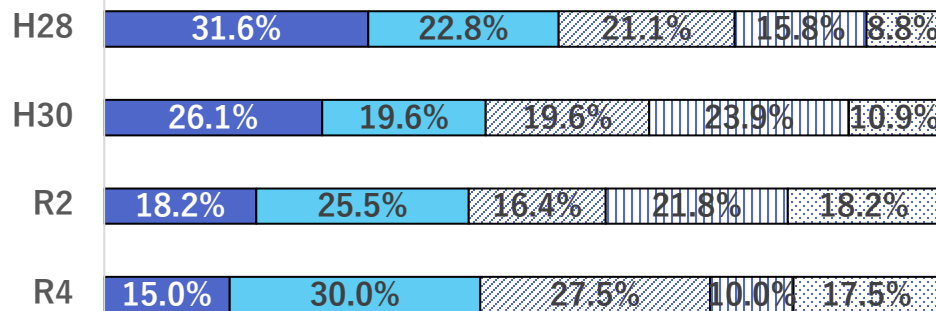
- R4年度は「すべて一般名処方を導入している」が23.0%、「一部に一般名処方を導入している」が55.4%で、合計78.4%であった。
- H26年度から「すべて一般名処方を導入している」が15.9%、「一部に一般名処方を導入している」が13.0%、合計で28.9ポイント増加した。
- 一部に一般名処方を導入している場合のその割合について、H28年度から「60～80%」と「80～100%」の合計が2.9ポイント増加した。



■ すべて一般名処方を導入している □ 一部に一般名処方を導入している

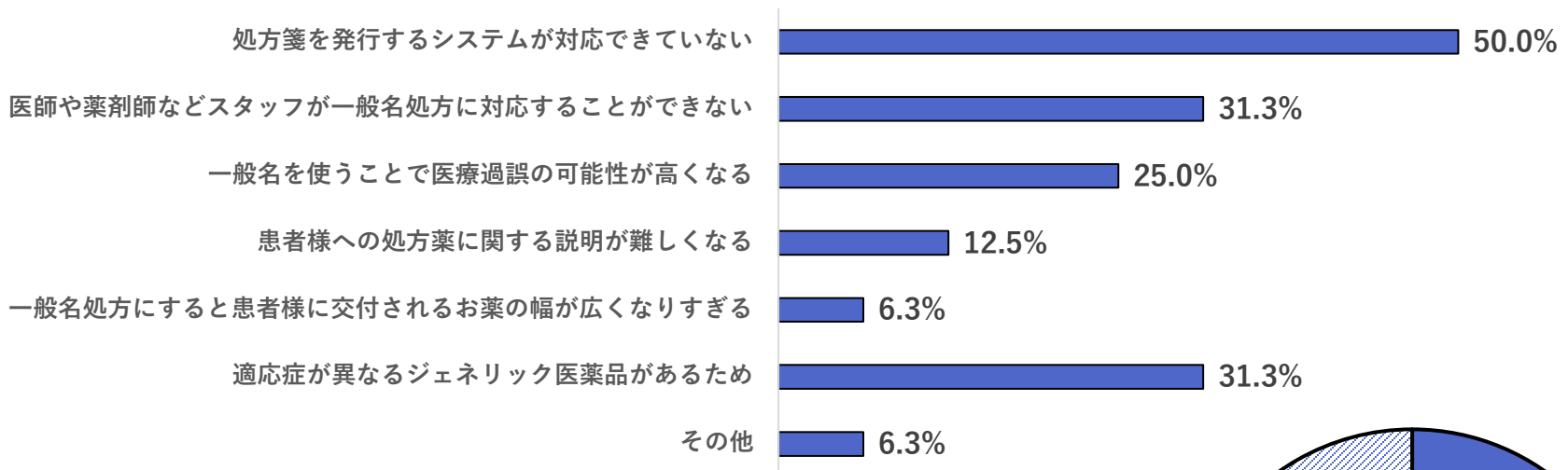


「一部に一般名処方を導入している」と回答した場合、その割合

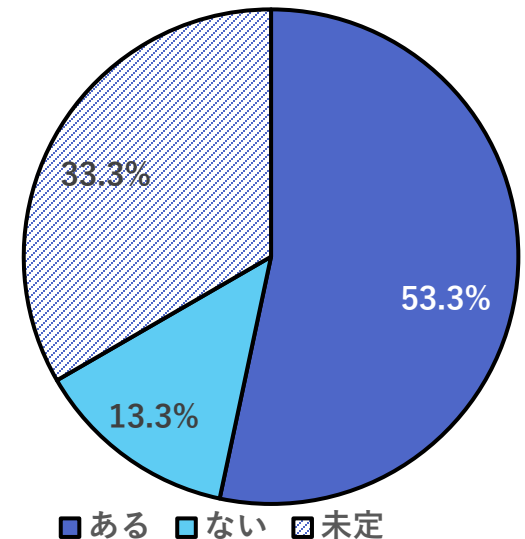
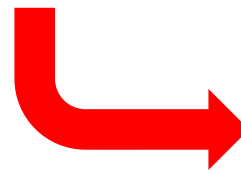


問9. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》 一般名処方を導入していない理由は
何ですか。（複数選択式）

- 「処方箋を発行するシステムが対応できていない」が50.0%で最も高く、続いて「医師や薬剤師などスタッフが一般名処方に対応することができない」、「適応症が異なるジェネリック医薬品があるため」が31.3%であった。
- 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性があるとの回答が53.3%あった。



問10. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性がありますか。（単一選択式）

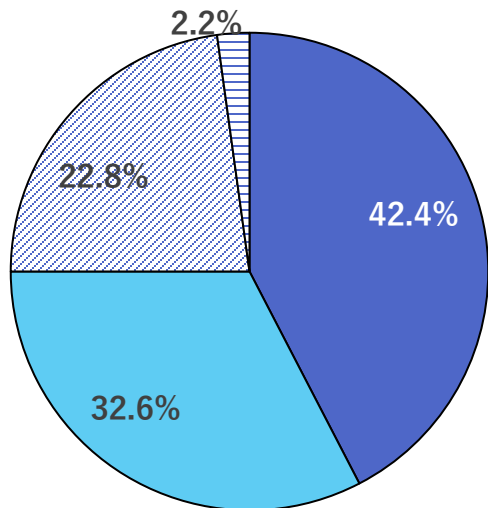


R4

問11.ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

- 「はい」が42.4%、「どちらともいえない」が32.6%であり、「いいえ」は22.8%にとどまった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」が91.3%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が39.1%、「メーカーの情報提供体制の問題」が39.1%であった。

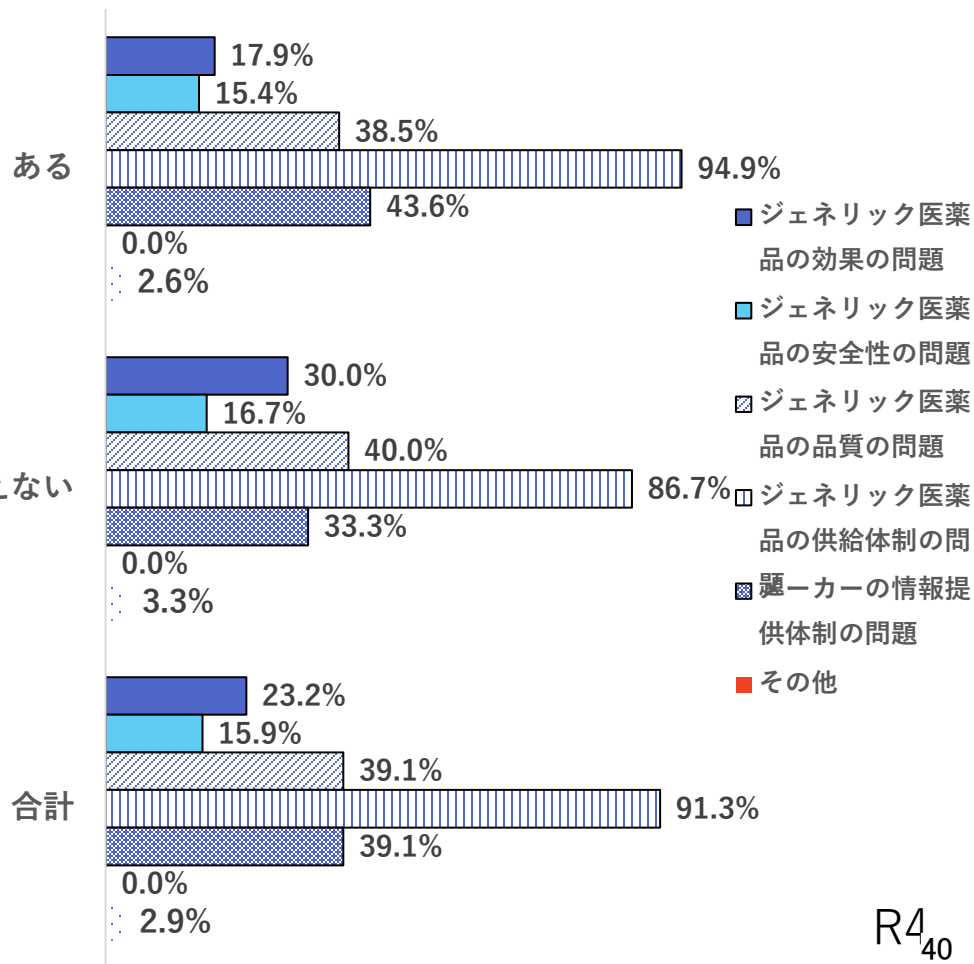
■ある ■どちらともいえない ■ない ■無回答



どちらともいえない

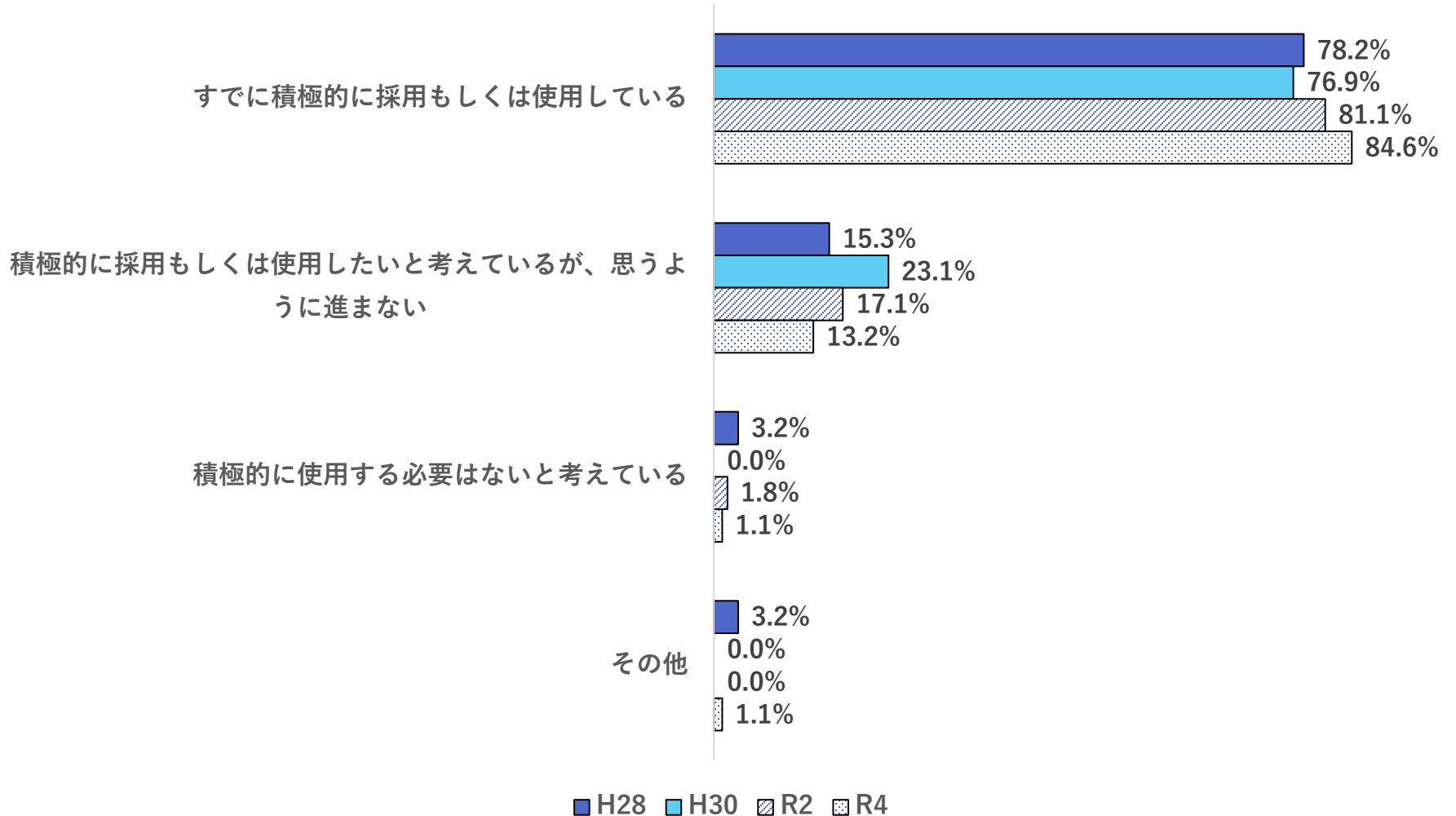


問12.《問11で「1.ある」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）



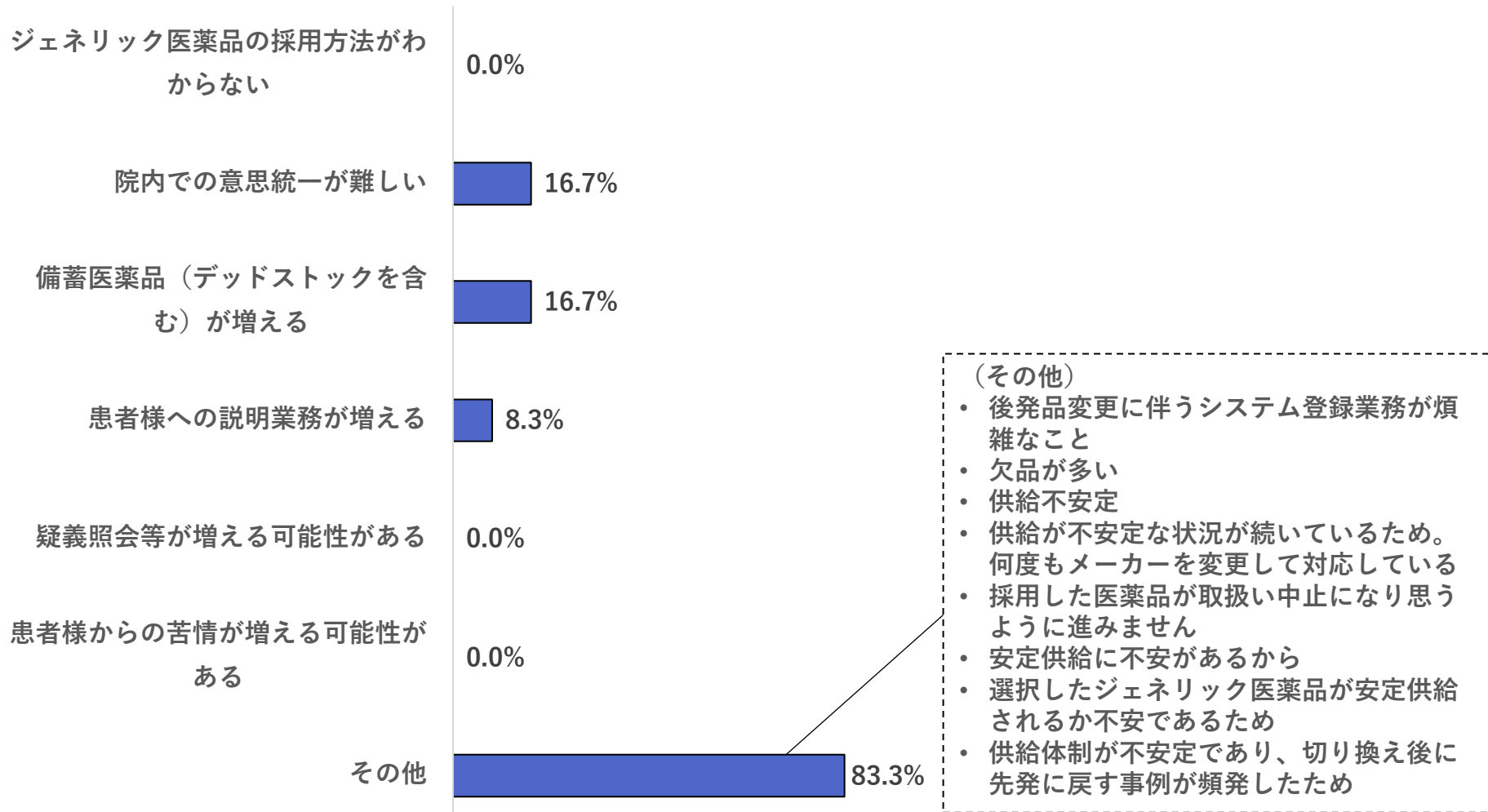
問13. あなたの医療機関では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用（院外処方を含む）したいとしますか。（単一選択式）

- R4年度は「すでに積極的に採用もしくは使用している」が84.6%で最も高く、続いて「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」が13.2%であった。
- H28年度から「すでに積極的に採用もしくは使用している」が6.4ポイント増加した。



問14. 《問13で「2.積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品の採用もしくは使用が思うように進まない理由は何ですか。（複数選択式）

- 「その他」が83.3%で最も高く、続いて「院内での意思統一が難しい」、「備蓄医薬品（デッドストックを含む）が増える」が16.7%であった。



問15. 《問13で「3.積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要がないと思う理由は何ですか。（複数選択式）

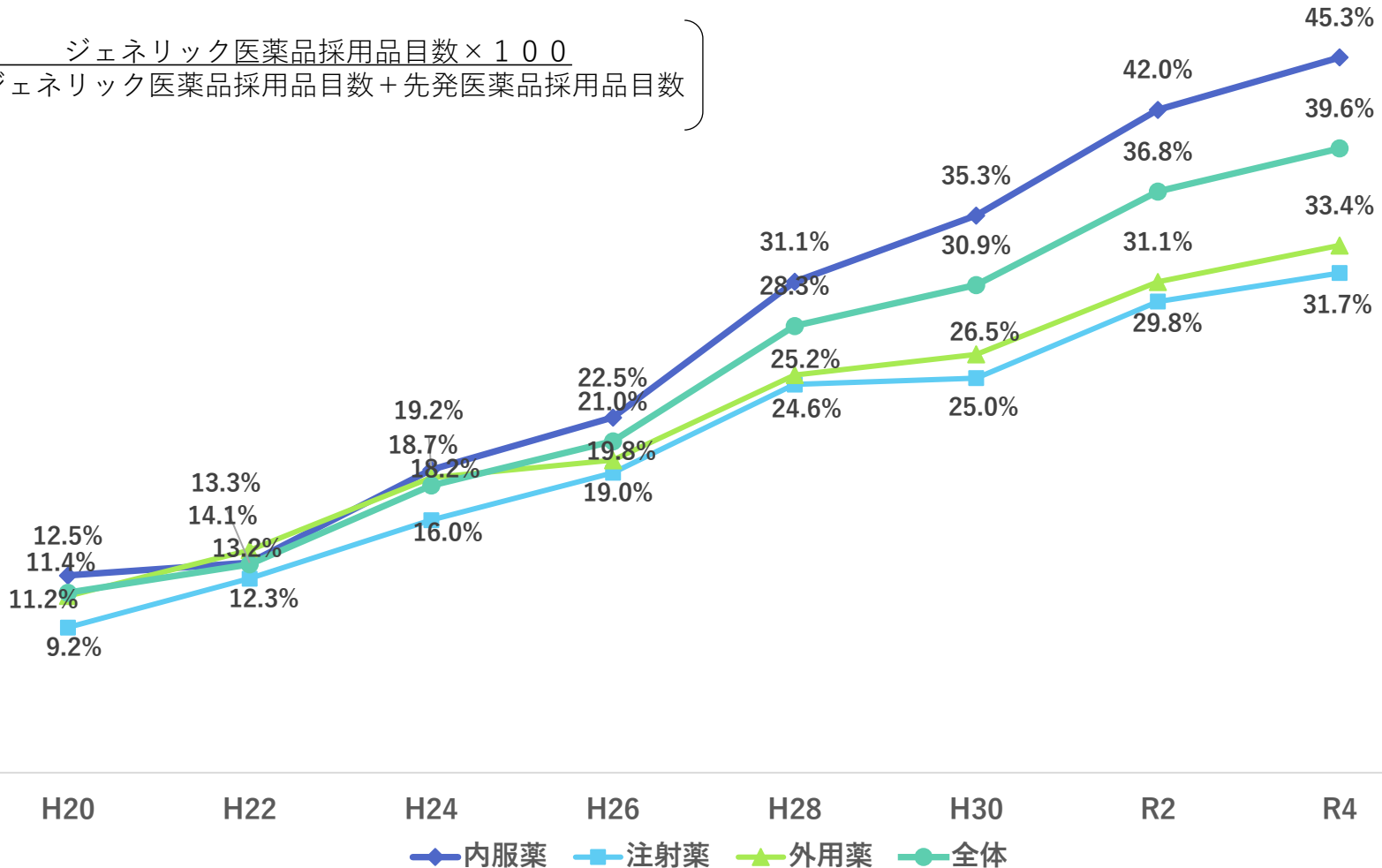
- 「積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関は1施設であった。当該施設は、理由として、「ジェネリック医薬品の効果の問題」、「ジェネリック医薬品の安全性の問題」、「ジェネリック医薬品の品質の問題」、「卸売販売業者からの供給体制の問題」、「メーカーの情報提供体制の問題」と回答している。

問16. 令和4年12月現在、あなたの医療機関における先発医薬品とジェネリック医薬品の採用状況（品目数）についてお答えください。（記入）

- ジェネリック医薬品の採用品目割合について、R4年度は内服薬が45.3%で最も高く、注射薬が31.7%で最も低かった。また、全体（内服薬+注射薬+外用薬）は39.6%であった。
- H20年度から全体の割合が28.2ポイント増加した。

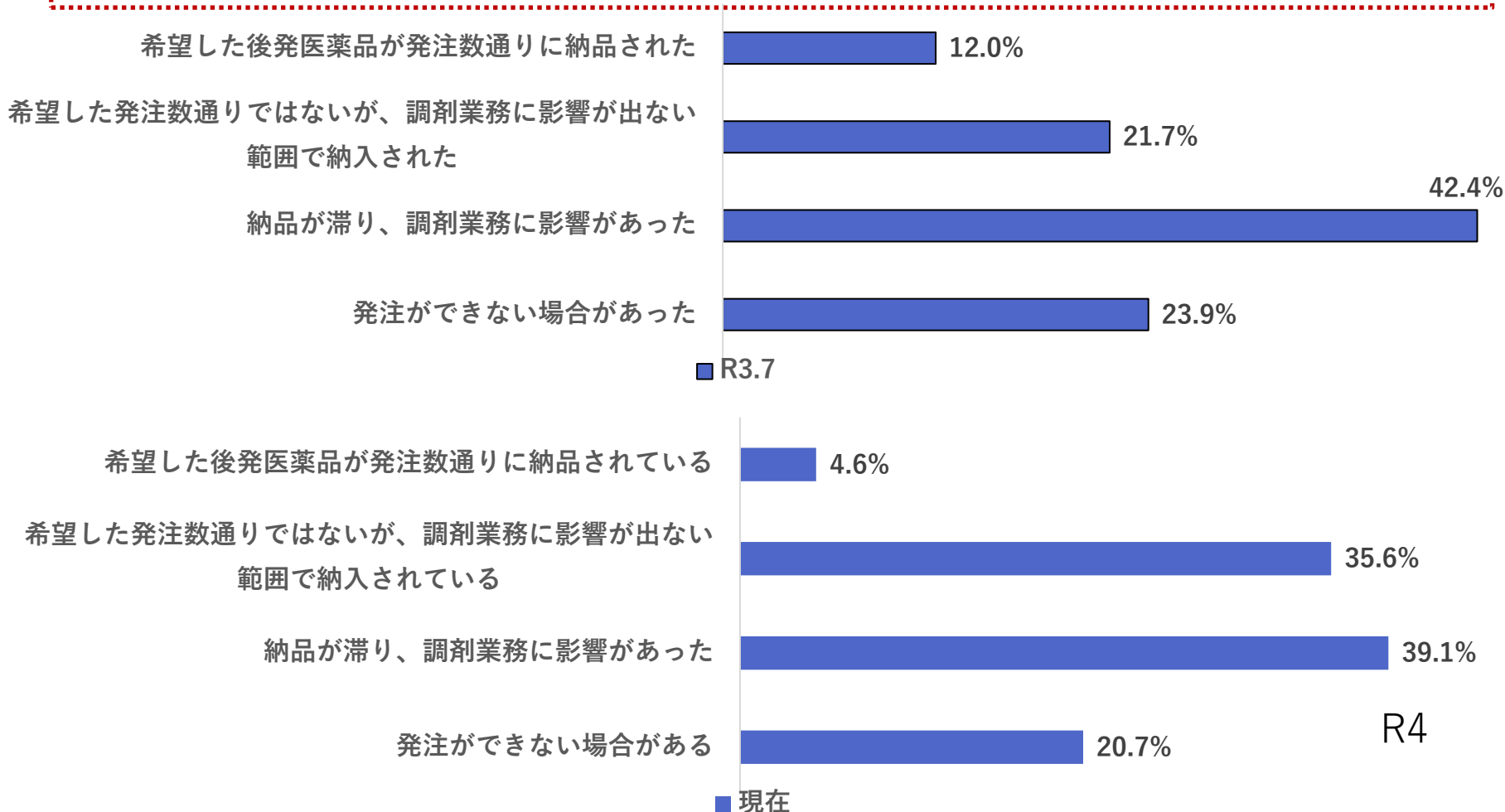
○ジェネリック医薬品の採用品目割合

$$\left(\frac{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} \times 100}{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} + \text{先発医薬品採用品目数}} \right)$$



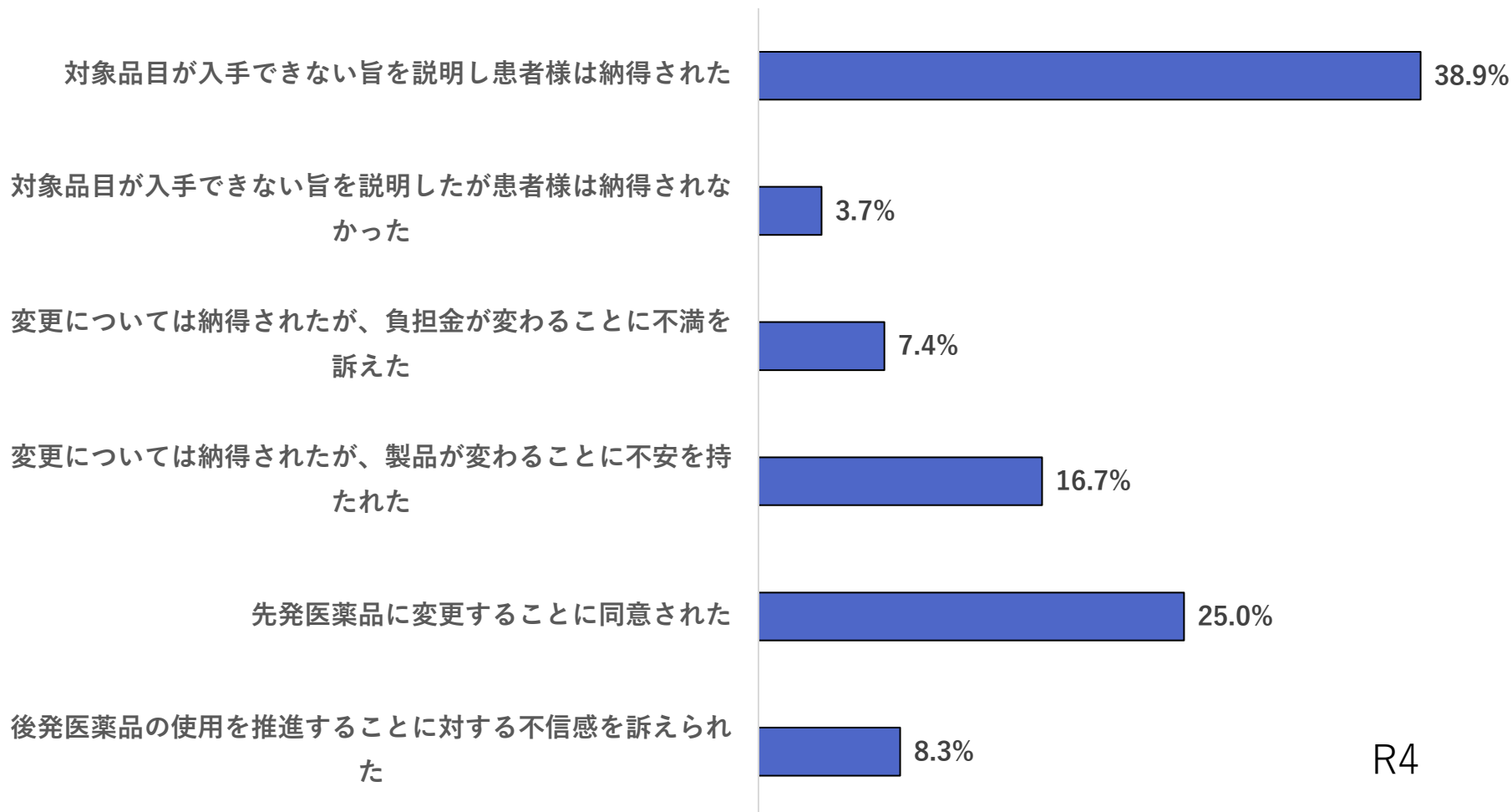
問17. 一昨年の複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの医療機関で採用している後発医薬品の「令和3年7月」及び「現在」の納入状況についてお答えください。（単一選択式）

- 「令和3年7月」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響があった」が42.4%で最も高く、続いて「発注できない場合があった」が23.9%であった。
- 「現在」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響がある」が39.1%で最も高く、続いて「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入されている」が35.6%であった。



問18. 《問17で令和3年7月および現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

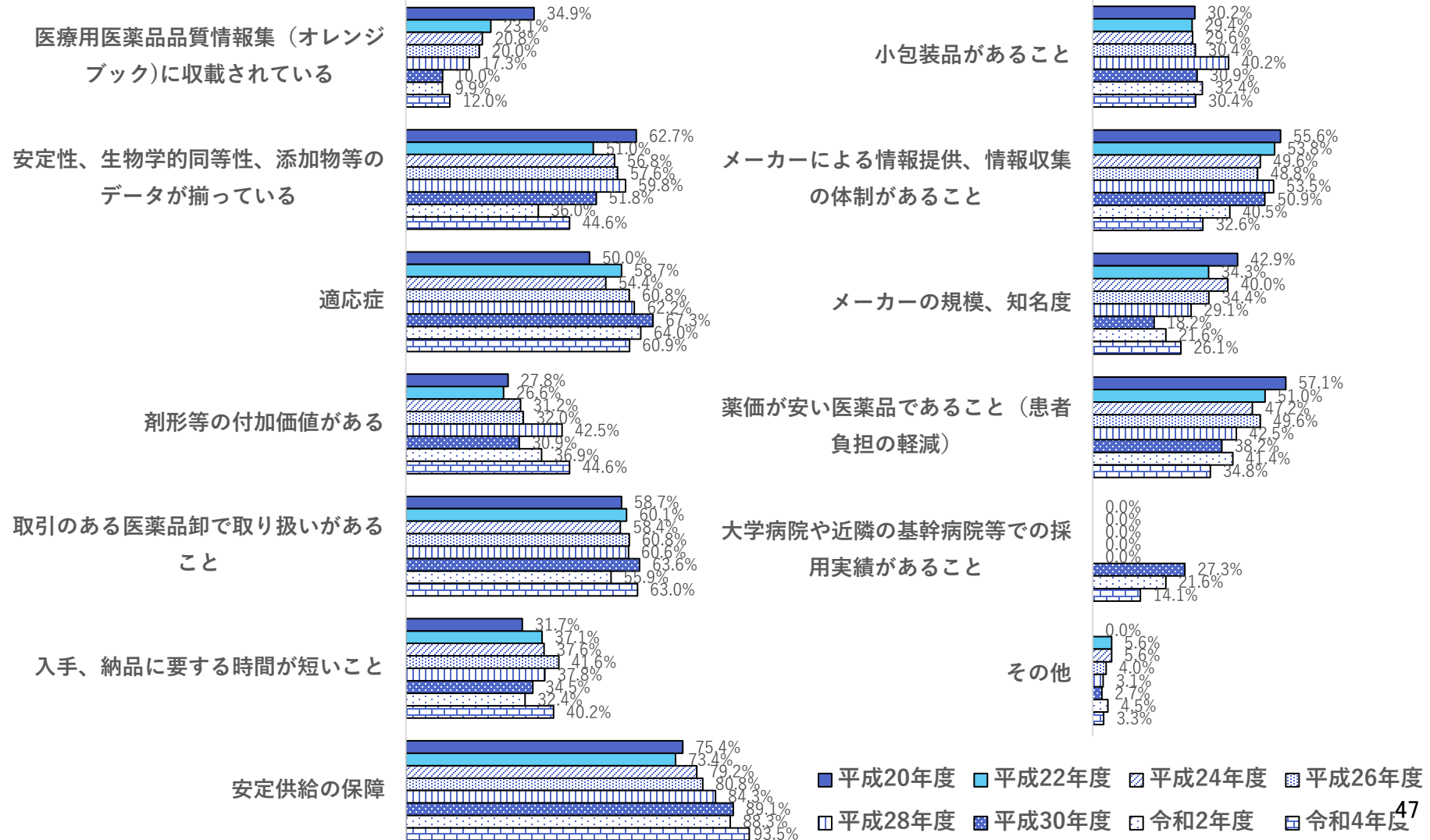
- 「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が38.9%で最も高く、続いて「先発医薬品に変更することに同意された」が25.0%であった。



R4

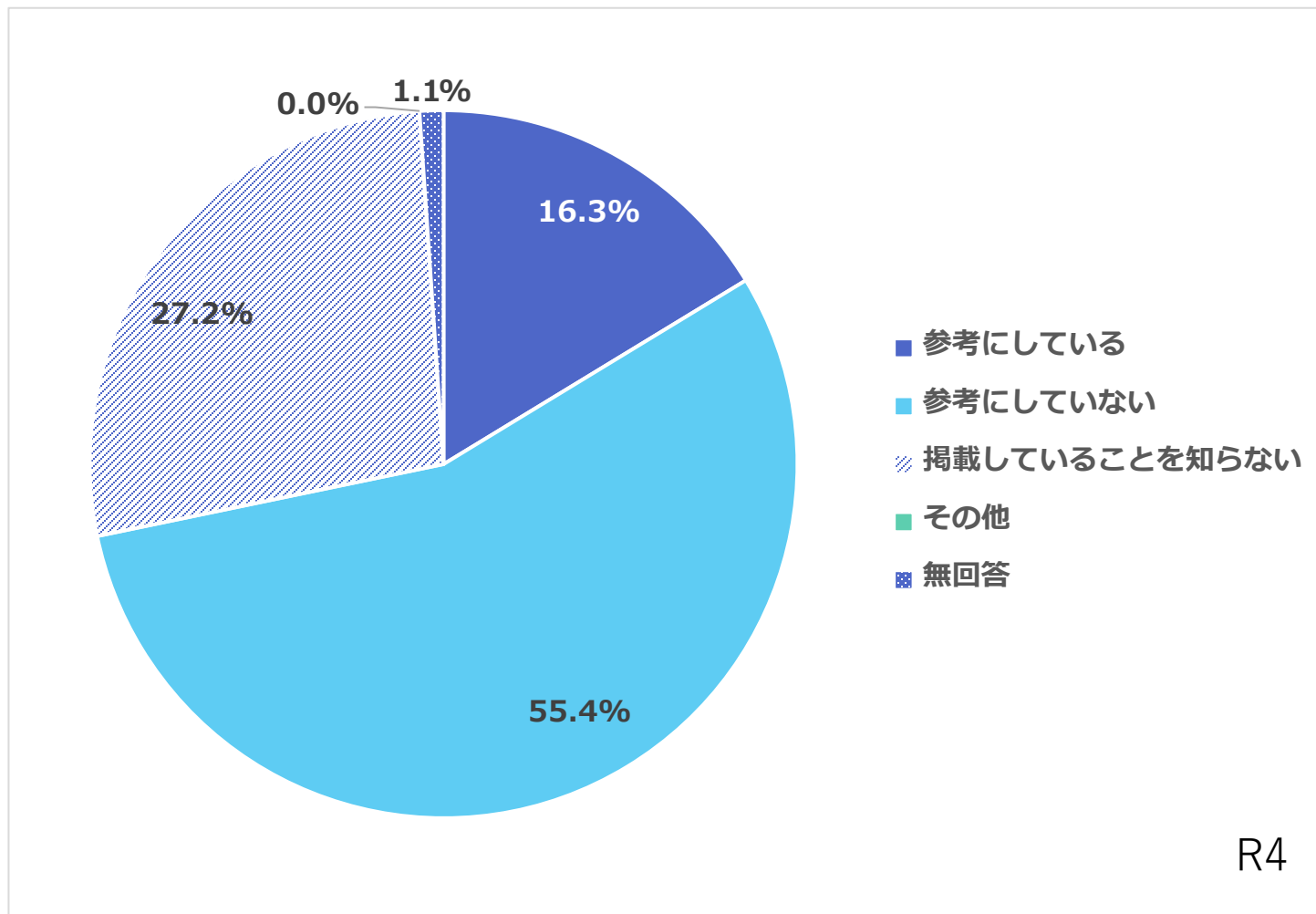
問19. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。
(複数選択式)

- R4年度は「安定供給の保障」が93.5%で最も高く、続いて「取引のある医薬品卸で取り扱いがあること」、「適応症」であった。
- H20年度から「安定供給の保障」が18.1ポイント増加した。



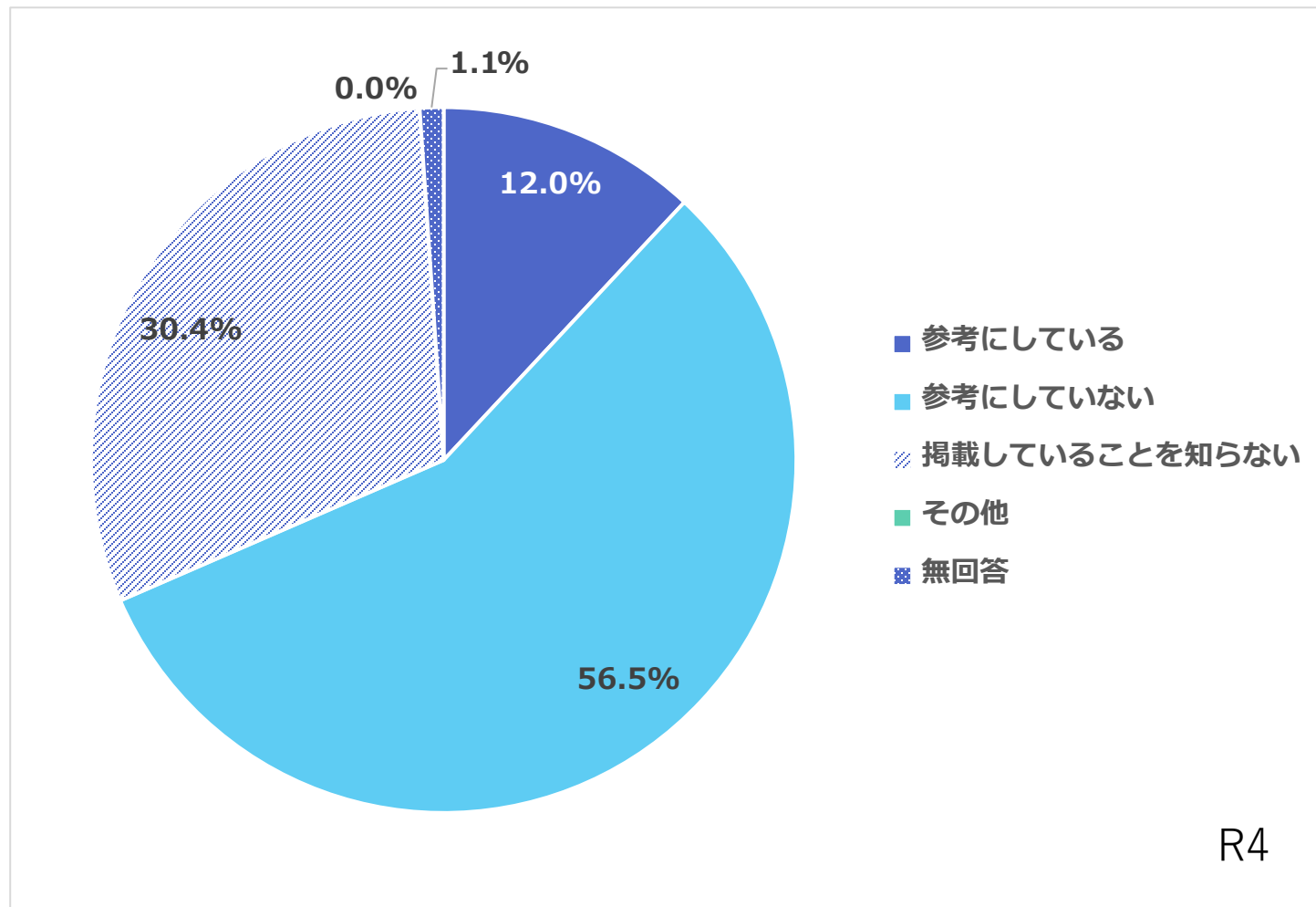
問20. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が16.3%であり、「掲載していることを知らない」が27.2%であった。



問21. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が12.0%であり、「掲載していることを知らない」が30.4%であった。



問22.医学的見地から、ジェネリック医薬品が適さない、使用したくないと考える領域等（疾患など）があれば、お答えください。（自由記載）

● 外用薬関係が6件で最も多く、続いて精神科関係が4件であった。

● 外用薬関係 6件

- ・ 使用感に違いがある
- ・ 添加物や基剤が異なり先発品の品質と同一と必ずしも言えない 等

● 精神科関係 4件

- ・ 医薬品の見た目が変わることによって過敏に反応をされる 等

● 循環器内科関係 4件

- ・ ジェネリックと先発品が同等の効果を得られないデータがあるから 等

● 抗てんかん薬関係 3件

- ・ 血中濃度が同様に維持できるか注意が必要 等

● 抗菌薬関係 1件

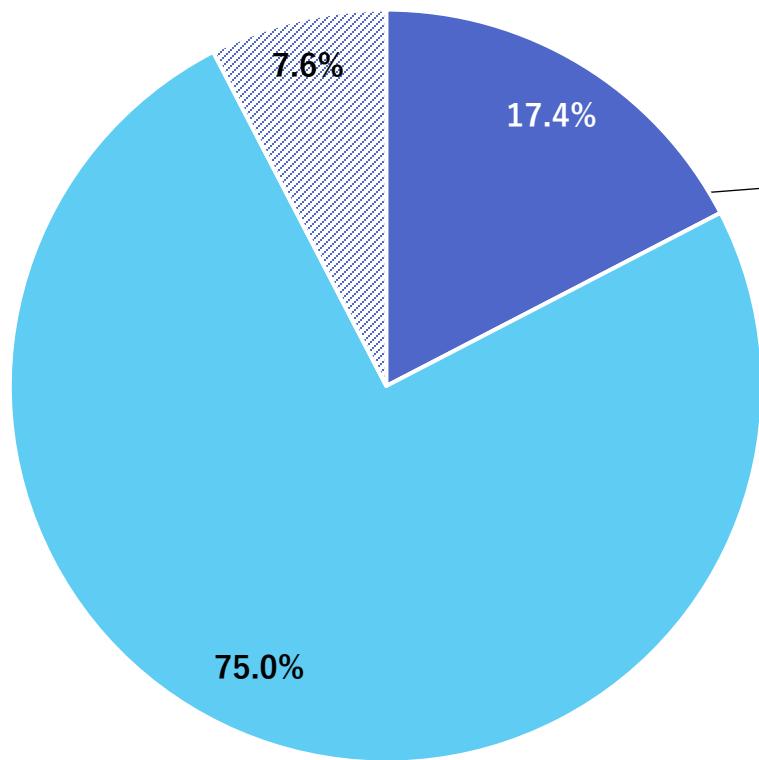
● 抗癌剤関係 1件

● その他 4件

- ・ 抗体製剤等は厳密に同等性比較することが難しいため（バイオシミラー製品）
- ・ メーカーにより徐放性が異なる製剤がある、という報告が過去散見されたから（徐放性製剤）

問23. これまでに、ジェネリック医薬品の使用にあたり、院内の薬剤部又は院外処方せんを
 応需した調剤薬局との間で問題がありましたか。また、問題となった内容について簡単にご
 記入ください。（単一選択・記入式）

- 「あった」が17.4%であり、その内容としてジェネリック医薬品の安定供給に関する問題が7件で
 あった。



■ あった ■ なかった ▨ 無回答

- ジェネリック医薬品の安定供給等の問題により先発薬に変更になった又は代替薬がなかった。（7件）
- 調剤薬局において適応症が違う後発医薬品に変更された。（1件）
- その他（7件）

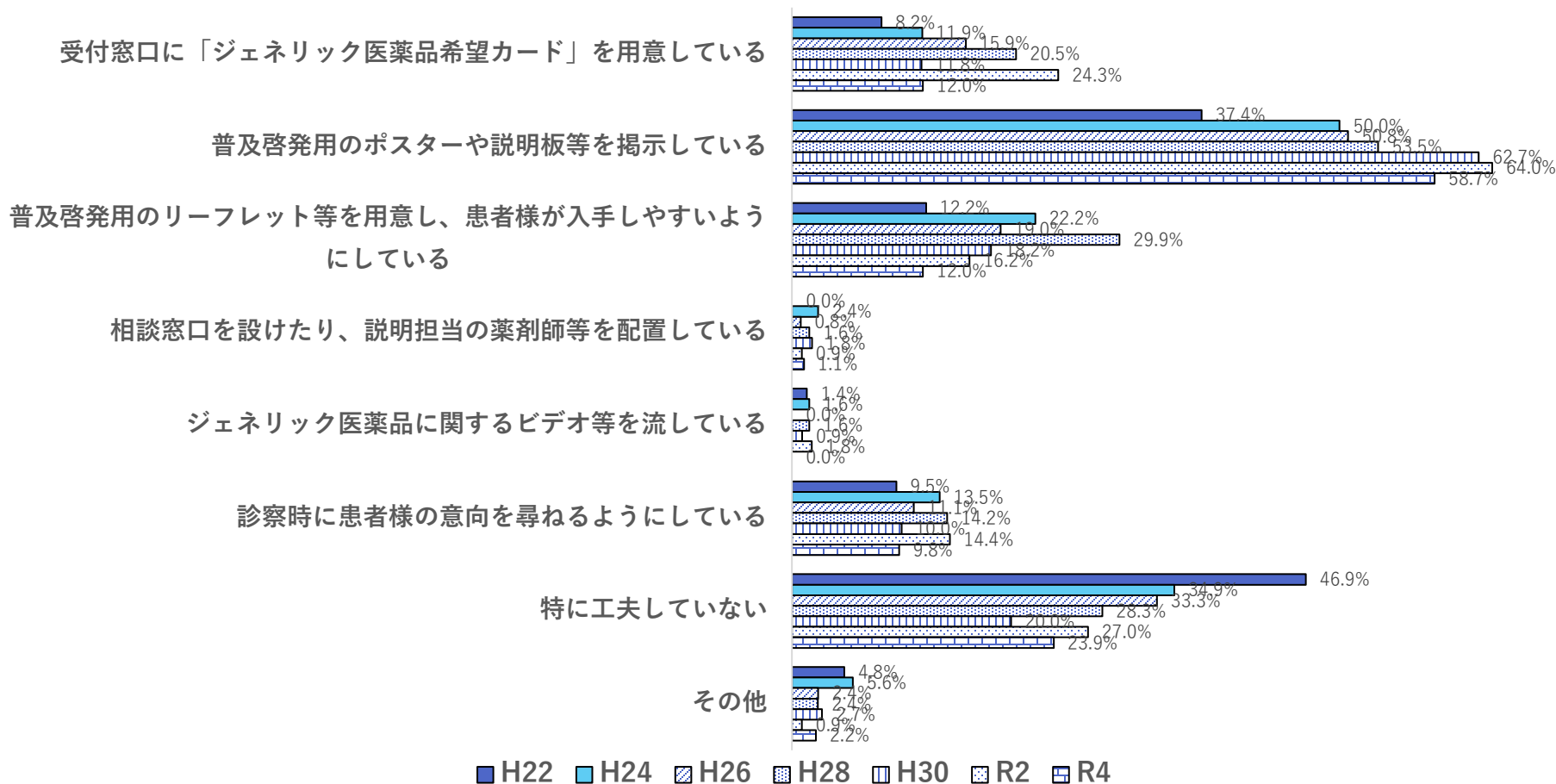
問24.ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 使用感がよくなった、コンプライアンスが向上したといった事例が多かった。

- 使用感が良くなった、コンプライアンスが向上した 9件
 - ・ 剤型が変わり飲みやすくなった（錠→OD錠、カプセル→錠 等） 3件
 - ・ 剤型が小さくなり飲みやすくなった 2件
 - ・ 味やにおいが良くなった 2件
 - ・ 錠剤の印字により識別しやすくなった 2件

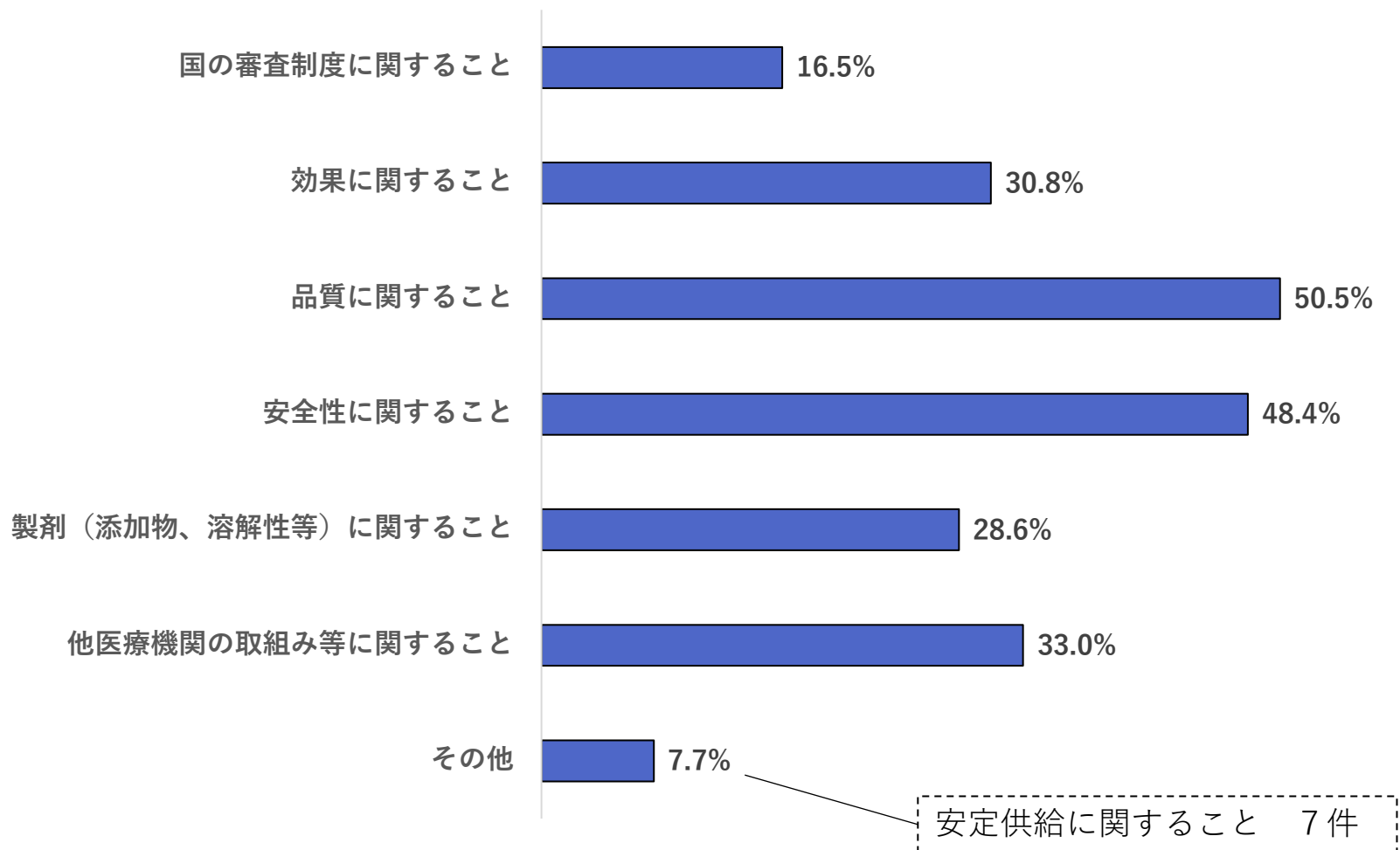
問25. あなたの医療機関では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をしていますか。（複数選択式）

- R4年度は「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が58.7%で最も高く、続いて「特に工夫していない」が23.9%、「窓口受付に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している」、「普及啓発用のリーフレット等を用意し、患者様が入手しやすいようにしている」が12.0%であった。
- H22年度から「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が21.3ポイント増加した。一方で「特に工夫していない」は23.0ポイント減少した。



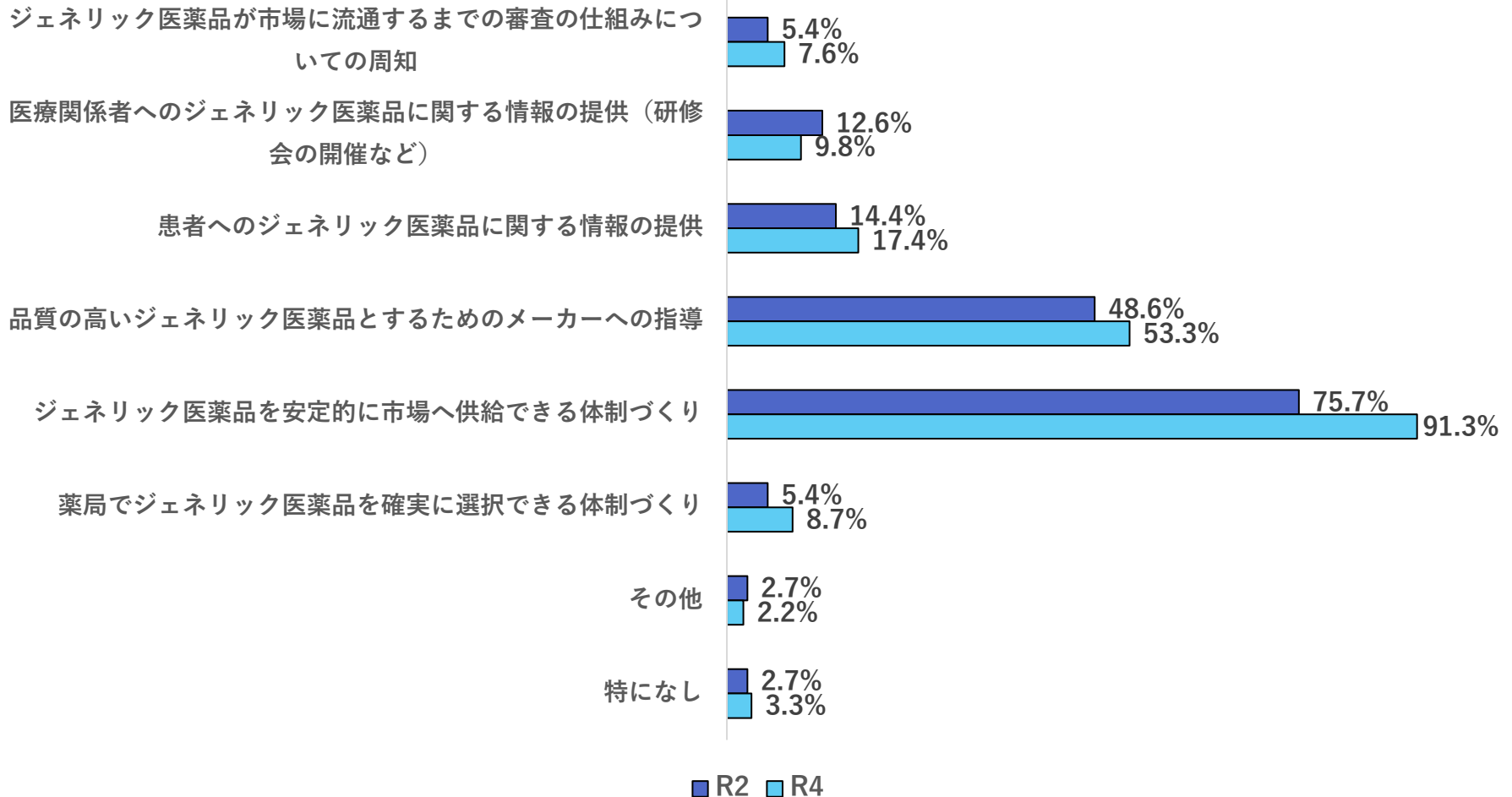
問26. 本県では定期的（年1～2回）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

- 「品質に関すること」が50.5%で最も高く、続いて「安全性に関すること」が48.4%、「他医療機関の取組みに関すること」が33.0%であった。



問27. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

- R4年度は「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が91.3%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が53.3%であった。
- R2年度と比較すると、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が15.6ポイント増加した。



診 療 所

ジェネリック医薬品に関する診療所アンケート調査結果

○調査方法

・調査票の直接送付による郵送調査

○調査時期

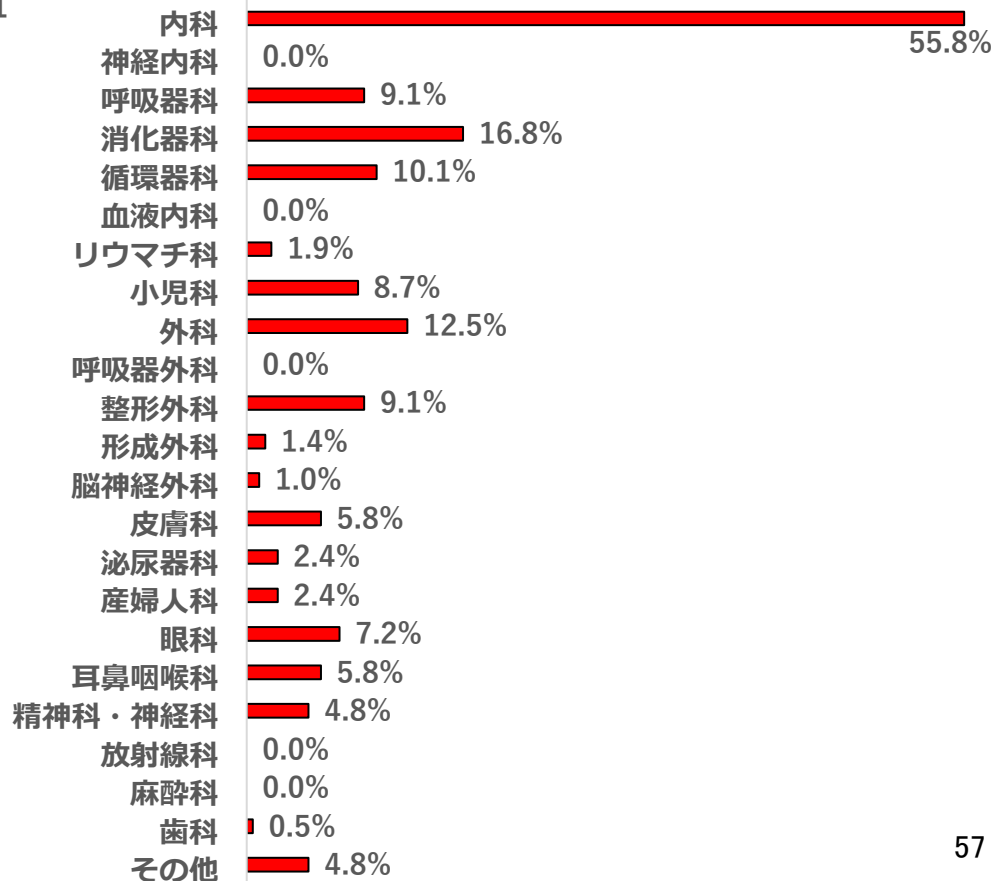
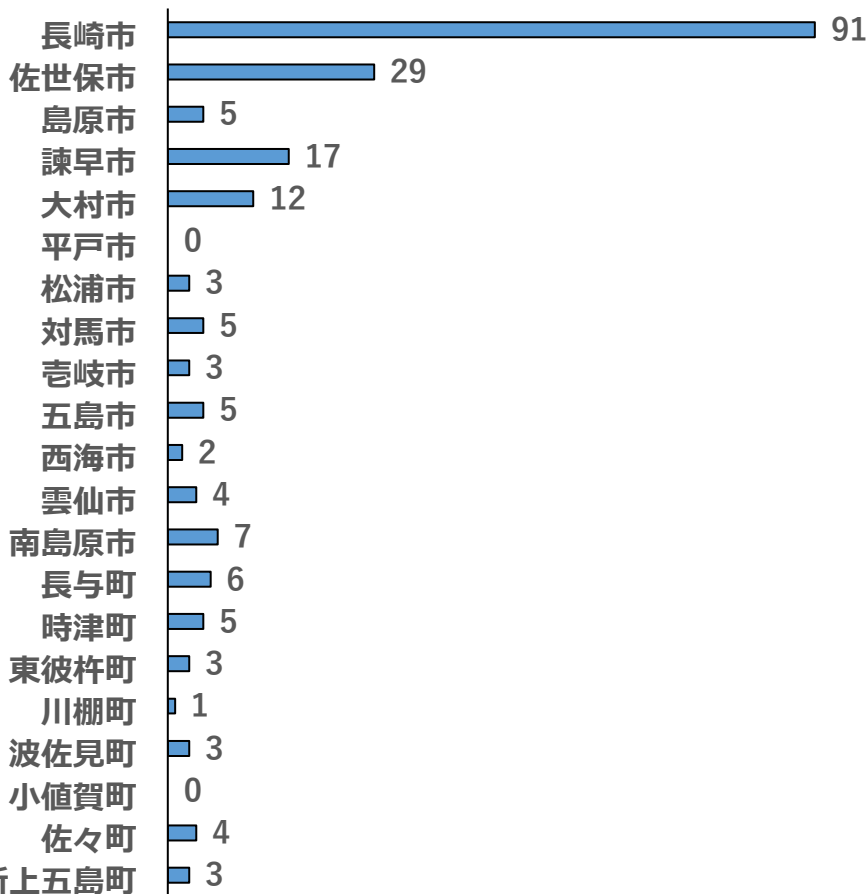
・令和5年2月22日から令和5年3月15日まで

○調査対象

・県内すべてすべての診療所から、無作為に抽出した3分の1の診療所

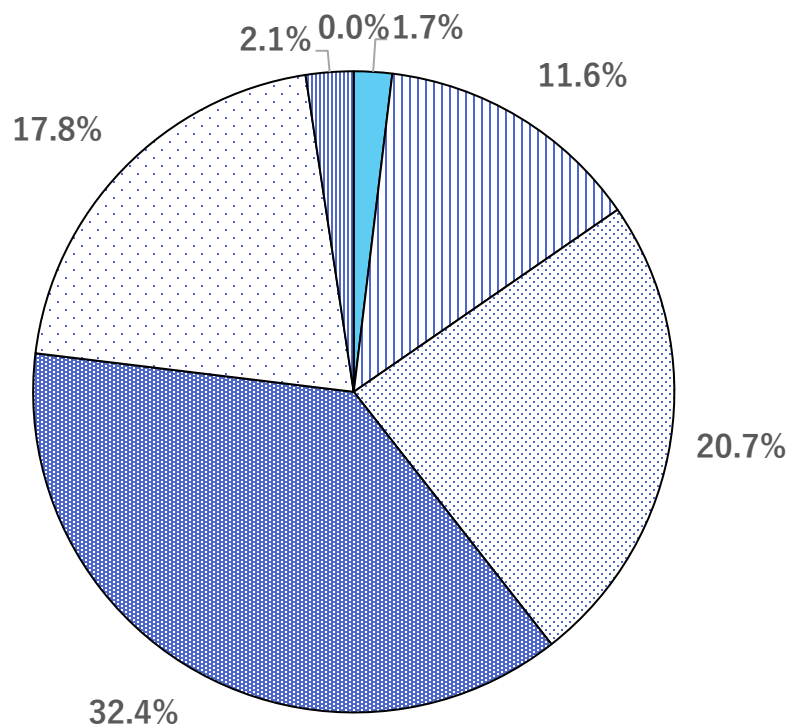
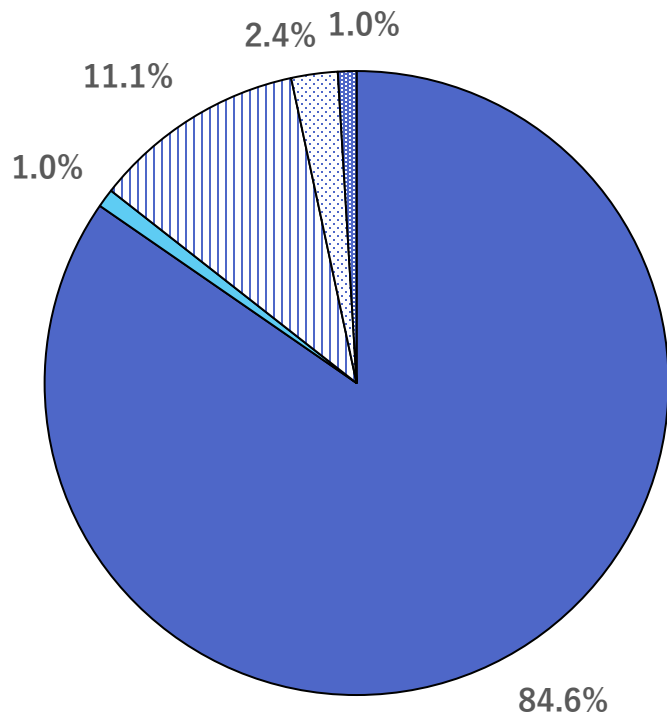
○対象者数、回答者数及び回収率

・対象施設数：373施設、回答施設数：208施設、回答率：55.8%



問3.ご回答者の職種及び年齢をお答えください。(単一選択式)

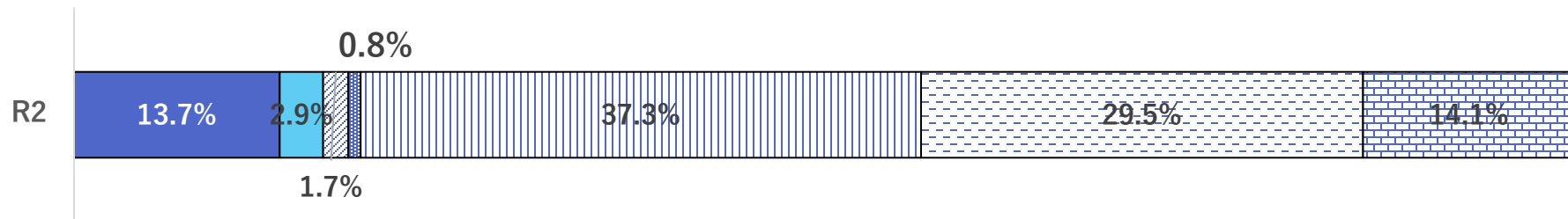
■ 30歳未満 ■ 30歳以上40歳以上 □ 40歳以上50歳未満
▨ 50歳以上60歳未満 ▩ 60歳以上70歳未満 □ 70歳以上
▤ 無回答



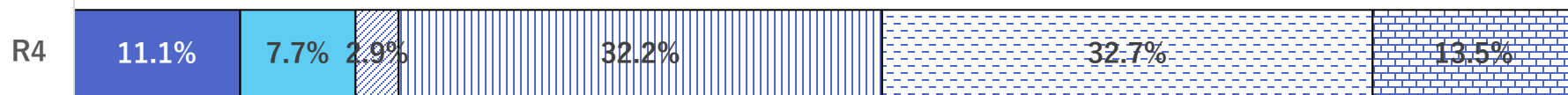
■ 医師 (歯科医師) ■ 薬剤師 ▨ 事務職員 ▩ その他 ▤ 無回答

問5.あなたの医療機関の後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

- R4年度は「加算1」が11.1%、「加算2」が7.7%、「加算3」が2.9%であり、後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の21.7%であった。
- H30年度と比較すると、「加算1」が2.6ポイント減少、「加算2」が4.8ポイント増加した。



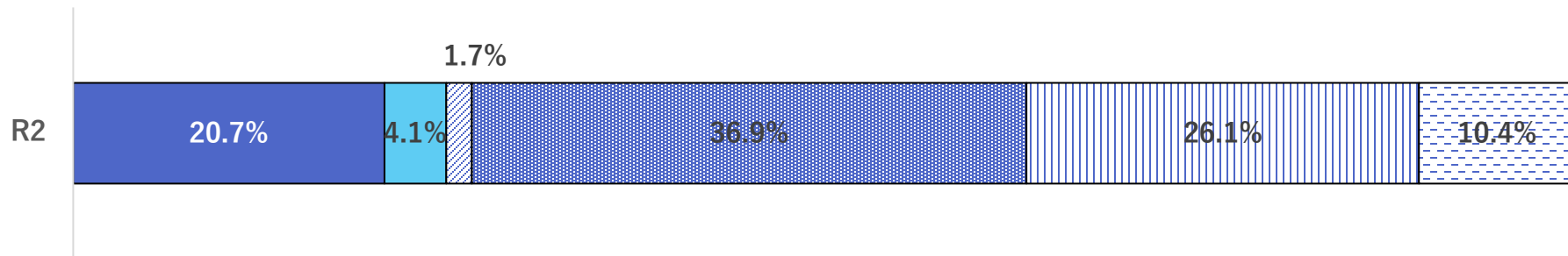
- 後発医薬品使用体制加算1 (85%以上)
- 後発医薬品使用体制加算2 (80%以上)
- 後発医薬品使用体制加算3 (70%以上)
- 後発医薬品使用体制加算4 (60%以上)
- 後発医薬品使用体制加算なし
- 対象外
- 未回答



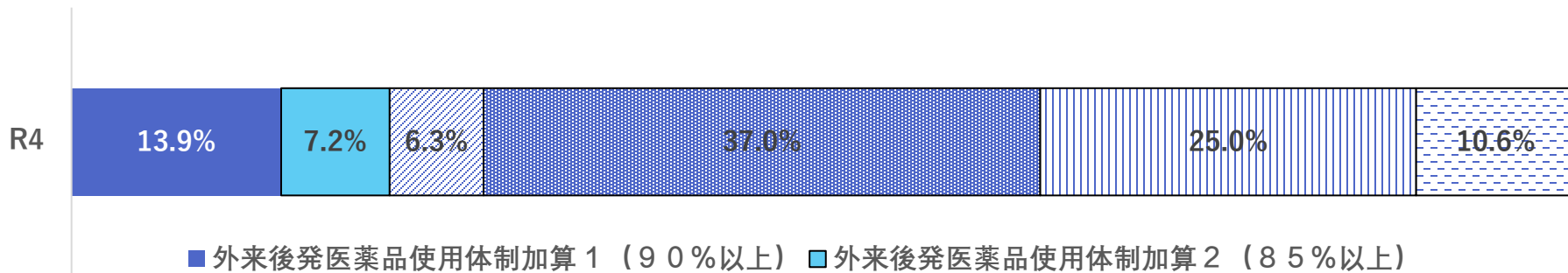
- 後発医薬品使用体制加算1 (90%以上)
- 後発医薬品使用体制加算2 (85%以上)
- 後発医薬品使用体制加算3 (75%以上)
- 後発医薬品使用体制加算なし
- 対象外
- 未回答

問6.あなたの医療機関の外来後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

- R4年度は「加算1」が13.9%、「加算2」が7.2%、「加算3」が6.3%であり、外来後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の27.4%であった。
- R2年度と比較すると、「加算1」が6.8ポイント減少、「加算2」が3.1ポイント増加した。



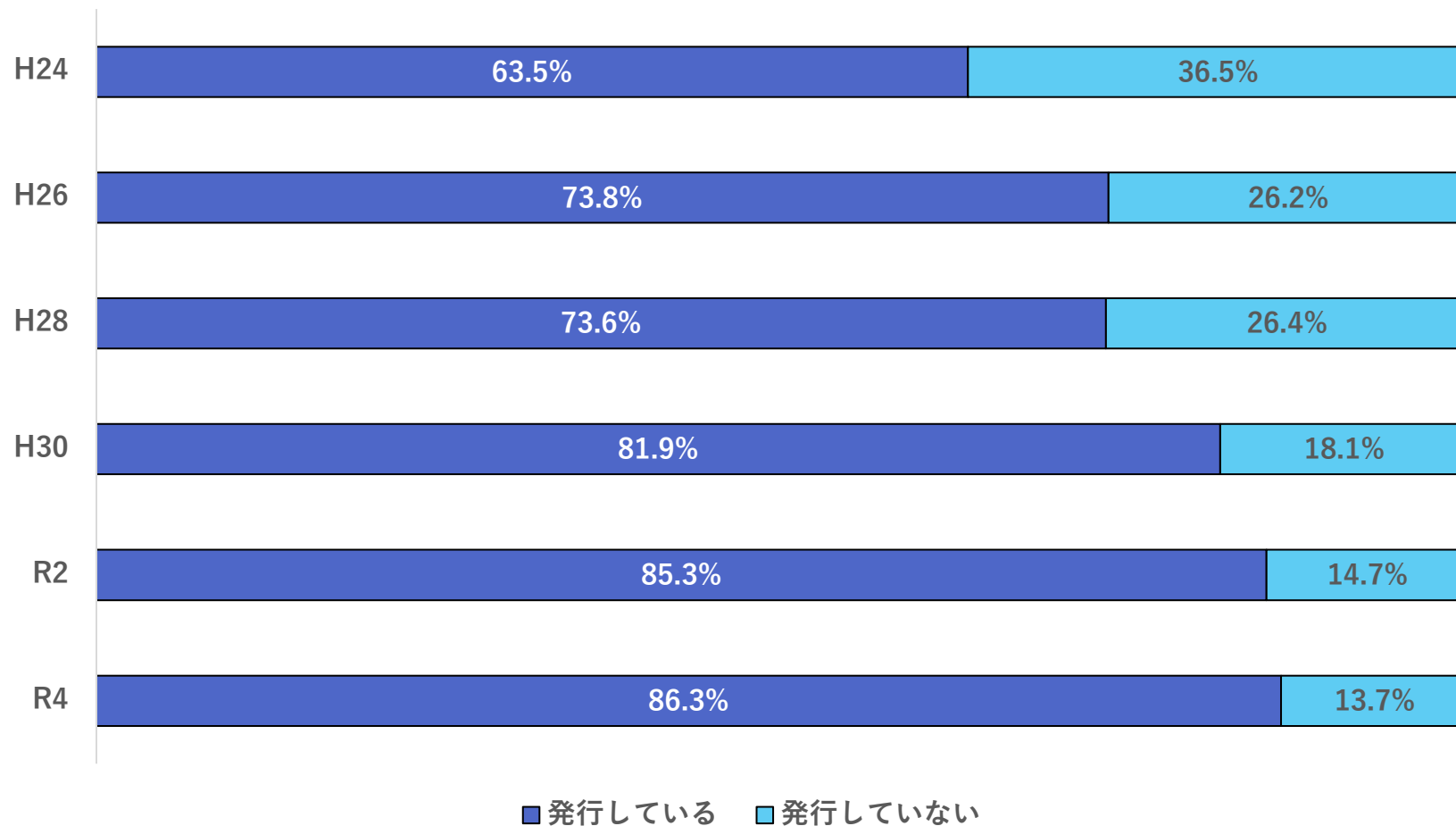
- 外来後発医薬品使用体制加算1 (85%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算2 (75%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算3 (70%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算なし
- 対象外
- 未回答



- 外来後発医薬品使用体制加算1 (90%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算2 (85%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算3 (75%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算なし
- 対象外
- 未回答

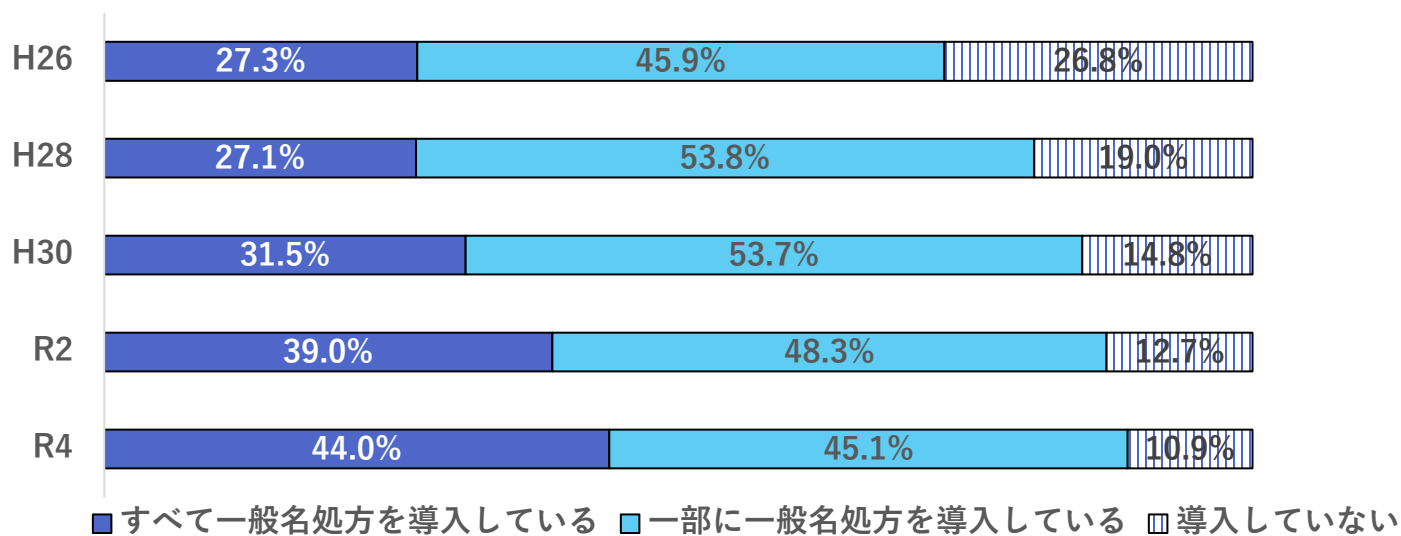
問7. あなたの医療機関では、院外処方せんを発行していますか。（単一選択式）

- R4年度は「発行している」が86.3%であった。
- H24年度から「発行している」が22.8ポイント増加した。

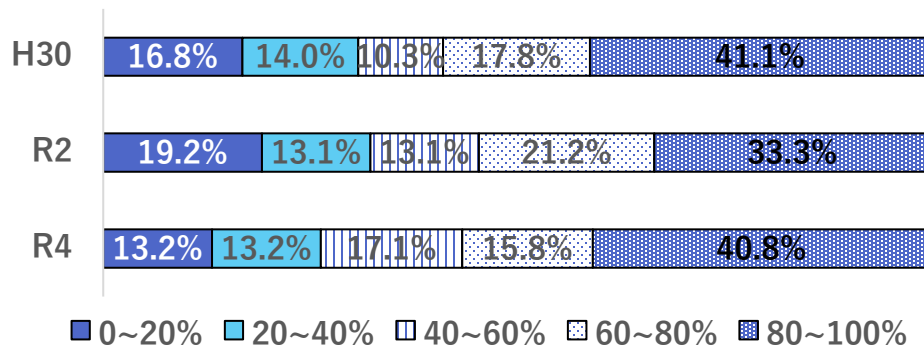
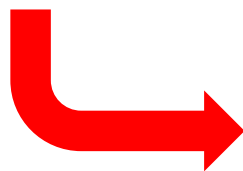


問8. 《問7で「1.発行している」と回答した医療機関》あなたの医療機関では、院外処方せん発行において一般名処方を導入していますか。（単一選択式）

- R4年度は「すべて一般名処方を導入している」が44.0%、「一部に一般名処方を導入している」が45.1%で、合計89.1%であった。
- H26年度から「すべて一般名処方を導入している」が16.7ポイント、「一部に一般名処方を導入している」が0.8ポイント減少したが、合計で15.9ポイント増加した。
- 一部に一般名処方を導入している場合のその割合について、「80～100%」が40.8%で最も高かった。

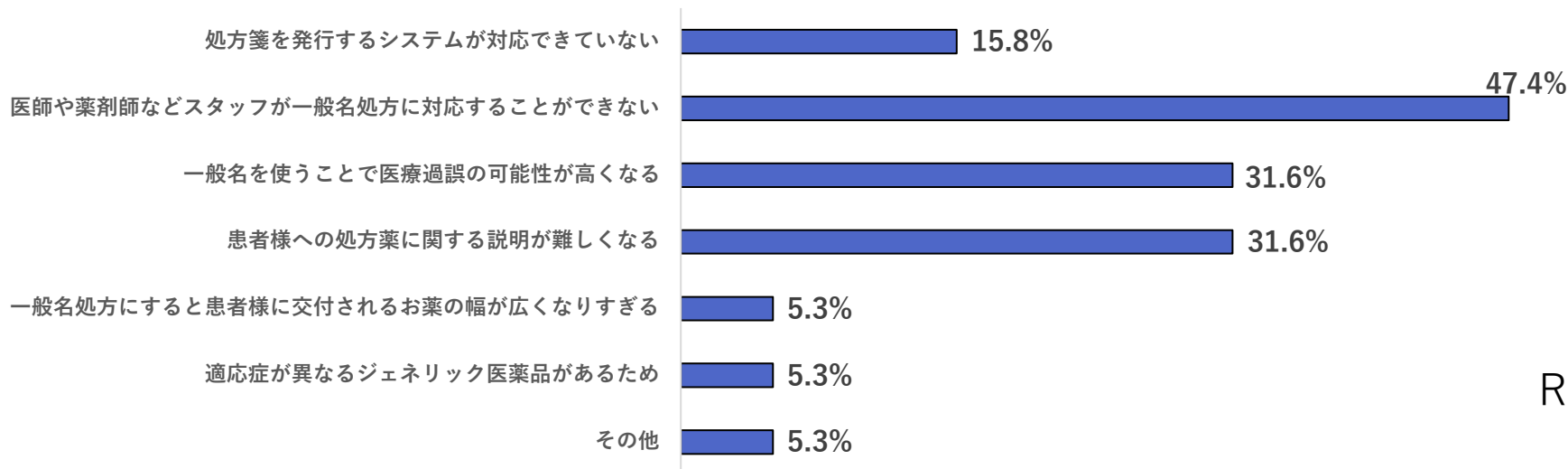


「一部に一般名処方を導入している」と回答した場合、その割合



問9. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》一般名処方を導入していない理由は何か。（複数選択式）

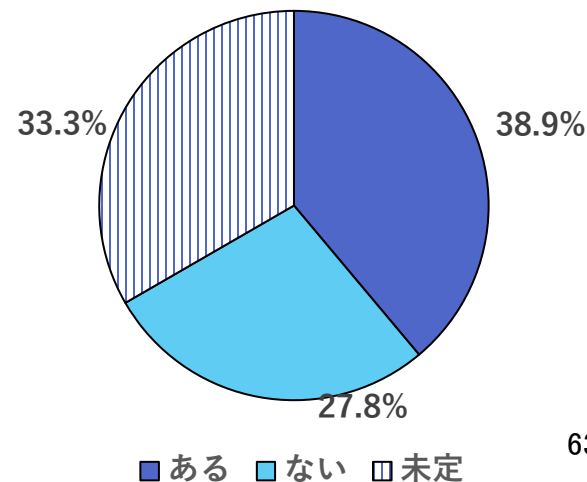
- 「医師や薬剤師などスタッフが一般名処方に対応することができない」が47.4%で最も高く、続いて「一般名を使うことで医療過誤の可能性が高くなる」、「患者様への処方薬に関する説明が難しくなる」が31.6%であった。
- 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性があるとの回答が38.9%あった。



R4



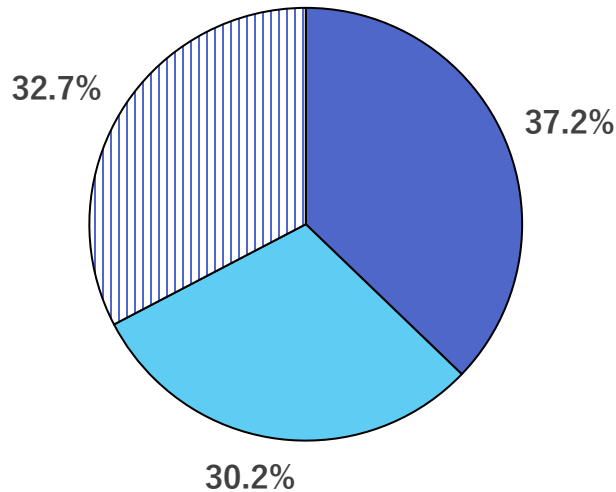
問10. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性がありますか。（単一選択式）



問11.ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

- 「ある」が37.2%、「どちらともいえない」が30.2%であり、「いいえ」は32.7%にとどまった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」が77.0%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が74.4%、「ジェネリック医薬品の効果の問題」が67.6%であった。

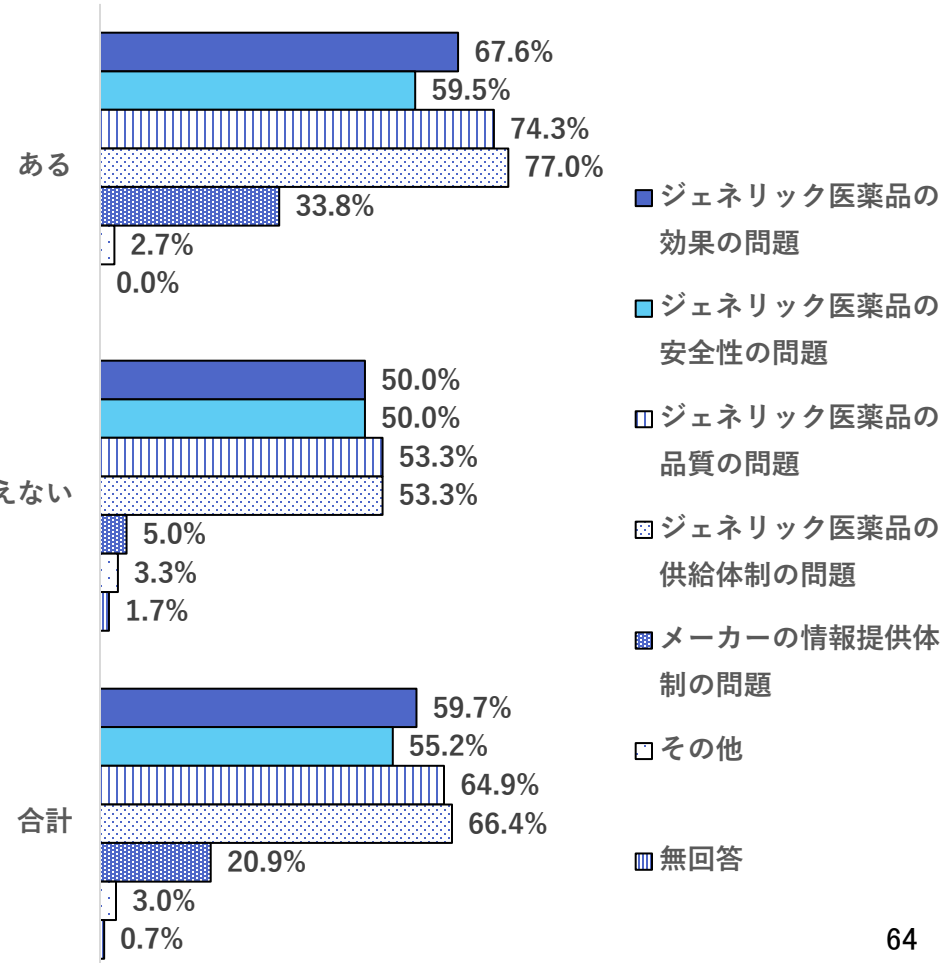
■ある ■どちらともいえない □ない



R4

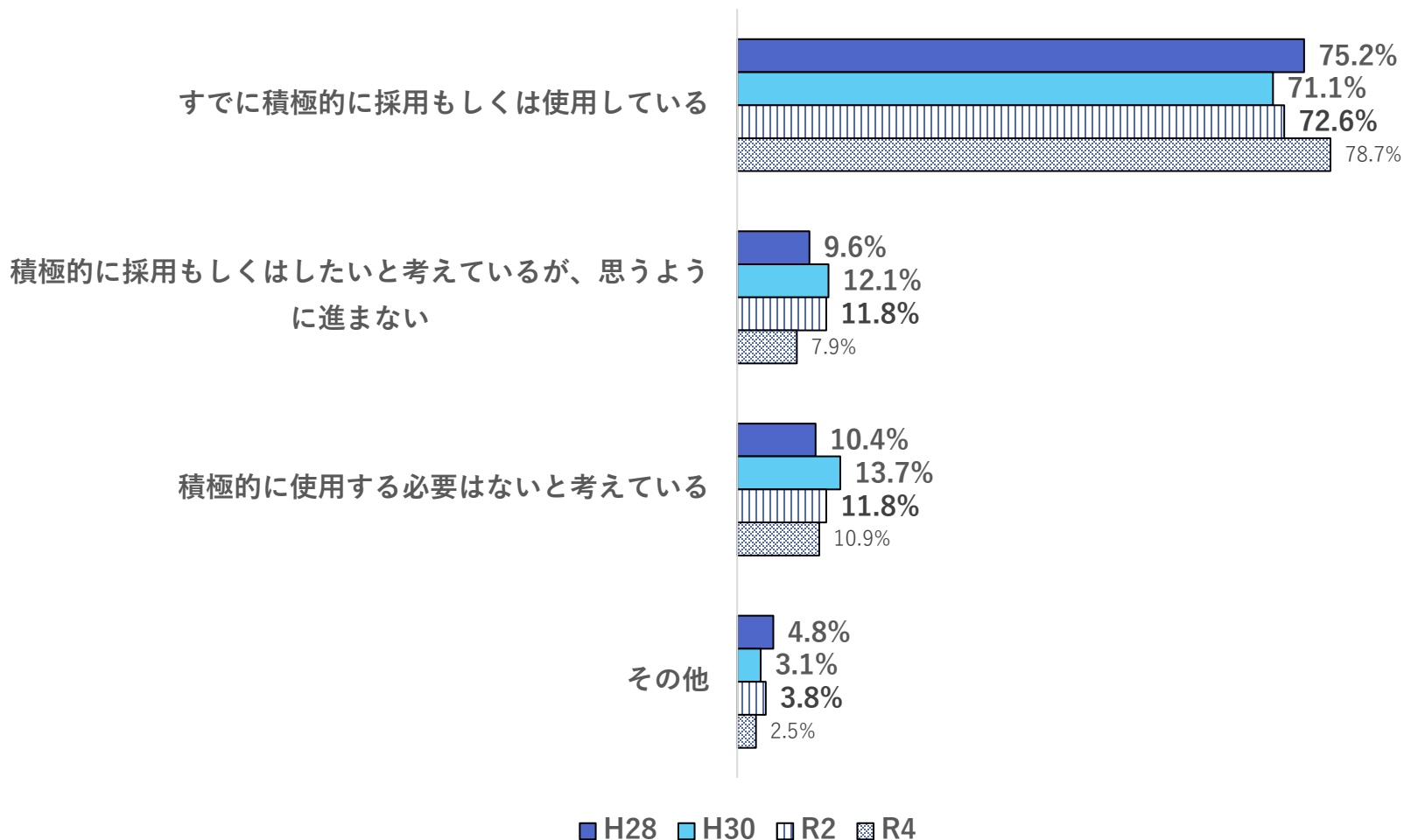


問12.《問11で「1.ある」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）



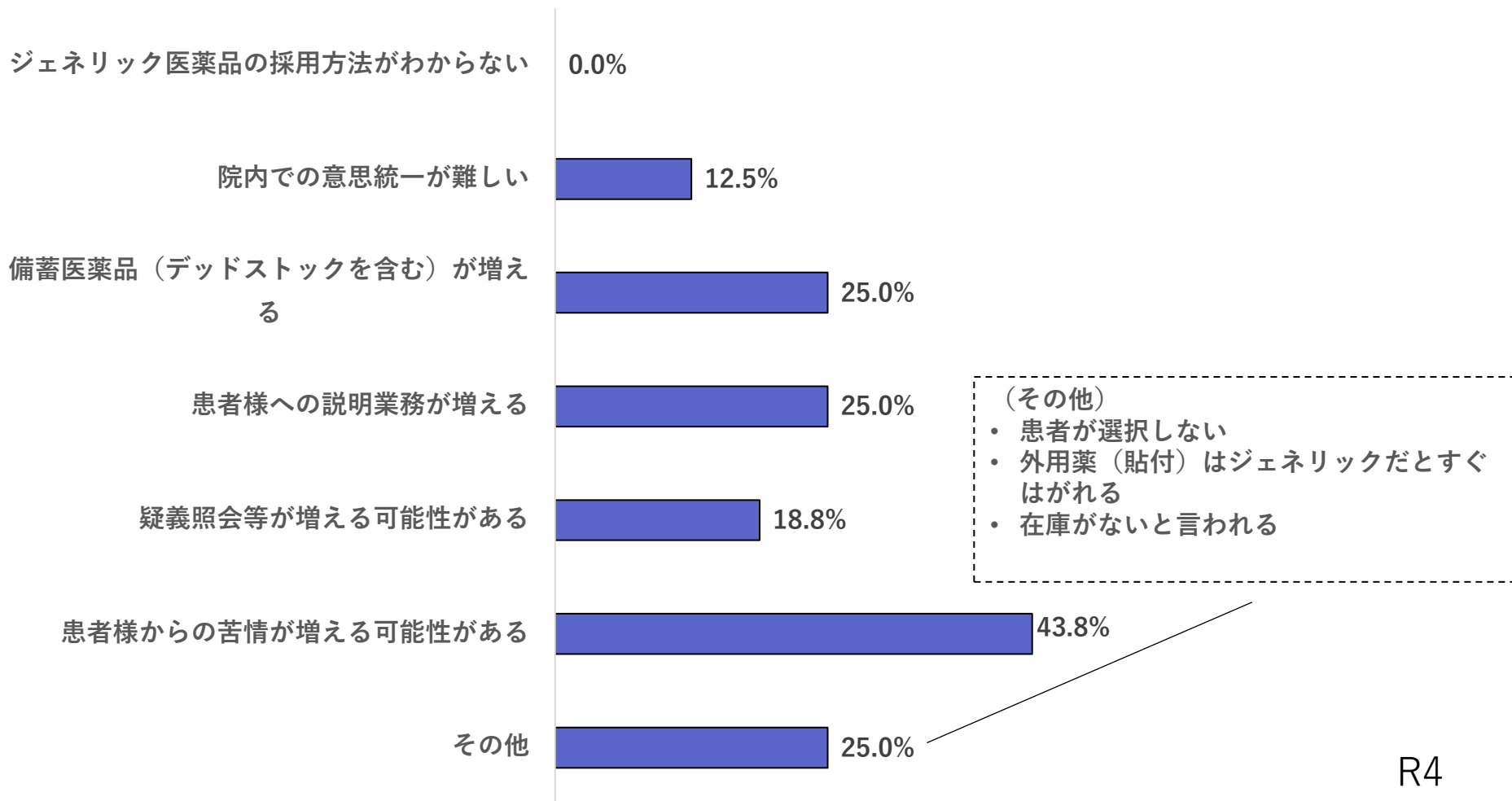
問13. あなたの医療機関では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用（院外処方を含む）したいと思いませんか。（単一選択式）

- R4年度は「すでに積極的に採用もしくは使用している」が78.7%で最も高かった。
- H28年度から大きな変化はなかった。



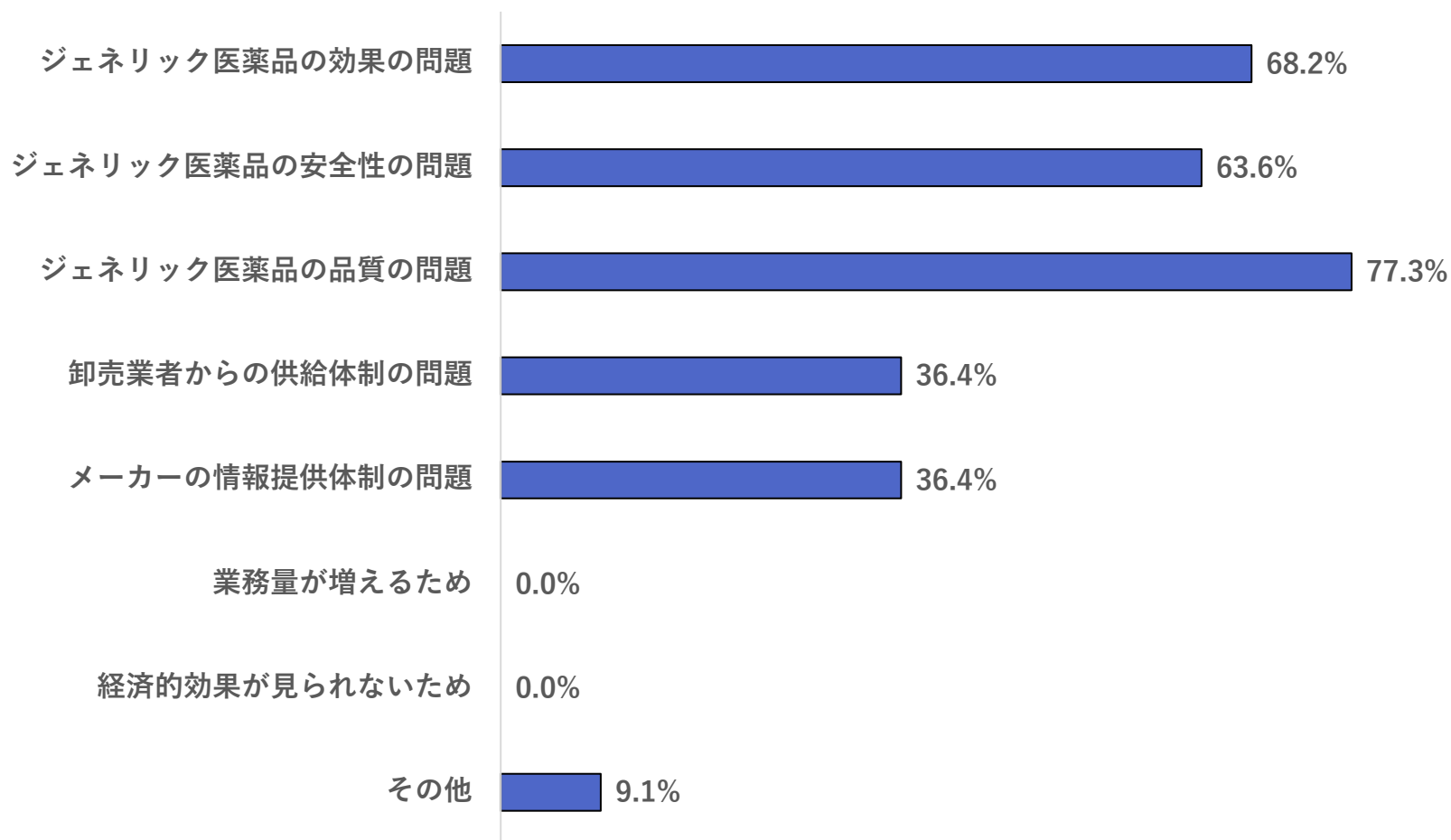
問14. 《問13で「2.積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品の採用もしくは使用が思うように進まない理由は何ですか。（複数選択式）

- 「患者様からの苦情が増える可能性がある」が43.8%で最も高く、続いて「備蓄医薬品（デッドストックを含む）が増える」、「患者様への説明業務が増える」、「その他」が25.0%であった。



問15. 《問13で「3.積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要がないと思う理由は何ですか。（複数選択式）

- 「ジェネリック医薬品の品質の問題」が77.3%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の効果の問題」が68.2%、「ジェネリック医薬品の安全性の問題」が63.6%であった。

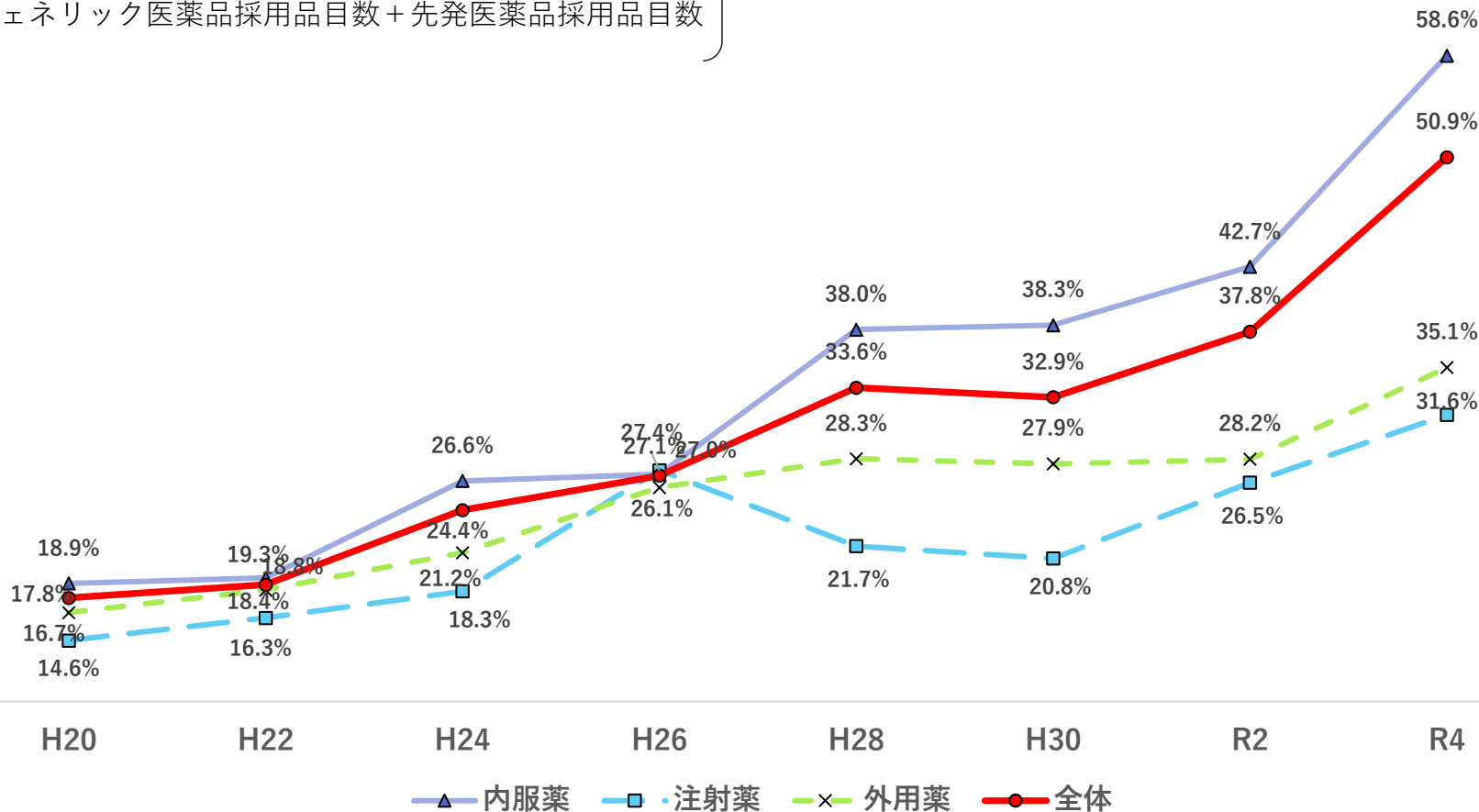


問16. 令和4年12月現在、あなたの医療機関における先発医薬品とジェネリック医薬品の採用状況（品目数）についてお答えください。（記入）

- ジェネリック医薬品の採用品目割合について、R4年度は内服薬が58.6%で最も高く、注射薬が31.6%で最も低かった。また、全体（内服薬+注射薬+外用薬）は50.9%であった。
- H20年度から全体の割合が33.1ポイント増加した。

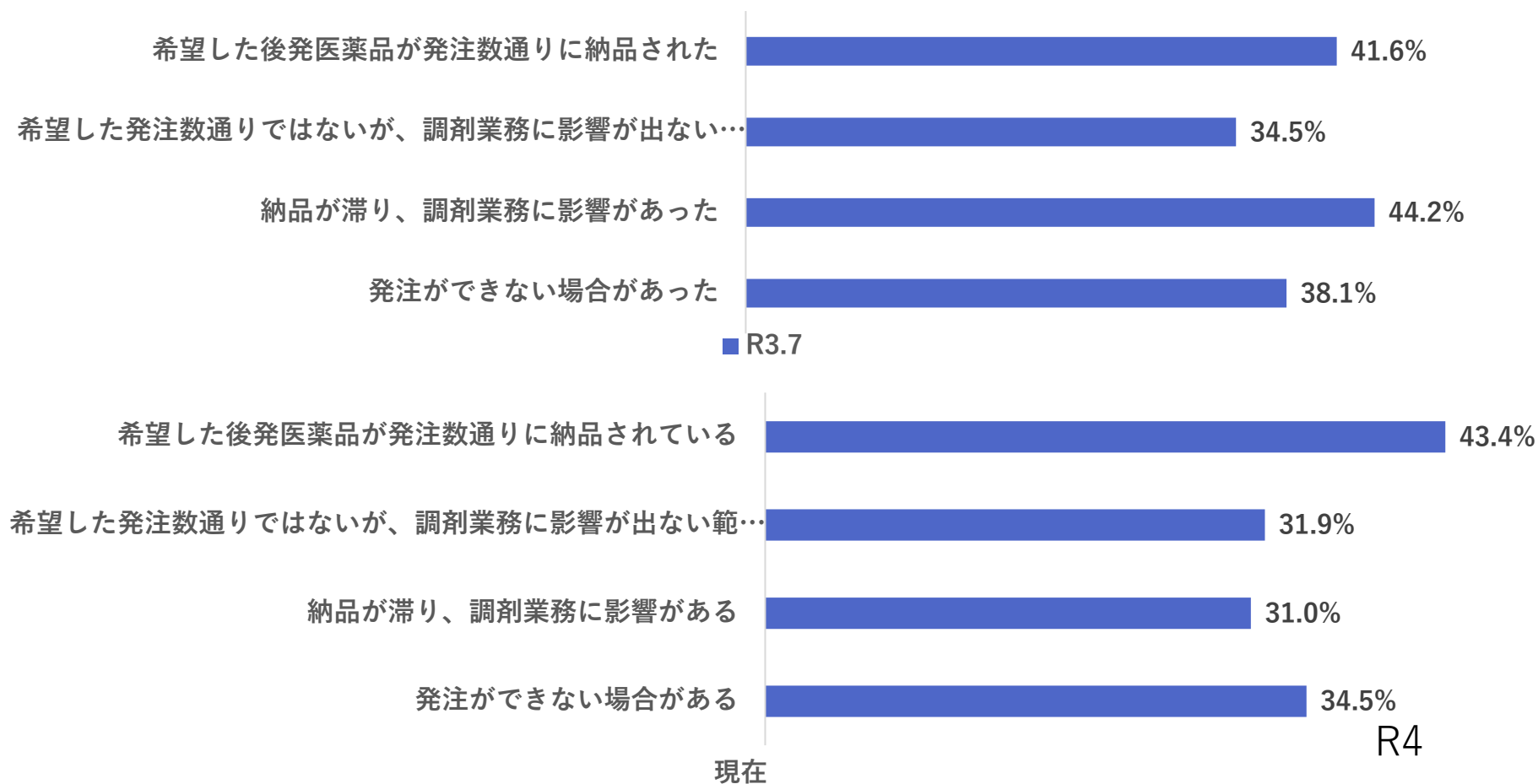
○ジェネリック医薬品の採用品目割合

$$\left(\frac{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} \times 100}{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} + \text{先発医薬品採用品目数}} \right)$$



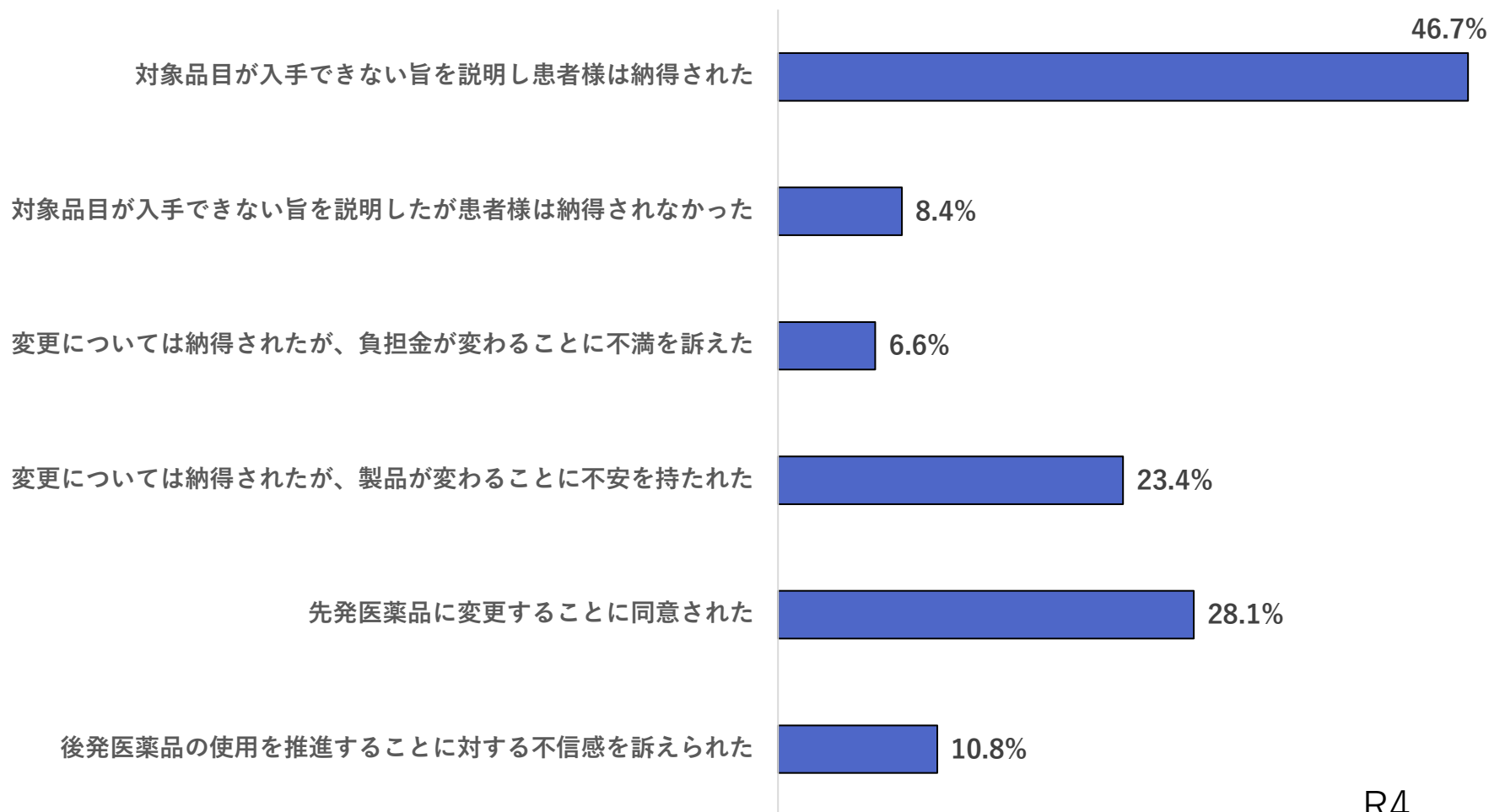
問17. 一昨年の複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの医療機関で採用している後発医薬品の「令和3年7月」及び「現在」の納入状況についてお答えください。（単一選択式）

- 「令和3年7月」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響があった」が44.2%で最も高く、続いて「希望した後発医薬品が発注数通りに納品された」が41.6%であった。
- 「現在」の納入状況では、「希望した後発医薬品が発注数通りに納品された」が43.4%で最も高く、続いて「発注できない場合があった」が34.5%であった。



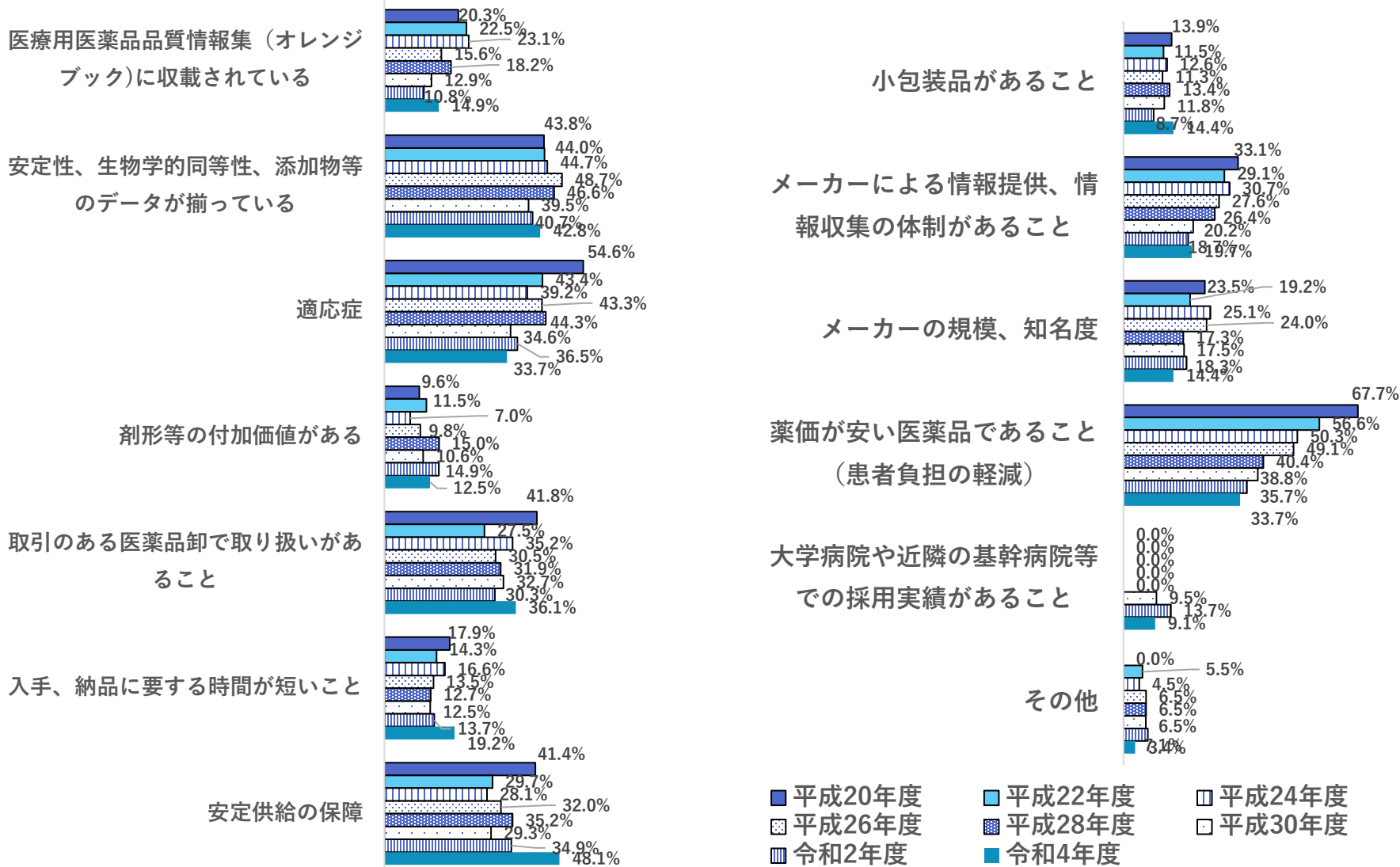
問18. 《問17で令和3年7月および現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

- 「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が46.7%で最も高く、続いて「先発医薬品に変更することに同意された」が28.1%であった。



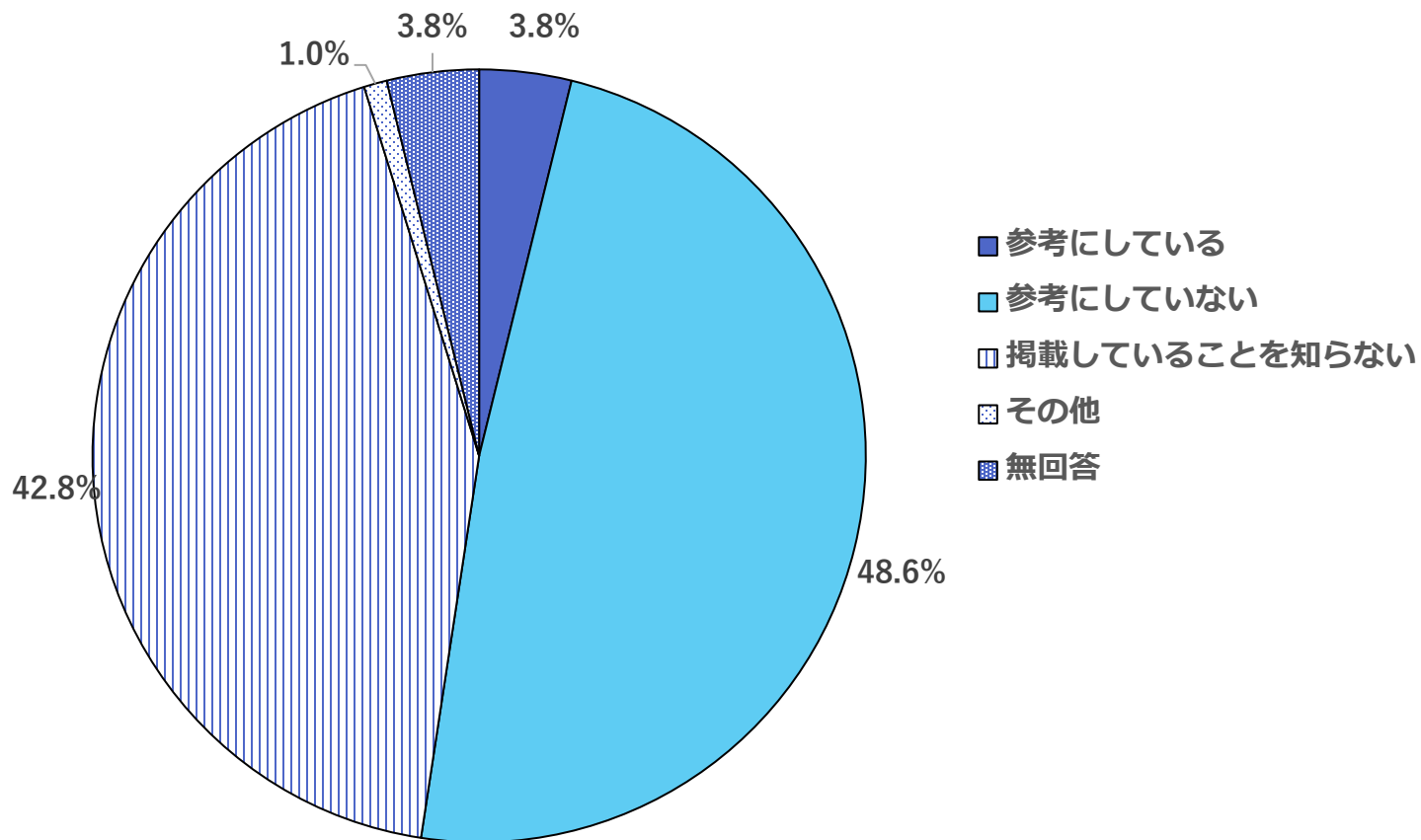
問19. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。
(複数選択式)

● R4年度は「安定供給の保障」が48.1%で最も高く、続いて「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」が42.8%、「取引のある医薬品卸で取り扱いがある」が36.1%、「適応症」、「薬価が安い医薬品であること（患者様の負担軽減）」が33.7%であった。



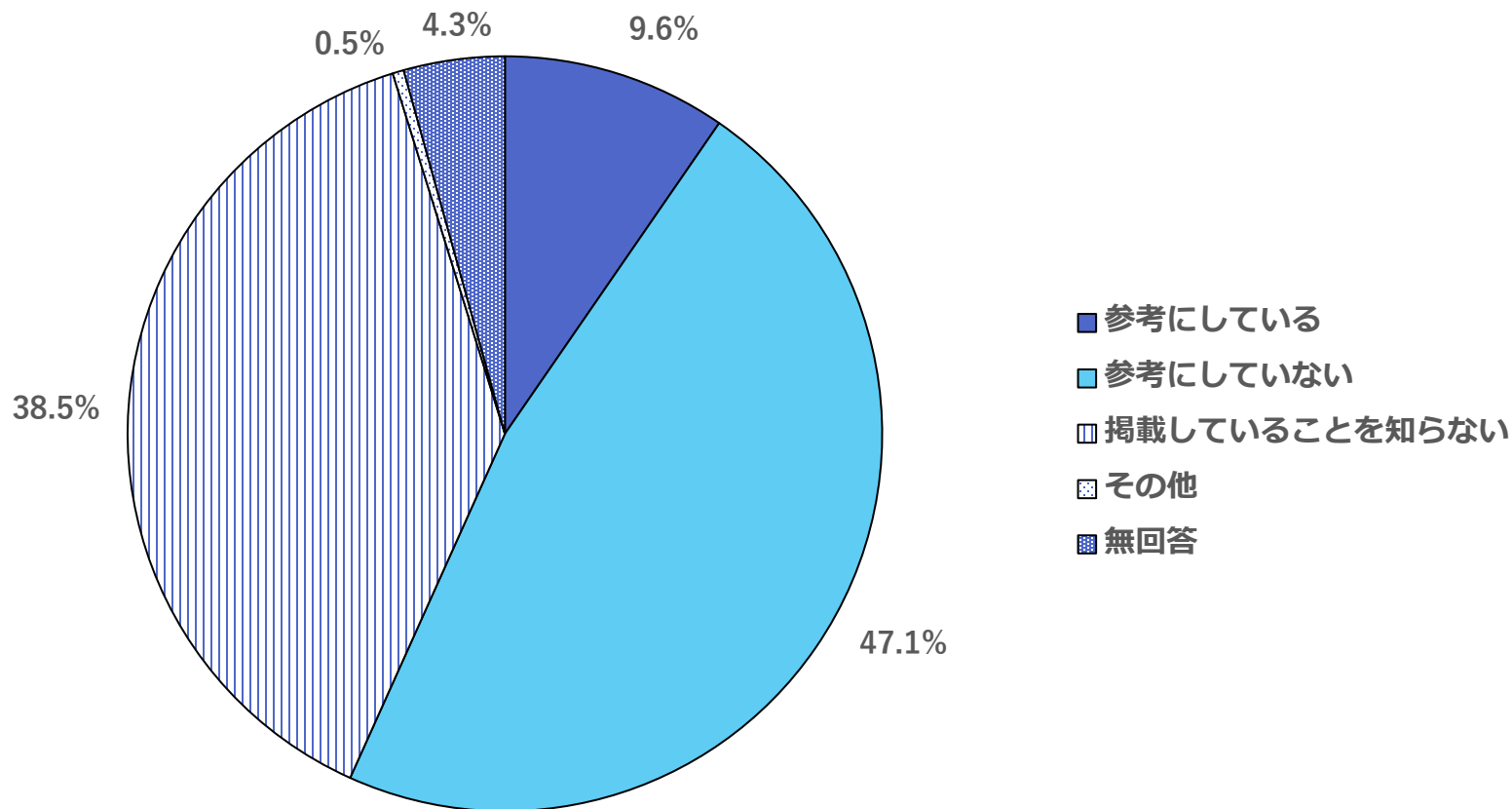
問20. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が3.8%にとどまり、「参考にしていない」が48.6%、「掲載していることを知らない」が42.8%であった。



問21. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が9.6%にとどまり、「参考にしていない」が47.1%、「掲載していることを知らない」が38.5%であった。



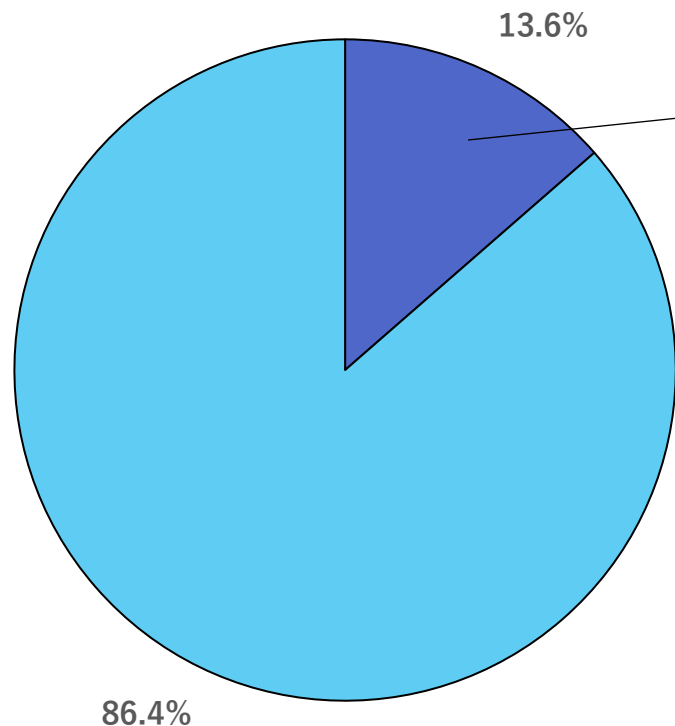
問22.医学的見地から、ジェネリック医薬品が適さない、使用したくないと考える領域等（疾患など）があれば、お答えください。（自由記載）

● 外用薬関係が6件で最も多く、続いて抗癌剤関係が5件であった。

- 外用薬関係 6件
 - ・効果が全く異なるため
 - ・シップの貼付ごこちや外用剤の貼り心地が悪い点
- 抗癌剤関係 5件
 - ・効果・副作用が心配
- 循環器内科関係 4件
 - ・吸入薬の効果に不安がある
- 精神科関係 2件
 - ・患者様の不安が強い場合
- 抗てんかん薬関係 2件
 - ・効果に不安がある。血中濃度の不安定さ
- その他 13件

問23. これまでに、ジェネリック医薬品の使用にあたり、院内の薬剤部又は院外処方せんを
応需した調剤薬局との間で問題がありましたか。また、問題となった内容について簡単にご
記入ください。（単一選択・記入式）

- 「あった」が13.6%であり、その内容としてジェネリック医薬品の供給に関する問題が7件で最も多かった。



- 供給不足による在庫切れ（7件）
- 患者様のジェネリック医薬品に対する不安（2件）
- ジェネリック医薬品の適応症が違った（1件）
- ジェネリック医薬品の安定供給等の問題により先発薬に変更になった（3件）
- その他（10件）

■ あった ■ なかった

問24.ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 使用感がよくなった、コンプライアンスが向上したといった事例が8件で最も多かった。

- 使用感が良くなった、コンプライアンスが向上した 8件
 - ・ 剤型が変わり飲みやすくなった（錠→OD錠、カプセル→錠 等） 3件
 - ・ 味やにおいが良くなった 2件
 - ・ 包装、容器等が使いやすくなった 1件
 - ・ その他 2件
- その他 7件
 - ・ 患者さんがG Eを希望することが多い

問25. あなたの医療機関では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をしていますか。（複数選択式）

- R4年度は「特に工夫していない」が50.5%で最も高く、続いて「診察時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が26.4%、「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が19.2%であった。
- H22年度から「診察時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が2.4ポイント、「受付窓口に「ジェネリック医薬品医某カード」を用意している」が3.3ポイント増加した。一方で、「特に工夫していない」が8.3%減少した。

受付窓口に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している

普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している

普及啓発用のリーフレット等を用意し、患者様が入手しやすいようにしている

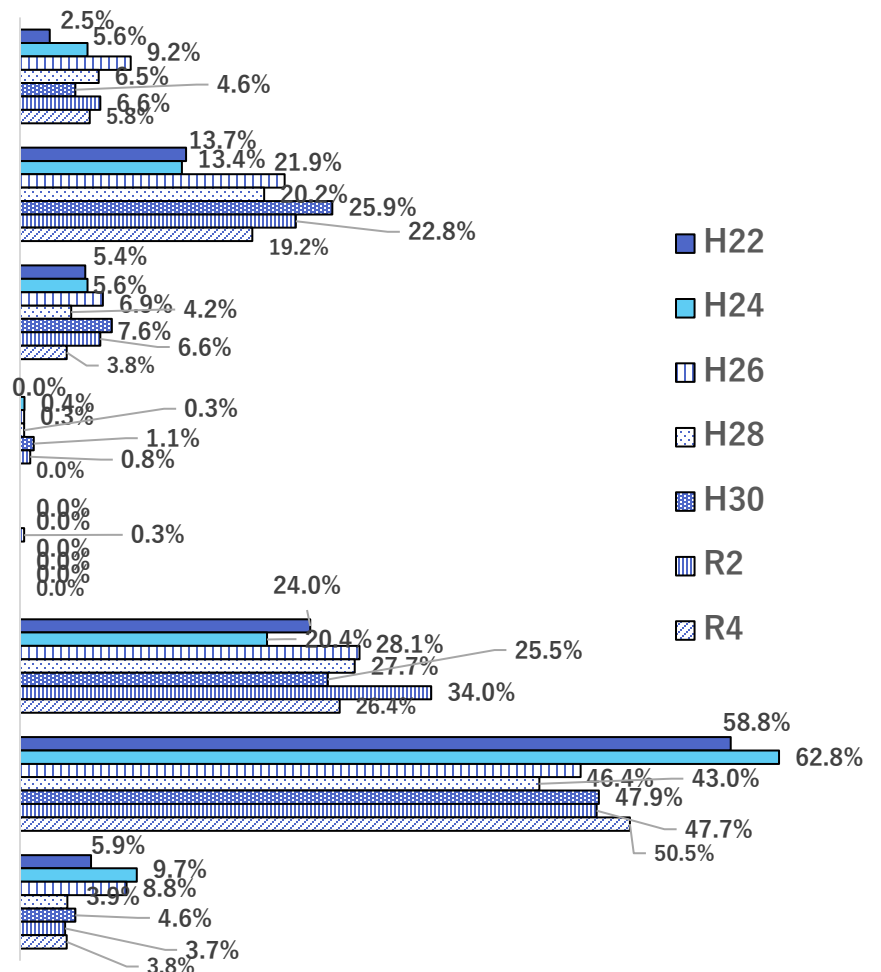
相談窓口を設けたり、説明担当の薬剤師等を配置している

ジェネリック医薬品に関するビデオ等を流している

診察時に患者様の意向を尋ねるようにしている

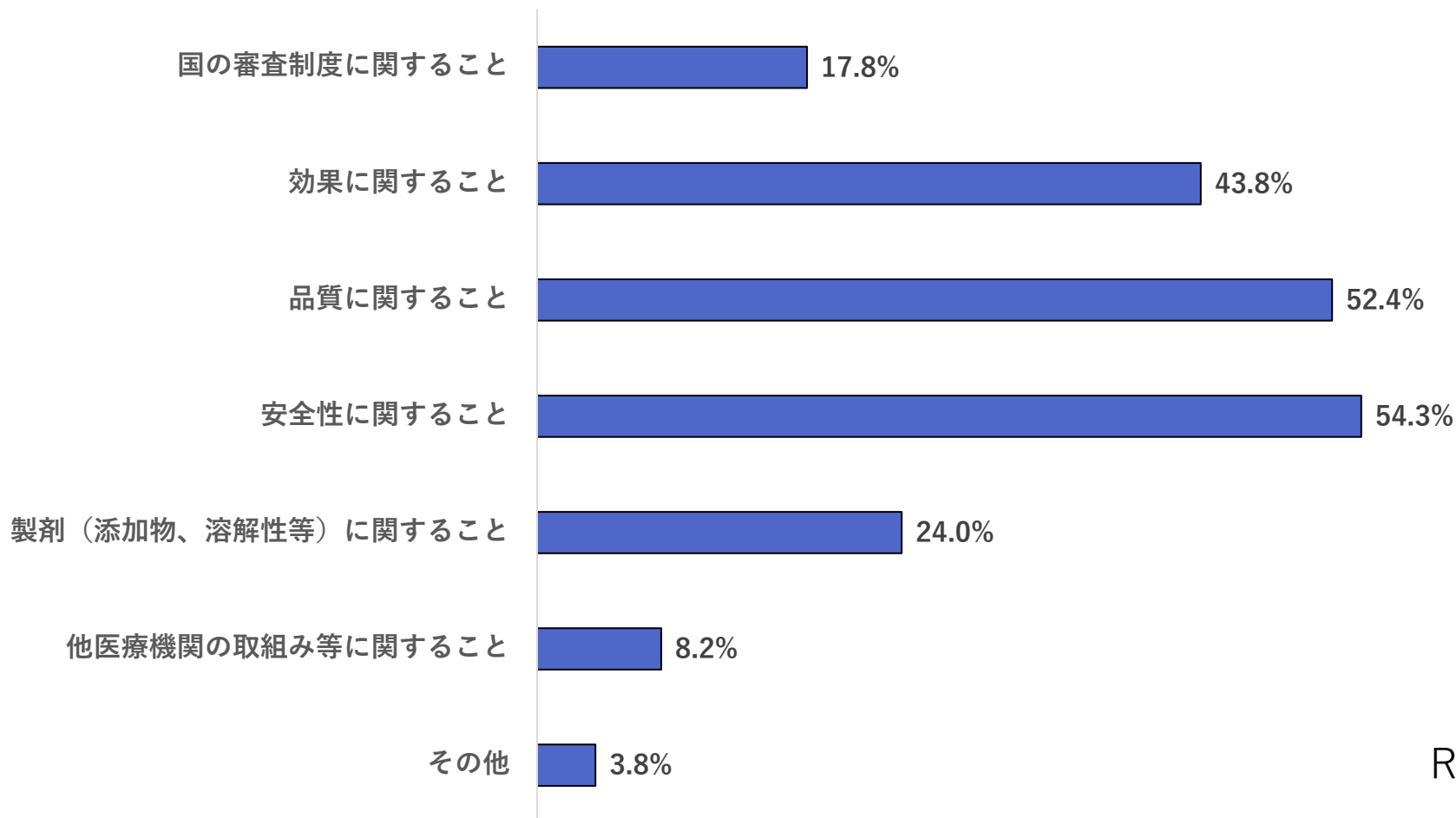
特に工夫していない

その他



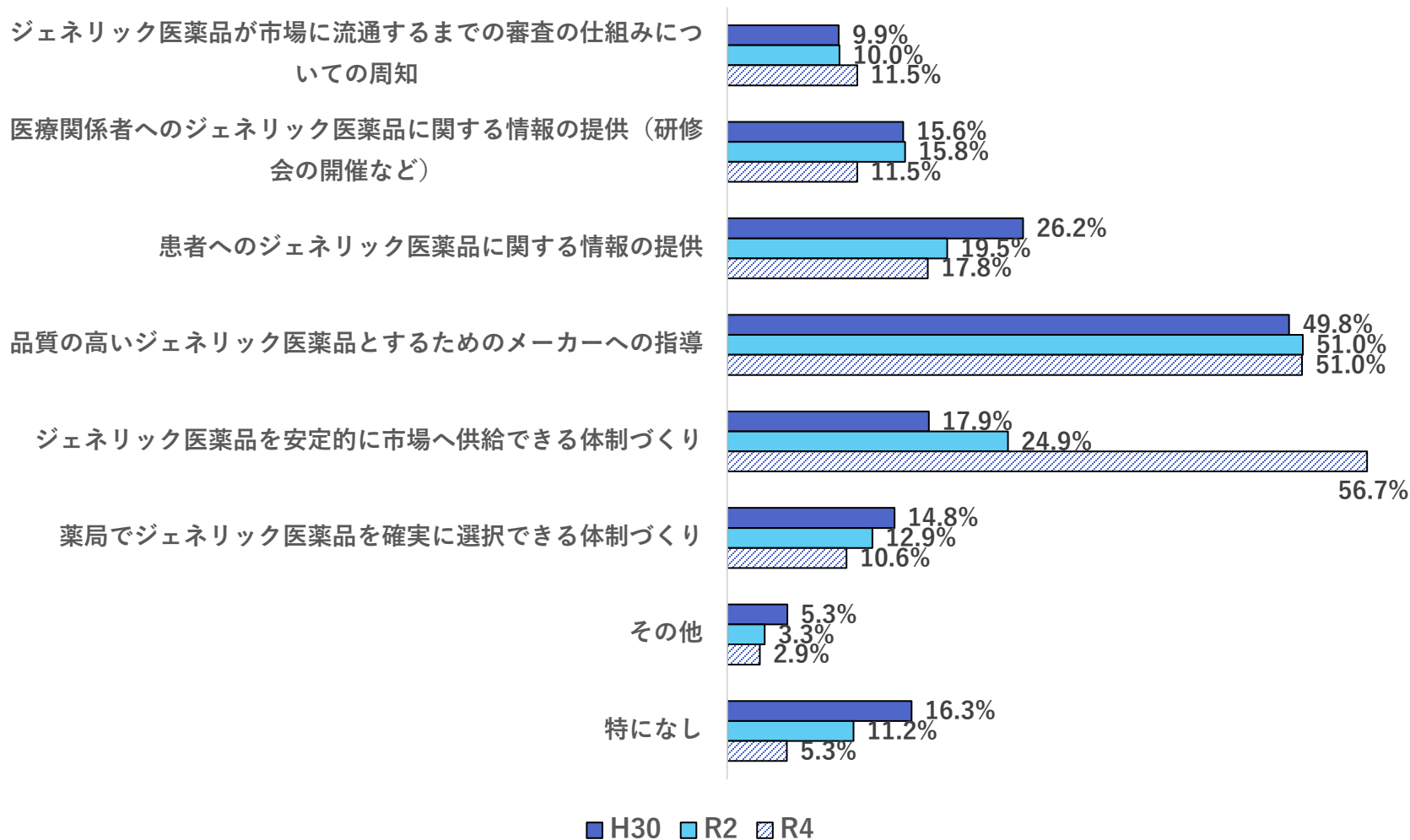
問26. 本県では定期的（年1～2回）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

- 「安全性に関すること」が54.3%で最も高く、続いて「品質に関すること」が52.4%、「効果に関すること」が43.8%であった。



問27. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

- R4年度は「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が56.7%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が51.0%であった。
- H30年度から「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が38.8ポイント増加した。



齒科診療所

ジェネリック医薬品に関する診療所アンケート調査結果

○調査方法

- ・調査票の直接送付による郵送調査

○調査時期

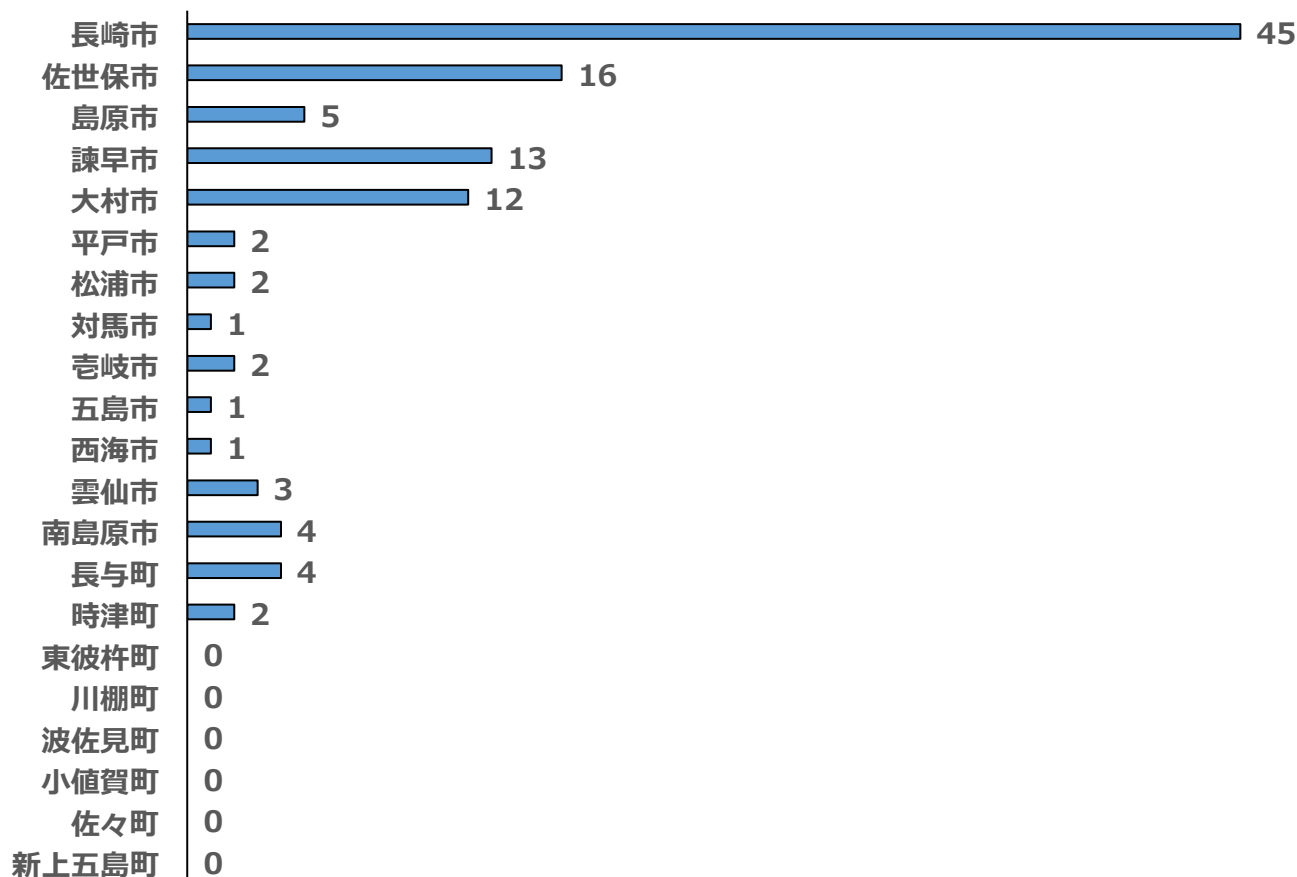
- ・令和5年2月22日から令和5年3月15日まで

○調査対象

- ・県内すべてすべての診療所から、無作為に抽出した3分の1の診療所

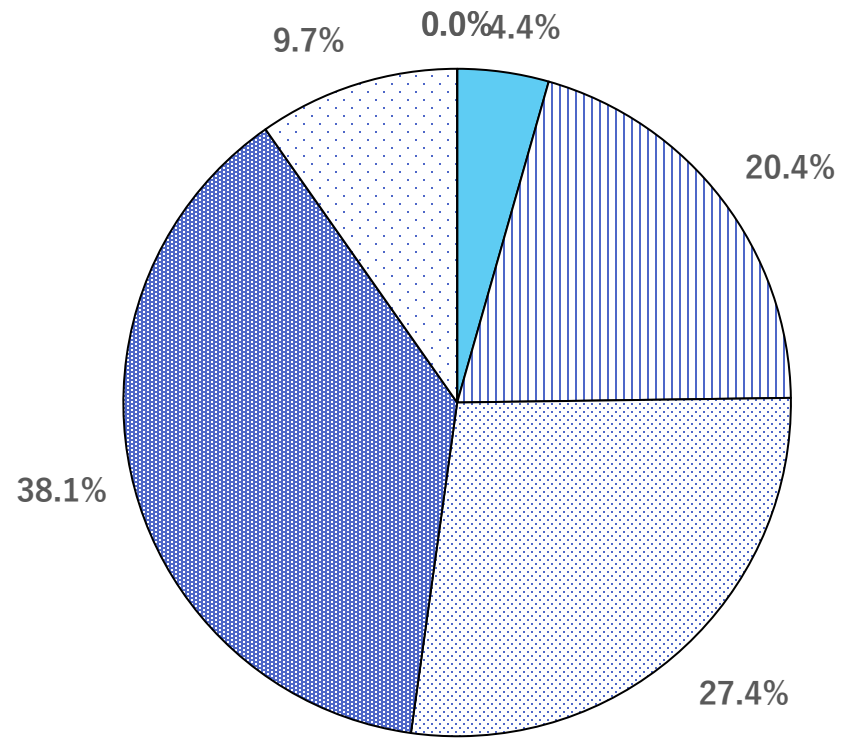
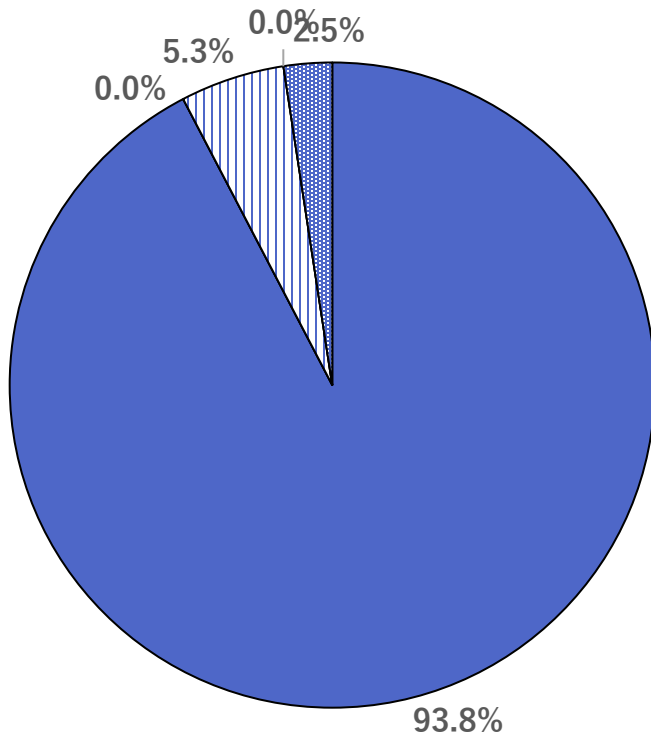
○対象者数、回答者数及び回収率

- ・対象施設数：232施設、回答施設数：113施設、回答率：48.7%



問3.ご回答者の職種及び年齢をお答えください。(単一選択式)

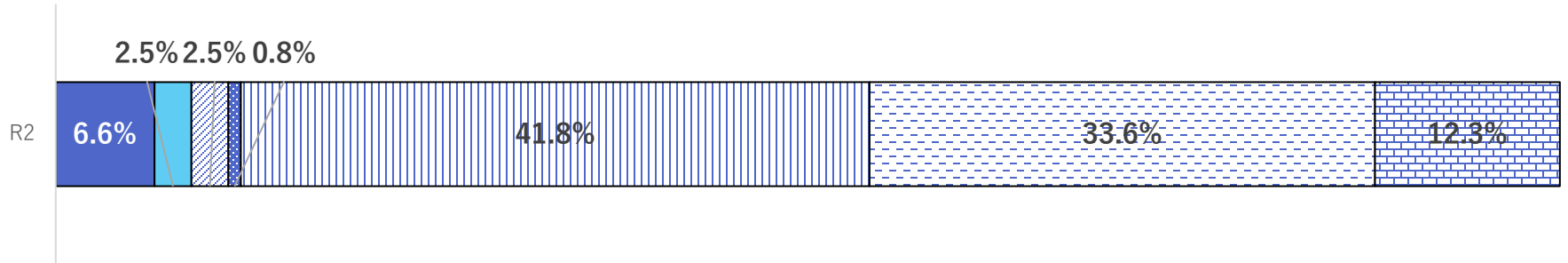
- 30歳未満
- 30歳以上40歳以上
- 40歳以上50歳未満
- 50歳以上60歳未満
- 60歳以上70歳未満
- 70歳以上



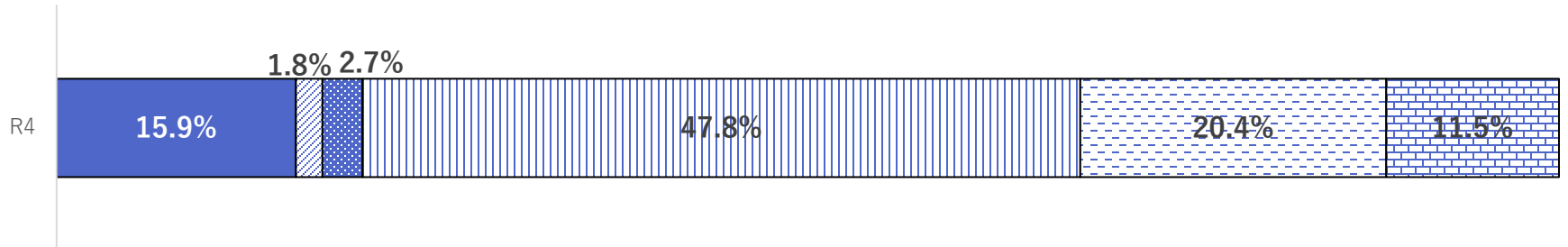
- 医師 (歯科医師)
- 薬剤師
- 事務職員
- その他
- 無回答

問5.あなたの医療機関の後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

● R4年度は「加算1」が15.9%、「加算2」が1.8%、「加算3」が2.7%であり、後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の20.4%であった。



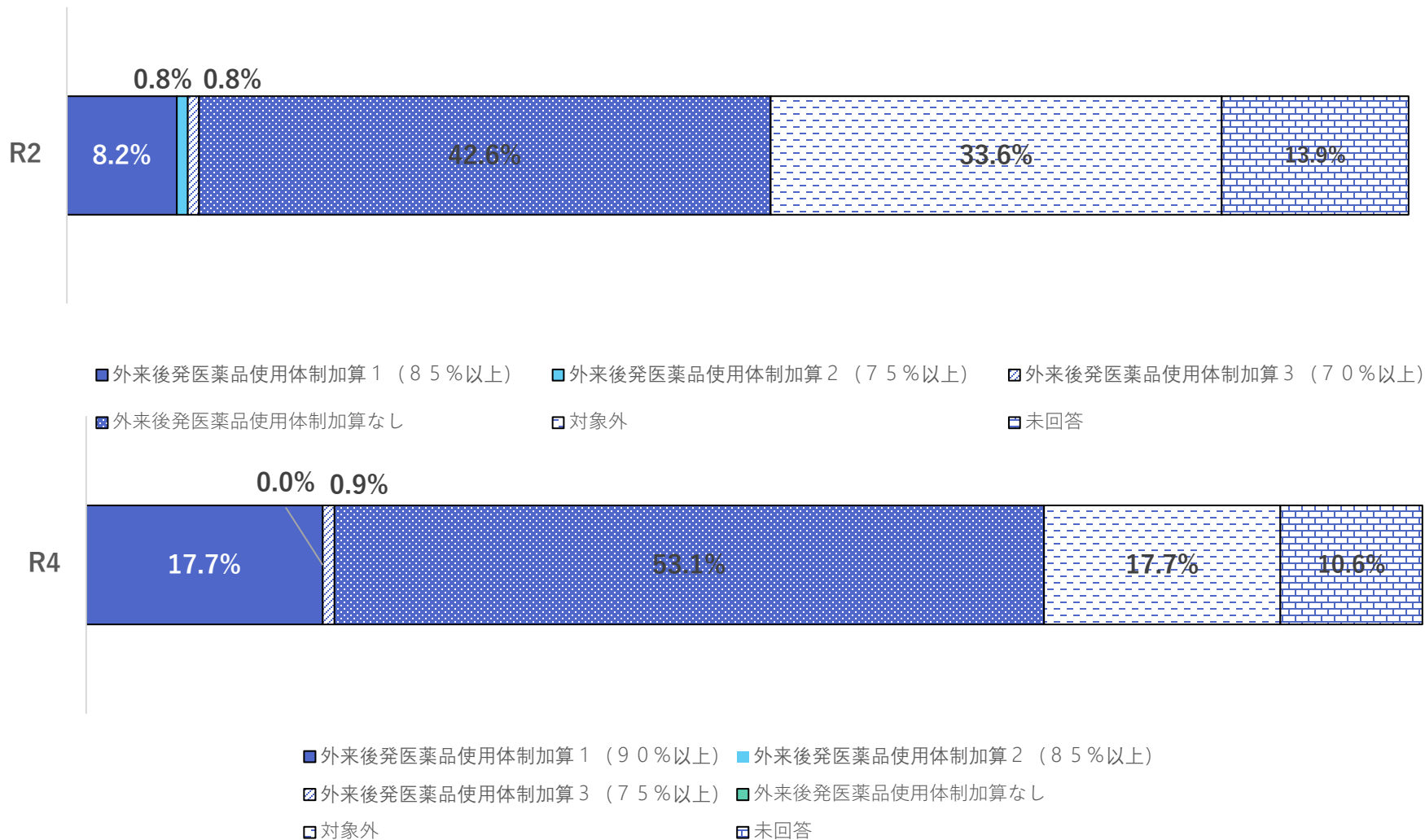
- 後発医薬品使用体制加算1 (85%以上)
- 後発医薬品使用体制加算2 (80%以上)
- 後発医薬品使用体制加算3 (70%以上)
- 後発医薬品使用体制加算4 (60%以上)
- 後発医薬品使用体制加算なし
- 対象外
- 未回答



- 後発医薬品使用体制加算1 (90%以上)
- 後発医薬品使用体制加算2 (85%以上)
- 後発医薬品使用体制加算3 (75%以上)
- 後発医薬品使用体制加算なし
- 対象外
- 未回答

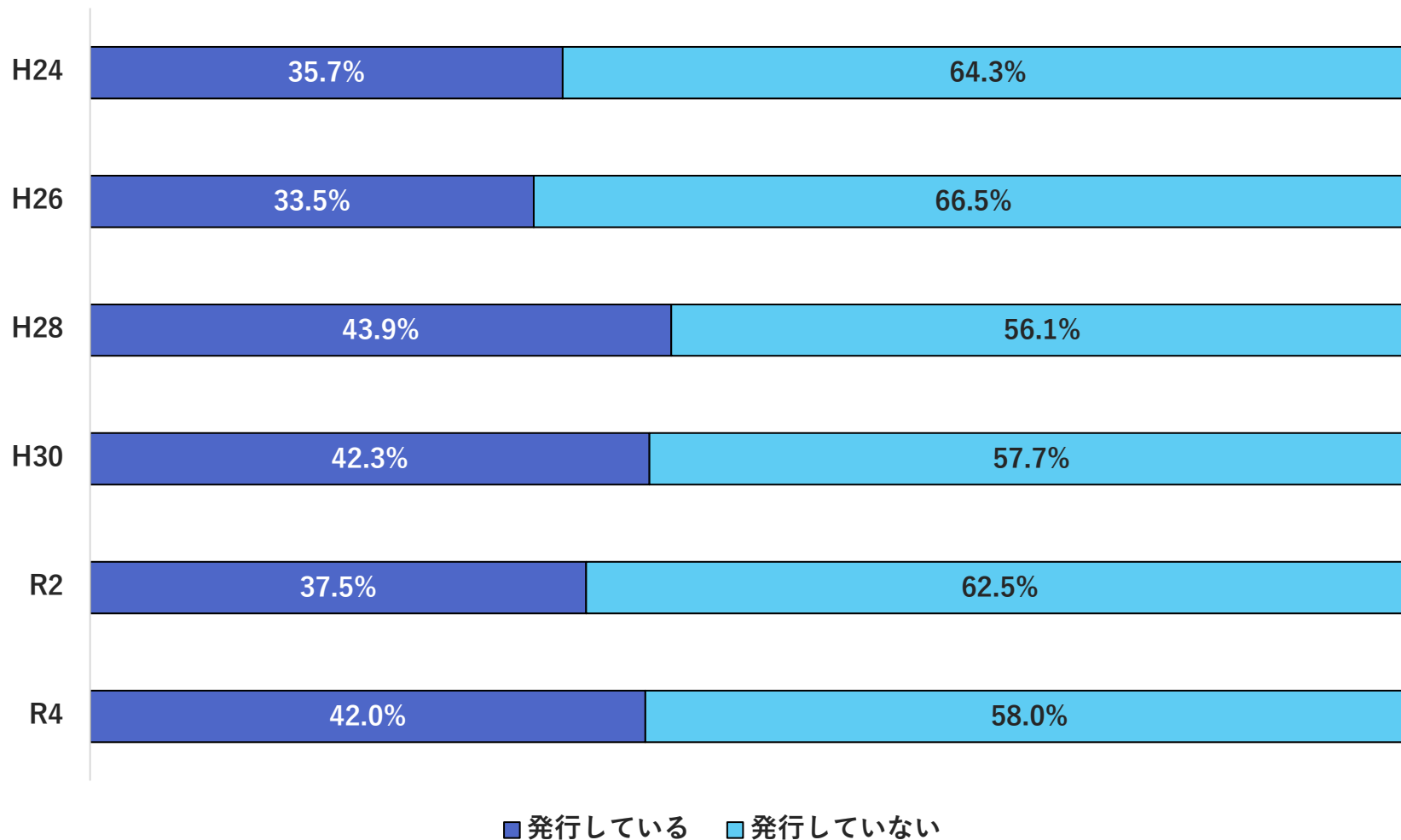
問6.あなたの医療機関の外来後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

● R4年度は「加算1」が17.7%、「加算2」が0.0%、「加算3」が0.9%であり、外来後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の18.6%であった。



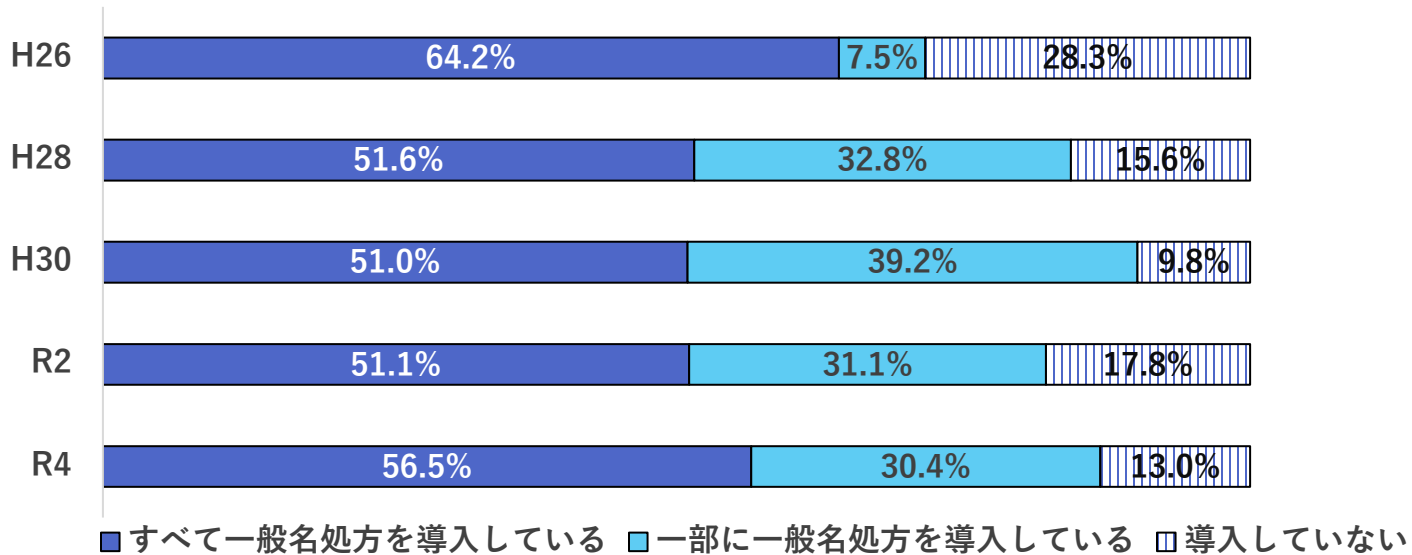
問7. あなたの医療機関では、院外処方せんを発行していますか。（単一選択式）

- R4年度は「発行している」が42.0%であった。
- H24年度から比較すると6.3ポイント増加した。

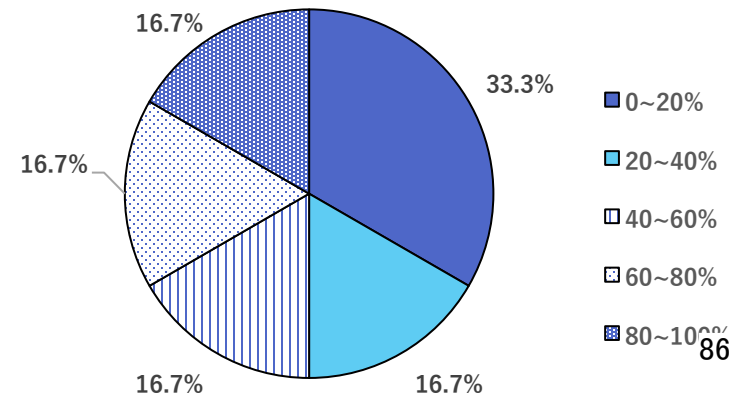


問8. 《問7で「1.発行している」と回答した医療機関》あなたの医療機関では、院外処方せん発行において一般名処方を導入していますか。（単一選択式）

- R4年度は「すべて一般名処方を導入している」が56.5%、「一部に一般名処方を導入している」が30.4%で、合計86.9%であった。
- H26年度から「すべて一般名処方を導入している」と「一部に一般名処方を導入している」の合計が15.2ポイント増加した。
- 一部に一般名処方を導入している場合のその割合について、「0～20%」が33.3%で最も高かった。

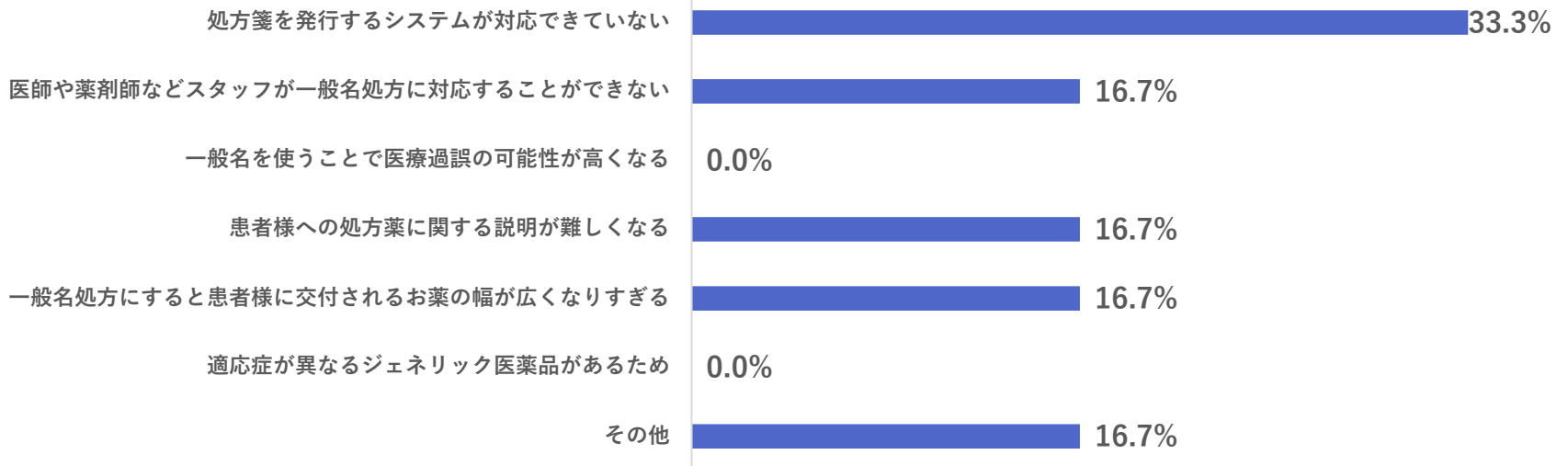


「一部に一般名処方を導入している」と回答した場合、その割合



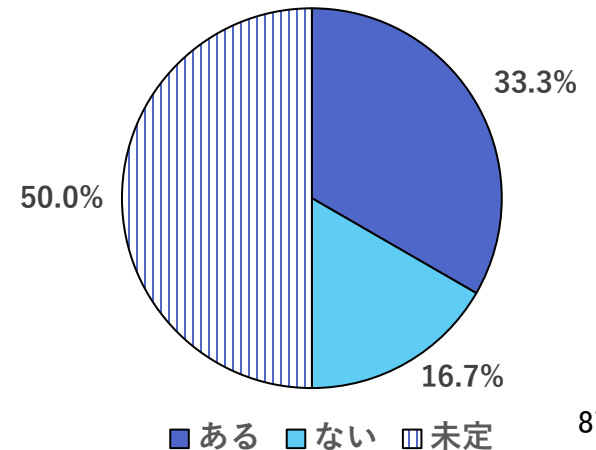
問9. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》 一般名処方を導入していない理由は何か。（複数選択式）

- 「処方箋を発行するシステムが対応できていない」が33.3%で最も高く、続いて「医師や薬剤師などスタッフが一般名処方に対応することができない」、「患者様への処方薬に関する説明が難しくなる」、「一般名処方になると患者様に交付されるお薬の幅が広くなりすぎる」、「その他」が16.7%であった。
- 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性があるとの回答が33.3%あった。



R4

問10. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性がありますか。（単一選択式）

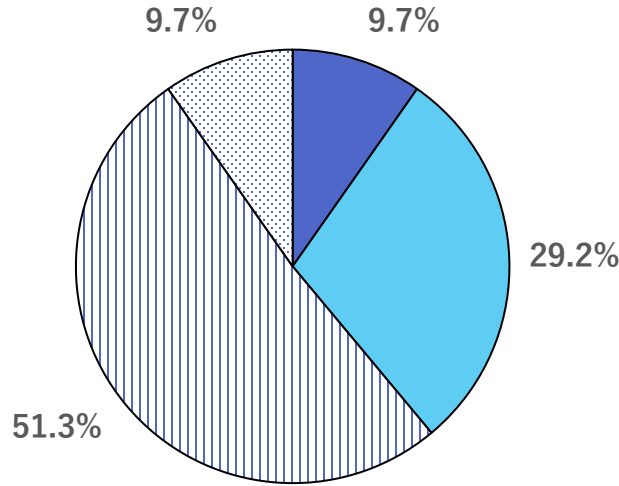


■ある □ない □未定

問11.ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

- 「ない」が51.3%で最も高かった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の効果の問題」が52.3%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の安全性の問題」が38.6%、「ジェネリック医薬品の品質の問題」が36.4%であった。

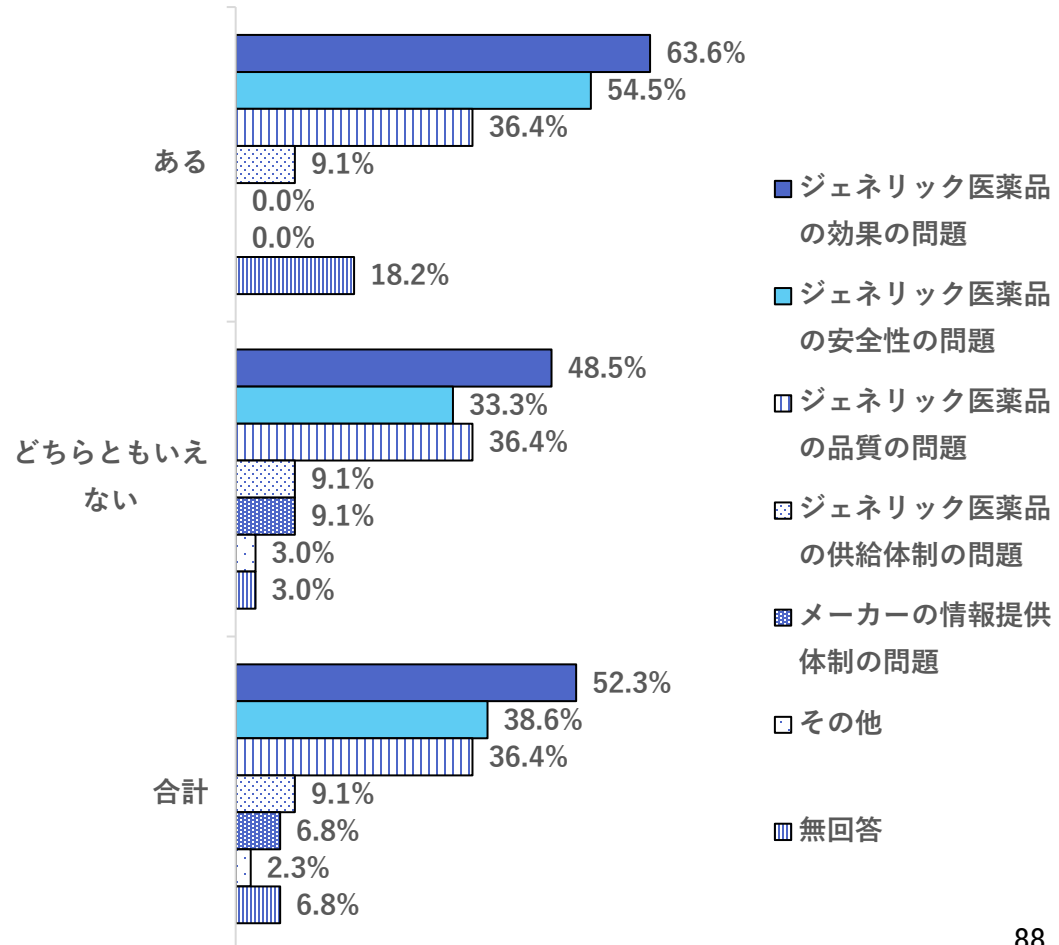
■ある ■どちらともいえない ■ない ■無回答



R4

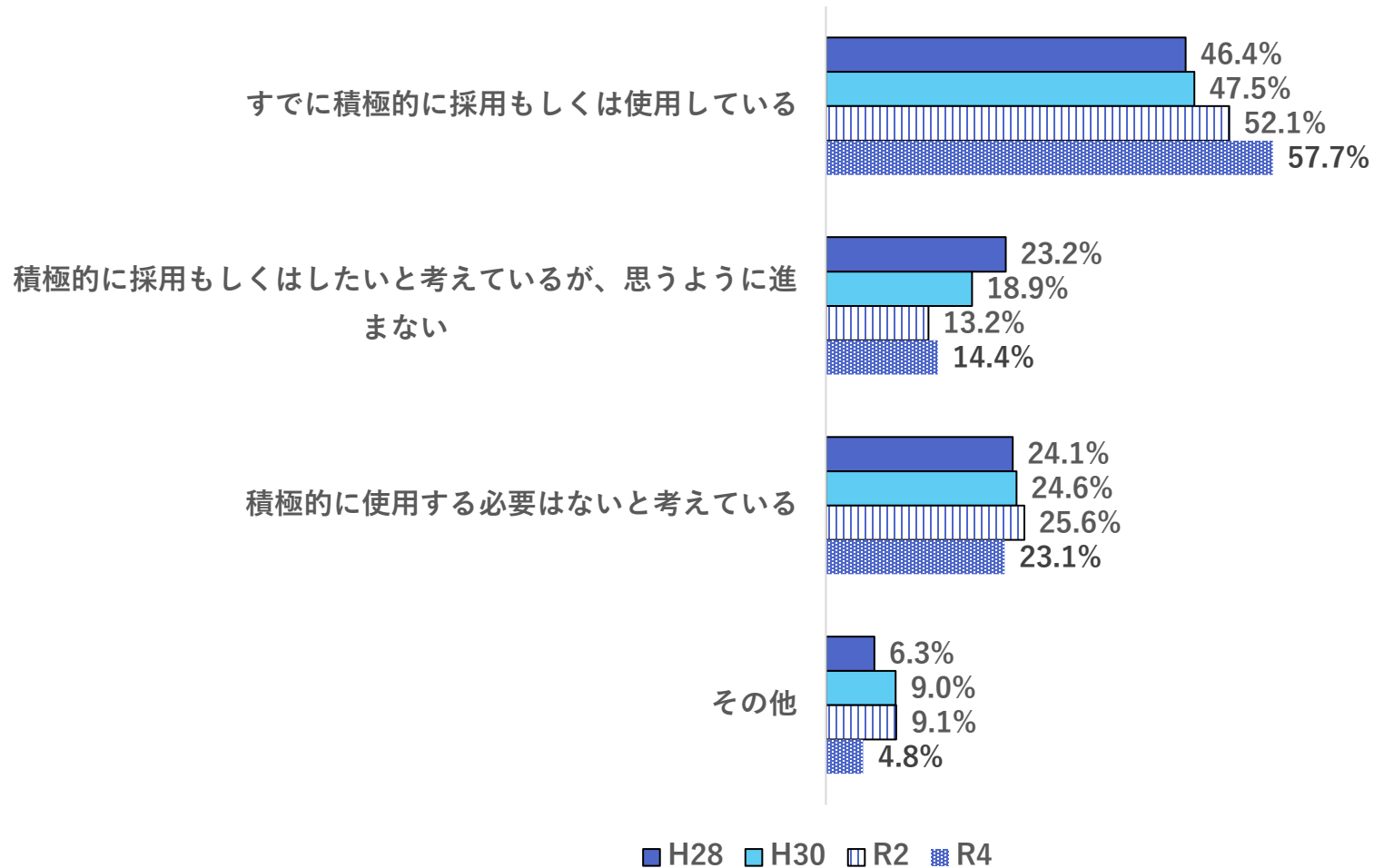


問12. 《問11で「1.ある」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）



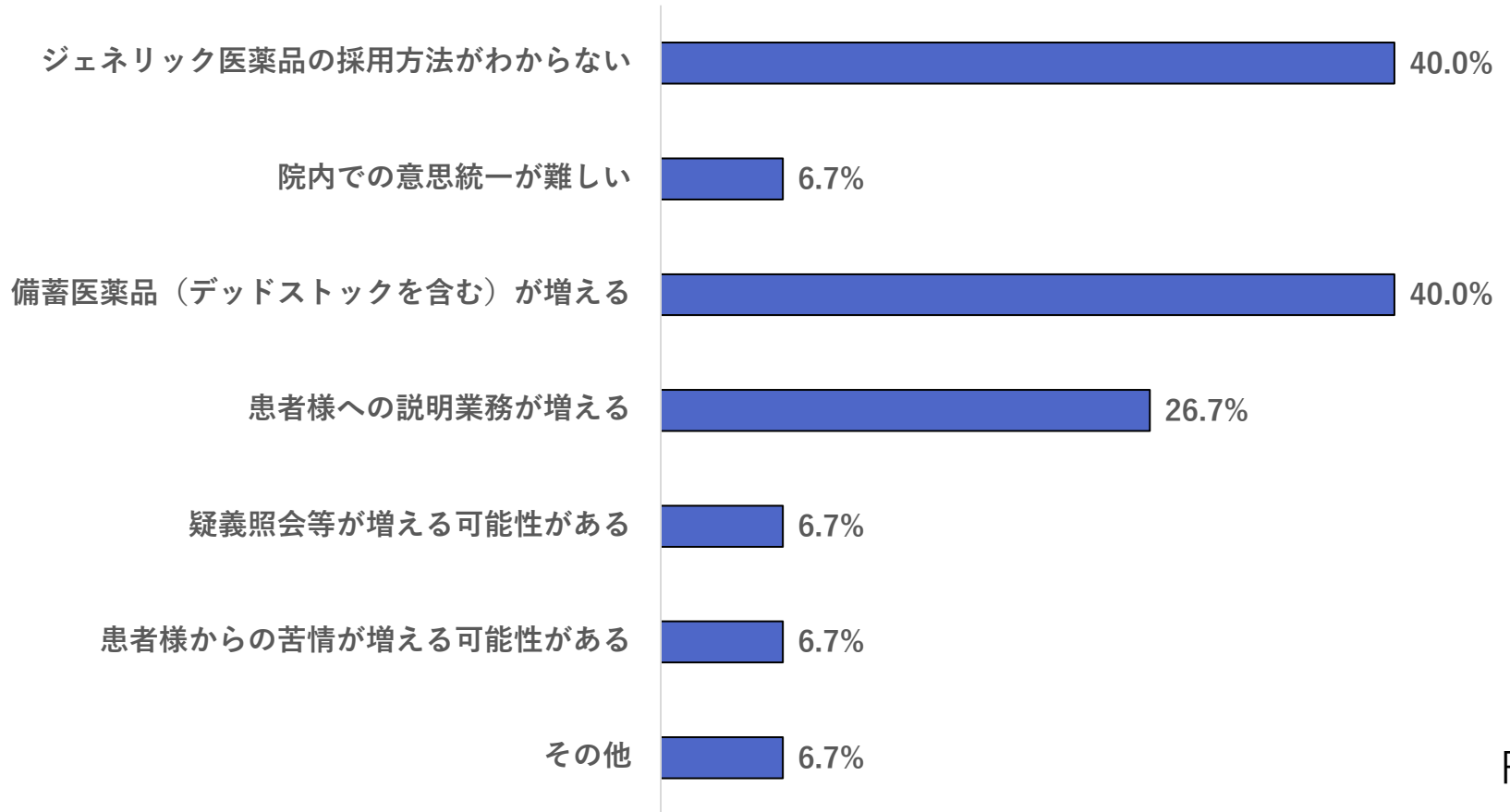
問13. あなたの医療機関では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用（院外処方を含む）したいと思いますか。（単一選択式）

- R4年度は「すでに積極的に採用もしくは使用している」が57.7%で最も高かった。
- H28年度から「すでに積極的に採用もしくは使用している」が11.3ポイント増加した。



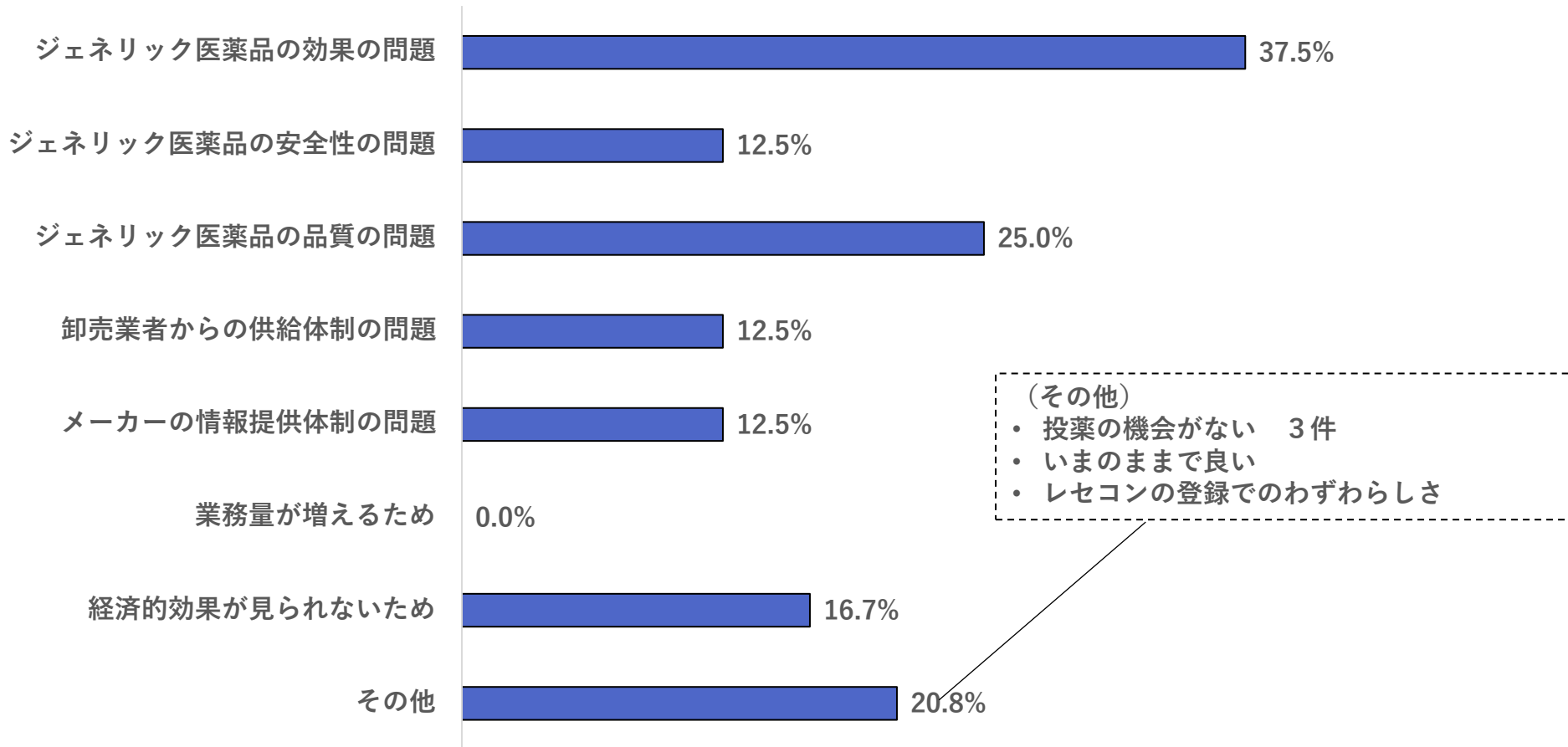
問14. 《問13で「2.積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品の採用もしくは使用が思うように進まない理由は何ですか。（複数選択式）

- 「ジェネリック医薬品の採用方法がわからない」、「備蓄医薬品（デッドストックを含む）が増える」が40.0%で最も高く、続いて「患者様への説明業務が増える」が26.7%であった。



問15. 《問13で「3.積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要がないと思う理由は何ですか。（複数選択式）

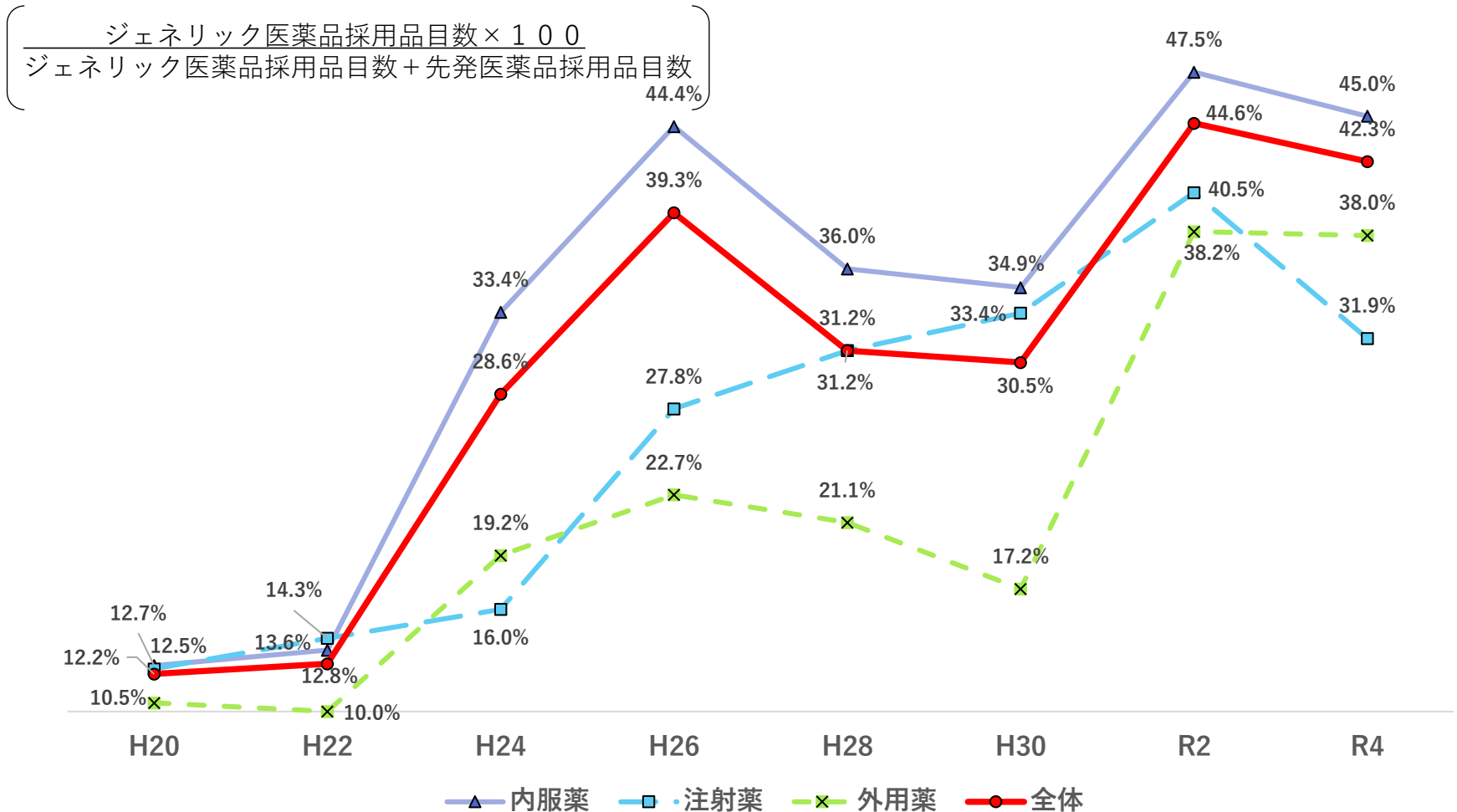
- 「ジェネリック医薬品の効果の問題」が37.5%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が25.0%であった。



問16. 令和4年12月現在、あなたの医療機関における先発医薬品とジェネリック医薬品の採用状況（品目数）についてお答えください。（記入）

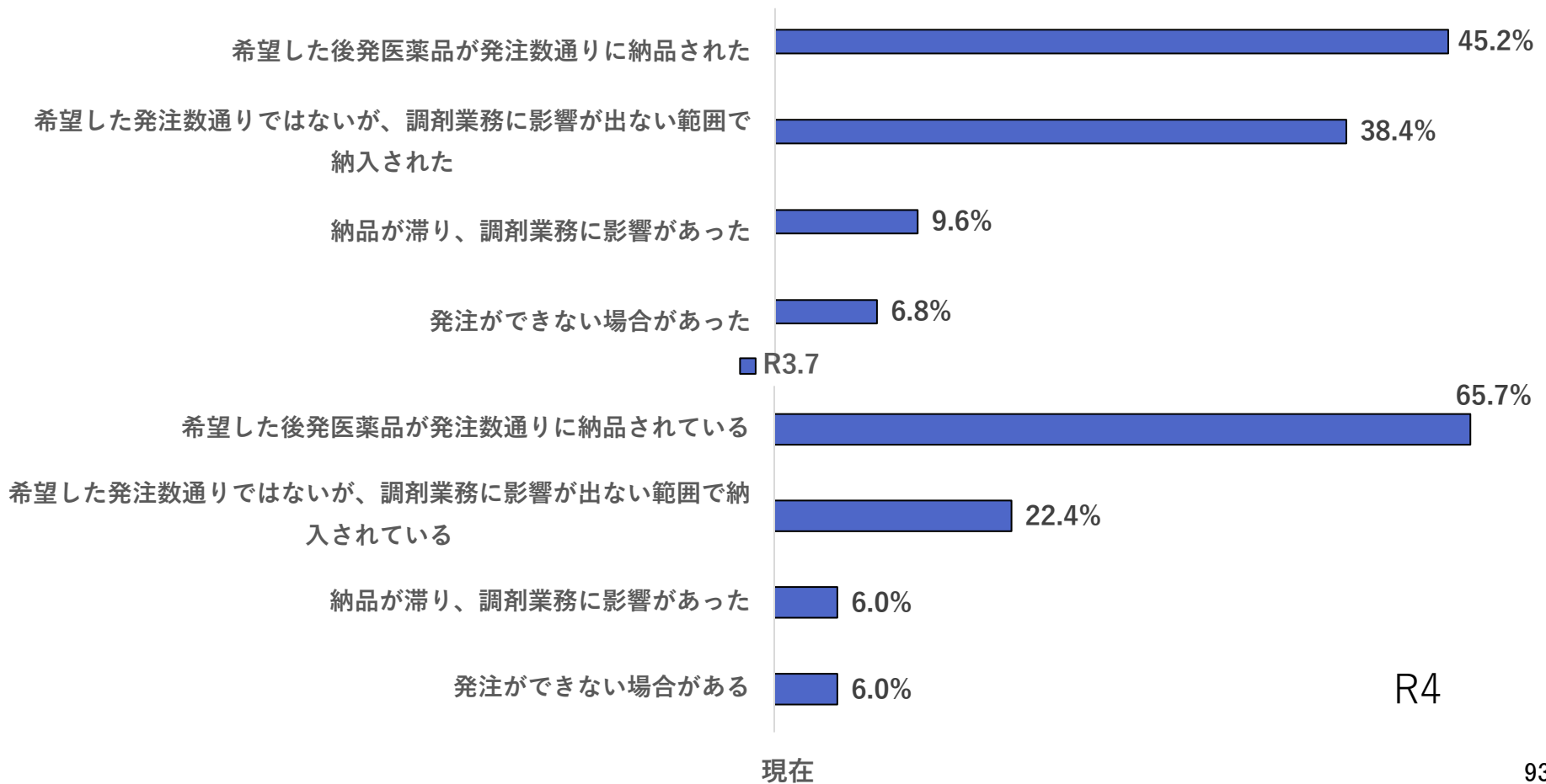
- ジェネリック医薬品の採用品目割合について、R2年度は内服薬が45.0%で最も高く、注射薬が31.9%で最も低かった。また、全体（内服薬+注射薬+外用薬）は42.3%であった。
- H20と比較すると、全体の割合が30.1ポイント増加した。

○ジェネリック医薬品の採用品目割合



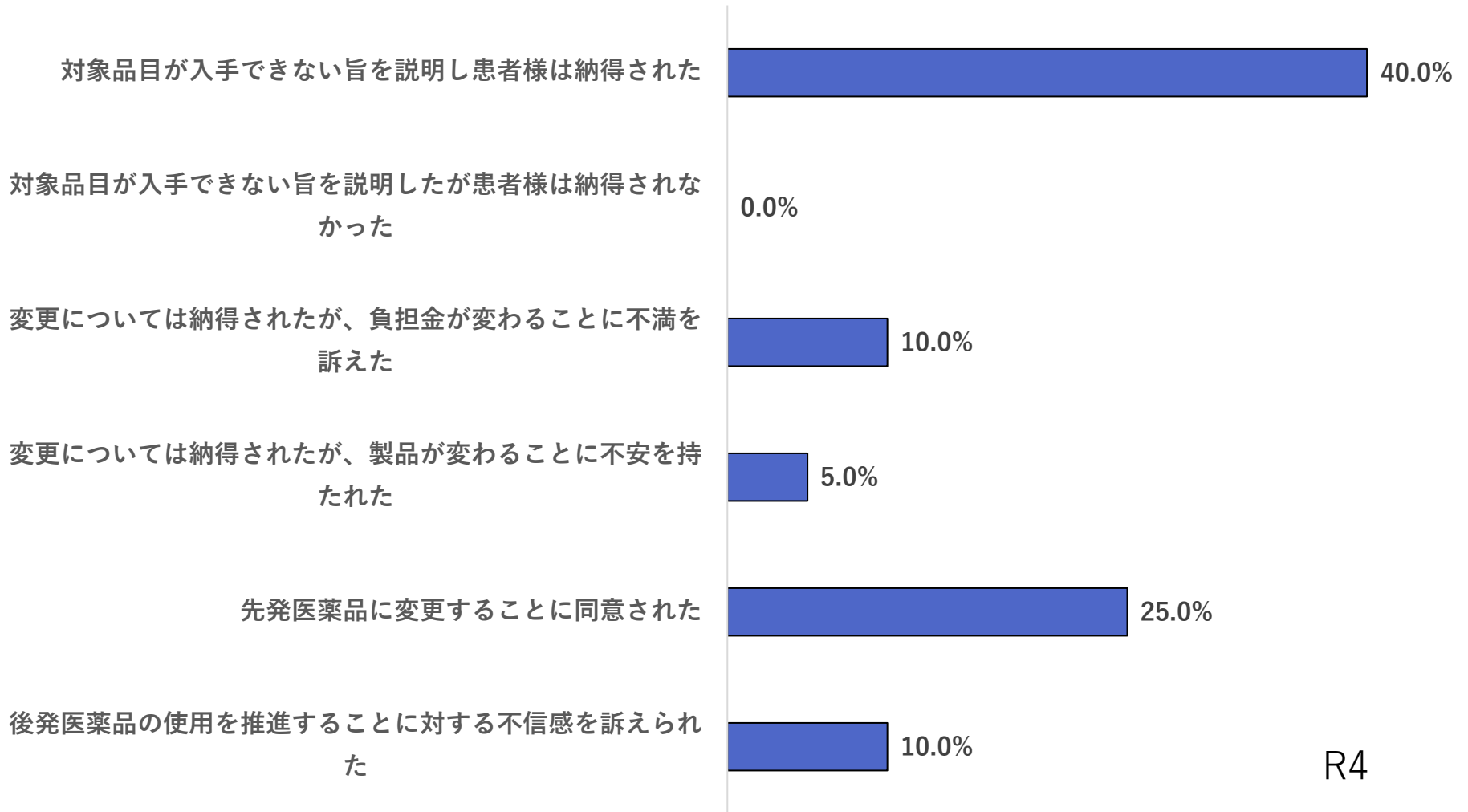
問17. 一昨年の複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの医療機関で採用している後発医薬品の「令和3年7月」及び「現在」の納入状況についてお答えください。（単一選択式）

- 「令和3年7月」の納入状況では、「希望した後発医薬品が発注数通りに納品された」が45.2%で最も高く、続いて「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された」が38.4%であった。
- 「現在」の納入状況では、「希望した後発医薬品が発注数通りに納品された」が65.7%で最も高く、続いて「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された」が22.4%であった。



問18. 《問17で令和3年7月および現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

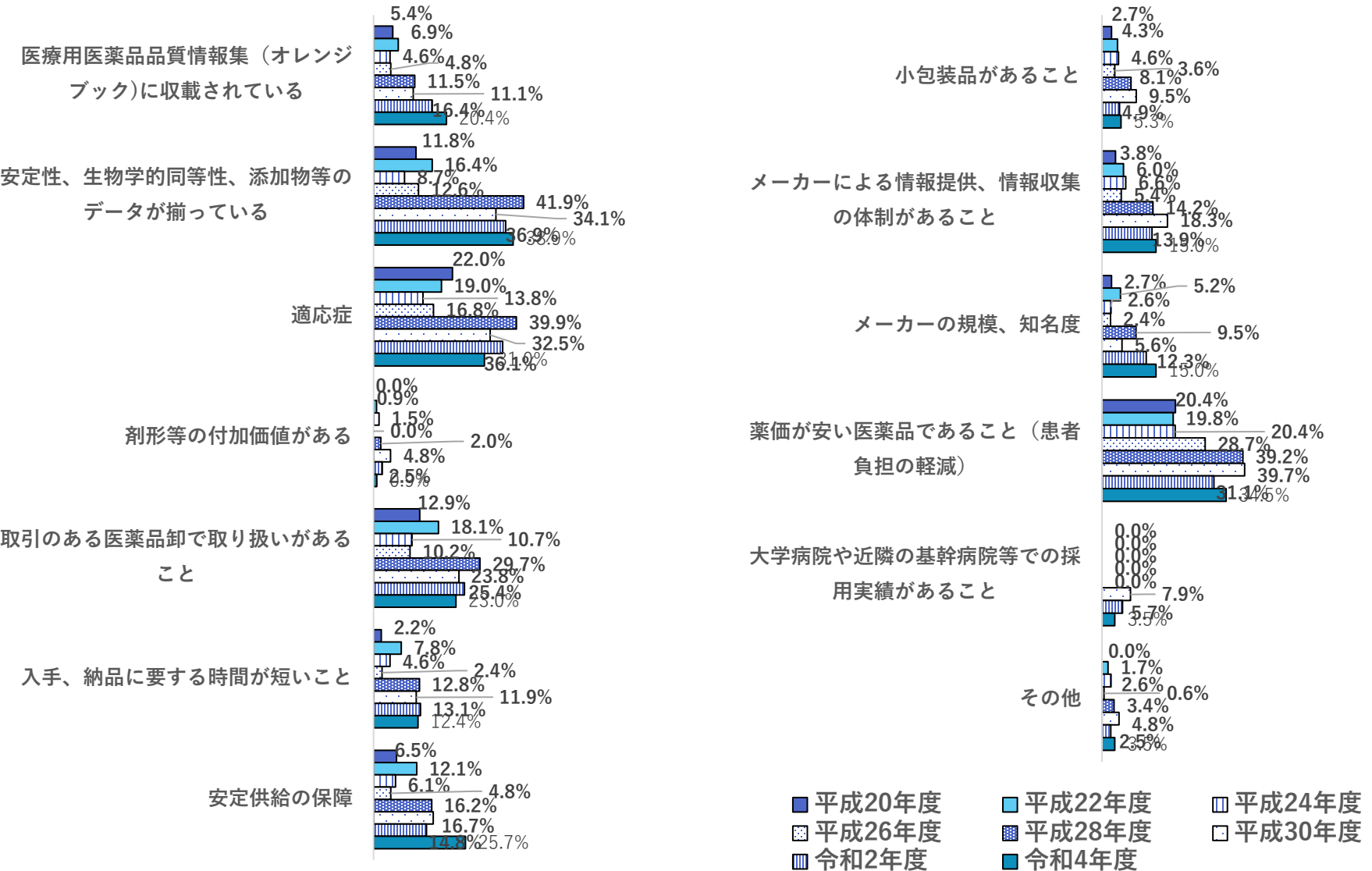
- 「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が40.0%で最も高く、続いて「先発医薬品に変更することに同意された」が25.0%であった。



R4

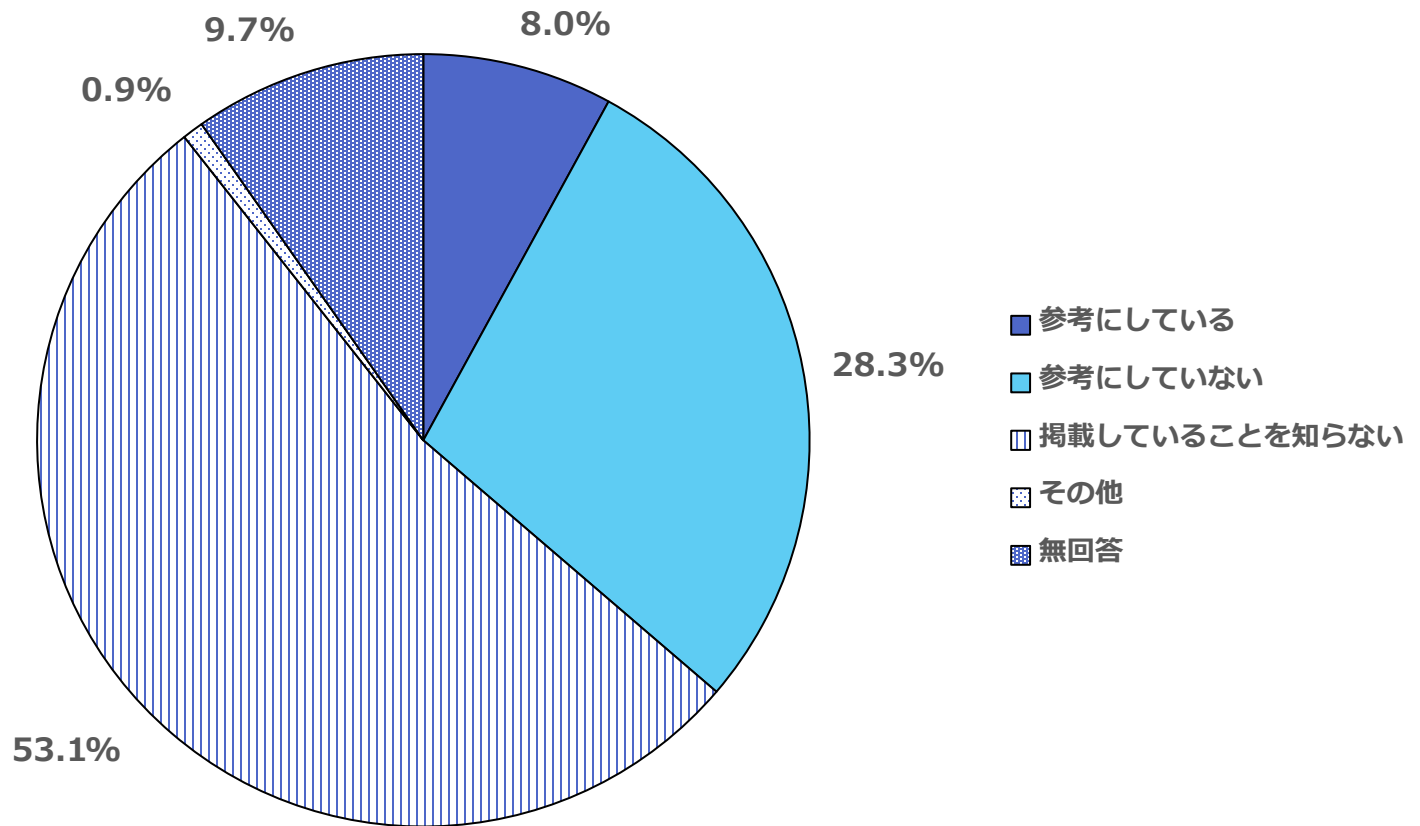
問19 あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。（複数選択式）

● R4年度は「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」が38.9%で最も高く、続いて「薬価が安い医薬品であること（患者様の負担軽減）」が34.5%、「適応症」が31.0%であった。



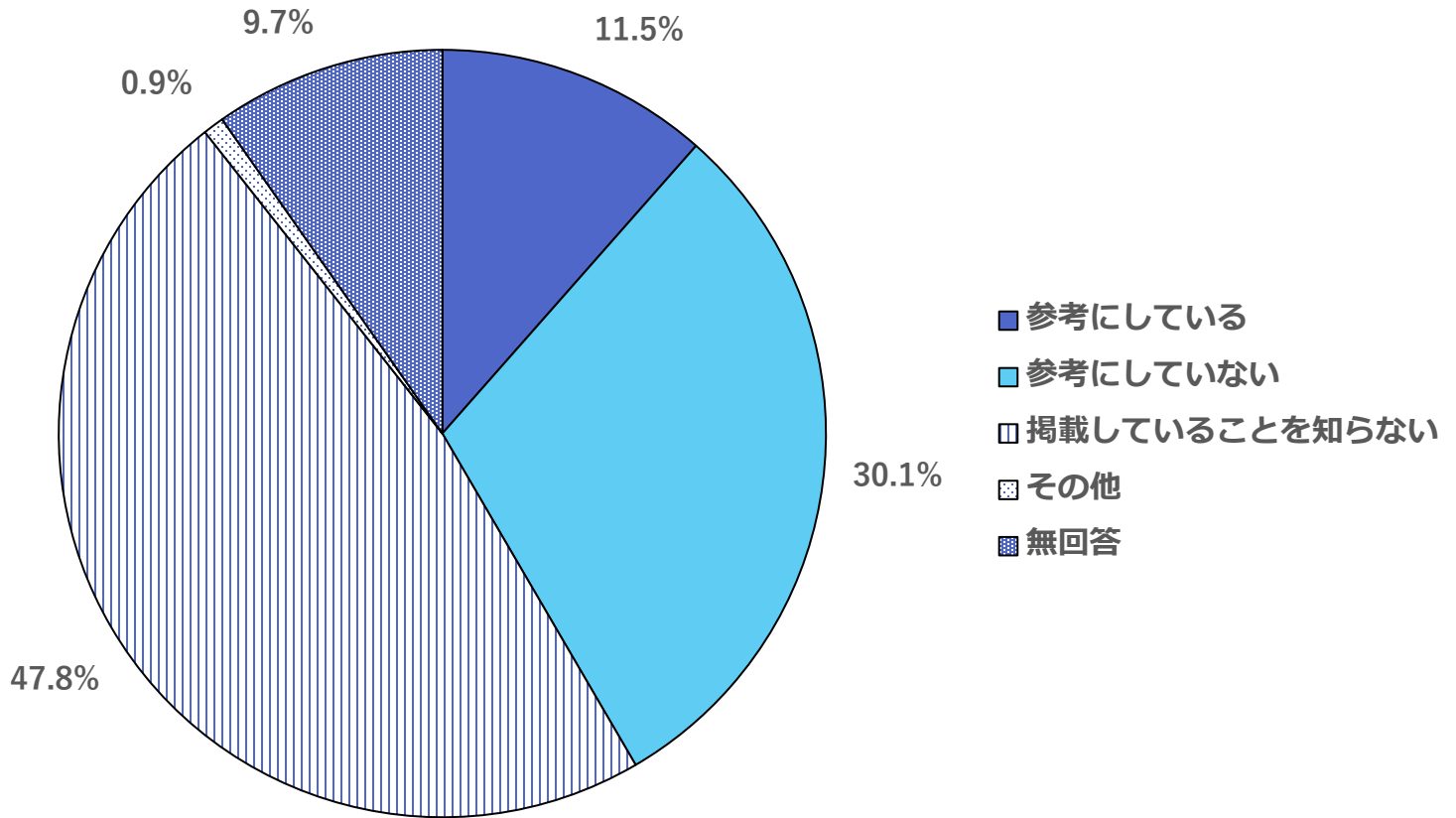
問20. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が8.0%にとどまり、「掲載していることを知らない」が53.1%にものぼった。



問21. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が11.5%にとどまり、「掲載していることを知らない」が47.8%にもものぼった。

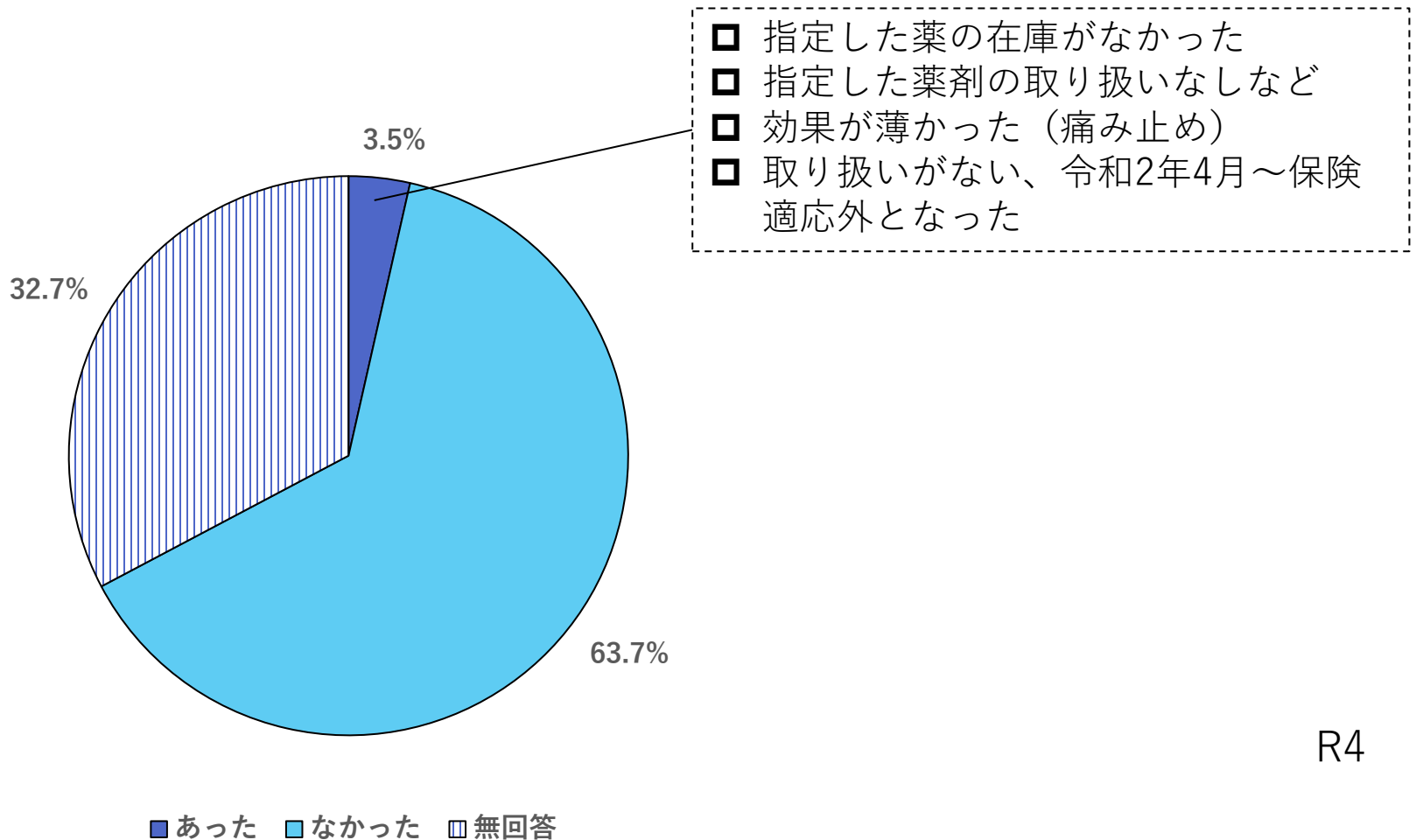


問22.医学的見地から、ジェネリック医薬品が適さない、使用したくないと考える領域等（疾患など）があれば、お答えください。（自由記載）

- 特に記載なし

問23. これまでに、ジェネリック医薬品の使用にあたり、院内の薬剤部又は院外処方せんを
 応需した調剤薬局との間で問題はありましたか。また、問題となった内容について簡単にご
 記入ください。（単一選択・記入式）

- 「あった」が3.5%であり、その内容として薬局の在庫に関する問題が2件で最も多かった。



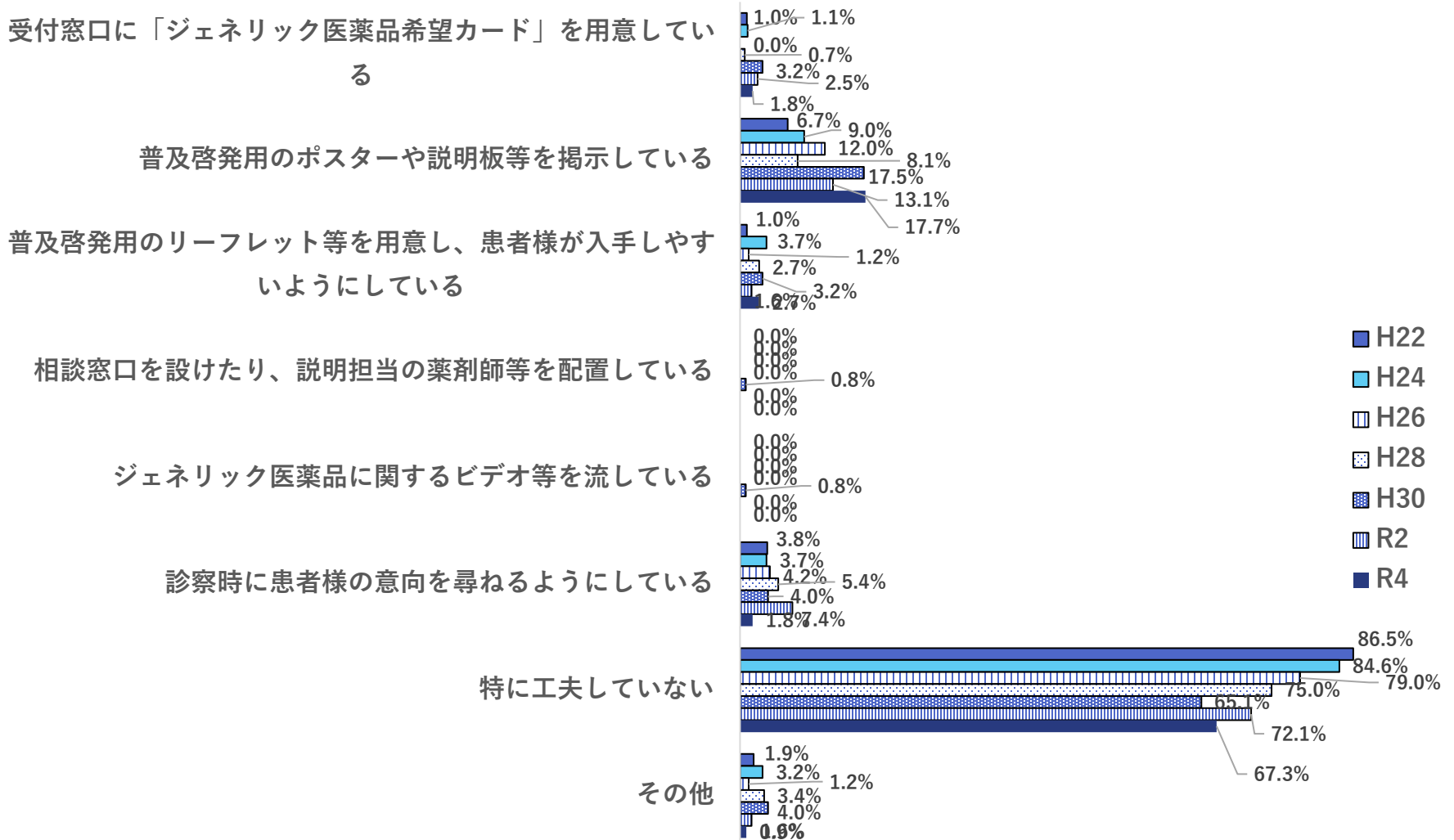
R4

問24.ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 特に記載なし

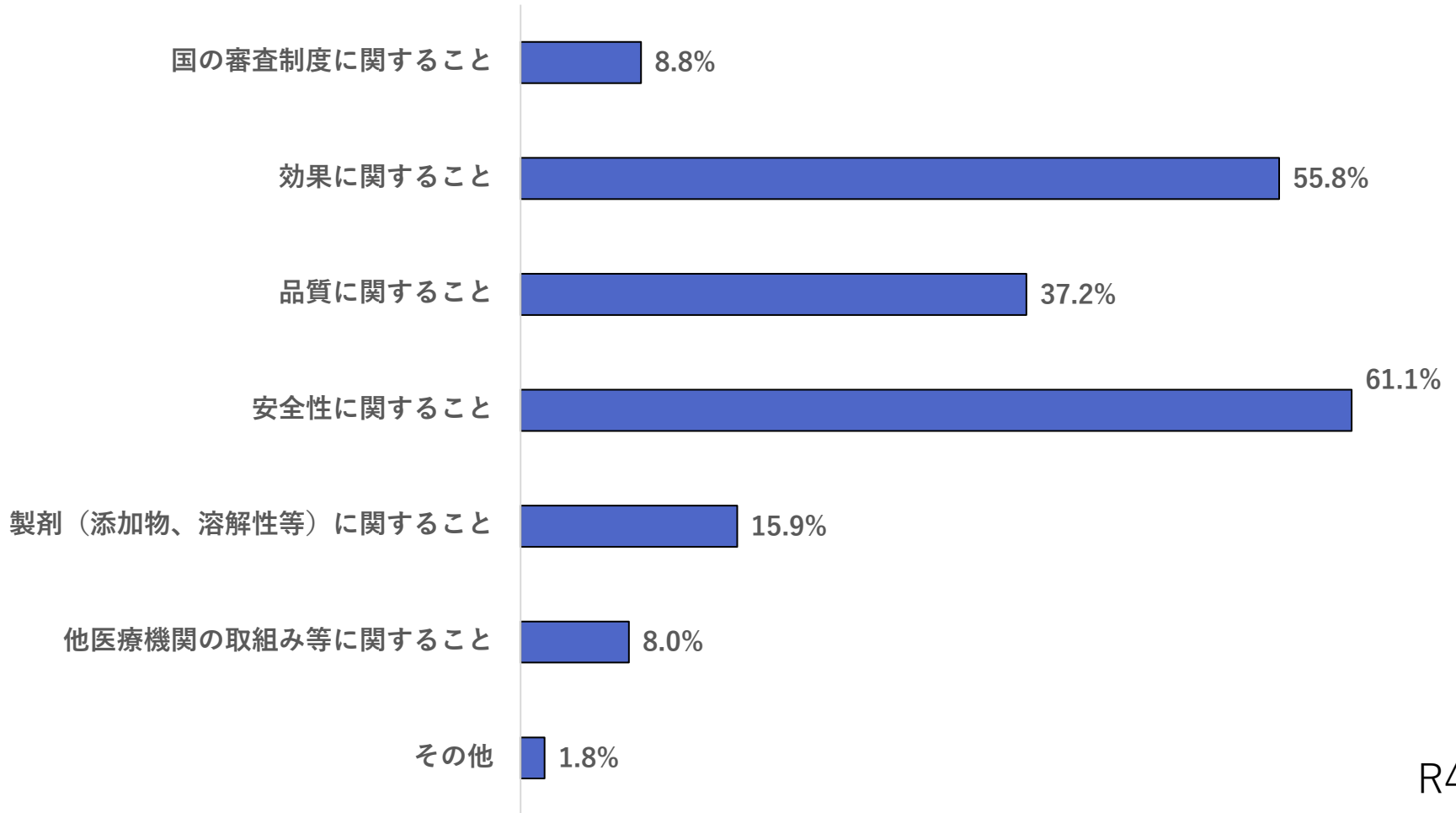
問25. あなたの医療機関では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をしていますか。（複数選択式）

- R4年度は「特に工夫していない」が67.3%で最も高く、続いて「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が17.7%であった。
- H22年度から「特に工夫していない」が19.2ポイント減少した。



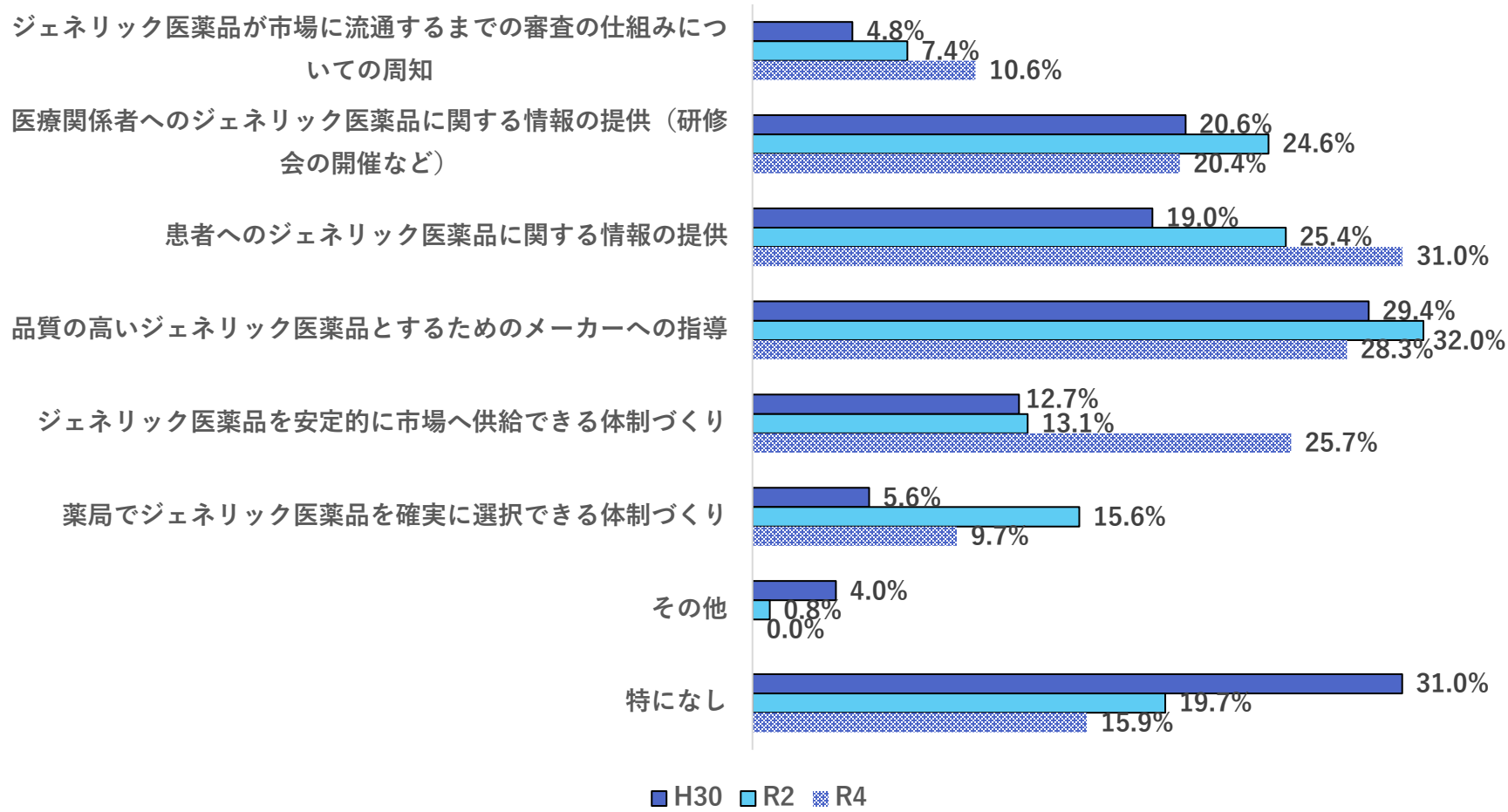
問26. 本県では定期的（年1～2回）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

- 「安全性に関すること」が61.1%で最も高く、続いて「効果に関すること」が55.8%であった。



問27. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

● R4年度は「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」が31.0%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が28.3%、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」25.7%であった。



藥 局

ジェネリック医薬品に関する薬局アンケート調査結果

○調査方法

・調査票の直接送付による郵送調査

○調査時期

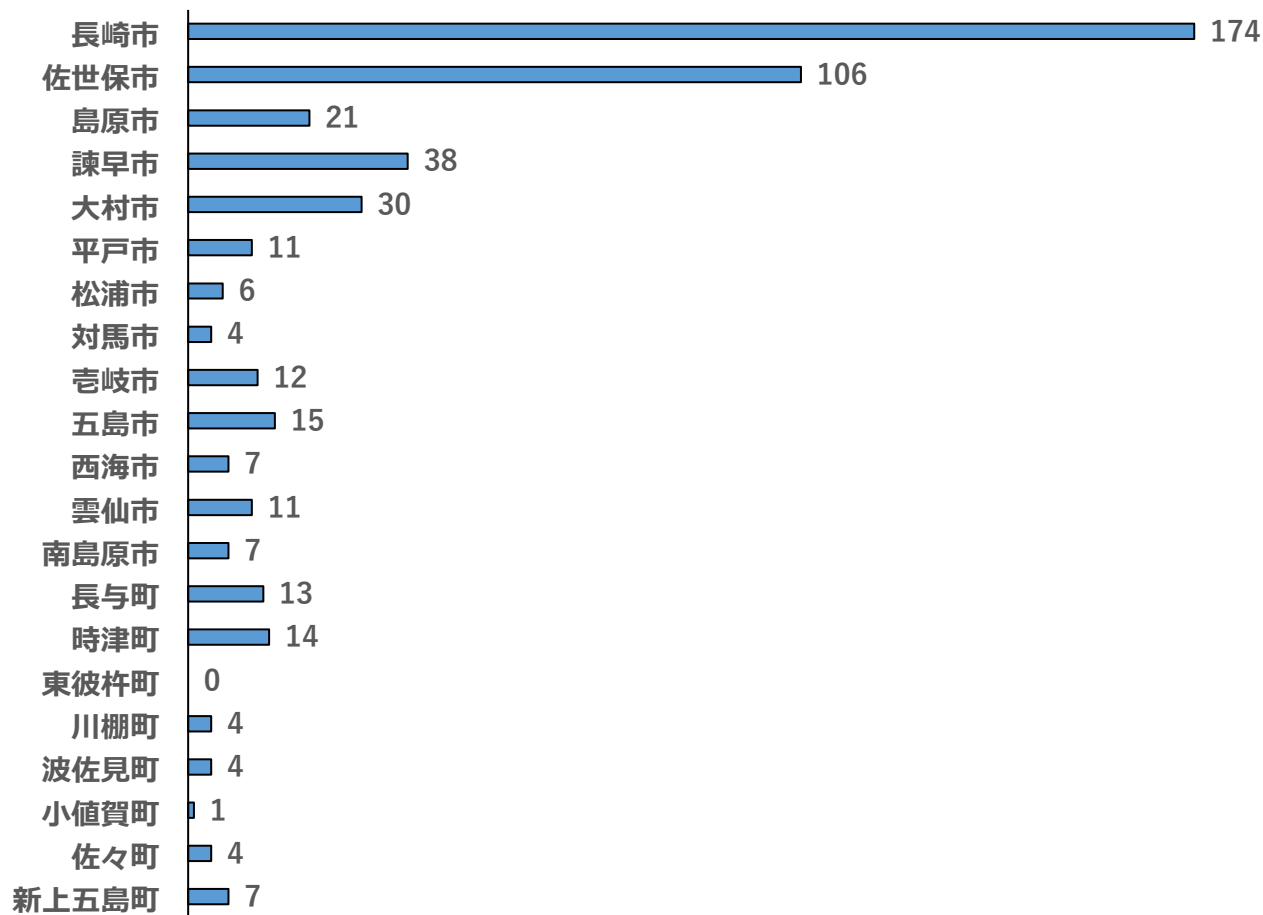
・令和5年2月22日から令和5年3月15日まで

○調査対象

・県内すべての薬局

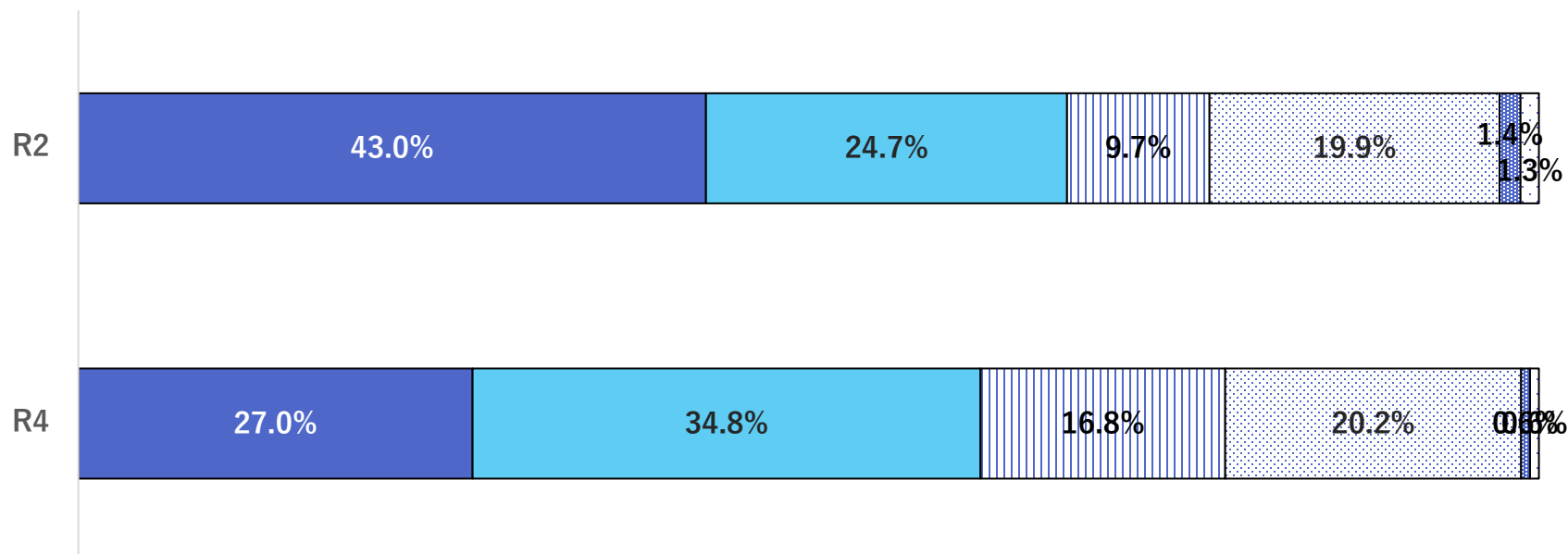
○対象者数、回答者数及び回収率

・対象施設数：735施設、回答施設数：489施設、回答率：66.5%



問2.令和4年度診療報酬改定において、後発医薬品調剤体制加算の見直しが行われましたが、見直し後の後発医薬品調剤体制加算の有無についてお答えください。（単一選択）

- R4年度は「加算3」が27.0%、「加算2」が34.8%、「加算3」が16.8%であり、後発医薬品調剤体制加算を算定している医療機関は全体の78.6%であった。
- R2年度から「加算3」が16.0ポイント減少、「加算2」が10.1ポイント、「加算1」が7.1ポイント増加した。



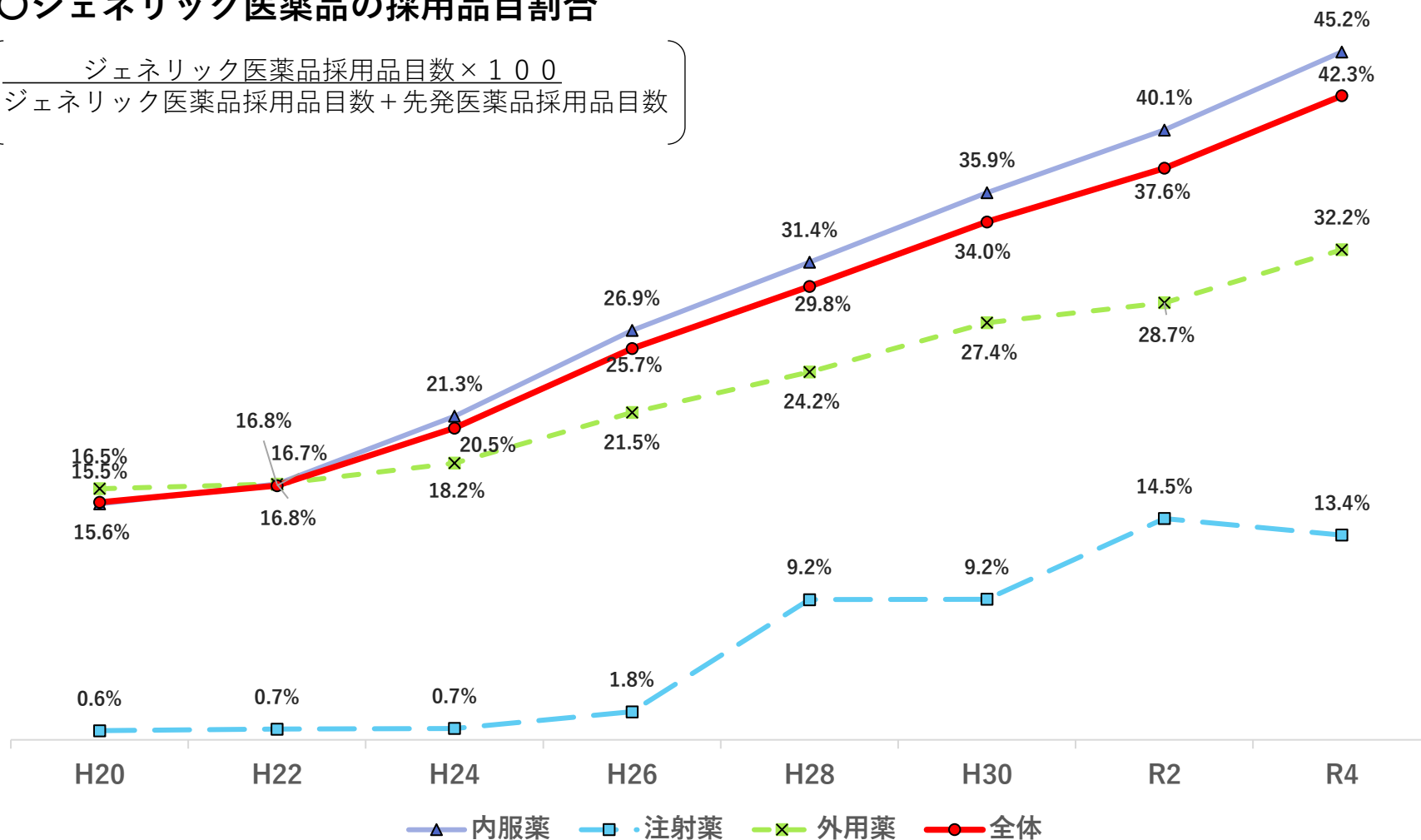
- 1 後発医薬品調剤体制加算3（後発医薬品の調剤数量が85%以上）
- 2 後発医薬品調剤体制加算2（後発医薬品の調剤数量が80%以上）
- 3 後発医薬品調剤体制加算1（後発医薬品の調剤数量が75%以上）
- 4 後発医薬品調剤体制加算なし
- 5 対象外
- 6 未回答

問3. 令和4年12月現在、あなたの薬局における先発医薬品とジェネリック医薬品の備蓄状況（品目数）についてお答えください。（記入）

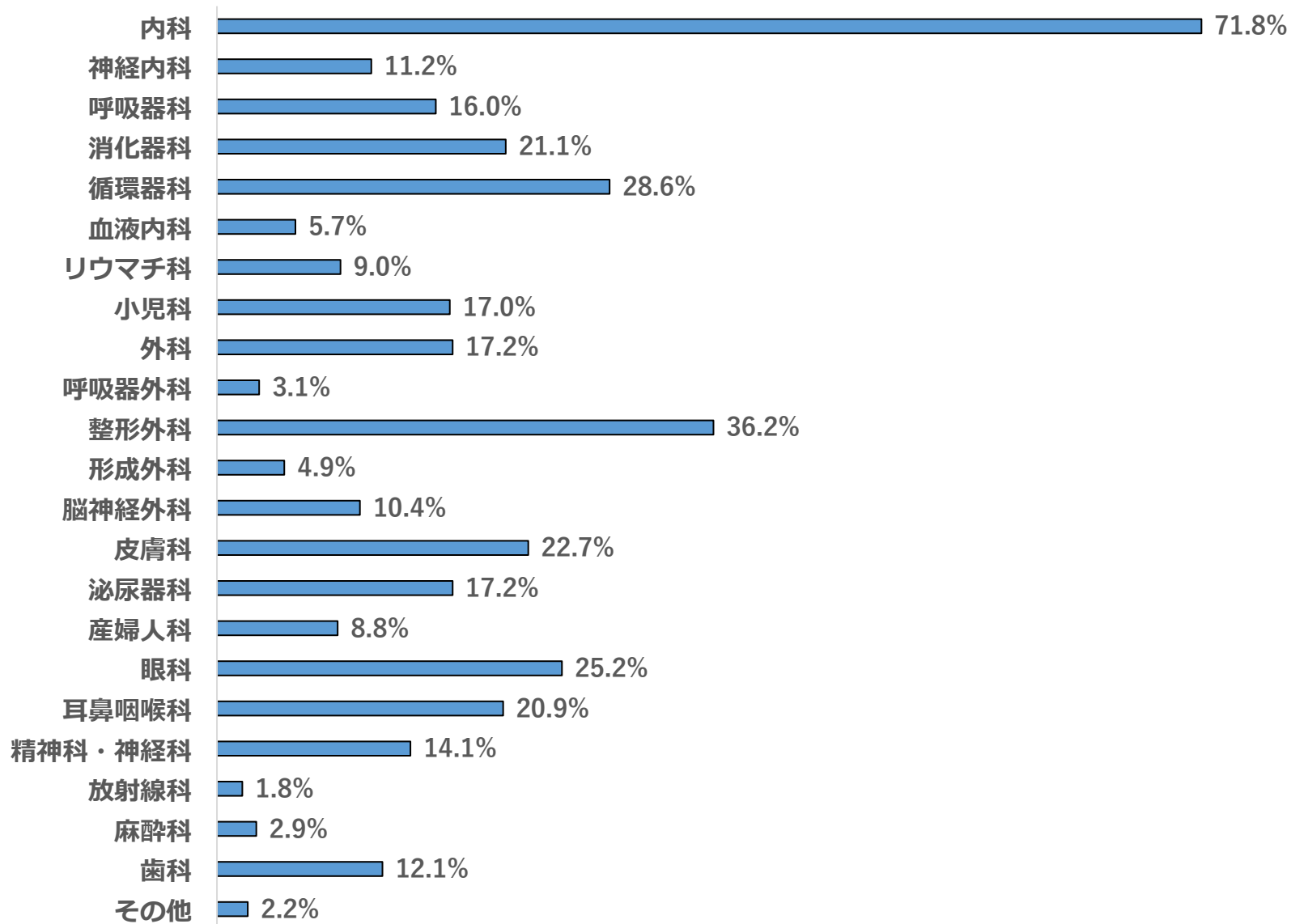
- ジェネリック医薬品の採用品目割合について、R4年度は内服薬が45.2%で最も高く、注射薬が13.4%で最も低かった。また、全体（内服薬＋注射薬＋外用薬）は42.3%であった。
- H20年度から全体の割合が26.7ポイント増加した。

○ジェネリック医薬品の採用品目割合

$$\left(\frac{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} \times 100}{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} + \text{先発医薬品採用品目数}} \right)$$

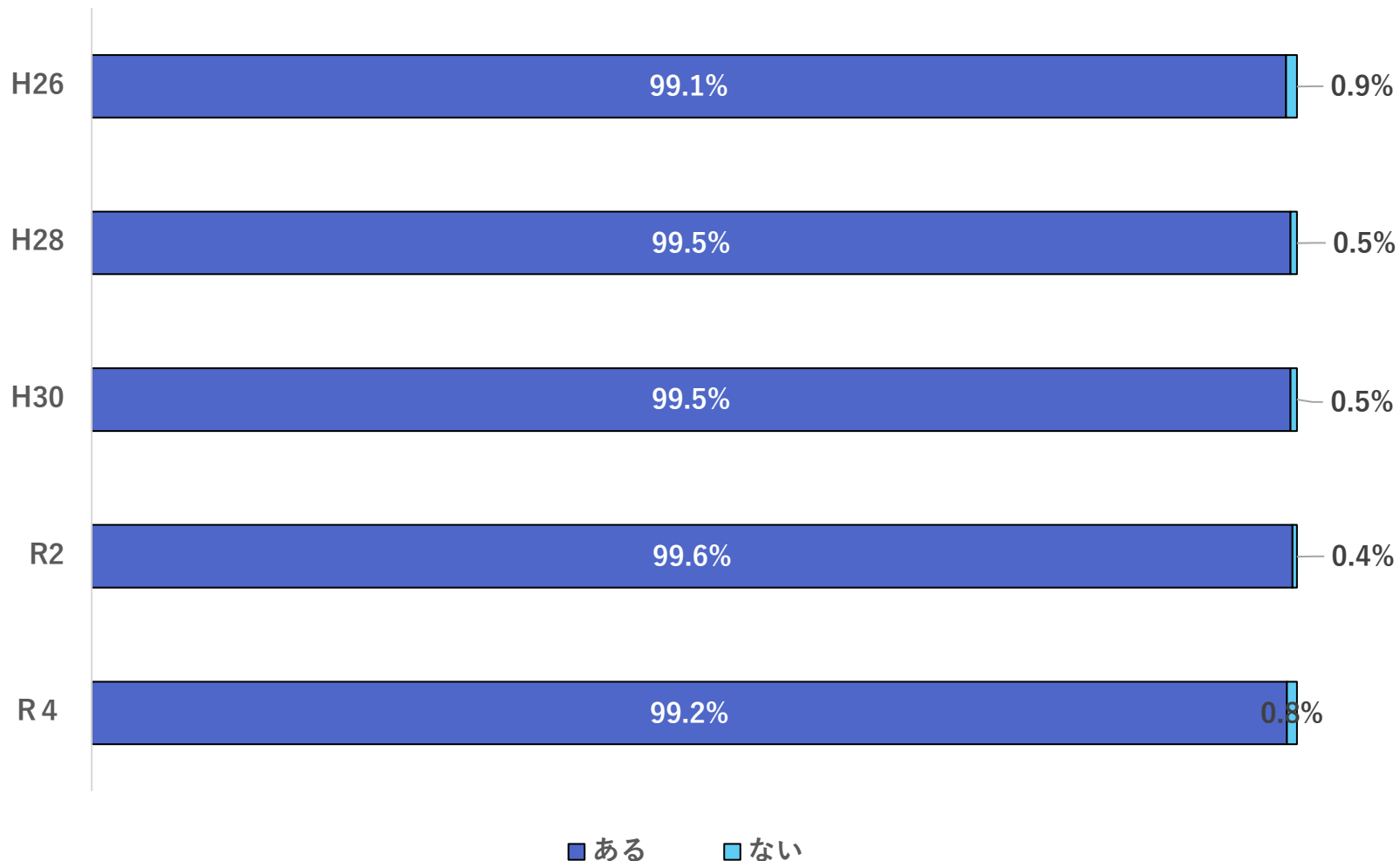


問4.あなたの薬局が処方せんを受けている医療機関の主な診療科目は次のうちどれですか。
(複数選択)



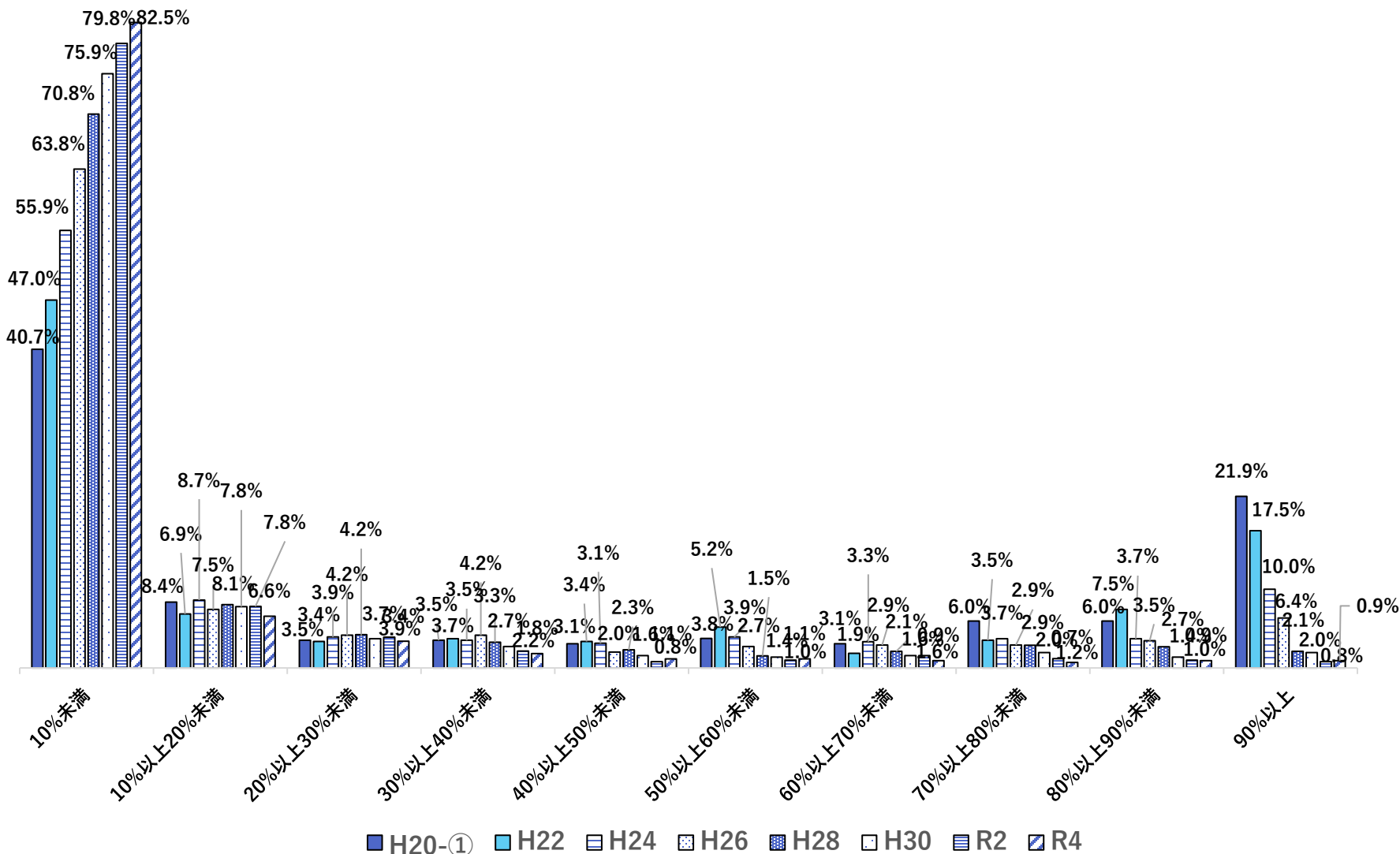
問5.これまでに、あなたの薬局で一般名が記載された処方せんを受けたことがありますか。
(単一選択)

- R4年度は「ある」が99.2%であった。
- H26年度から大きな変化はなかった。



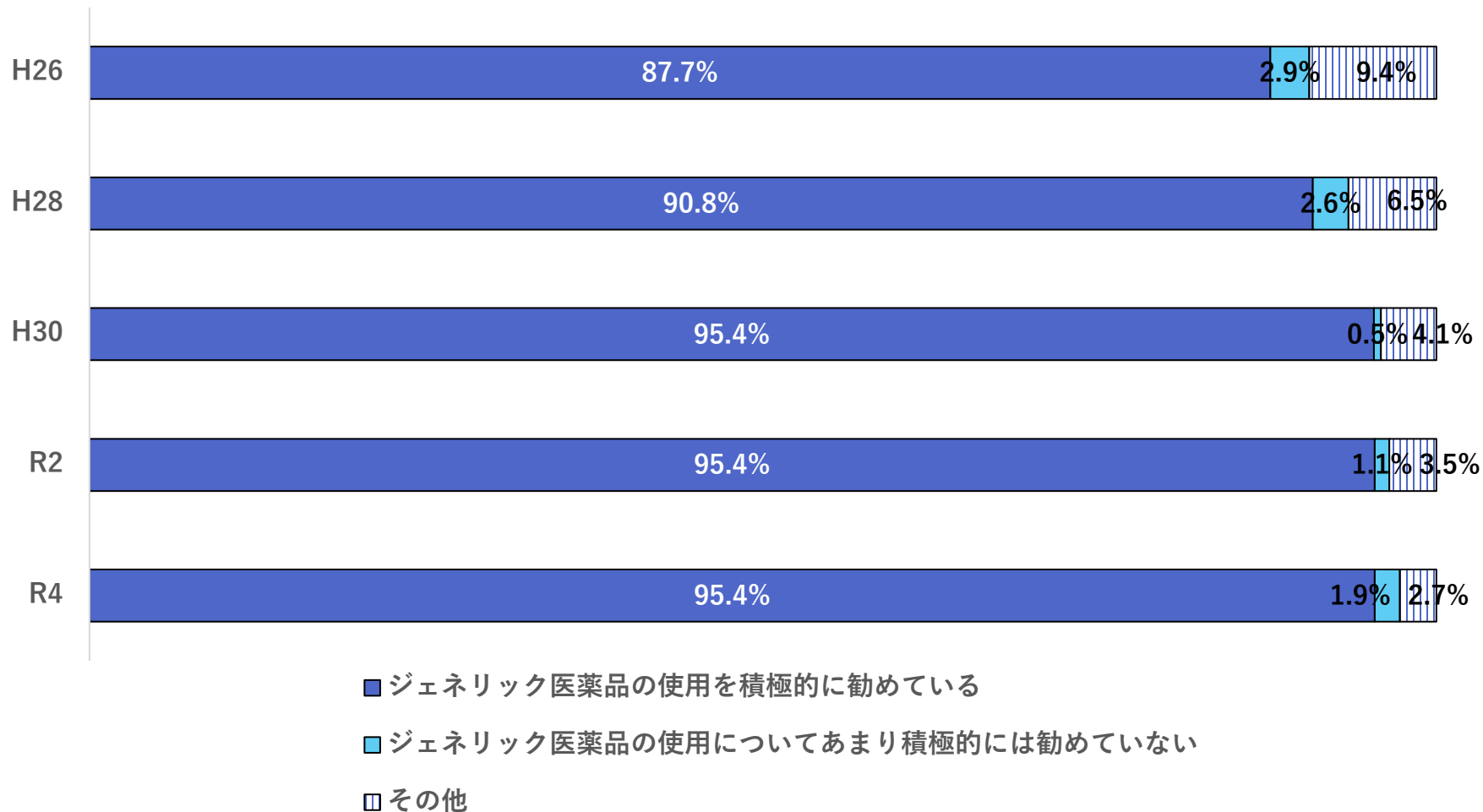
問6.あなたの薬局が令和4年12月（1か月間）に応需した処方せんのうち、「ジェネリック医薬品への変更不可」の処方せん割合は何%ですか。（記入）

- R4年度は「10%未満」が82.5%で最も高かった。
- H20年度から「90%以上」が21.0ポイント減少し、「10%未満」が41.8ポイント増加した



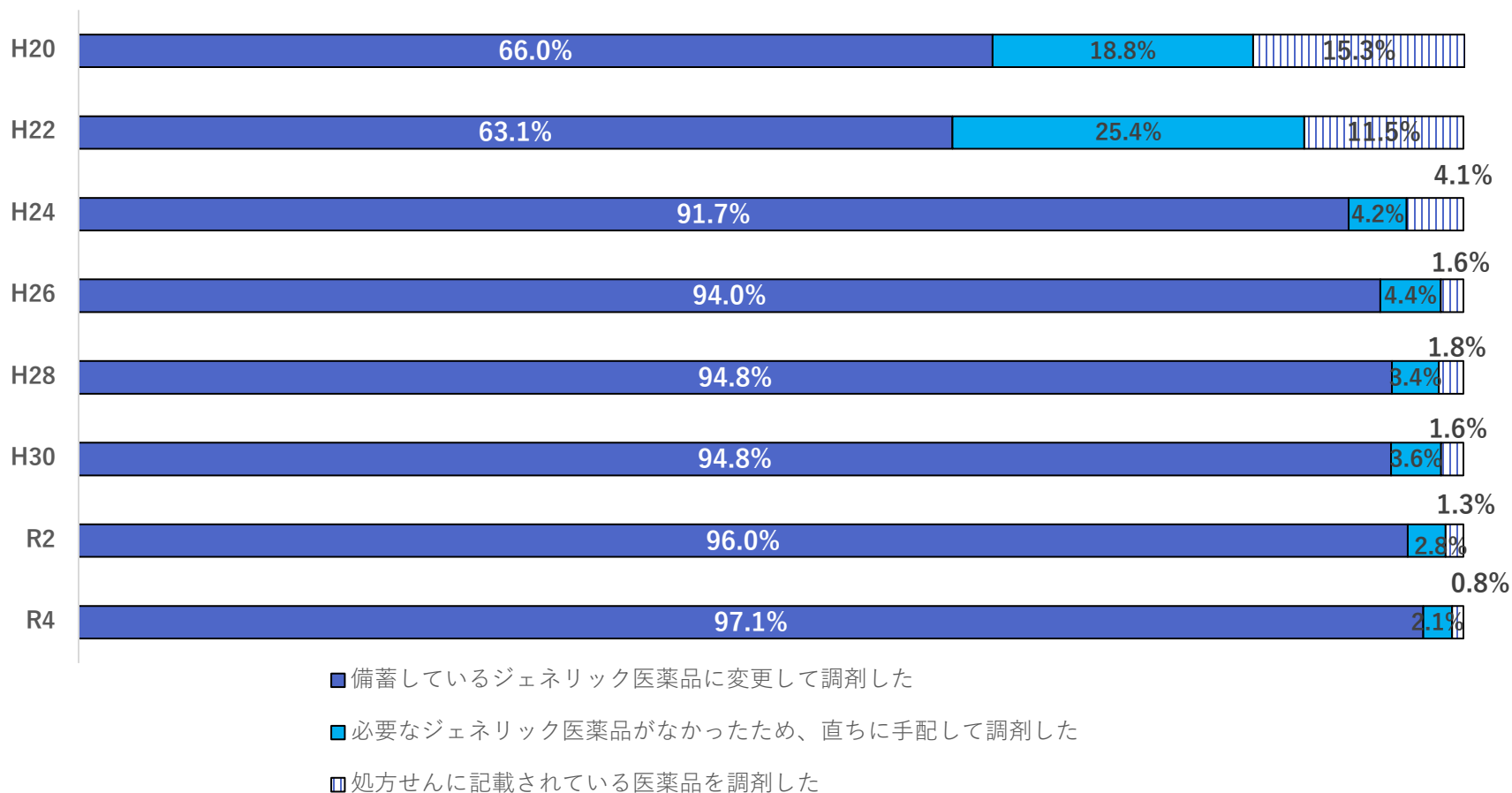
問7.一般名が記載された処方せんを応需して、先発医薬品とジェネリック医薬品の両方の在庫がある場合、あなたの薬局では、ジェネリック医薬品の使用について、患者様に対しどのように説明していますか。（単一選択）

- R4年度は「ジェネリック医薬品の使用を積極的に勧めている」が95.4%であった。
- H26年度から「ジェネリック医薬品の使用を積極的に勧めている」が7.7ポイント増加した。



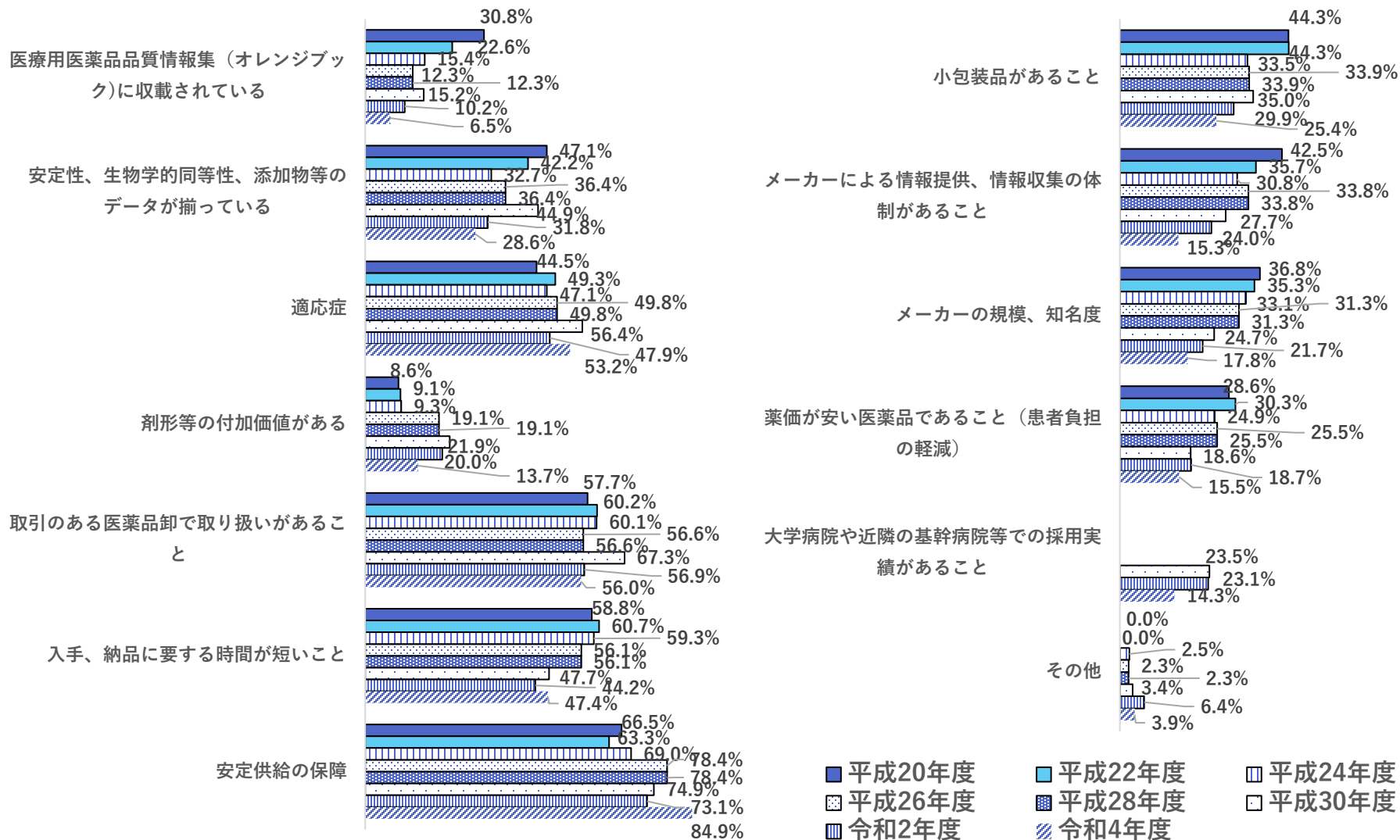
問8. 令和2年5月（1か月間）に応需した処方せんのうち、患者様がジェネリック医薬品を希望した場合のあなたの薬局における対応について、最も多い項目は何ですか。（単一選択）

- R4年度は「備蓄しているジェネリック医薬品に変更して調剤した」が97.1%で最も高かった。
- H20年度から「備蓄しているジェネリック医薬品に変更して調剤した」が31.1ポイント増加した。



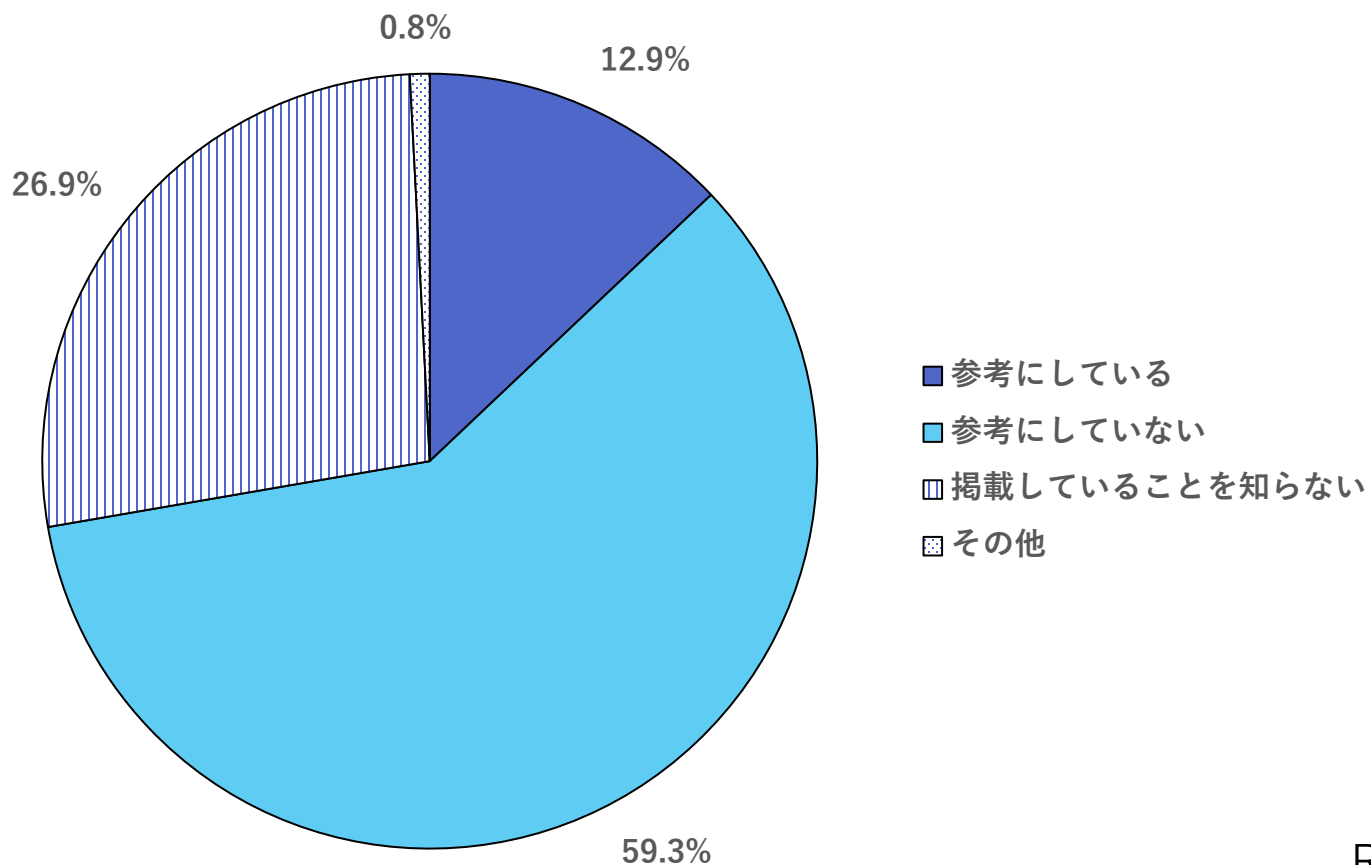
問9.あなたの薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。(複数選択)

- R4年度は「安定供給の保障」が84.9%で最も高く、続いて「取引の医薬品卸で取り扱いがあること」が56.0%であった。
- H20年度から「安定供給の保障」が18.4ポイント増加した。



問10. あなたの薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

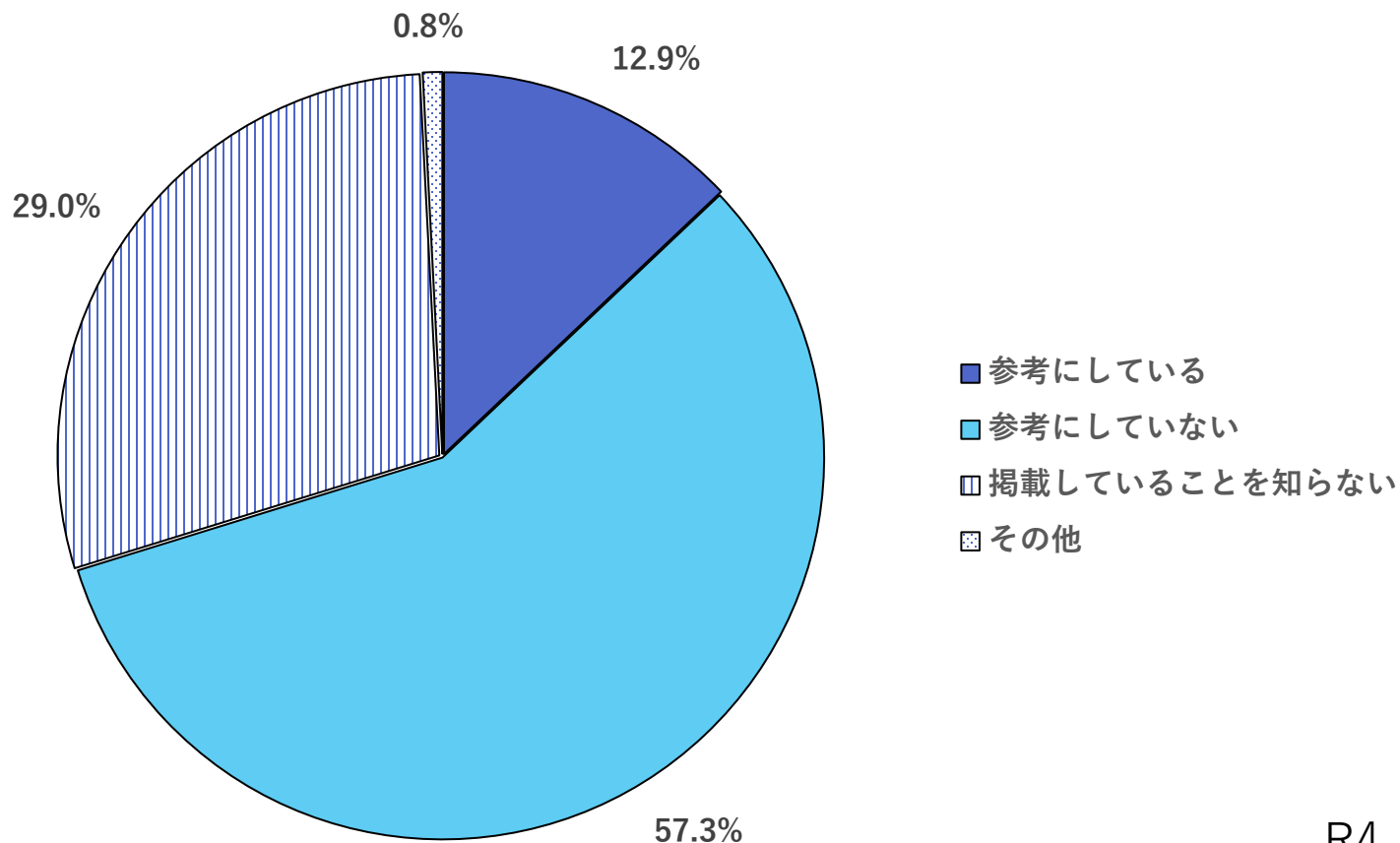
- 「参考にしている」が12.9%であり、「掲載していることを知らない」が26.9%であった。



R4

問11. あなたの薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

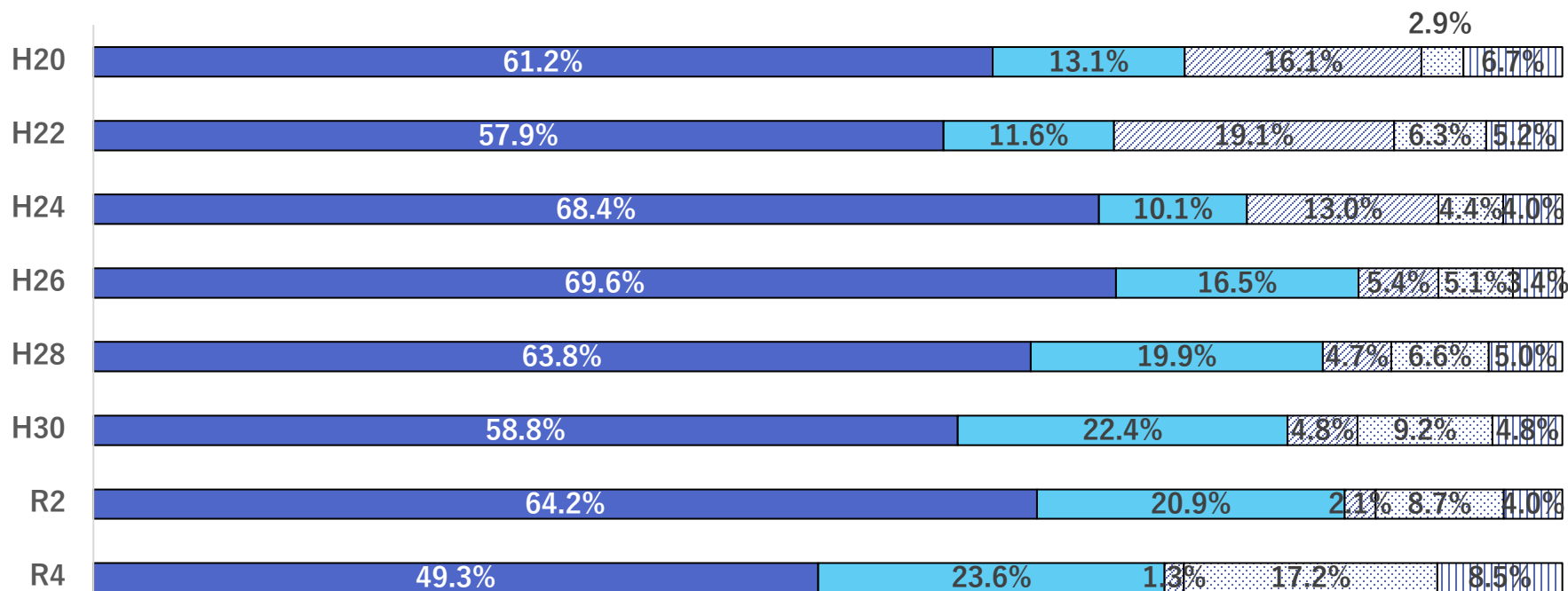
- 「参考にしている」が12.9%であり、「掲載していることを知らない」が29.0%であった。



R4

問12.あなたの薬局で、ジェネリック医薬品に変更されなかった患者様の理由として、次のうちどれに該当するものが最も多いと思いますか。（単一選択）

- R4年度は「普段から使い慣れている薬の方が良いから」が49.3%で最も高く、続いて「効果が同じであるか不安だから」が23.6%であった。
- R4年度は「いったんジェネリック医薬品を使用したか、再度、先発品に戻した」が、R2年度から約2倍に増加していた。

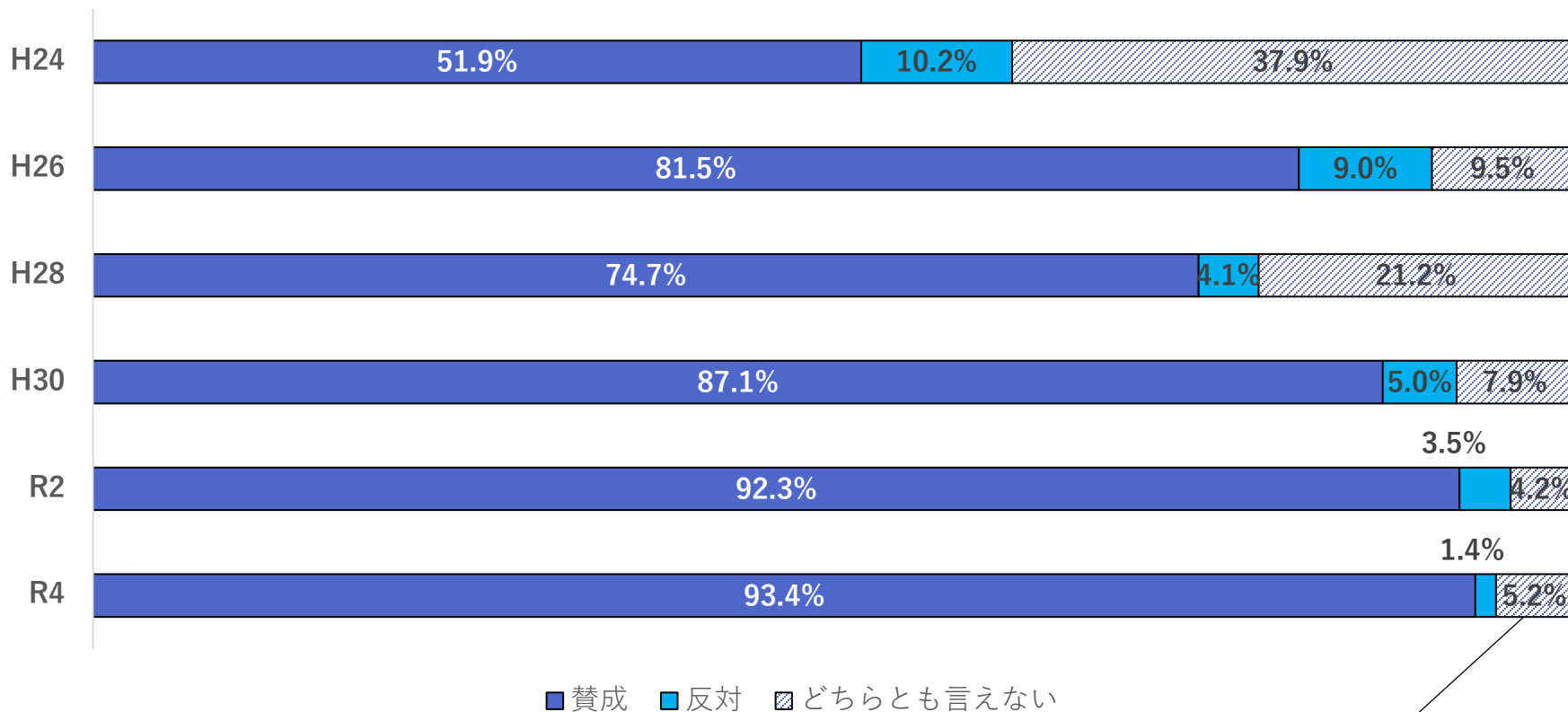


- 普段から使い慣れている薬の方が良いから
- 効果が同じであるか不安だから
- 一部負担金あまり変わらないから
- いったんジェネリック医薬品を使用したか、再度、先発品に戻した
- その他

（その他）主治医の意向、患者の希望、安定供給できないから、副作用が出たことがあるため、信頼性がないため、とにかく変えたくない

問13. 今後、一般名処方が普及していくことについてどのようにお考えですか。（単一選択式）

- R4年度は「賛成」が93.4%で、「反対」は1.4%であった。
- H24年度から「賛成」は41.5ポイント増加した。

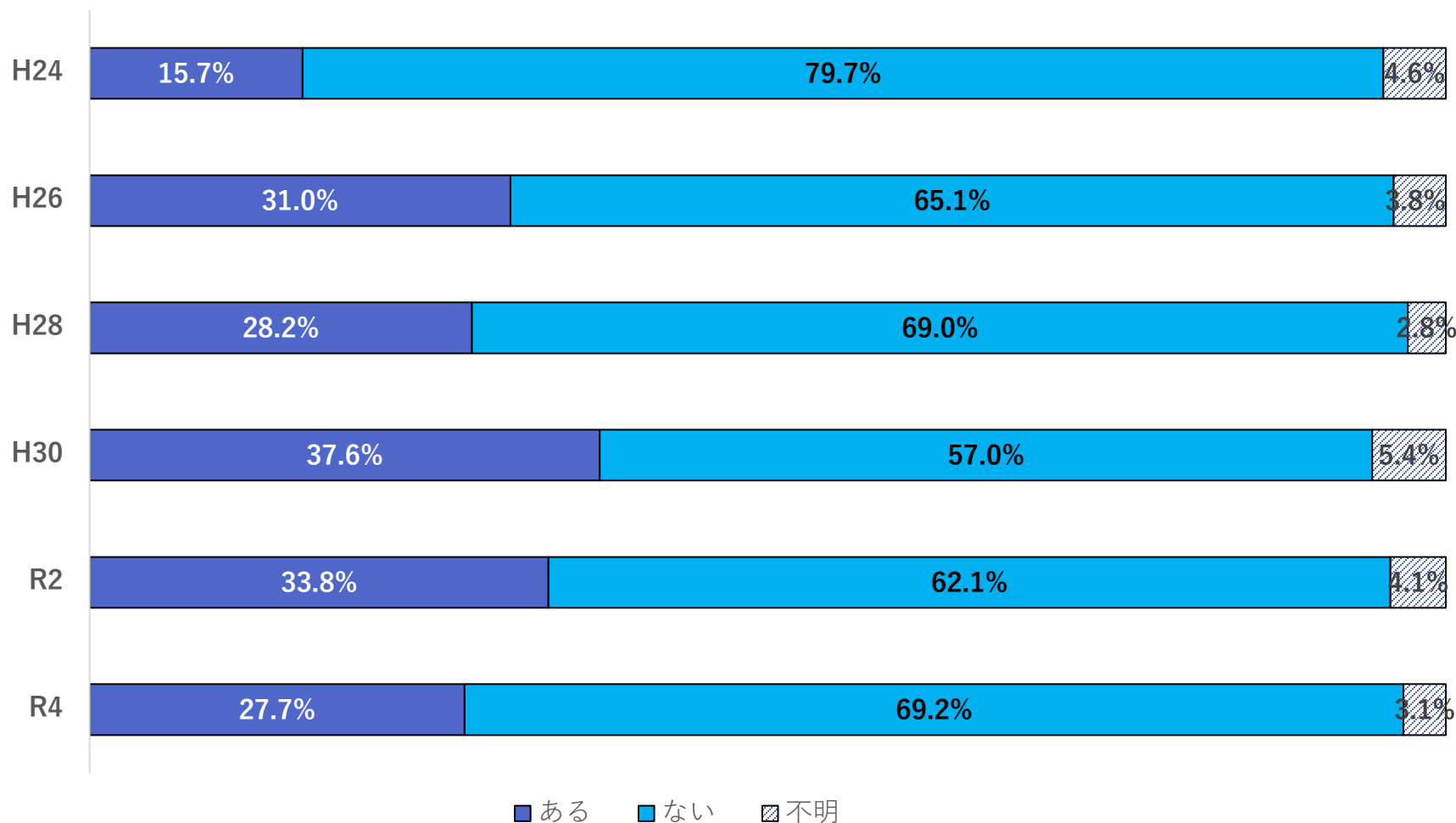


(どちらとも言えない理由)

- ・ どの医薬品が分かりづらい、医療現場で混乱を生じる
- ・ 調剤ミス対策が必要、システム上で処方変更不可

問14.これまでに、あなたの薬局でジェネリック医薬品への変更を患者様に勧めた際、問題になったことはありますか。（単一選択式）

- R4年度は「ある」が27.7%であった。
- H24年度から「ある」が12.0ポイント増加したが、H26年度以降は大きな変化はなかった。



問15- (1) . 《問15で「1.ある」と回答した薬局》患者様とのトラブルのうち、代表的な事例について教えてください。(記入式)

- 患者様とのトラブルの内容について、患者本人からの意見や訴え等があったという回答が133件あり、効果効能に関することが37件で最も多く、続いて不信感・拒絶に関することが32件であった。

【患者本人からの意見や訴え等があった 133件】

□ 効果効能に関すること 37件

効果が感じられなかった・効果が異なるように感じるとの訴え(28件)、効果が思うようになかった。違和感が出た。効果が良くなかったので、戻してほしい等(9件)

□ 使用感等に関すること 13件

外用薬の使用感(剥がれやすい等)が悪いとの訴え等(13件)

□ ジェネリック医薬品に対する不信感・拒絶に関すること 32件

先発医薬品への強いこだわり、ジェネリック医薬品の説明拒否等(18件)、ジェネリック変更後、次回以降先発品に戻すよう訴えあり(3件)、安い薬は不安・怪しいとの先入観あり(11件)

□ 副作用に関すること 15件

副作用(かゆみ、発疹等)が出たとの訴えがあった(15件)

□ 自己負担金額、生活保護者に関すること 4件

生活保護者が原則ジェネリック医薬品を給付することになったことについて、生活保護者からの強い反感があった、先発しか飲まないふざけるなど怒鳴られた等(4件)

□ その他 1件

メーカー変更頻発で見た目がかわる(1件)

問15- (2) . 《問15で「1.ある」と回答した薬局》患者様とのトラブルのうち、代表的な事例について教えてください。(記入式)

【情報提供等に関するトラブル 12件】

- ジェネリック医薬品やその制度（医療費削減、一般名処方等）に関する情報提供をしても患者の理解が得られない等 10件
- 薬局で勝手にジェネリック医薬品に変更したと勘違いされた、そもそもジェネリックというのがどういったものなのか理解しておらず、説明をしてもわからない等 2件

【その他、ジェネリック医薬品への変更できなかった事例 19件】

- 主治医の方針等 9件
変更不可の処方箋（5件）、主治医がジェネリック医薬品に不信感を抱いている（4件）
- 家族や知人の影響 3件
本人はジェネリック希望するも、家族からジェネリック医薬品にするなどの訴え（2件）、その他1件）
- その他7件
製造販売中止等で供給支障をきたす等安定供給に関すること（7件）

問16. ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者様の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 使用感がよくなった、コンプライアンスが向上したといった事例が87件あり、特に「剤型が変わり飲みやすくなった」が35件で最も多く、続いて「味やにおいが良くなった」が16件であった。

●使用感が良くなった、コンプライアンスが向上した 87件

- ・剤型が変わり飲みやすくなった
(錠→OD錠18件、カプセル→錠15件、錠→粒状錠2件) 35件
- ・剤型が小さくなり飲みやすくなった 5件
- ・先発品にない大規格があり服用する数量が減った 10件
- ・味やにおいが良くなった 16件
- ・外用剤の使用感が良くなった 3件
- ・包装、容器等が使いやすくなった 6件
- ・一包化できるようになり、コンプライアンスが向上した 5件
- ・その他 7件

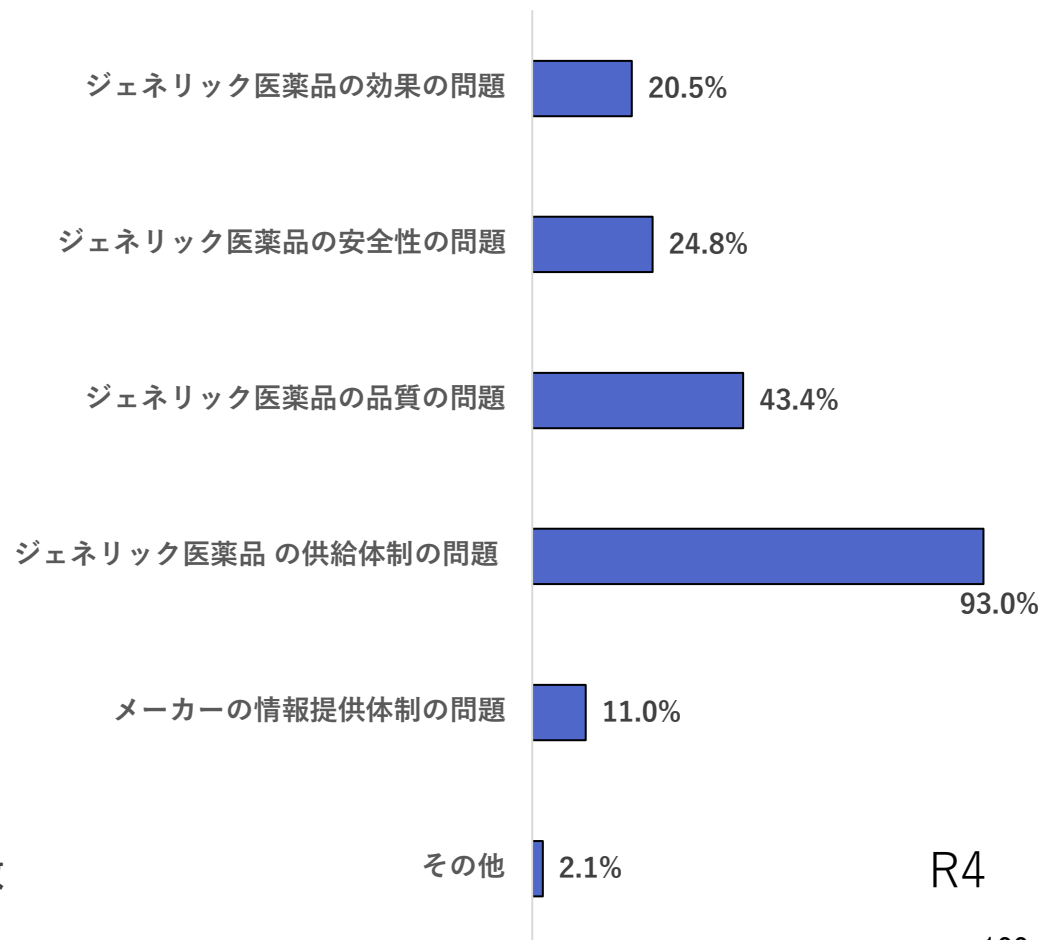
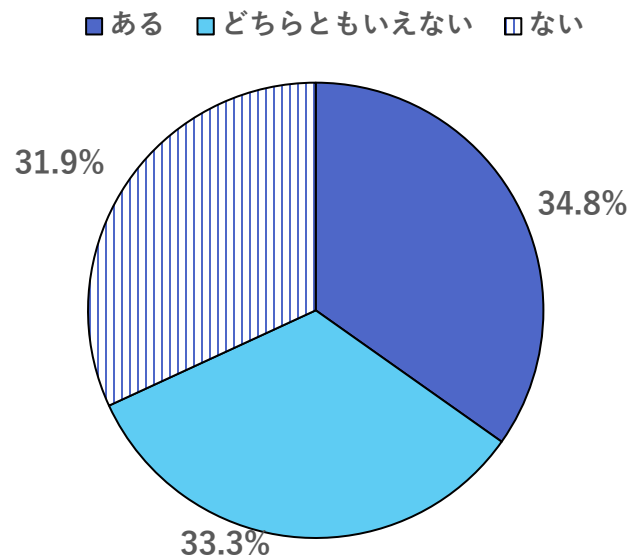
●負担金が減った 5件

●その他 3件

- ・保管が室温で良くなった等 3件

問17. ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択）

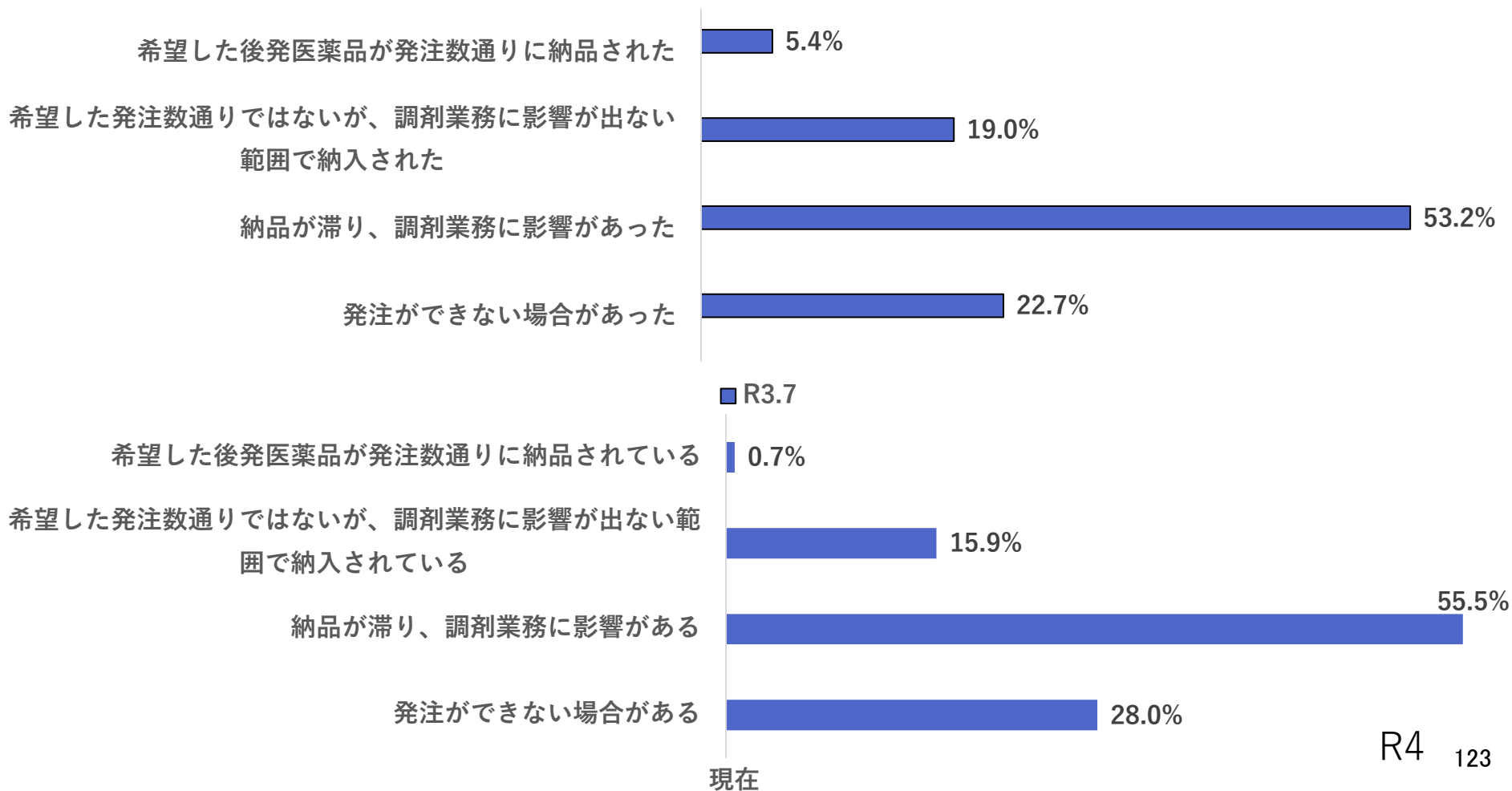
- 「ある」が34.8%、「どちらともいえない」が33.3%であった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」が93.0%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が43.4%であった。



問18. 《問17で「1.ある」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）

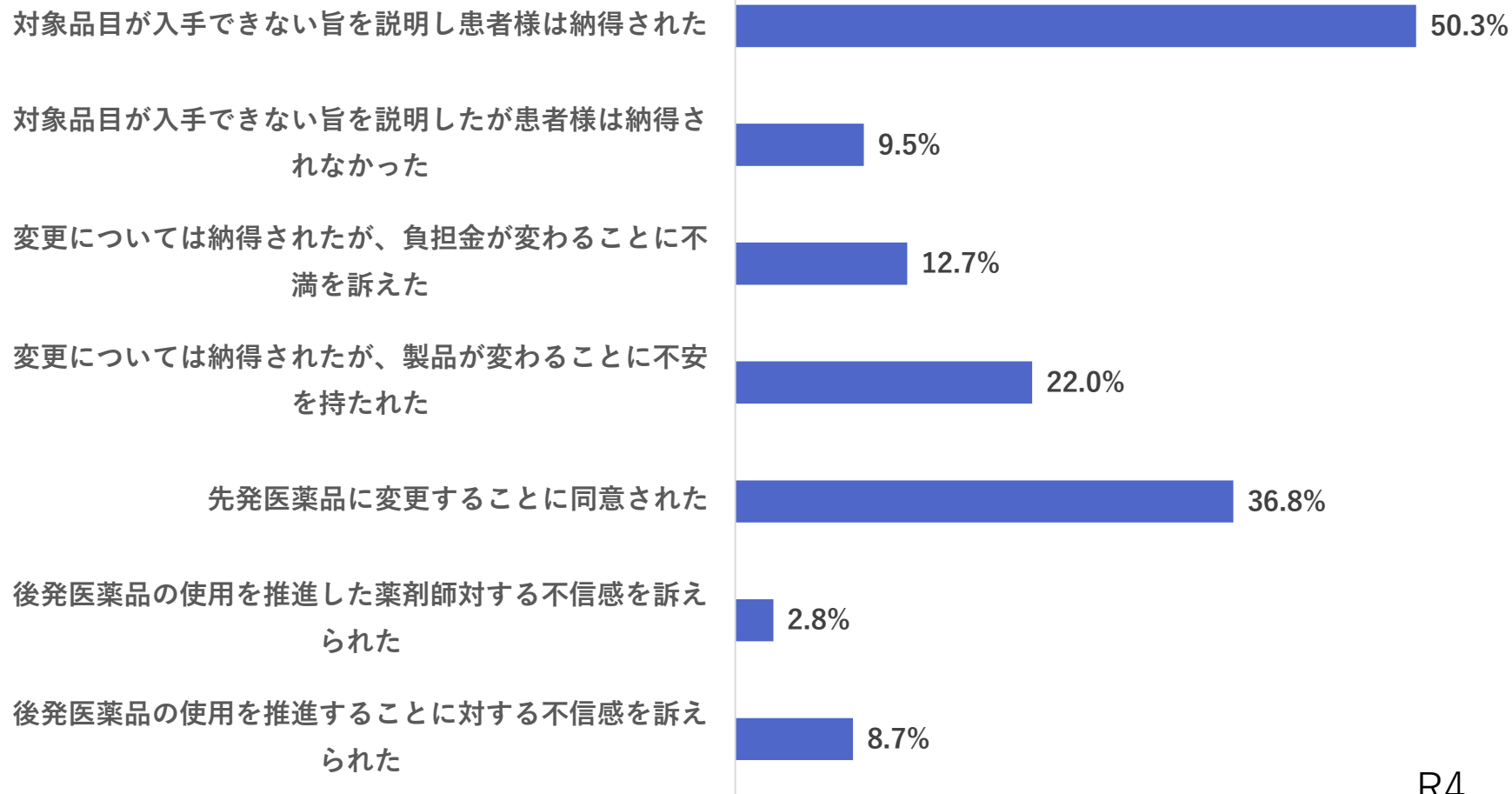
問19. 一昨年の複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの薬局で採用している後発医薬品の「令和3年7月」及び「現在」の納入状況についてお答えください。（単一選択式）

- 「令和3年7月」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響があった」が53.2%で最も高く、続いて「発注できない場合があった」が22.7%であった。
- 「現在」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響がある」が55.5%で最も高く、続いて「発注できない場合がある」が28.0%であった。



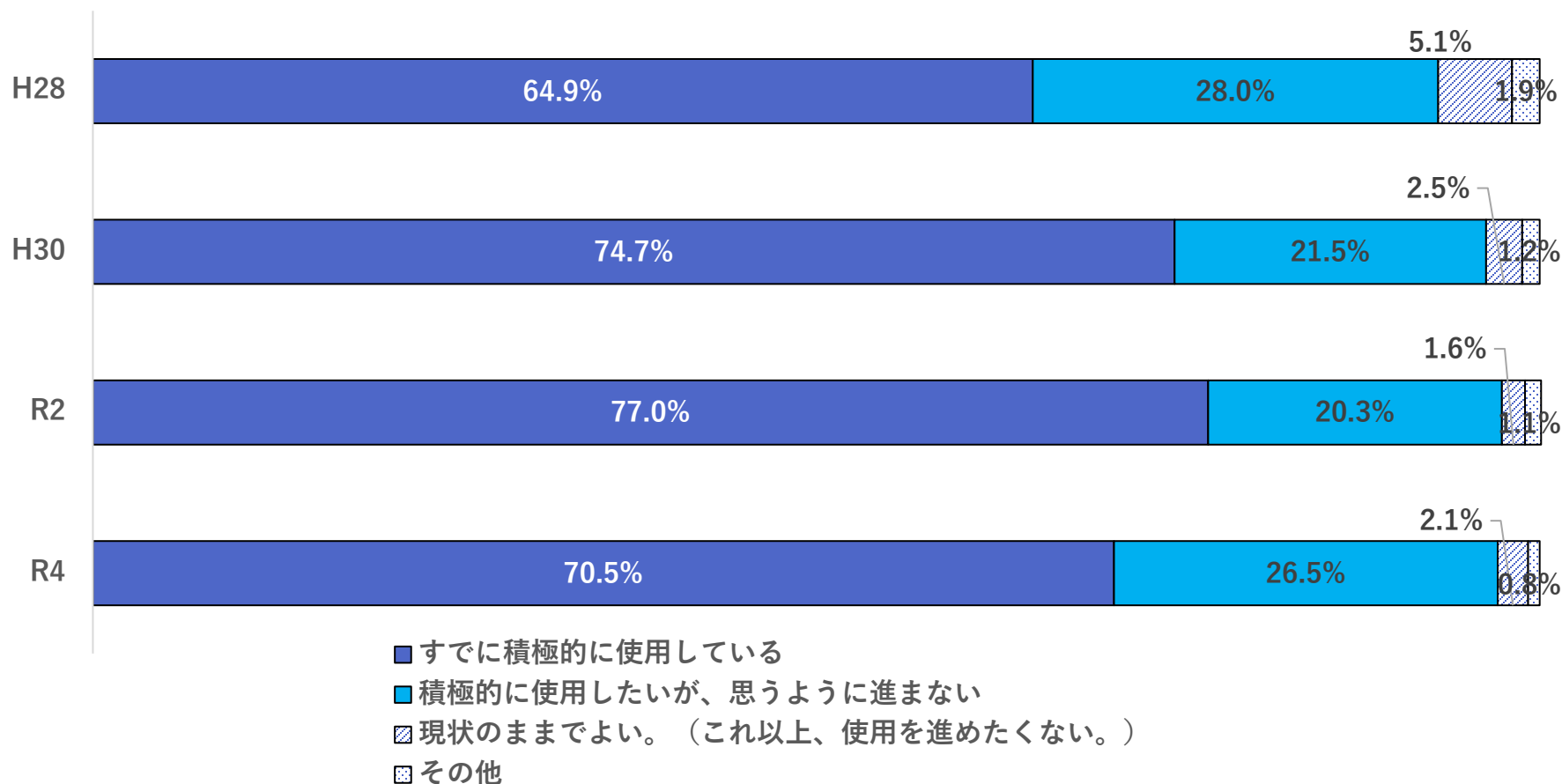
問20. 《問19で令和3年7月および現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

- 「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が50.3%で最も高く、続いて「先発医薬品に変更することに同意された」が36.8%であった。



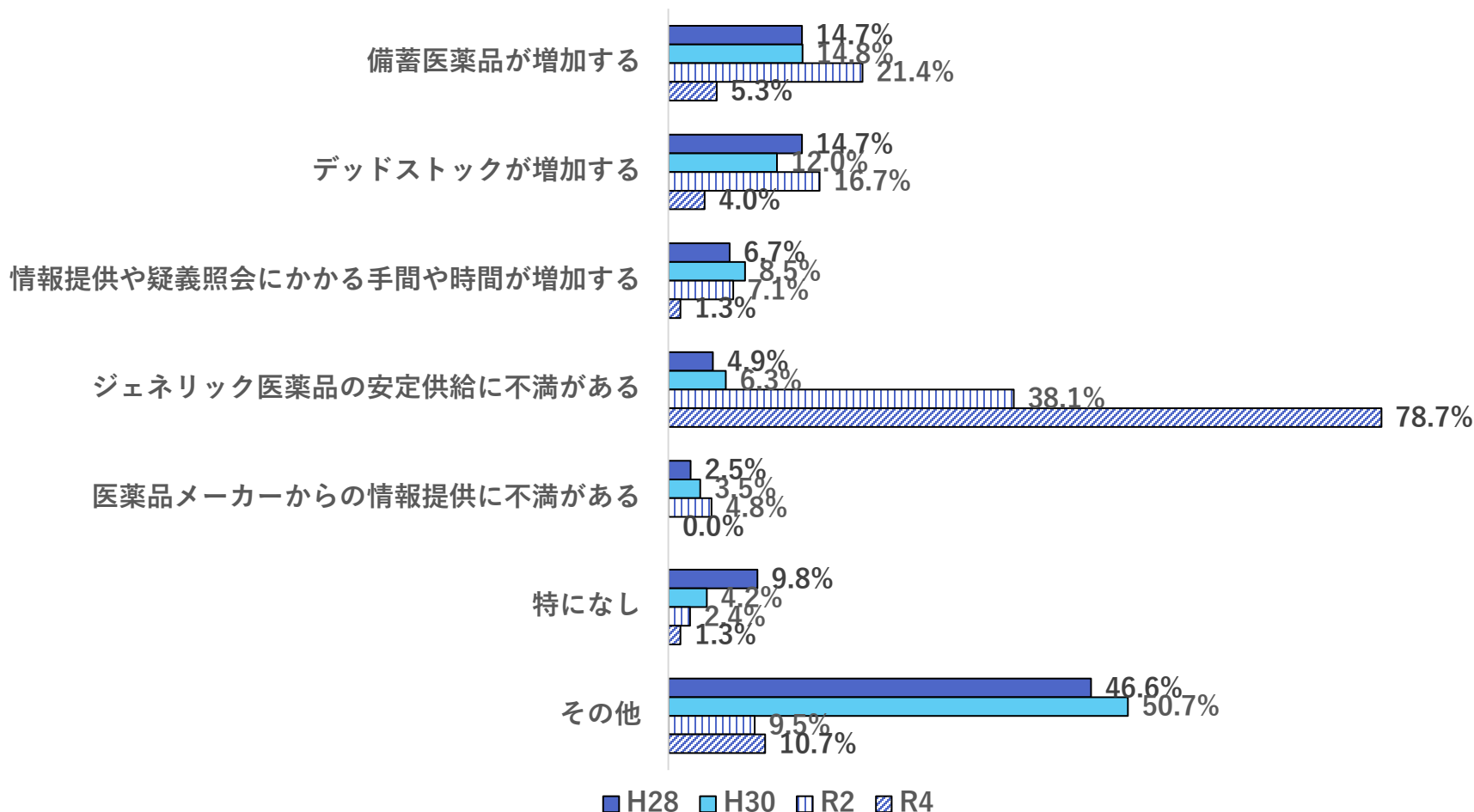
問21.あなたの薬局では、ジェネリック医薬品を積極的に使用していきたいと考えていますか。
 (単一選択式)

- R4年度は「すでに積極的に使用している」が70.5%で最も高く、続いて「積極的に使用したいが、思うように進まない」が26.5%であった。
- H28年度から「すでに積極的に使用している」が5.6ポイント増加し、「積極的に使用したいが、思うように進まない」が1.5ポイント減少した。



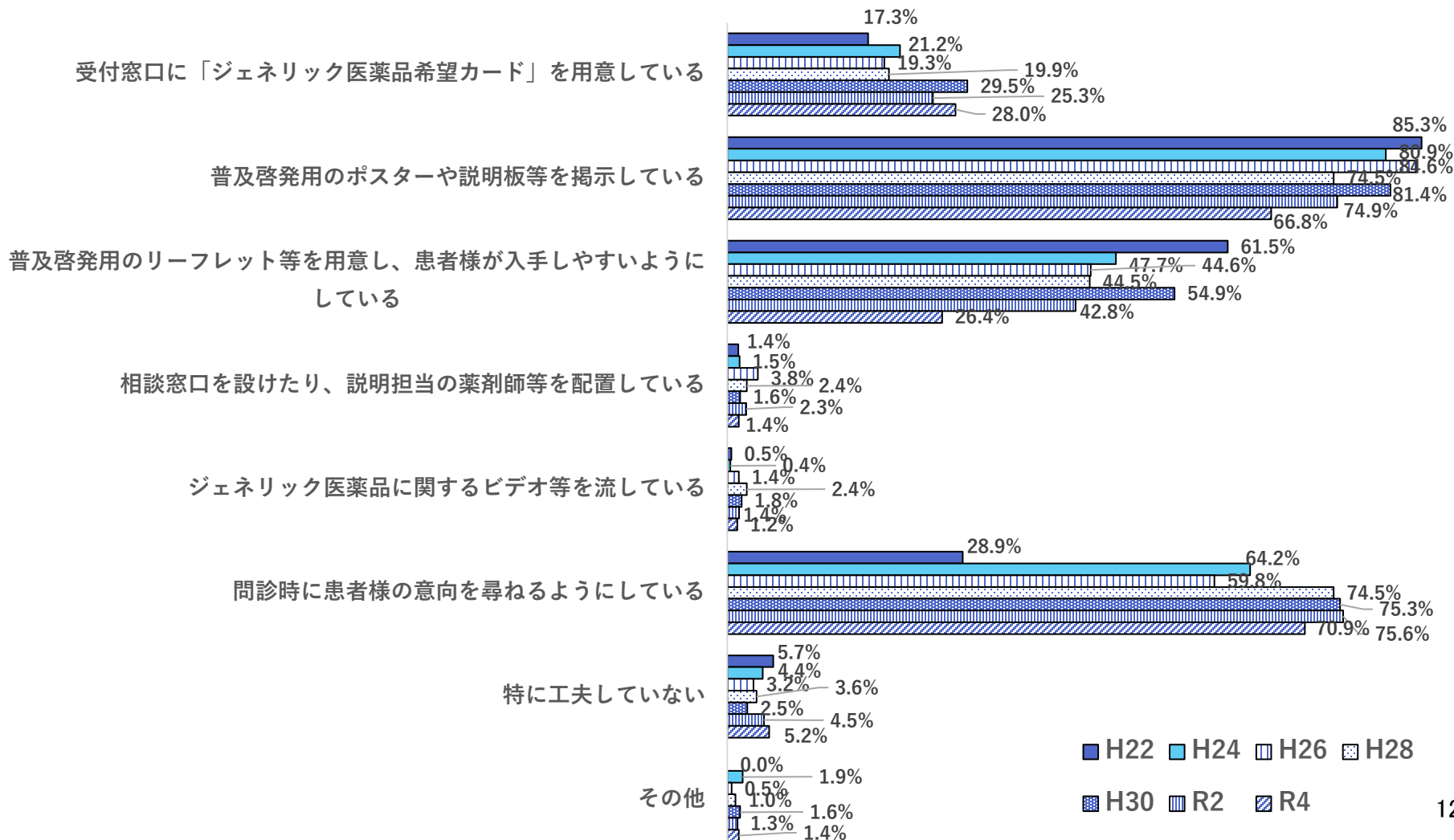
問22. 《問21で「2.積極的に使用したいが、思うように進まない。」と回答した薬局》ジェネリック医薬品の使用促進にあたって、思うように進まない最も大きな理由は何ですか。
(単一選択式)

- R4年度は「ジェネリック医薬品の安定供給に不満がある」が78.7%で最も高かった。
- H28年度から「ジェネリック医薬品の安定供給に不満がある」が73.8ポイント増加した。



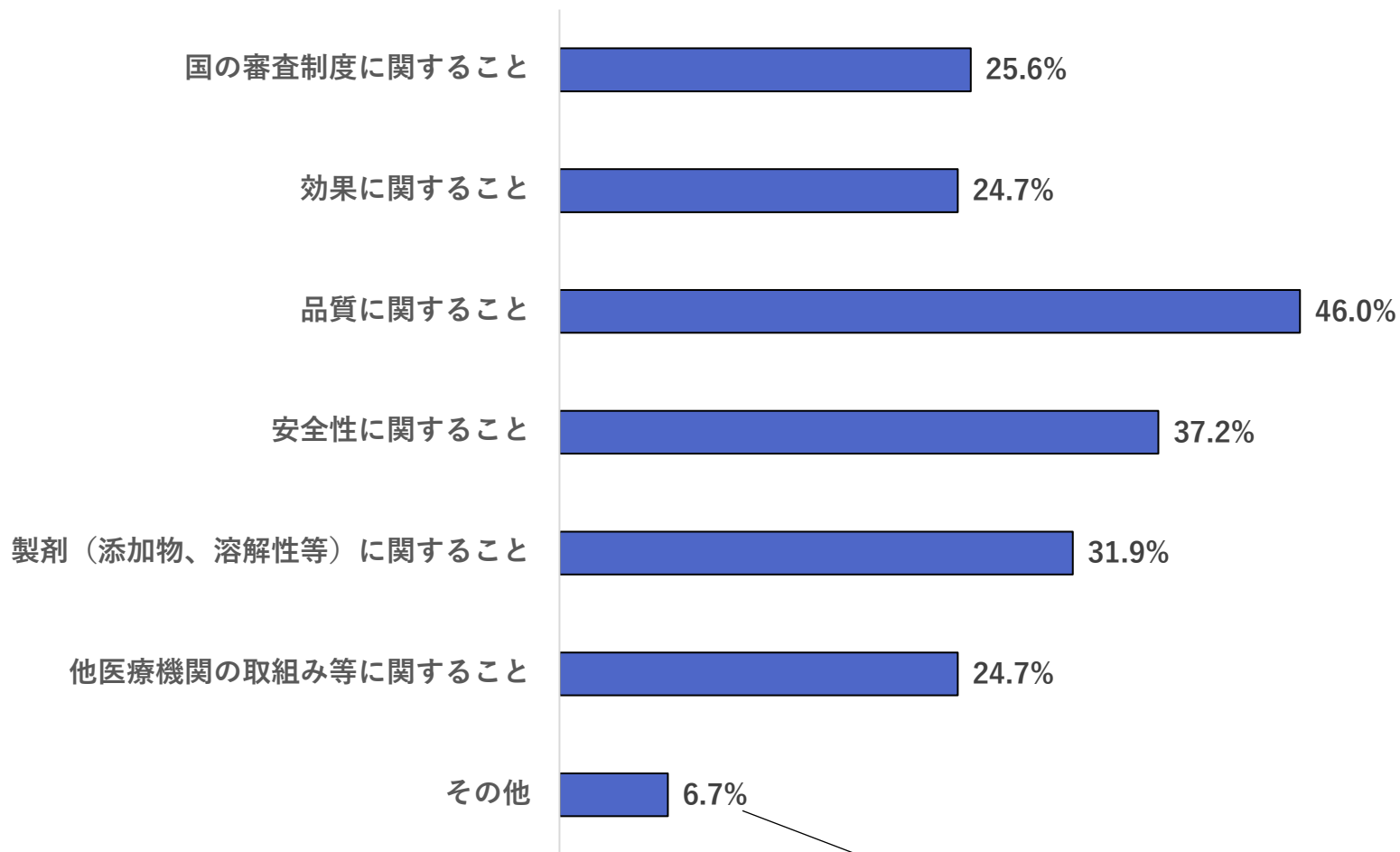
問23. あなたの薬局では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をされていますか。（複数選択式）

- R4年度は「問診時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が70.9%で最も高く、続いて「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が66.8%であった。
- H22年度から「問診時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が42.0ポイント増加した。



問24. 本県では定期的（年1、2回程度）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

- 「品質に関すること」が46.0%で最も高く、続いて「安全性に関すること」が37.2%であった。

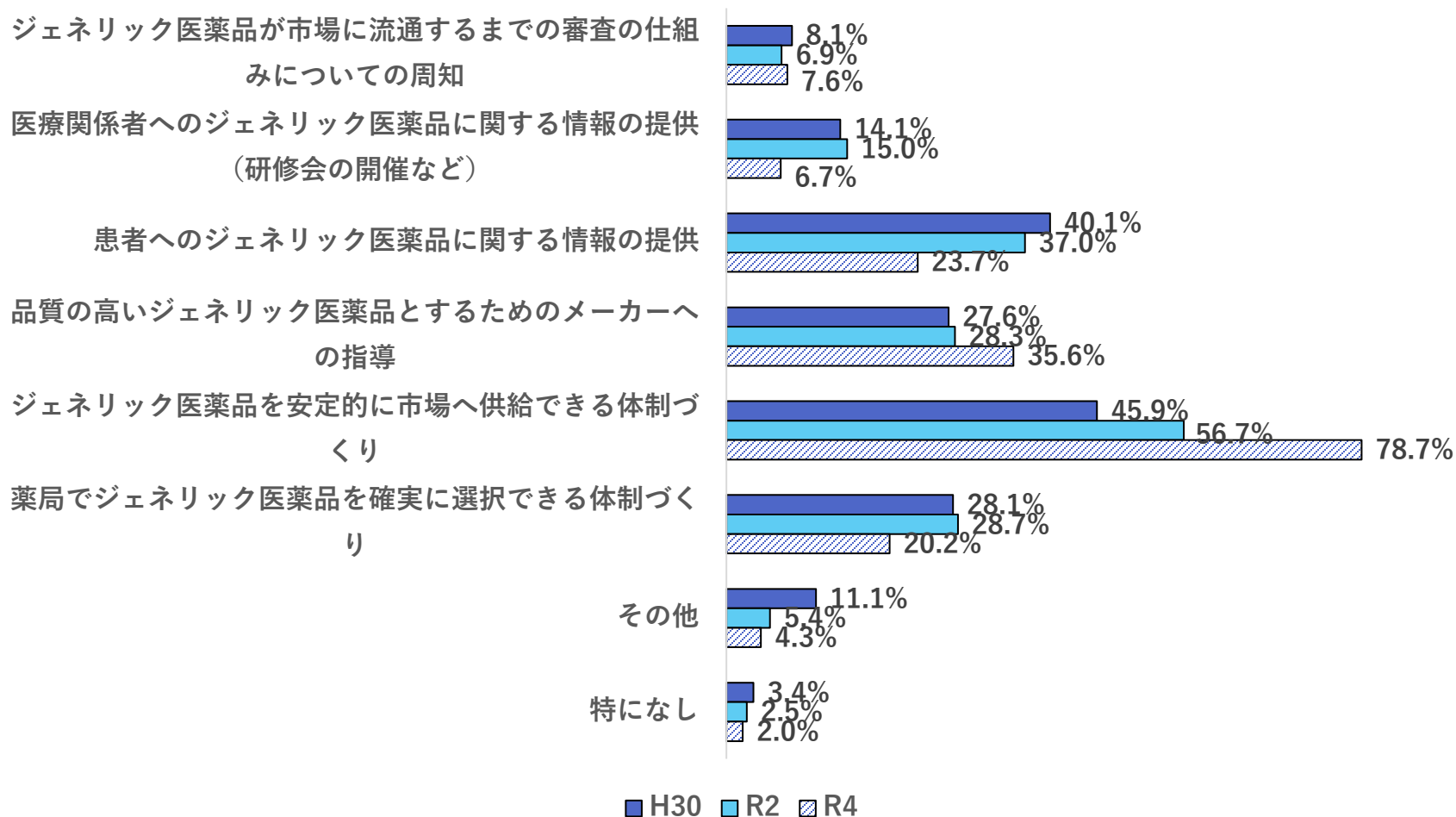


安定供給に関すること 17件
その他

R4

問25. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

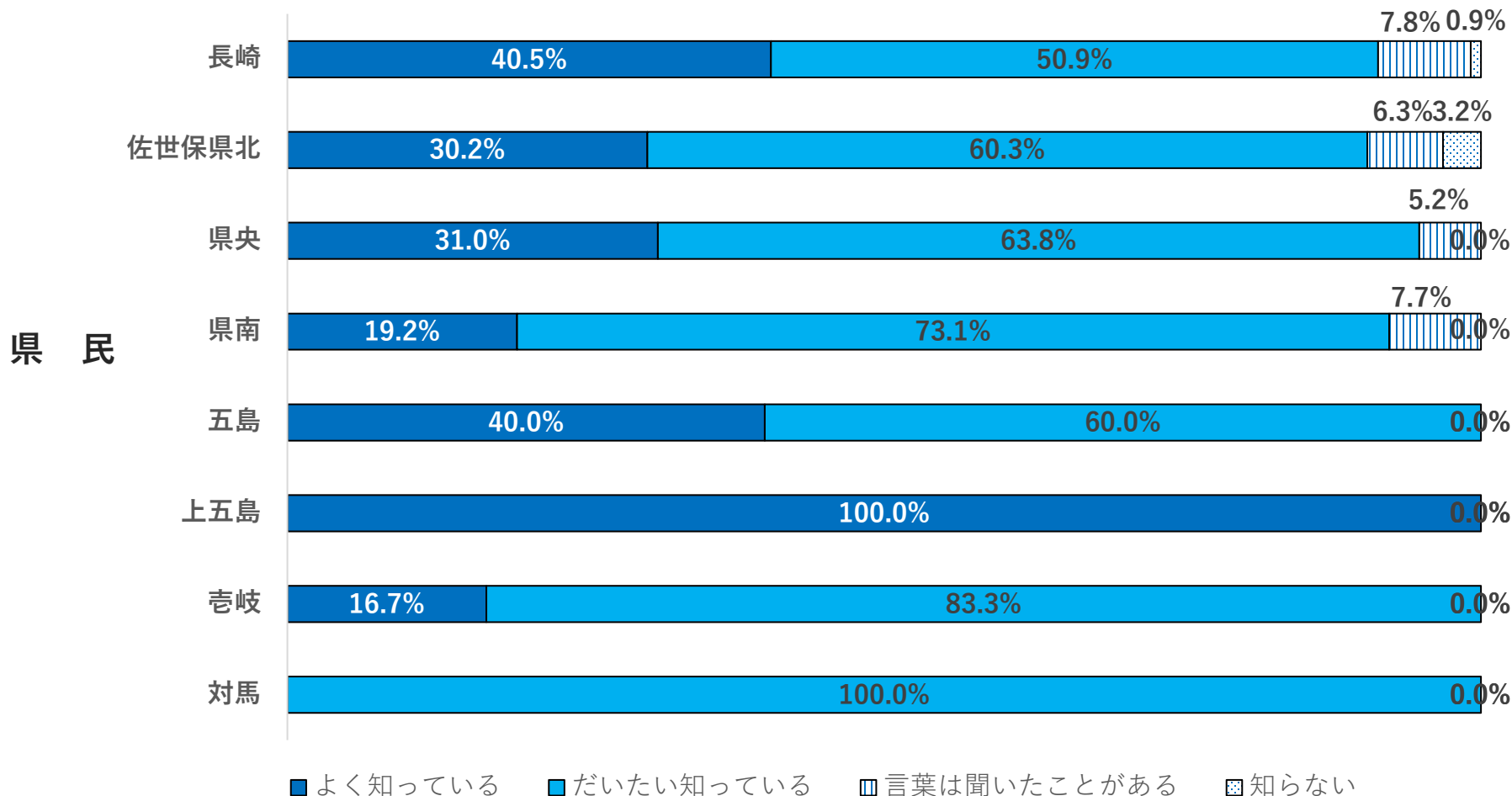
- R4年度は「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が78.7%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が35.6%であった。
- H30年度から「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が32.8ポイント増加した。



二次医療圏比較

【県民アンケート】問1.「ジェネリック医薬品」（後発医薬品）のことについて
 ご存知ですか。（単一選択式）

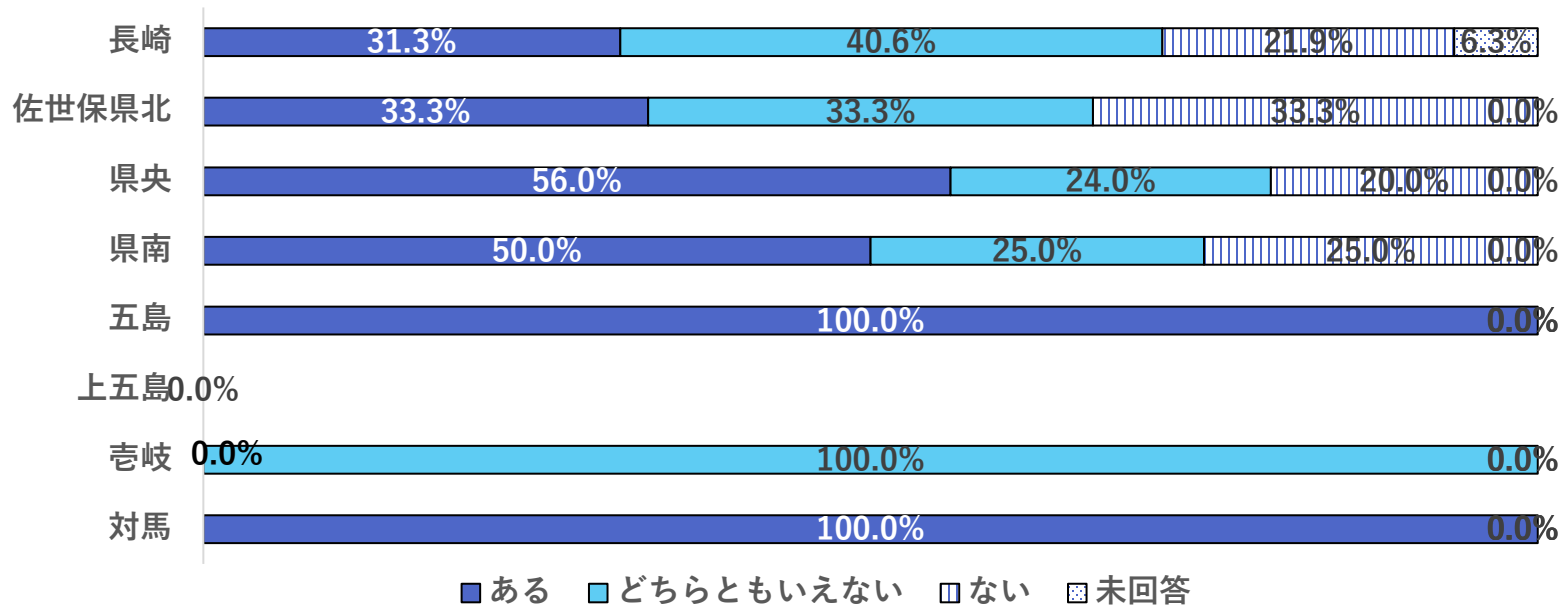
- 「よく知っている」と「だいたい知っている」の合計は、本土地区では佐世保県北地区が90.5%で最も低かった。



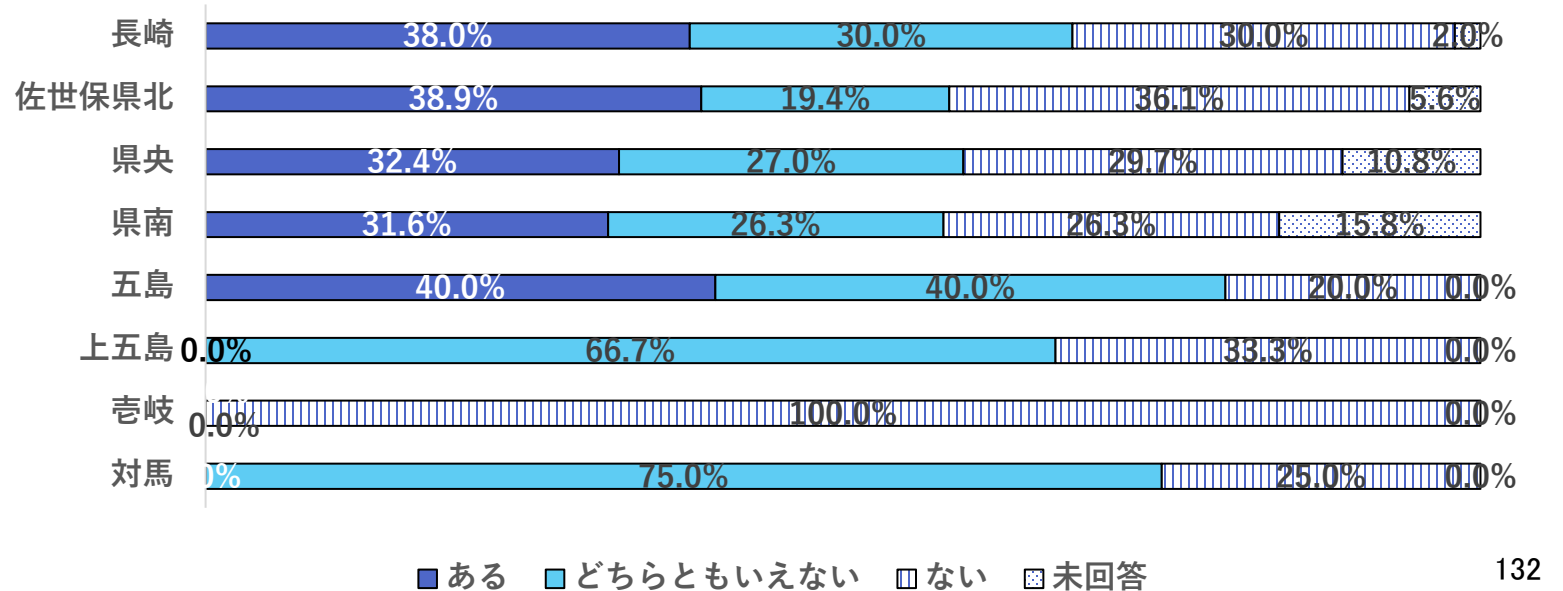
【医療機関、薬局アンケート】ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感
 がありますか？（単一選択式）（その1）

医療圏比較

病院



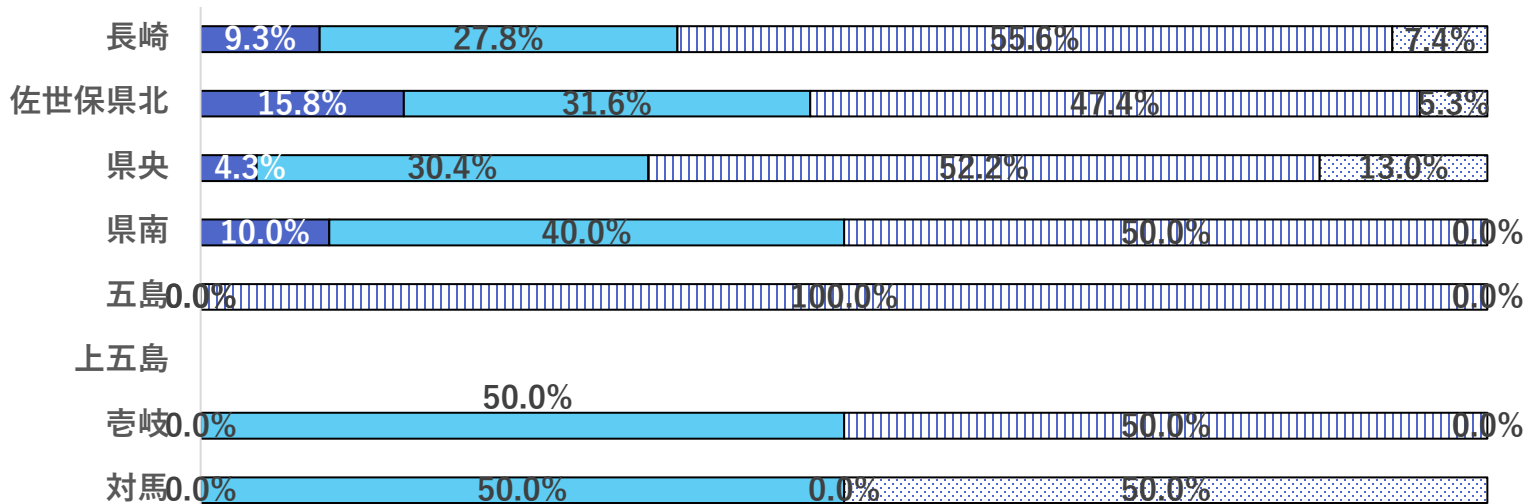
診療所



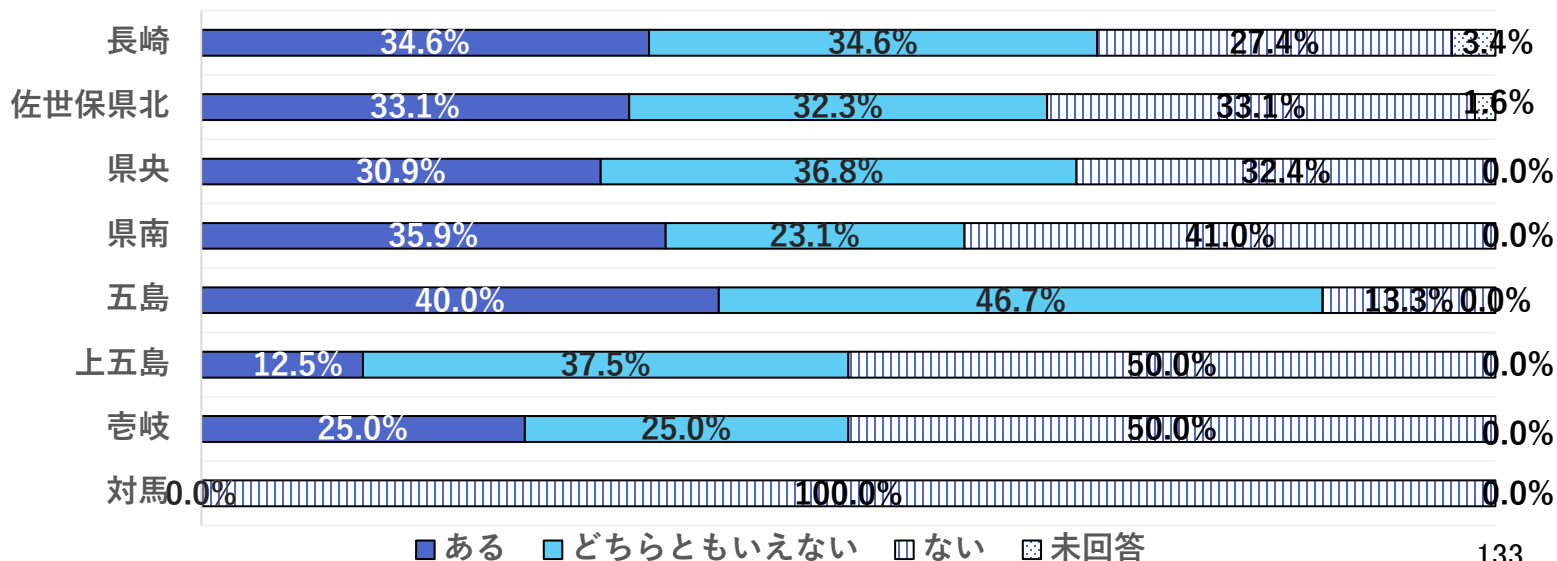
【医療機関、薬局アンケート】ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感
 がありますか？（単一選択式）（その2）

医療圏比較

歯科診療所



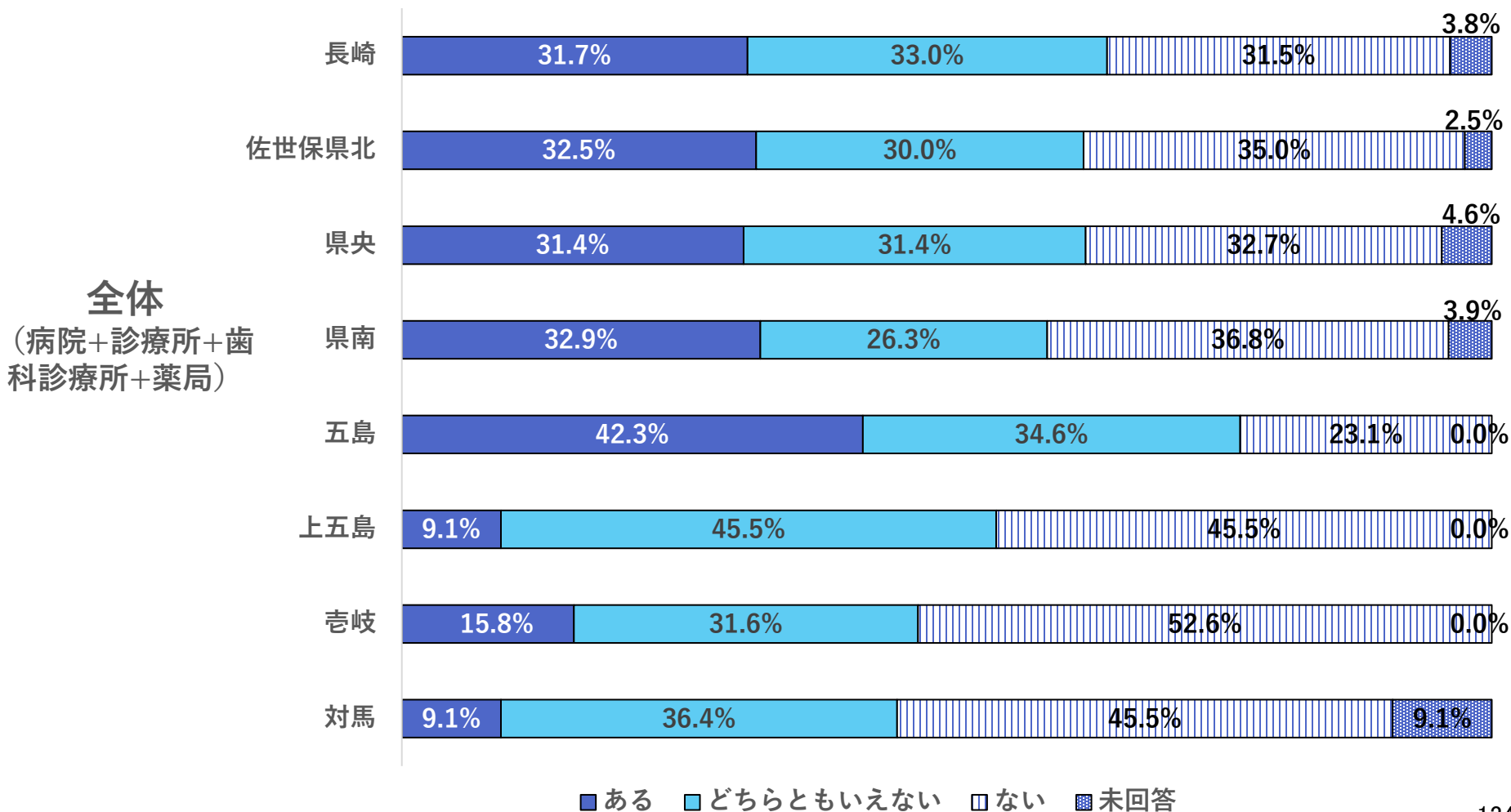
薬局



■ある ■どちらともいえない ■ない ■未回答

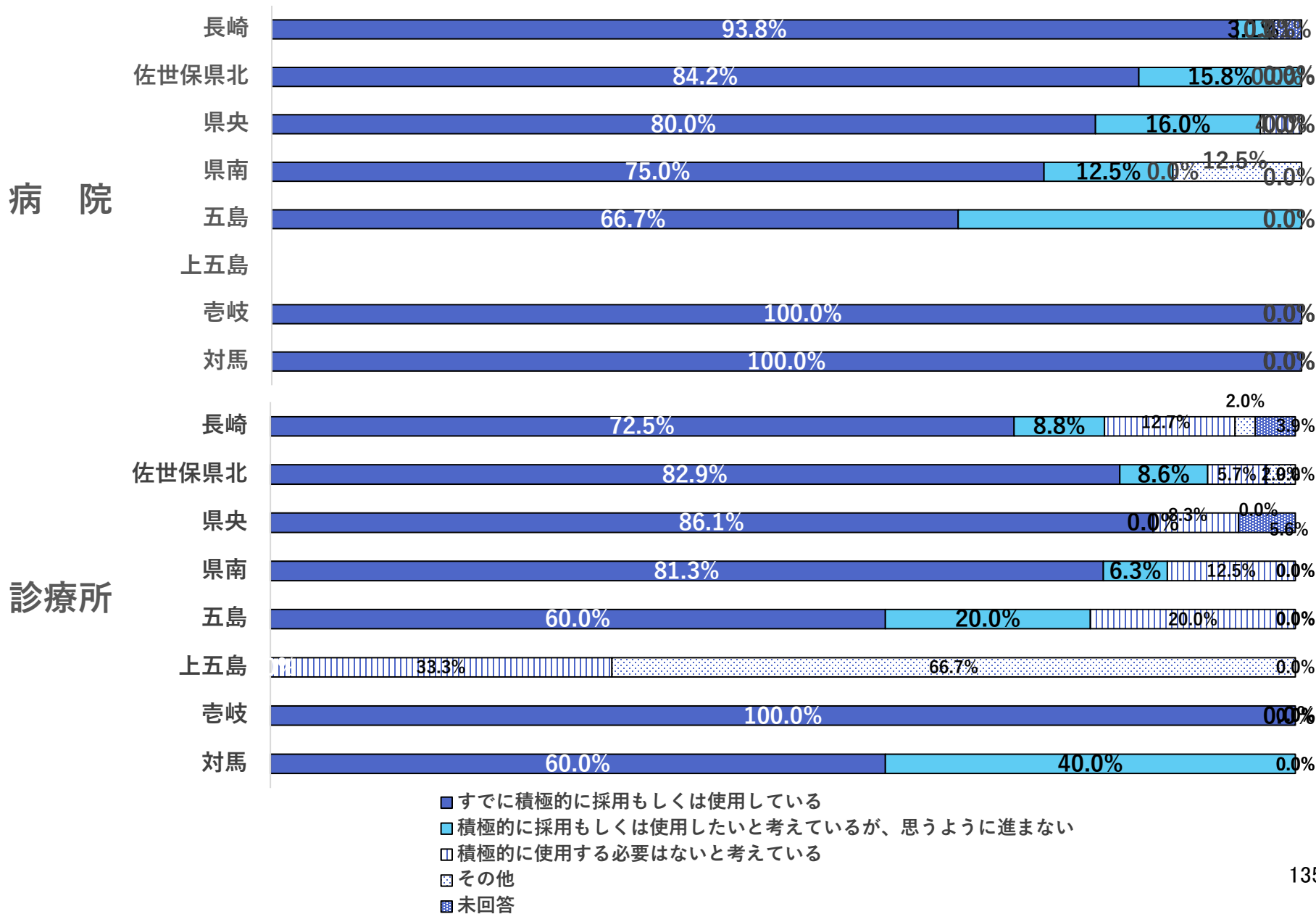
【医療機関、薬局アンケート】ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感
 がありますか？（単一選択式）（その3）

- 「ある」と回答した割合について、五島地区が42.3%で最も高く、続いて県南地区が32.9%であった。



【医療機関、薬局アンケート】あなたの医療機関（薬局）では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと思いますか。（単一選択式）（その1）

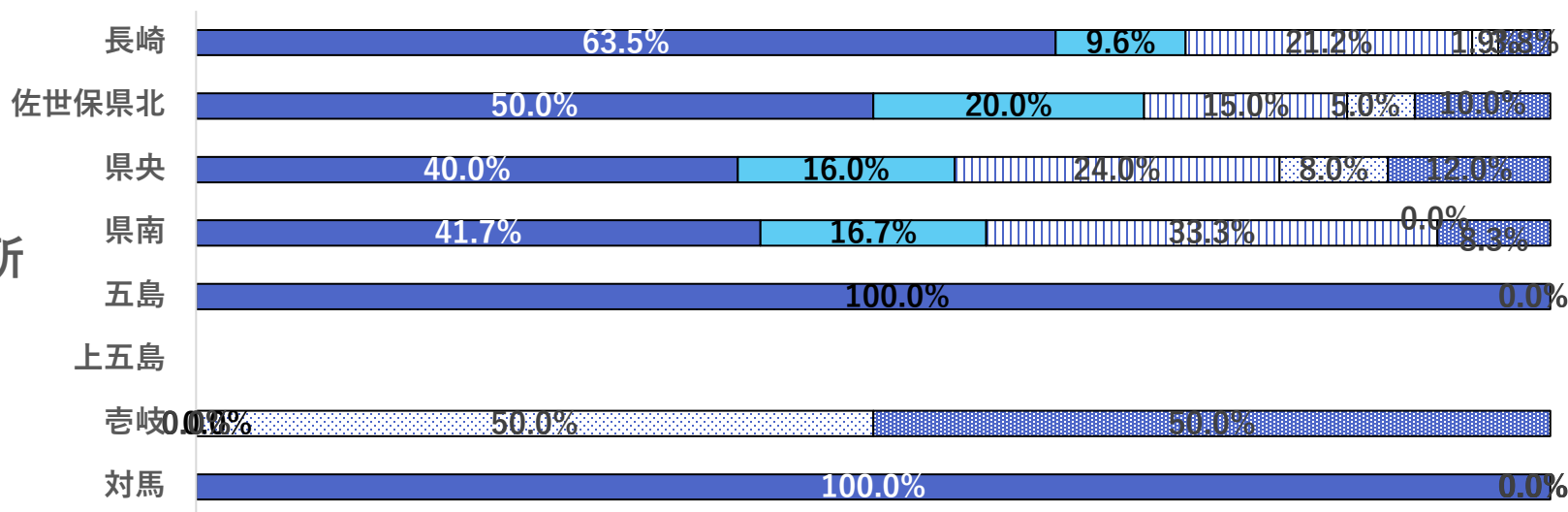
医療圏比較



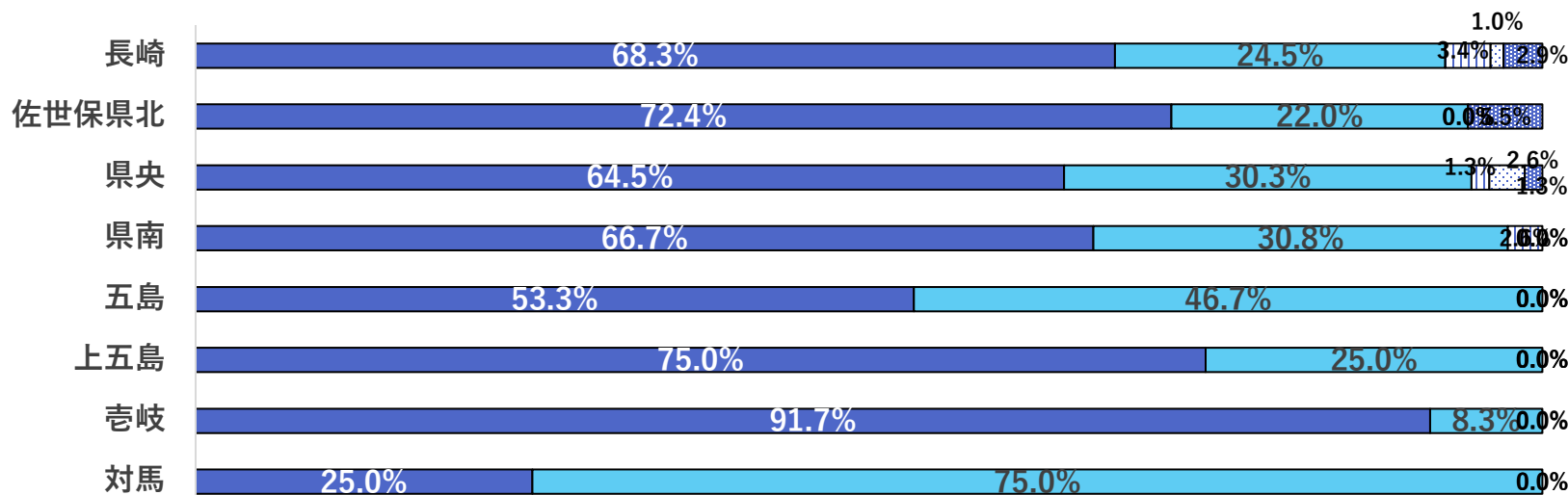
【医療機関、薬局アンケート】あなたの医療機関（薬局）では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと思いますか。（単一選択式）（その2）

医療圏比較

歯科診療所



薬局

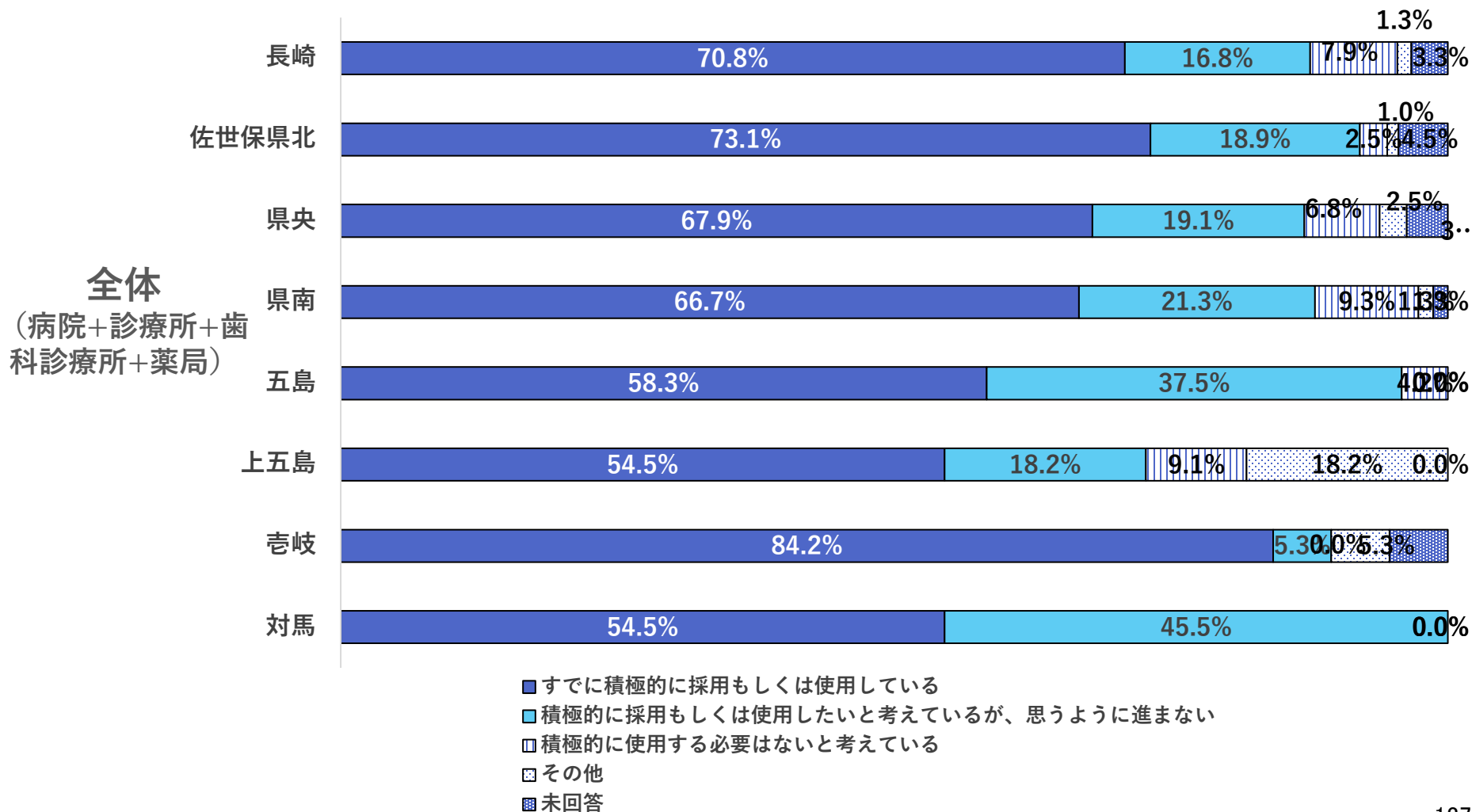


- すでに積極的に採用もしくは使用している
- 積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない
- 積極的に使用する必要はないと考えている
- ▨その他
- ▨未回答

【医療機関、薬局アンケート】あなたの医療機関（薬局）では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと思いませんか。（単一選択式）（その3）

医療圏比較

- 「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と「積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した割合の合計について、本土地区では県南地区が30.7%で最も高く、続いて県央地区が25.9%、長崎地区が24.7%であった。



アンケート調査結果まとめ

アンケート調査結果まとめ

県民アンケート

- ジェネリック医薬品を「よく知っている」又は「だいたい知っている」と回答した県民の割合は全体の92.5%を占めている。（問1）
- 県民がジェネリック医薬品に知るきっかけとして、病院や診療所、薬局からの説明やテレビ・ラジオなどがの割合が高く、本県の事業であるバス広告については低かった。（問3）【課題1】
- 県民がジェネリック医薬品の知りたい内容としては、「安全性」、「効能・効果」、「副作用」の割合が高かった。（問4）【課題2】
- ジェネリック医薬品を「すでに受けている」又は「受けたい」と回答した県民は全体の81.3%であった。（問9）
- 問9においてジェネリック医薬品を「受けたくない」と回答した理由としては、ジェネリック医薬品の「品質に不安がある」と「副作用が心配」と回答した割合が高かった。（問14）【課題3】
- 問9において交付を受けているジェネリック医薬品が変更されるなどの「影響があった」と回答した割合は16.8%であった。（問12）
- 問12において「影響があった」と回答した内容としては、「同一成分の別のメーカーのジェネリック医薬品に変更になった」が最も高かった。（問13）【課題4】
- 県民が医療機関や薬局でジェネリック医薬品に変更しなかった理由としては、「医師、薬剤師等から特に説明がなかった」と回答した割合が最も高かった。（問18）【課題5】
- 行政の施策に対する要望については、「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」と回答した割合が最も高かった。（問23）【課題6】

アンケート調査結果まとめ

病 院

- 後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算ともに、加算1、加算2の算定している施設の割合がH30から増加している。（問5、6）
- 院外処方せんの発行している医療機関、一般名処方を導入している医療機関の割合はともにH24から増加している。（問7、8）
- ジェネリック医薬品を使用することに不安を感じている医療機関が42.4%あり、その内容としては「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」と回答した割合が最も高かった。（問11）【課題7】
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としては「院内での意思統一が難しい」、「備蓄医薬品（デッドストックを含む）が増える」と回答した割合が最も高かった。（問14）【課題8】
- ジェネリック医薬品の採用品目割合はH20から増加している。（問16）
- 採用している後発医薬品の納入状況は「令和3年7月」「現在（令和5年2月時点）」でどちらも「納入が滞り、調剤業務に影響があった」と回答した割合が高かった。（問17）【課題9】

病 院

- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は「安定供給の保障」と回答した割合が最も高かった。（問19） **【課題7】**
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト(※1)及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書(※2)を参考にしているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった（※1：27.2%、※2：30.4%）。（問20、21） **【課題10】**
- 本県が定期的に行っている研修会の希望する内容について「品質に関すること」、「製剤（添加物、溶解性等）に関すること」と回答した割合が最も高かった。（問26） **【課題11】**
- 行政の施策に対する要望については、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」と回答した割合が最も高かった。（問27） **【課題7】**

アンケート調査結果まとめ

診療所

- 後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算ともに、加算1、加算2の算定している施設の割合がH30から増加している。（問5、6）
- 院外処方せんの発行している医療機関、一般名処方を導入している医療機関の割合はともにH24から増加している。（問7、8）
- ジェネリック医薬品を使用することに不安を感じている医療機関が27.0%あり、その内容としては「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」及び「ジェネリック医薬品の品質の問題」と回答した割合が最も高かった。（問11） **【課題12】**
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としては「患者様からの苦情が増える可能性がある」と回答した割合が最も高かった。（問14） **【課題13】**
- ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要はないと思う理由として、ジェネリック医薬品の「品質」、「効果」、「安全性」と回答した割合が高かった。（問15） **【課題14】**
- ジェネリック医薬品の採用品目割合はH20から増加している。（問16）

診療所

- 採用している後発医薬品の納入状況について「令和3年7月」では「納入が滞り、調剤業務に影響があった」と回答した割合が高く、「現在（令和5年2月時点）」は「希望した後発医薬品が発注数どおりに納品されている」の割合が高かった。（問17） **【課題9】**
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は「安定供給の保障」と回答した割合が最も高かった。（問19） **【課題7】**
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト（※1）及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書（※2）を参考にしているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった（※1：42.8%、※2：35.8%）。（問20、21） **【課題10】**
- 本県が定期的で開催している研修会の希望する内容について「安全性に関すること」、「品質に関すること」と回答した割合が高かった。（問26） **【課題11】**
- 行政の施策に対する要望については、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」と回答した割合が高かった。（問27） **【課題7】**

歯科診療所

- ジェネリック医薬品を使用することに不安を感じている医療機関が29.2%あり、その内容としては「ジェネリック医薬品の効果の問題」と回答した割合が最も高かった。（問11）【課題15】
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としては「備蓄医薬品（デッドストックを含む）が増える」と回答した割合が最も高かった。（問14）【課題16】
- ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要はないと思う理由として、ジェネリック医薬品の「効果」、「品質」と回答した割合が高かった。（問15）【課題14】
- ジェネリック医薬品の採用品目割合はH20から増加している。（問16）
- 採用している後発医薬品の納入状況について「令和3年7月」、「現在（令和5年2月時点）」のどちらも「希望した後発医薬品が発注数どおりに納品されている」の割合が高かった。（問17）
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」と回答した割合が最も高かった。（問19）【課題17】

歯科診療所

- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHP主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト(※1)及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書(※2)を参考にしているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった (※1：53.1%、※2：47.8%)。(問20、21) 【課題10】
- 本県が定期的で開催している研修会の希望する内容について「効果に関すること」、「安全性に関すること」と回答した割合が高かった。(問26) 【課題11】
- 行政の施策に対する要望については、「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」と「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」と回答した割合が高かった。(問27) 【課題18】

アンケート調査結果まとめ

薬 局

- 後発医薬品調剤体制加算について、R2から加算3の加算している施設の割合が減少、加算2、加算1の算定している施設の割合が増加している。（問2）
- ジェネリック医薬品の採用品目割合はH20から増加している。（問3）
- 薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は「安定供給の保障」と回答した割合が最も高かった。（問9） **【課題7】**
- 薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト(※1)及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書(※2)を参考にしているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった（※1：26.9%、※2：29.0%）。（問10、11） **【課題10】**
- 薬局でジェネリック医薬品に変更されなかった患者様の理由として、「普段から使い慣れている薬の方が良いから」と回答した割合が最も高かった。（問12） **【課題19】**
- ジェネリック医薬品に切り替えて、使用感が良くなった、コンプライアンスが向上したという事例が多くあった。（問17）

薬 局

- 採用している後発医薬品の納入状況について「令和3年7月」、「現在（令和5年2月時点）」のどちらも「調剤業務が滞り、調剤業務に影響がある」と回答した割合が高かった。（問19） 【課題9】
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としては「ジェネリック医薬品の安定供給に不満がある」と回答した割合が最も高かった。（問21,22） 【課題7】
- 本県が定期的で開催している研修会の希望する内容について「品質に関すること」、「安全性に関すること」と回答した割合が高かった。（問24） 【課題11】
- 行政の施策に対する要望については、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」と回答した割合が最も高かった。（問25） 【課題7】

医療圏比較

- 県民がジェネリック医薬品について「よく知っている」又は「だいたい知っている」と回答した割合は、本土地区では佐世保県北地区が最も低かった。【課題20】
- ジェネリック医薬品を使用することについて不安感があると回答した医療機関（病院、診療所、歯科診療所、薬局）の割合は、五島地区が最も高く、続いて県南地区が高かった。【課題21】
- 「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と「積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関（病院、診療所、歯科診療所、薬局）の割合は、本土地区では佐世保県北地区が最も高く、続いて県央地区、長崎地区が高かった。【課題22】

課題に対する対応（案）

県 民

- ・ **【課題2、3、13、19】** 県民のジェネリック医薬品の知りたい内容として回答割合が高かったジェネリック医薬品の「安全性」「効能・効果」「副作用」、また、ジェネリック医薬品を受けたくない理由として回答割合が高かったジェネリック医薬品の「品質」「副作用」について重点的に啓発活動を行う。
- ・ **【課題4】** 交付を受けているジェネリック医薬品について影響があった内容として「同一成分の別のメーカーのジェネリック医薬品に変更になった」とする回答割合が高く、安定供給の影響がみられるため、交付時の県民への医療機関、薬局の情報提供への協力を求めていく。
- ・ **【課題20】** ジェネリック医薬品を「よく知っている」「だいたい知っている」の回答割合が佐世保県北地区で低かったため、重点的に啓発活動を行う。

行 政

- ・ **【課題1】** 本県の事業であるバス広告について、十分な啓発効果が得られていないため広告方法について検討する必要がある。
- ・ **【課題6】** 県民が行政の施策に対する要望について、「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」の回答割合が高かったことから、引き続き、県民を対象として啓発活動を実施していく。
- ・ **【課題10】** 本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書について、「掲載していることを知らない」の回答割合が高かったことから、令和5年度はHPで周知を図る必要がある。
- ・ **【課題11、14】** 本県が定期的開催している研修会の希望する内容について「品質に関すること」、「製剤（添加物、溶解性等）に関すること」、「安全性に関すること」、「効果に関すること」の回答割合が高かった。令和5年度の研修内容として検討する。

課題に対する対応（案）

医療機関、薬局

- **【課題5】** 県民が医療機関や薬局でジェネリック医薬品に変更しなかった理由として、「医師、薬剤師等から特に説明がなかった」の回答割合が高かったことから、引き続き、医療機関や薬局からの積極的な情報提供について協力を求めていく。
- **【課題8、16、22】** ジェネリック医薬品を積極的に採用（使用）したいが思うように進まない理由として、病院で回答割合の高かった「院内での意思統一が難しい」及び歯科診療所で回答割合の高かった「備蓄医薬品（デッドストックを含む）が増える」については、ジェネリック医薬品の使用率向上対策（医療機関等への訪問）の場を活用し、課題解決のための対策について協議を行っていく。特に「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と「積極的に使用する必要はないと考えている」の回答割合が高かった県南地区、県央地区、長崎地区を重点的に実施する。
- **【課題12、15】** 診療所や歯科診療所がジェネリック医薬品を使用することに不安を抱えている内容や積極的に使用する必要はないと思う理由として回答割合が高かったジェネリック医薬品の「効果」「品質」の問題について重点的に啓発活動を行う。

課題に対する対応（案）

医療機関、薬局

- **【課題7、9、12、17】** 病院、薬局において、令和5年3月時点でも、採用しているジェネリック医薬品の納入が滞り、調剤業務に影響があったと回答している。また、病院や診療所、薬局がジェネリック医薬品を使用することで不安に感じている内容として「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」の回答割合が高く、ジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項や行政への施策に対する要望等においても、ジェネリック医薬品の安定供給に関する要望が多くあった。また、歯科診療所において、ジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項として「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」の回答割合が高かった。これらのことについて、引き続き、厚生労働省と連携し製造販売業者に対し安定供給体制及びジェネリック医薬品に関する情報提供体制の構築を求めていく。
- **【課題18】** 行政の施策に対する要望について、歯科診療所で回答割合が高かった「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」については、引き続き、厚生労働省と連携し指導していく。
- **【課題21】** ジェネリック医薬品を使用することについて不安感が「ある」の回答割合が高かった佐世保県北地区、県央地区での医療従事者向けの啓発活動を強化する。